

【講義13】

国文学研究資料館における 和古書目録の作成



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

目次

1. 和古書目録書誌レコード作成例

- ▶ 国文学研究資料館日本古典籍書誌レコード作成要領に基づいた、当館の和古書目録の作成について、ご紹介します。
- ▶ 情報源となる場所について説明した後は、実際に資料の画像を見ながら書誌情報を取る演習を行います。

2. 国文学研究資料館日本古典籍書誌レコード作成要領（別紙1）

3. 参考図書（別紙2）

- ▶ 和古書目録（含む著作典拠ファイル・著者典拠ファイル）作成に利用している参考図書のリストです。

和古書目録書誌レコード作成例

● 「和古書」として扱う基準

■ 著作の成立年

- 江戸時代まで（慶応4年以前）に成立した
- 成立年代が不明だが、慶応4年以前と考えられる
- 完結が明治改元以降だが、著作の一部が慶応4年以前に成立している

■ 著者・言語

- 日本人が著者であれば日本語以外でもOK
- 外国人が著者でも、日本在住で日本において日本語で出版していればOK（外国語は対象外）

■ 技法

- 版本（整版・木活字版等）、近代以前の印刷技術によるもの
- 写本（人の手で書写されたもの、写した時期は明治期以降でもOK）

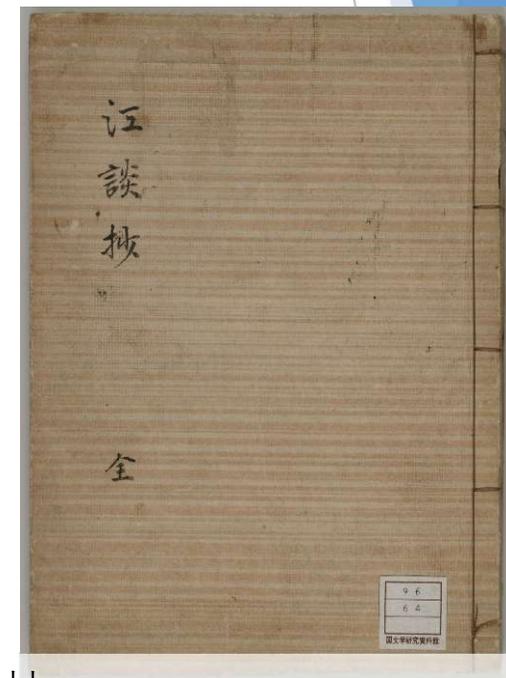
●情報源

■表紙

- 書名が記載されていることが多い。
- 書名を直接書いたり印刷したりする場合と、書名を書いたり印刷したりした紙（題簽）を貼り付けた場合がある。
- 題簽ははがれている場合もある。



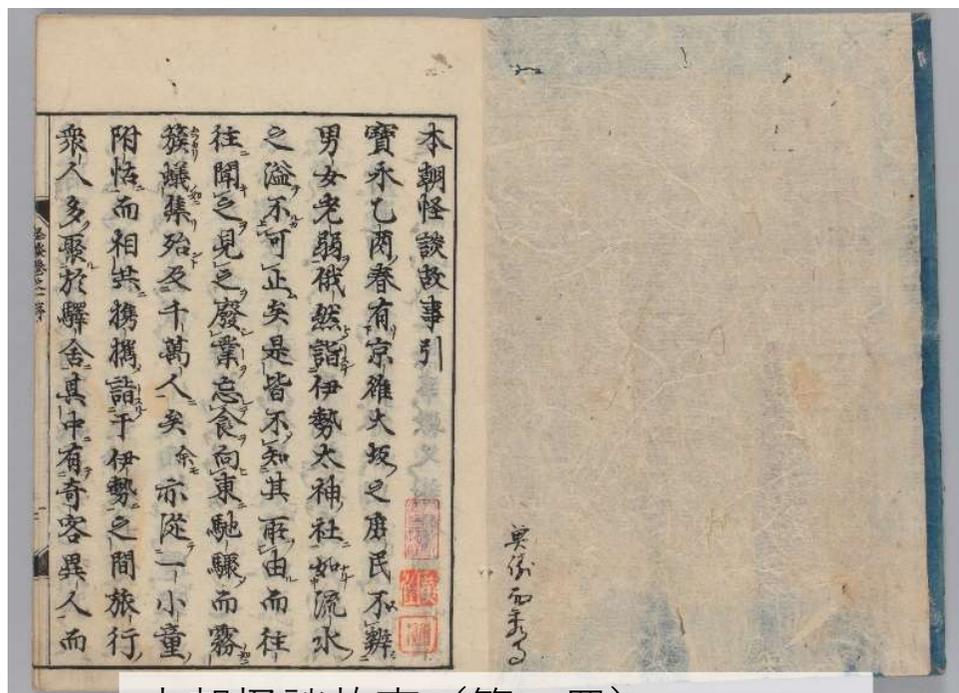
本朝怪談故事（第一冊・第二冊表紙）
<https://doi.org/10.20730/200021175>



江談抄
<https://doi.org/10.20730/200018254>

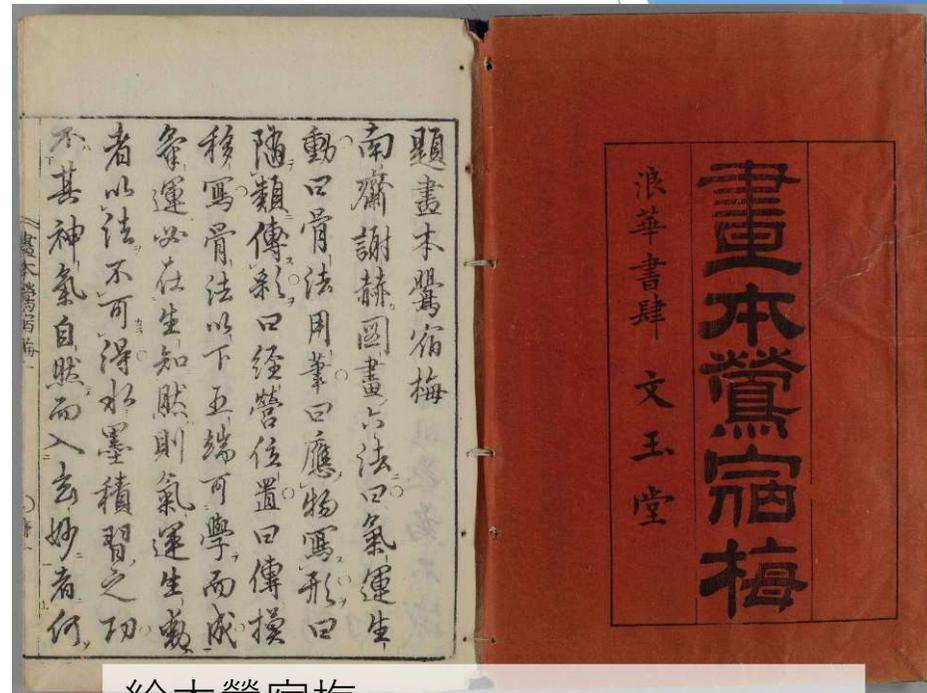
■見返し

- 何も書かれていないものや、書名などの情報が印刷されているものがある。
- 過去の所有者の書き込みがある場合もある。



本朝怪談故事（第一冊）

<https://doi.org/10.20730/200021175>



絵本鶯宿梅

<https://doi.org/10.20730/200015819>



江談抄

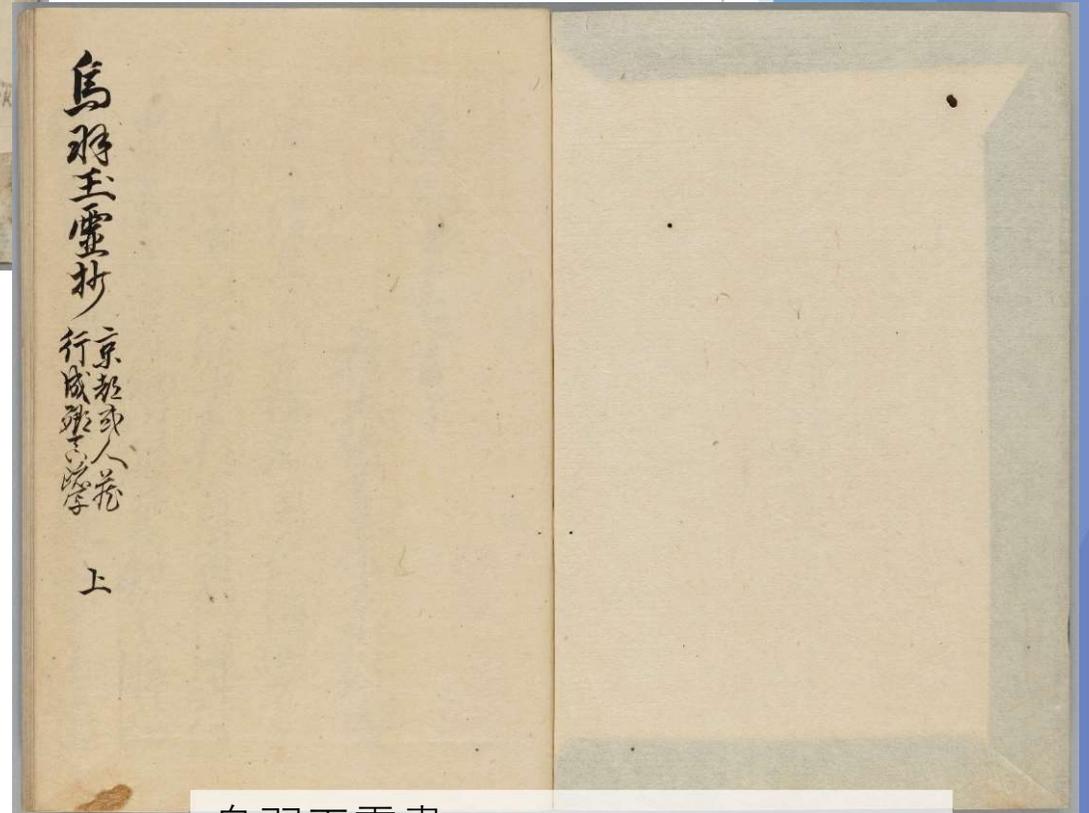
<https://doi.org/10.20730/200018254>

扉



伊勢物語（第一冊）

<https://doi.org/10.20730/200024924>

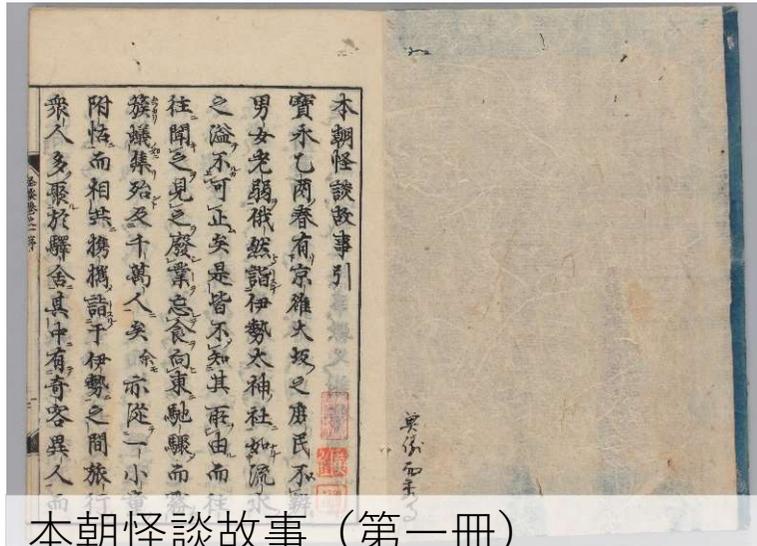


烏羽玉靈書

<https://doi.org/10.20730/200023339>

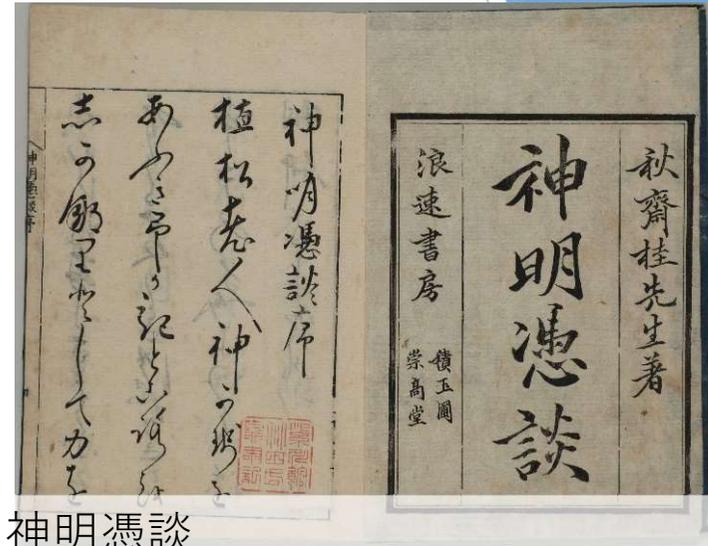
■序

- 本文の前にある文章。「序」と書いていないものもあるので注意



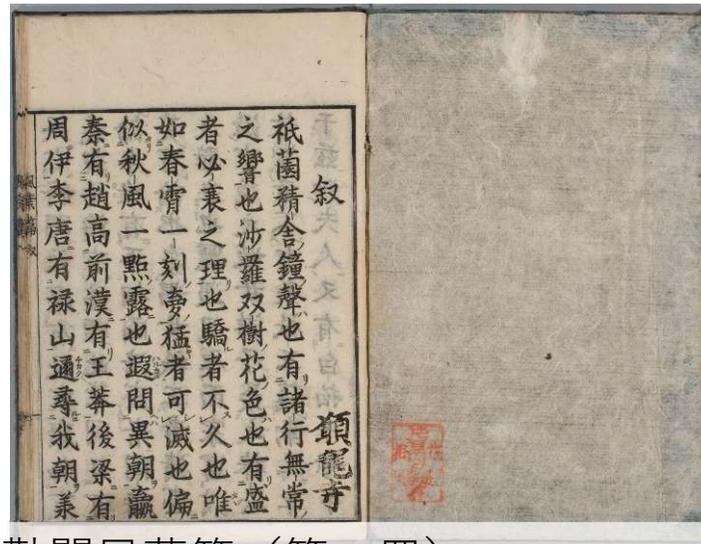
本朝怪談故事（第一冊）

<https://doi.org/10.20730/200021175>



神明憑談

<https://doi.org/10.20730/200018234>

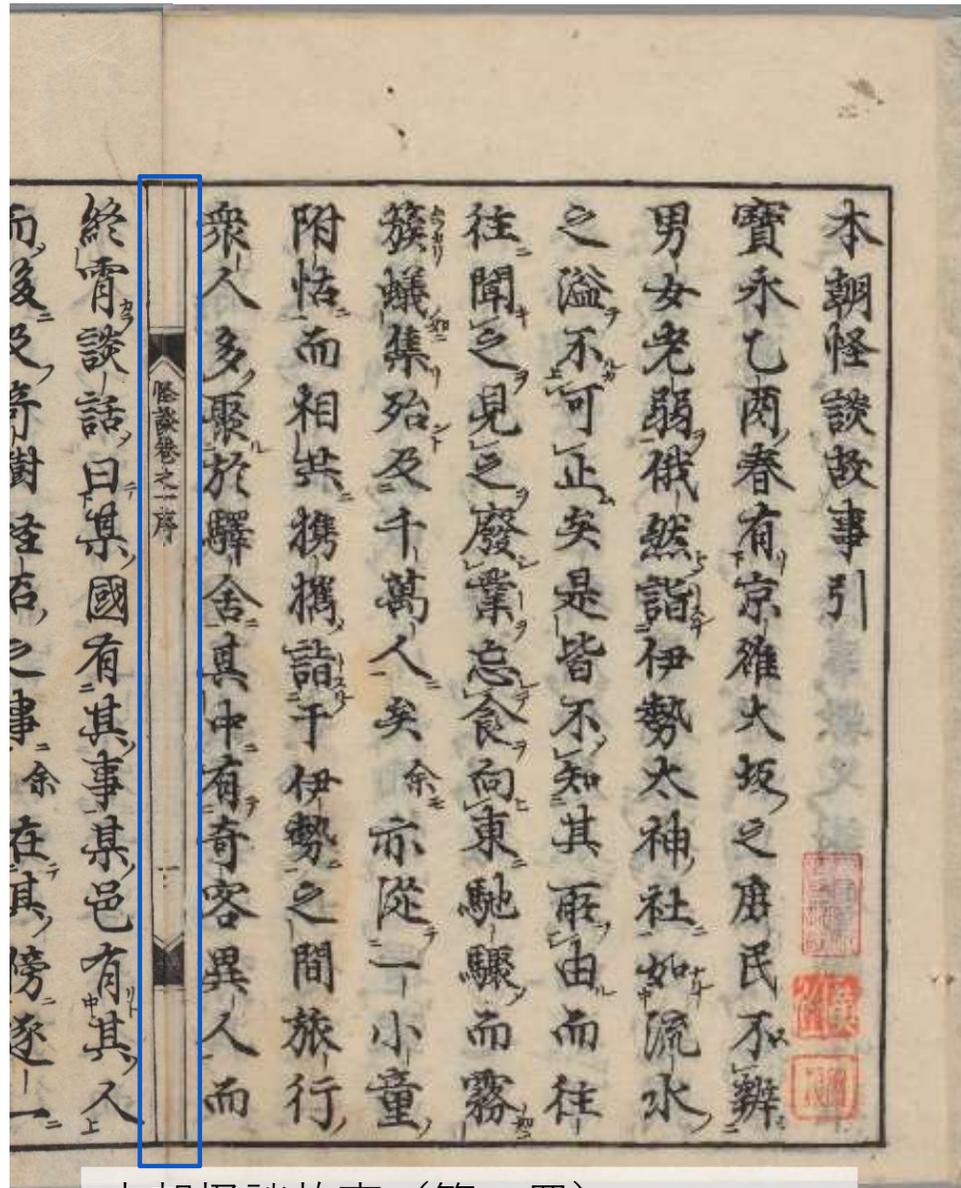


勸闡風葉篇（第一冊）

<https://doi.org/10.20730/200015528>

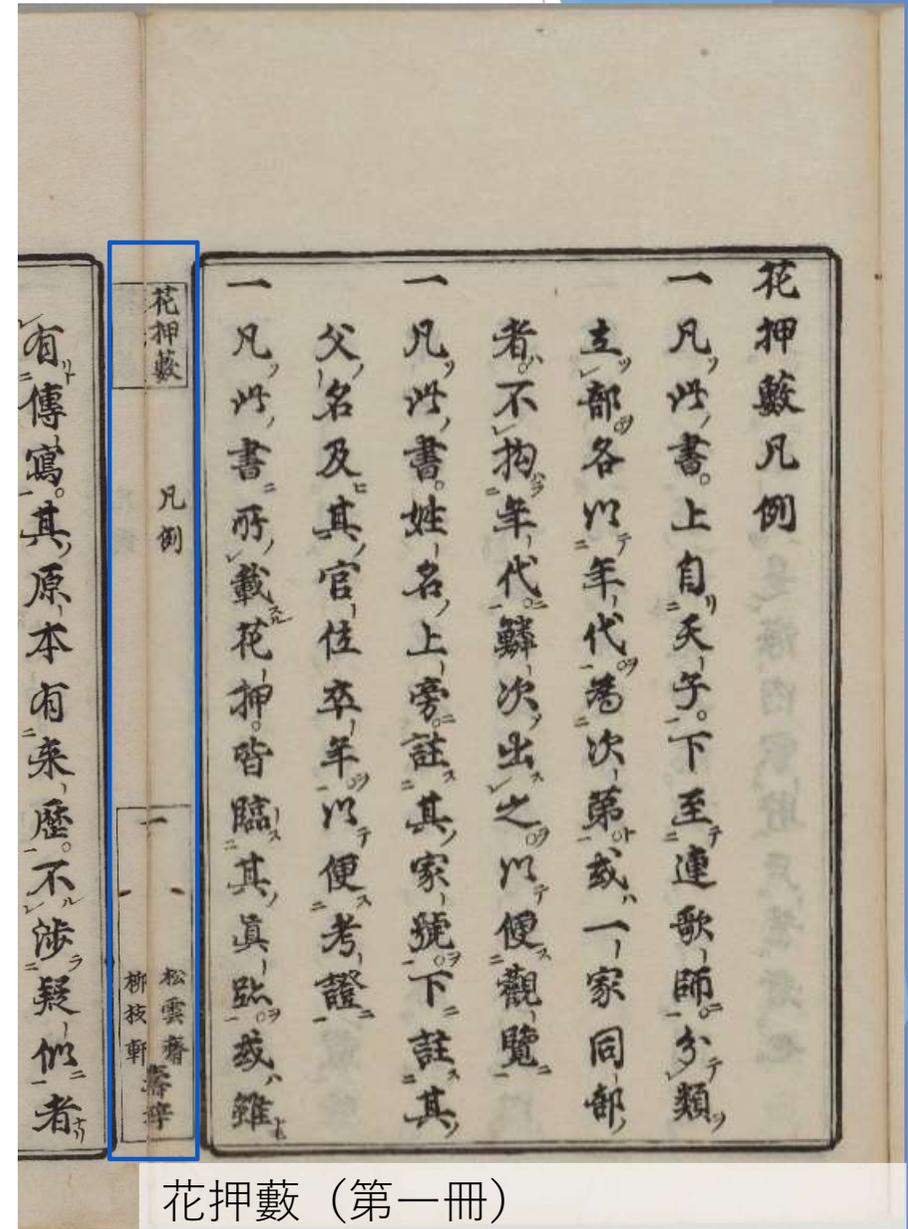
■版心・柱

- 版本の紙一丁の中心部分



本朝怪談故事（第一冊）

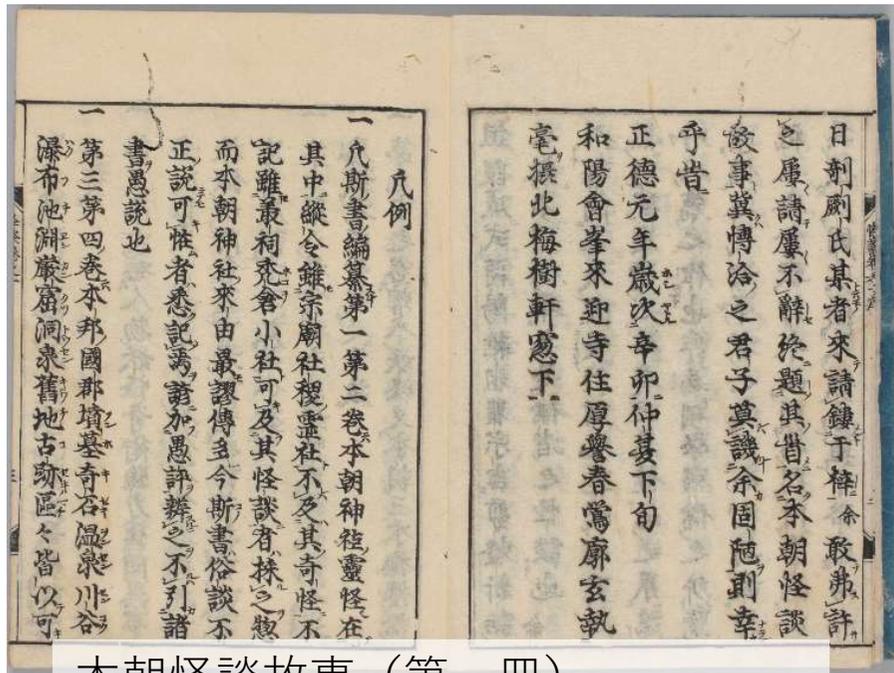
<https://doi.org/10.20730/200021175>



花押藪（第一冊）

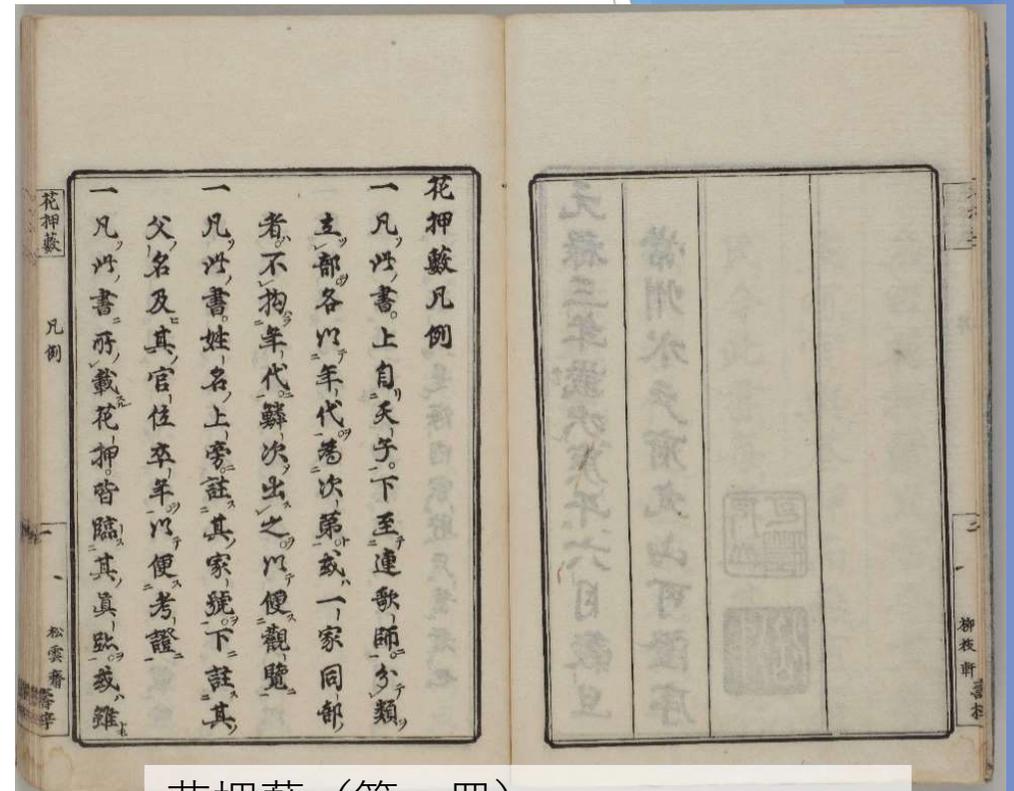
<https://doi.org/10.20730/200017282>

凡例



本朝怪談故事 (第一冊)

<https://doi.org/10.20730/200021175>

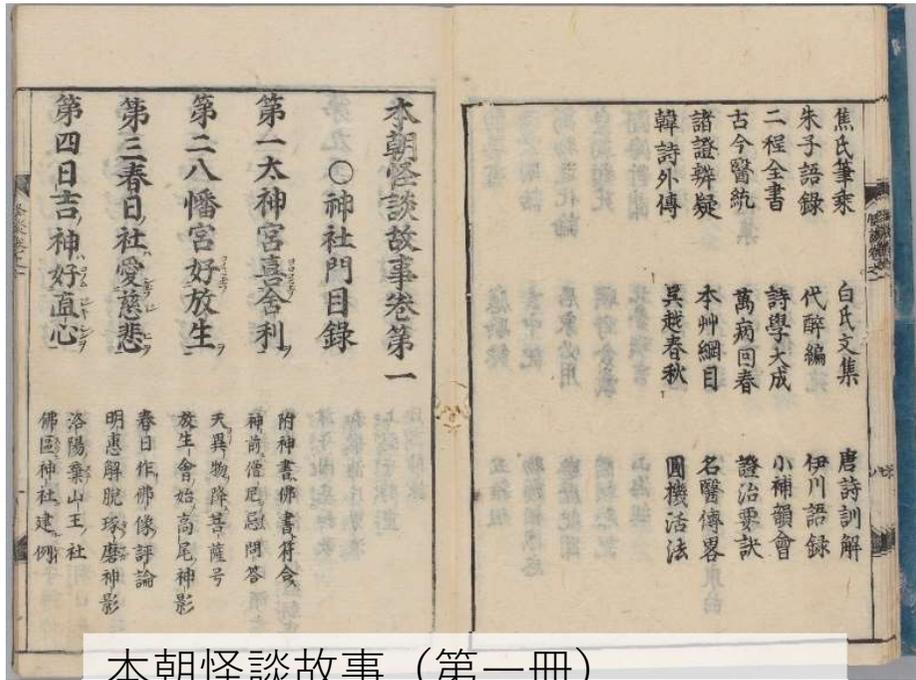


花押藪 (第一冊)

<https://doi.org/10.20730/200017282>

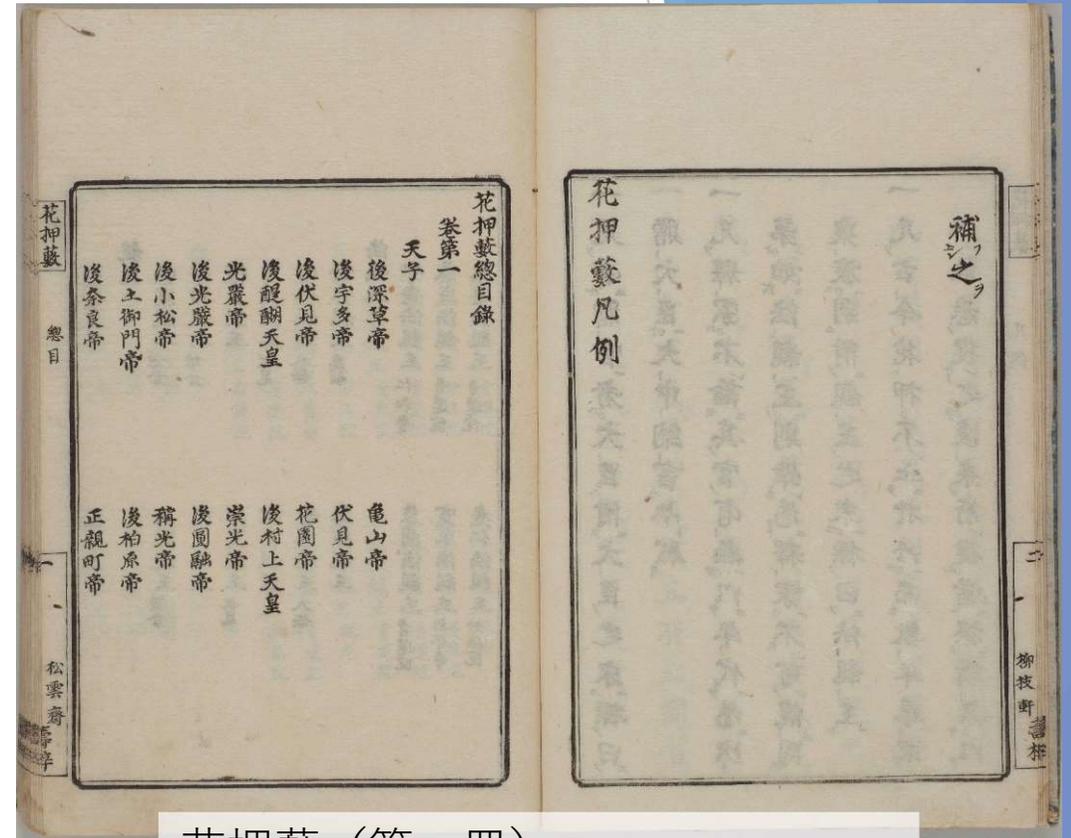
■ 目録

- 今の本の「目次」に当たる部分



本朝怪談故事（第一冊）

<https://doi.org/10.20730/200021175>

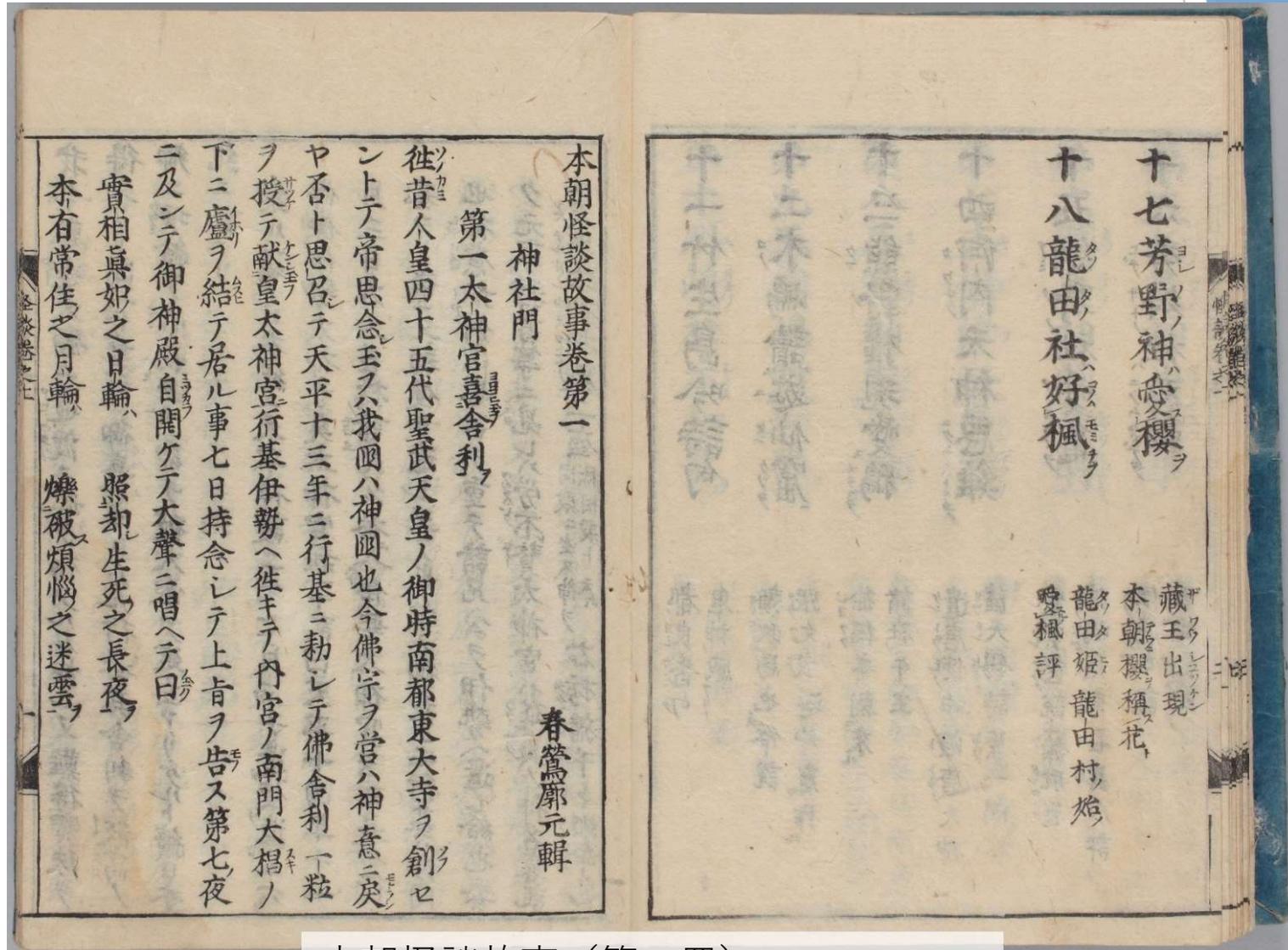


花押藪（第一冊）

<https://doi.org/10.20730/200017282>

■ 卷首・卷頭

- 情報源としては特に重視される。
- 複数箇所に記載された情報があった場合、最優先となる。

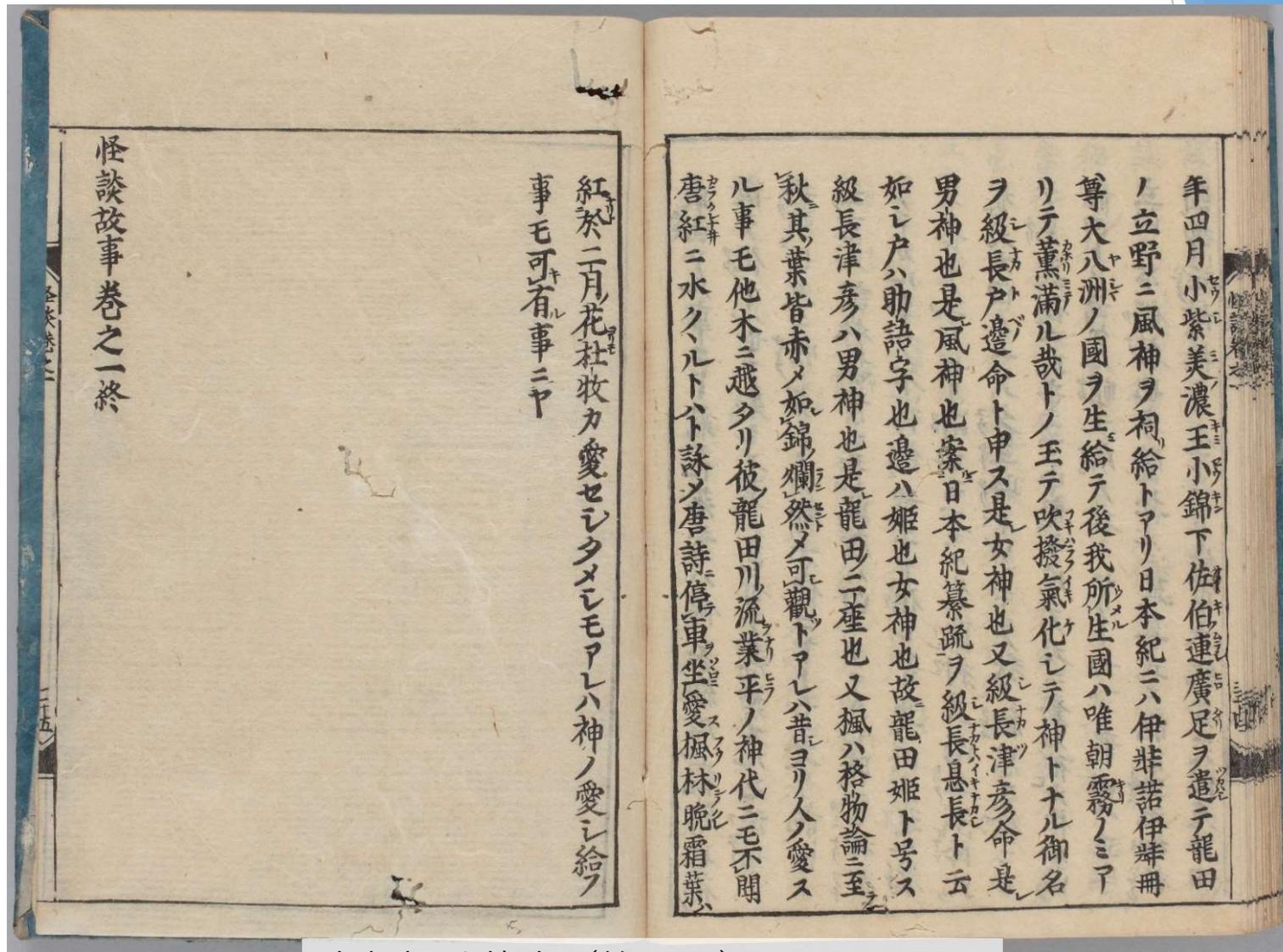


本朝怪談故事（第一冊）

<https://doi.org/10.20730/200021175>

■ 卷末

- 本文の最後。

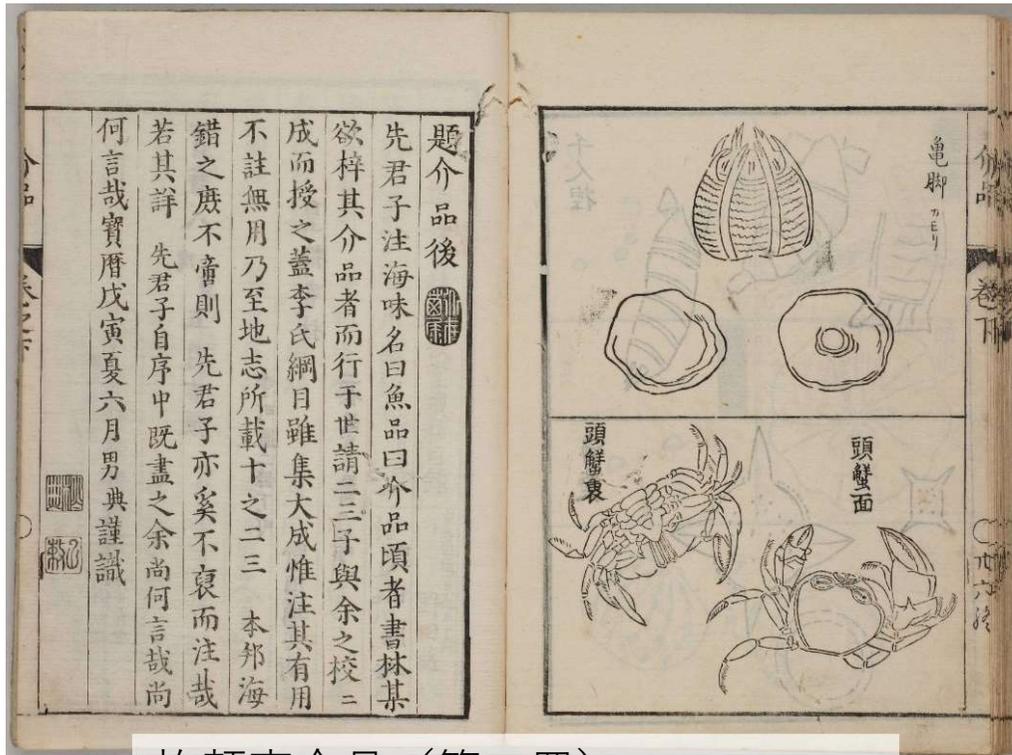


本朝怪談故事（第一冊）

<https://doi.org/10.20730/200021175>

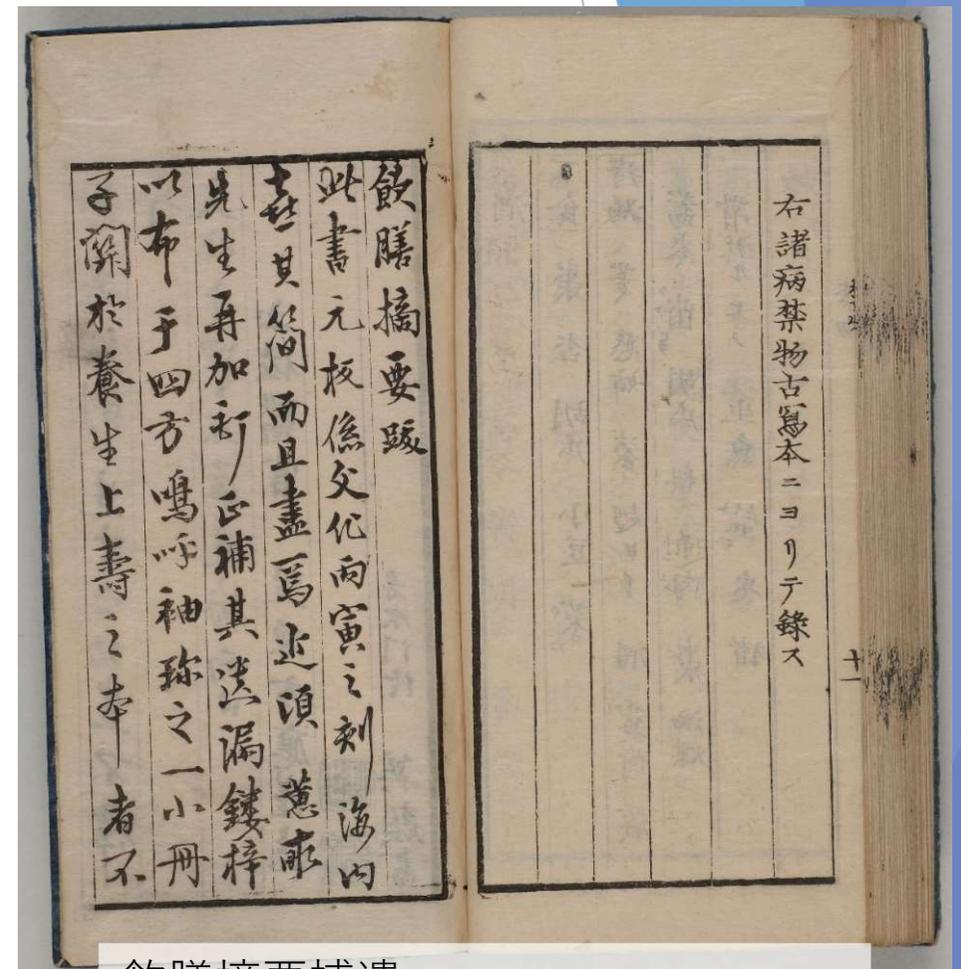
■ 跋

- 本文の後にある文章。「跋」と書いていないものもあるので注意



怡顔齋介品 (第二冊)

<https://doi.org/10.20730/200018084>

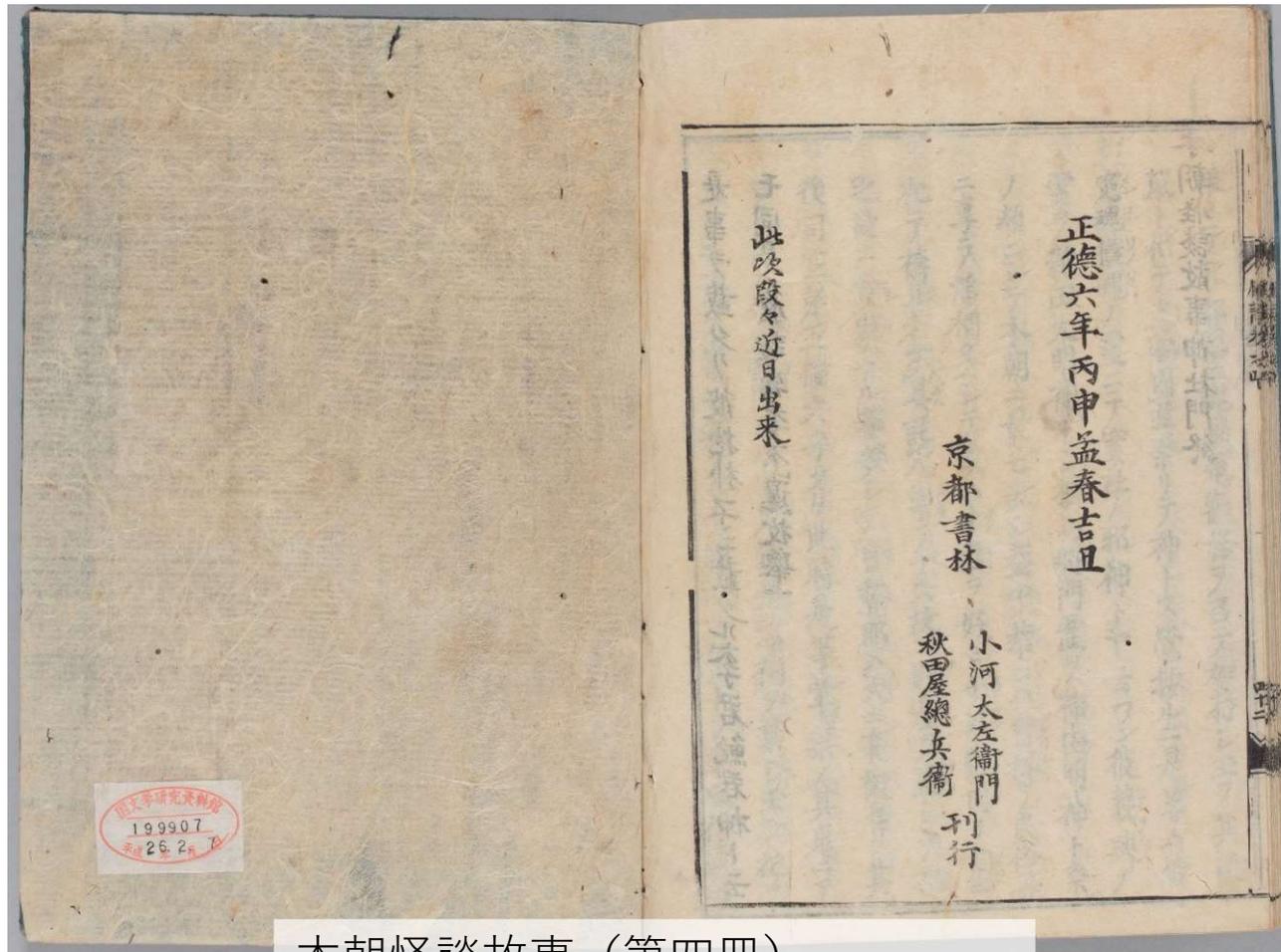


飲膳摘要補遺

<https://doi.org/10.20730/200018106>

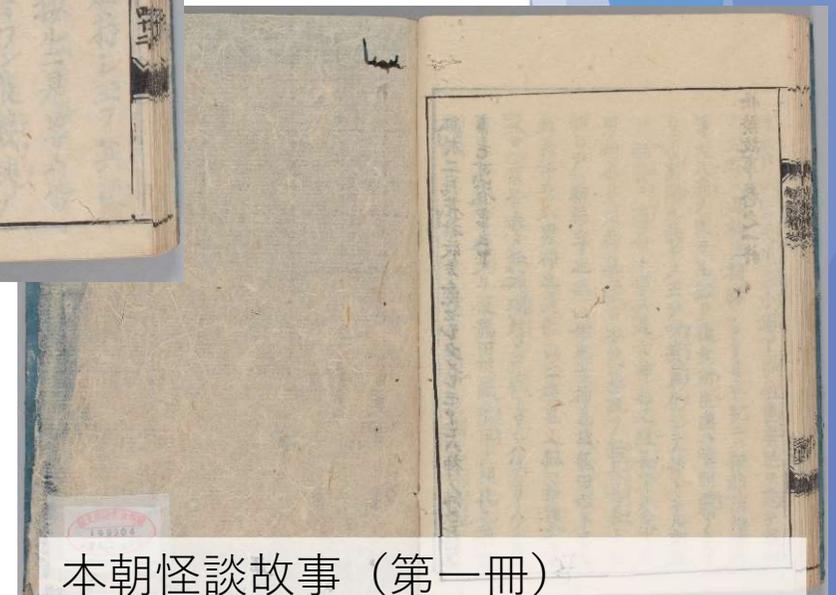
■刊記

- 多冊ものでは全ての冊にはない場合があるので注意



本朝怪談故事（第四冊）

<https://doi.org/10.20730/200021175>



本朝怪談故事（第一冊）

<https://doi.org/10.20730/200021175>

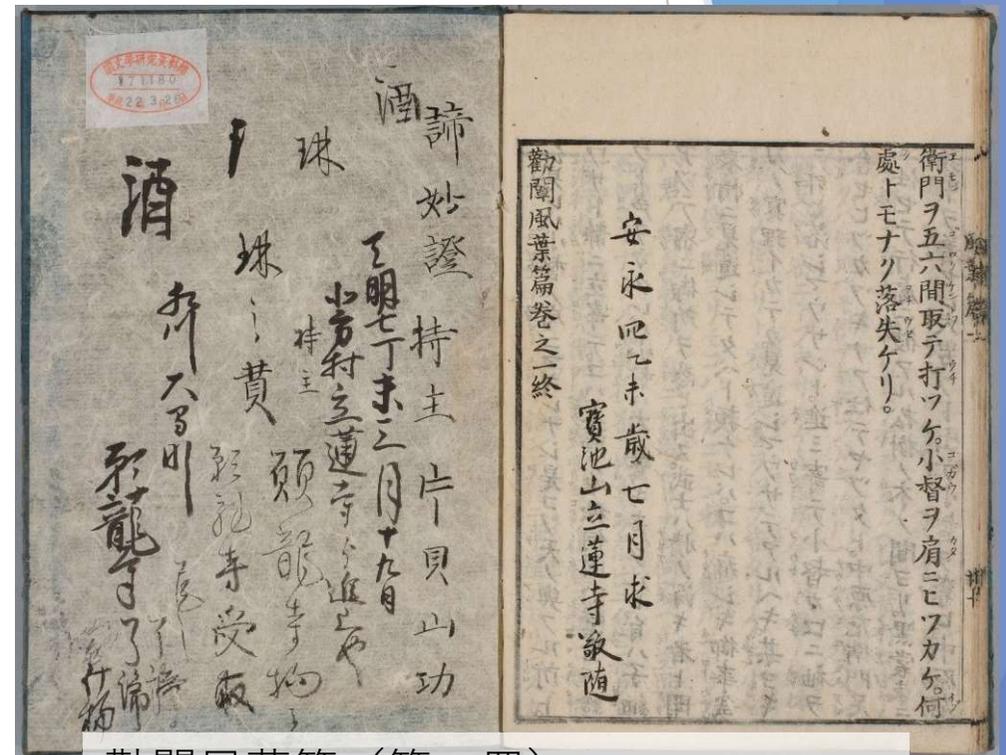
■裏見返し

- 出版者の広告や以前の所有者による書き込みがされている場合がある。



猫の目かづら (第三冊)

<https://doi.org/10.20730/200016989>



勸闡風葉篇 (第一冊)

<https://doi.org/10.20730/200015528>

● 目錄演習



資料の画像を見て採録できる情報をデータシートの赤枠内を取っていきましょう。

和古書		*は該当に○		preno		ppreno		cpreno	
cid		wid		* widなし					
統一書名表記									
" よみ									
統一著者名(よみ)									
記 載 書 名	1 表記 □							種別	
	よみ							種別	
	2 表記 □							種別	
	よみ							種別	
	3 表記 □							種別	
	よみ							種別	
記 載 著 者	1 著者名		役割		伝	部編等			
	2 著者名		役割		伝	部編等			
	3 著者名		他等	役割		伝	部編等		
* 書 写 ・ 出 版 事 項	1書録(地名)or 書写者(地名) 複数は、で繰 り返し								
	刊年or書写年 部編等								
2書録(地名)or 書写者(地名) 複数は、で繰 り返し									
	刊年or書写年 部編等								
* 刊 / 写 / 混		冊数	卷数	原書巻号表示					
		冊数	残欠						
形態(丁数、寸法、紙型)									
原資料請求記号									
登録番号									
備 考 注 記	* 書誌構造		単独(子書誌) / 裏書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写						
	()								

注記(系)	
<版>	
<写>	
<書>	
<叢>	
<著>	
<彩>	
<刊>	
<成>	
<序>	
<典>	
<伝>	
<般>	

■ 目録演習の手順

- 順番に情報源の画像を示して行くので、そこに含まれる書誌情報を見つけてデータシートに書き込んでいって下さい。
- 各情報源では、それ以前に取った内容と完全に重複する場合は1データにまとめます。
例：第一巻と第二巻で表紙に書かれたタイトルが同じ。
※ 既に取りった項目についての追加・訂正・補足は行う。
※ **このため新たに書誌項目を取らない場合もある。**
- データシートに書き込む時の記述ルールは、できるだけ国文学研究資料館日本古典籍書誌レコード作成要領（別紙1）に従って下さい。
※ 情報源から書誌情報を見つけることが第一の目的です。結果的に当館ルールと異なる記述になっても気にしないで下さい。



画像を使っでの演習なので、情報源になりそうなところにはどんどん丸をつけていきましょう。

注意

この演習の回答例は、題材とした資料以外の書誌も参考にして、注記など必須以外の項目も出来るだけたくさん取る形で講習会のために再構成したものです。

そのため、実際にデータベースで公開しているものとは異なっている部分があります。

後でデータベースを確認する際はご留意下さい。



◆ 表紙（各冊）



Q1.ここから取ることができる書誌情報の項目とその内容は？

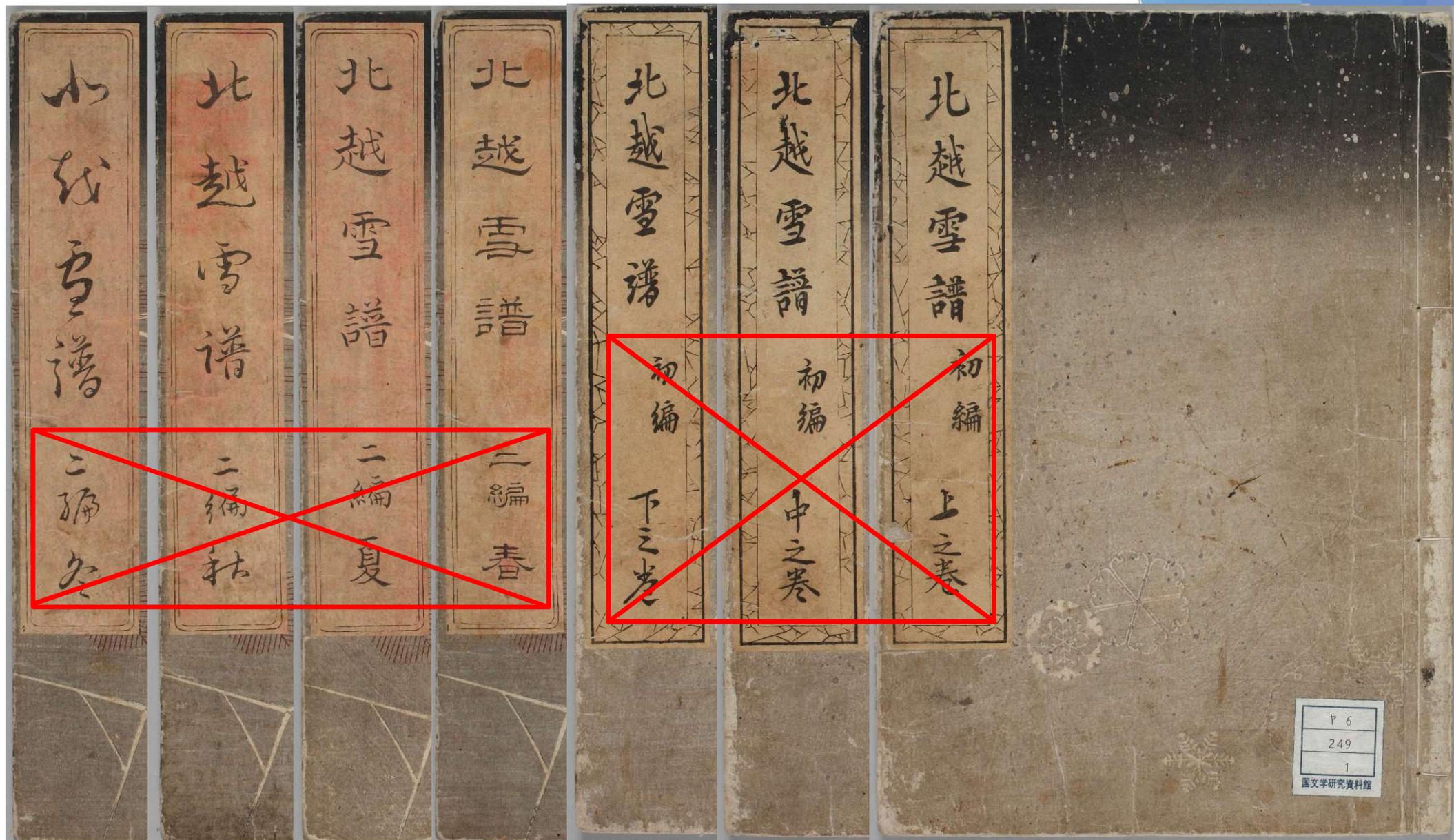
◆ 表紙（各冊）



A1. 冊数、記載書名（種別：外（外題・題簽題））

- 冊数：『7冊』
- 記載書名：『北越雪譜（ほくえつせつぶ）, 外』
（※以降記載書名は『表記（よみ）, 種別』の形で記載する）

◆ 表紙（各冊）



解説 1

- 記載書名に部編・巻号は取らない
→ 「初編上之巻」・「二編 春」などは書名に含めず「北越雪譜」のみを取る。
※巻数も取れそうだが、表紙より巻首の記述が優先されるのでここでは保留。

和古書

*は該当に○

preno

ppreno

cpreno

cid	wid		* widなし									
統一書名表記												
" よみ												
統一著者名(よみ)												
記 載 書 名	1 表記 □	北越雪譜								種別	外	
	よみ	ほくえつせつぷ										
	2 表記 □									種別		
	よみ											
	3 表記 □									種別		
	よみ											
4 表記 □									種別			
	よみ											
5 表記 □									種別			
	よみ											
6 表記 □									種別			
	よみ											
記載著者	1 著者名						役割		伝	部編等		
	2 著者名						役割		伝	部編等		
	3 著者名				他等		役割		伝	部編等		
* 書 写 ・ 出 版 事 項	1書肆(地名)or 書写者(地名) 複数は, で繰 り返し											
	刊年or書写年 部編等											
2書肆(地名)or 書写者(地名) 複数は, で繰 り返し												
	刊年or書写年 部編等											
* 刊 / 写 / 混		卷数							叢書巻号表示			
冊 数				7 冊		残欠						
形態(丁数, 寸法, 紙型)												
和古書メディア表 原資料請求記号												
登録番号												
備 考	* 書誌構造	単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写										
注 記	< >											

◆ 第一冊見返し・序文冒頭

見返し

本文

北越雪譜叙

世之農商而嗜文雅者或不知取以文雅為文雅徒企羨韻士墨客之風標沈酣文酒流連去月而置生計於不問以傾產業者間亦有之是豈嗜文雅罪哉其人特自取之耳矣鈴木牧之翁者北越塩澤之老農也性嗜文雅而能尚節儉抑驕惰不強誦讀於經營之中而務鈔摺於會計之餘以文遠近之墨客嘗以堪忍之二字

銘自字以故其名久布遠邑為生業亦因以致豐饒矣嗚呼若翁者不徇文雅之名而能務其實者非耶余於翁得一面識於江戸而後持以

雪譜卷之二

文溪堂藏

越後鈴木牧之撰
江戸京水百鶴画

京山人百樹刪定

北越雪譜

初編
三卷

江戸書肆

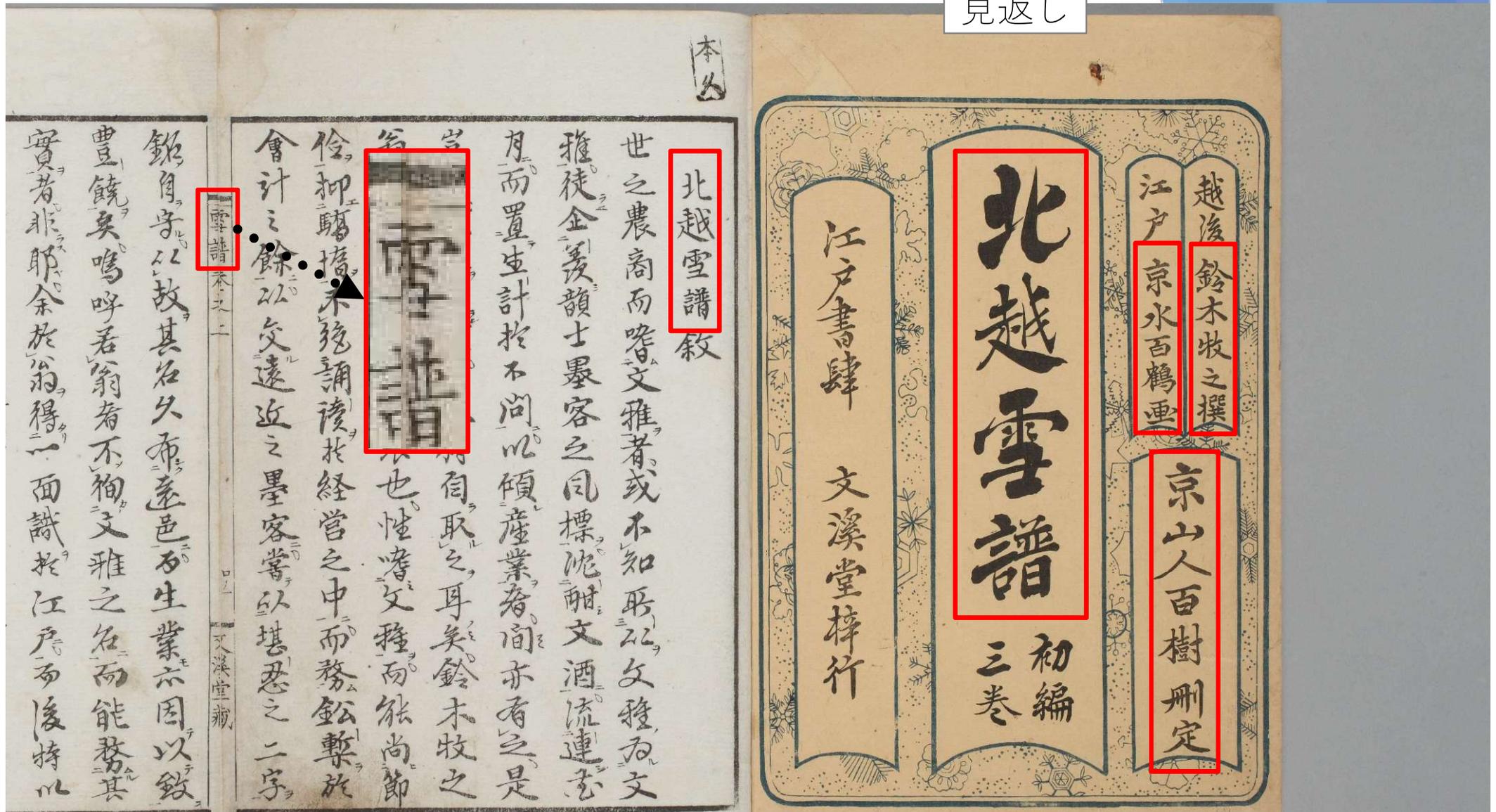
文溪堂梓行

Q2.ここから取ることができる書誌情報の項目とその内容は？

※序文の側は袋綴じの折り目の部分も見えるようにしています。

◆ 第一冊見返し・序文冒頭

見返し

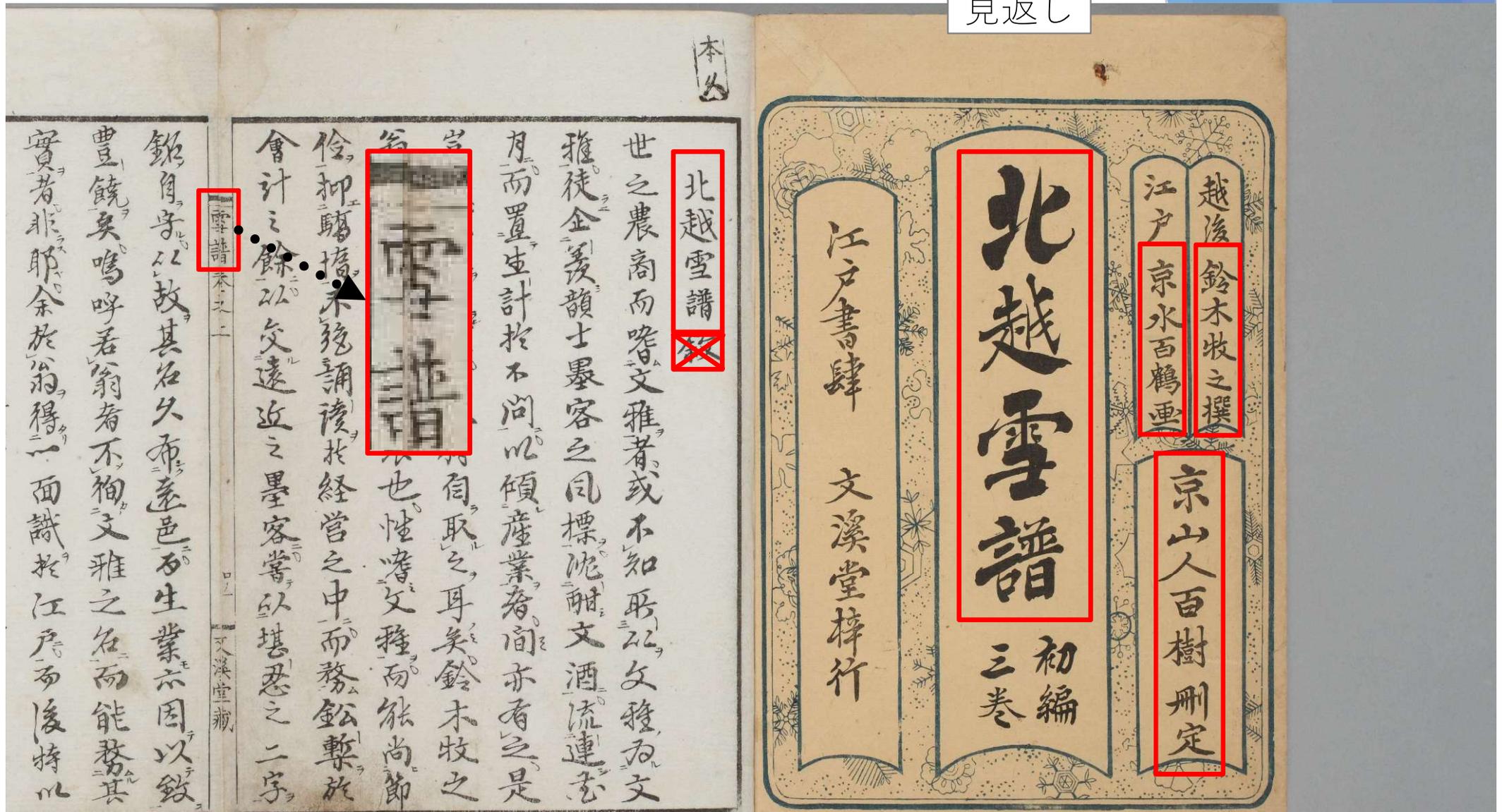


A2-1. 記載書名（種別：見（見返題），序首（序首題），柱（柱題））、記載著者名

- 記載書名：『北越雪譜（ほくえつせっぷ）』，見・外・序首』
- 記載書名：『雪譜（せっぷ）』，柱』
- 記載著者名：『鈴木／牧之 撰』，『京水／百鶴 画』，『京山人／百樹 刪定』
（※以降記載著者名は『姓／名 役割』の形で記載する）

◆ 第一冊見返し・序文冒頭

見返し

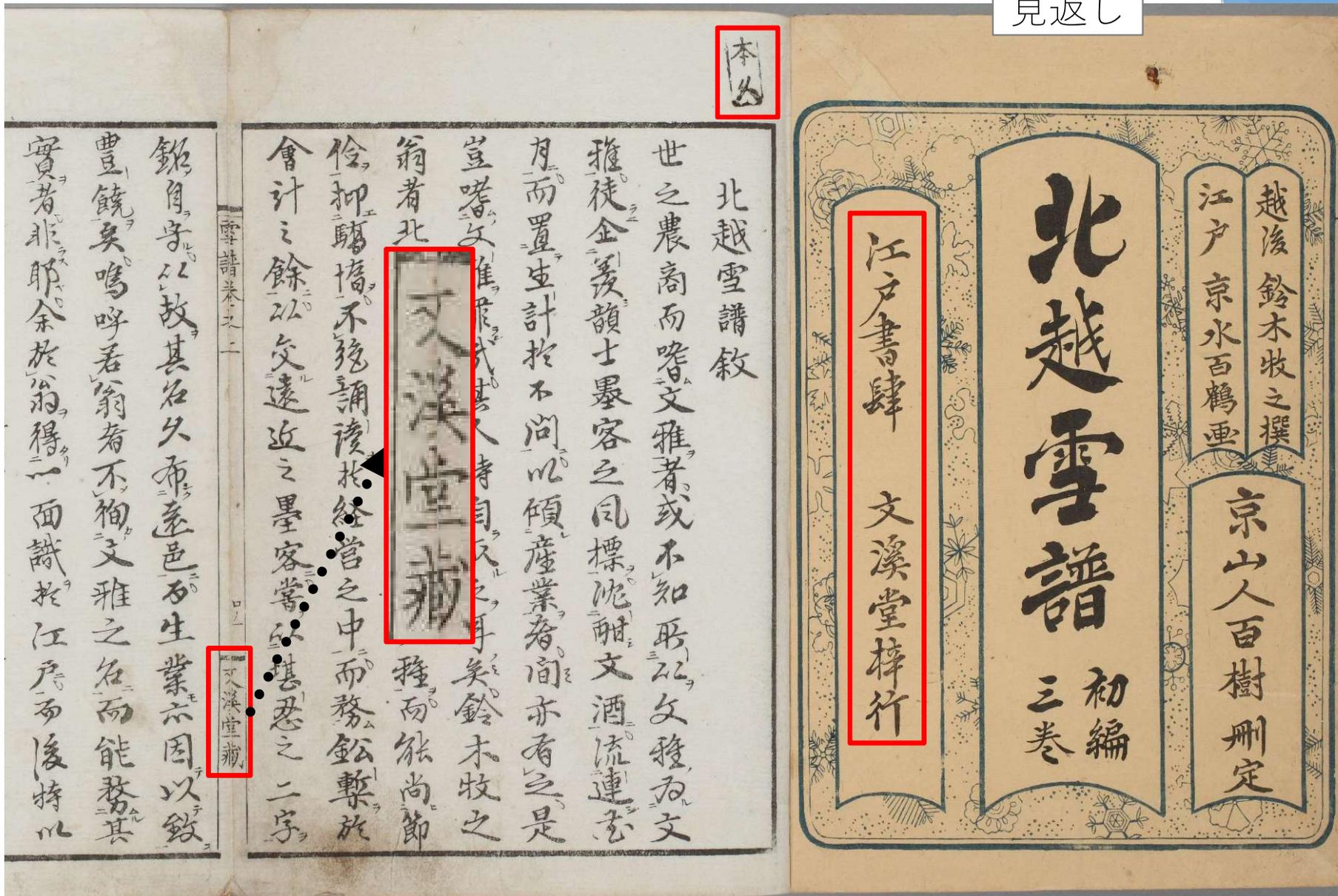


解説2-1.

- 「北越雪譜」は既にとった外題と同じ表記だが、種別が異なるので種別を追加する。
- 「叙」などは書名としては取らない。
- 「雪譜」は初めて出てきた表記なので新たに取り。
- 著者名の後に役割が明記されていたらその役割で取る。

◆ 第一冊見返し・序文冒頭

見返し



A2-2. 刊写の別、注記（出版，伝来（蔵書印））

- 刊写の別：『刊』
- 注記：『〈版〉文溪堂蔵版（見返し・柱刻）。』
- 注記：『〈伝〉（印記）「本久」黒印。』（参考：http://dbrec.nijl.ac.jp/CSDB_61811）

◆ 第一冊見返し・序文冒頭

見返し

本文

北越雪譜叙
世之農商而嗜文雅者或不知取以文雅為文
雅徒企羨韻士墨客之風標沈酣文酒流連
月而置生計於不問以傾產業者間亦有之是
豈嗜文雅哉其人者自天而耳矣鈴木牧之
翁者北越人其性剛直不為諂諂於經營之中而務
鉅業於會計之餘以交遠近之墨客嘗以甚惡之二
字
銘自字以故其名久布遠邑為生業亦因以致
豐饒矣嗚呼若翁者不徇文雅之名而能登
實者非耶余於翁得一面識於江戸而後持

雪譜卷之二

文溪堂藏

越後鈴木牧之撰
江戸京水百鶴画
京山人百樹刪定
北越雪譜
初編
三卷
江戸書肆
文溪堂梓行

解説2-2.

- 出版社名があるので刊本と判る。
- 見返しと柱刻にある「文溪堂」は「梓行」「蔵」とあるので蔵版者の意。当館では出版情報は刊記優先のため、ここでは一旦注記として記録する。
- 蔵書印は出来るだけ読む。判読不能文字があるときは□で表す。一文字も読めず文字数も判らなければ「印記あり」等の記載で蔵書印がある事を示す。

和古書

*は該当に○

preno

ppreno

cpreno

cid	wid		* widなし										
統一書名表記													
" よみ													
統一著者名(よみ)													
記載書名	1 表記 □	北越雪譜								種別	見・外・序首		
	よみ	ほくえつせつぷ											
	2 表記 □	雪譜								種別	柱		
	よみ	せつぷ											
	3 表記 □									種別			
	よみ												
4 表記 □									種別				
	よみ												
5 表記 □									種別				
	よみ												
6 表記 □									種別				
	よみ												
記載著者	1 著者名	鈴木／牧之						役割	撰		伝	部編等	
	2 著者名	京水／百鶴						役割	画		伝	部編等	
	3 著者名	京山人／百樹				他等		役割	刪定		伝	部編等	
* 書写	1書肆(地名)or 書写者(地名) 複数は, で繰 り返し												
	刊年or書写年 部編等												
出版事項	2書肆(地名)or 書写者(地名) 複数は, で繰 り返し												
	刊年or書写年 部編等												
* 刊 / 写 / 混		卷数		叢書巻号表示									
冊数		7 冊		残欠									
形態(丁数, 寸法, 紙型)													
和古書メディア表 原資料請求記号													
登録番号													
備考	* 書誌構造	単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写											
注記	< >												

◆ 第一冊序文末尾

猶得秋涼聊削之駁難校訂方畢者三卷書賈
 文溪堂見而喜之謀梓以之レ余寄簡以告翁
 曰雪中閑戶漫筆豈敢效梓耶於是予不復後請
 之於翁奉以付之翁之嗜文雅而能勢其實以
 必笑領之而已翁之稿本國字之間僅字者嘗
 不添音訓之假名余今盡添之以便童蒙ニ爾
 天保六年乙未秋閏菊開日

江戸 京山人百樹并書



此書の稿本國字別冊とて或は其説大國城描と添ふも亦至
 昔牧之翁が自筆の草画也此筆梓行の爲にせし猶六國に
 汚穢重複あり今梓に臨てその過半改省さ月改新に
 考れを存と卷中夾刺旁八單冊とて難攻也其刻は
 是刪定の考に依る所也余嘗て原國城瀆さるる雪中の諸状
 混錯を走墨と笑して通曉し難き其靴中の瘡痒の甚或何如
 元惟翁が草圖に倣ひて喜を描き而も或原國の梓に今も其則
 ち意我加ふ或は説有る國者其の甚説に據て其國城作れども蓋余志の
 越世踐踏す越雪の甚暑に於て茫然たり故に雪圖に於て違濁あり
 知ふも其誤を編者に駁すを勿き乙未秋 京水百鶴



Q3.ここから取ることができる書誌情報の項目とその内容は？

◆ 第一冊序文末尾

猶得秋涼聊削之駁難按訂方畢者三卷書賈
 文溪堂見而喜之謀梓以之レ余寄簡以告翁
 曰雪中閑戶漫筆豈敢以梓耶於是予不復後請
 之於翁奉以付之翁之嗜文雅而能勢其實以
 必笑領之而已翁之稿本國字之間僅字者嘗
 不添音訓之假名余今盡添之以便童蒙ニ爾
 天保六年乙未秋閏菊開日

江戸 京山人百樹并書



此書の稿本國字別冊とて或は其説大國城描と添ふも亦至
 昔牧之翁が自筆の草画也此筆梓行の爲にせし猶六國に
 汚穢重複あり今梓に臨てその國の過半改省さ月改新に
 考れを存と卷中夾刺考八單冊とて難攻也其刻ハ
 是刪定の考に依る所也余嘗て原國城瀆さるる雪中の諸狀
 混錯を走墨と笑して通曉し難きれ靴中の瘡痒の甚或何如
 元惟翁が草圖に倣ひ喜し描さるる而已或原國の梓に今も別
 小意加ふ或は説有る國考き其説據て其國城作れども蓋余志の
 越世踐踏す越雪の身暑に於て茫然たり故に雪圖に於て違濁の
 知ふも其誤を編者に駁すを勿き乙未秋 京山人百樹



A3. 注記 (序跋)

- 注記：『〈序〉初編卷之上に天保六年京山人百樹の叙あり。』

◆ 第一冊序文末尾

猶得秋涼聊削之駁難校訂方畢者三卷書賈
 文溪堂見而喜之謀梓以之レ余寄簡以告翁
 曰雪中閑戶漫筆豈敢以梓耶於是予不復後請
 之於翁奉以付之翁之嗜文雅而能勢其實以
 必笑領之而已翁之稿本國字之間僅字者嘗
 不添音訓之假名余今盡添之以便童蒙ニ爾
 天保六年乙未秋閏菊開日

江戸 京山人百樹并書



此書の稿本國字別冊とて或は其説大國城描と添ふも亦至
 昔牧之翁が自筆の草画也此筆梓行の爲にせし猶六國に
 汚穢重複あり今梓に臨てその國の過半改省さ月改新に
 考れを存と卷中夾刺考八單冊とて難攻也其刻は
 是刪定の考に依る所也余嘗て原國城瀆さるる雪中の諸状
 混錯を走墨とて通曉し難き其靴中の瘡痒の甚或何如
 元惟翁が草圖に倣ひ喜し描き而して或原國の梓に今も別
 小意我加念或説有る國考き其其説據て其國城作れども蓋余志の
 越世踐踏越雪の甚暑に於て茫然たり故に雪圖に於て違濁の
 知ふも其得を編者に駁すと勿き乙未秋 京水百鶴



解説3.

- 序の年記はあくまでその序が書かれた年なので出版年としては取らず、序跋に関する注記として取る。

和古書

*は該当に○

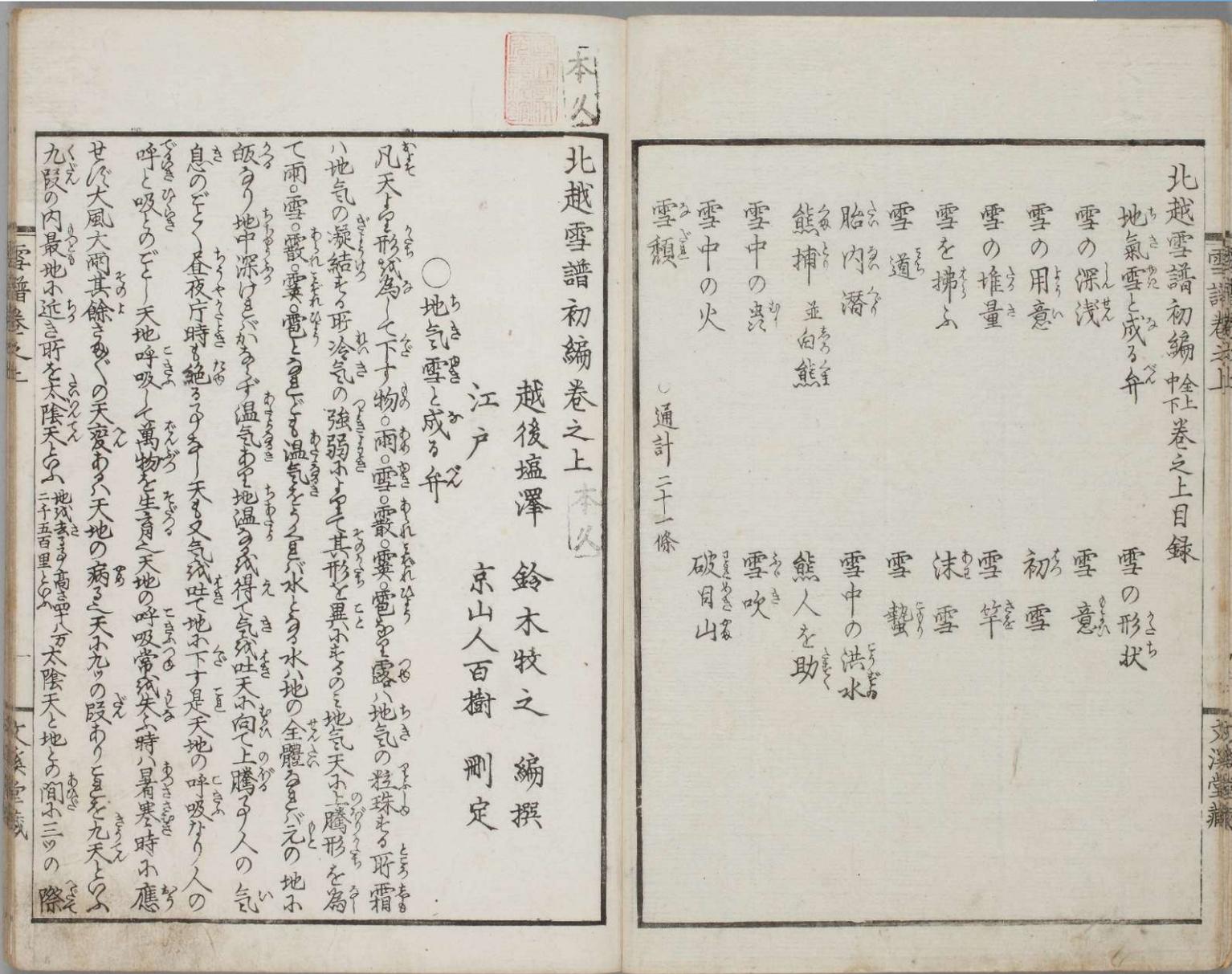
preno

ppreno

cpreno

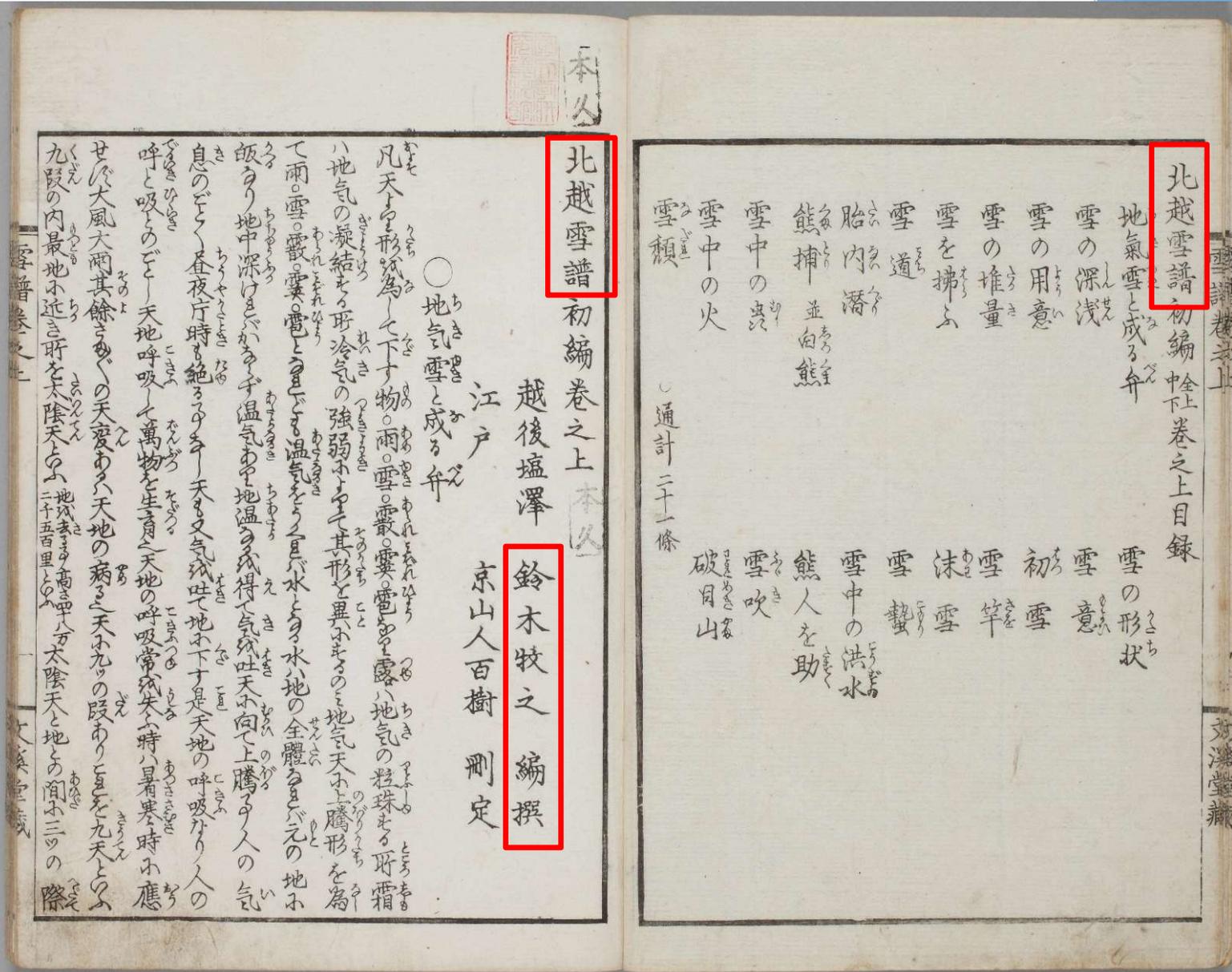
cid	wid		* widなし									
統一書名表記												
" よみ												
統一著者名(よみ)												
記 載 書 名	1 表記 □	北越雪譜								種別	見・外・序首	
	よみ	ほくえつせつぷ										
	2 表記 □	雪譜								種別	柱	
	よみ	せつぷ										
	3 表記 □									種別		
	よみ											
4 表記 □									種別			
	よみ											
5 表記 □									種別			
	よみ											
6 表記 □									種別			
	よみ											
記載著者	1 著者名	鈴木／牧之					役割	撰	伝	部編等		
	2 著者名	京水／百鶴					役割	画	伝	部編等		
	3 著者名	京山人／百樹	他等		役割	刪定	伝	部編等				
* 書 写 ・ 出 版 事 項	1書肆(地名)or 書写者(地名) 複数は, で繰 り返し											
	刊年or書写年 部編等											
2書肆(地名)or 書写者(地名) 複数は, で繰 り返し												
	刊年or書写年 部編等											
* (刊) / 写 / 混	卷数								叢書巻号表示			
冊数				7	冊	残欠						
形態(丁数, 寸法, 紙型)												
和古書メディア表 原資料請求記号												
登録番号												
備考	* 書誌構造	単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写										
注 記	< >											

◆ 第一冊本文冒頭



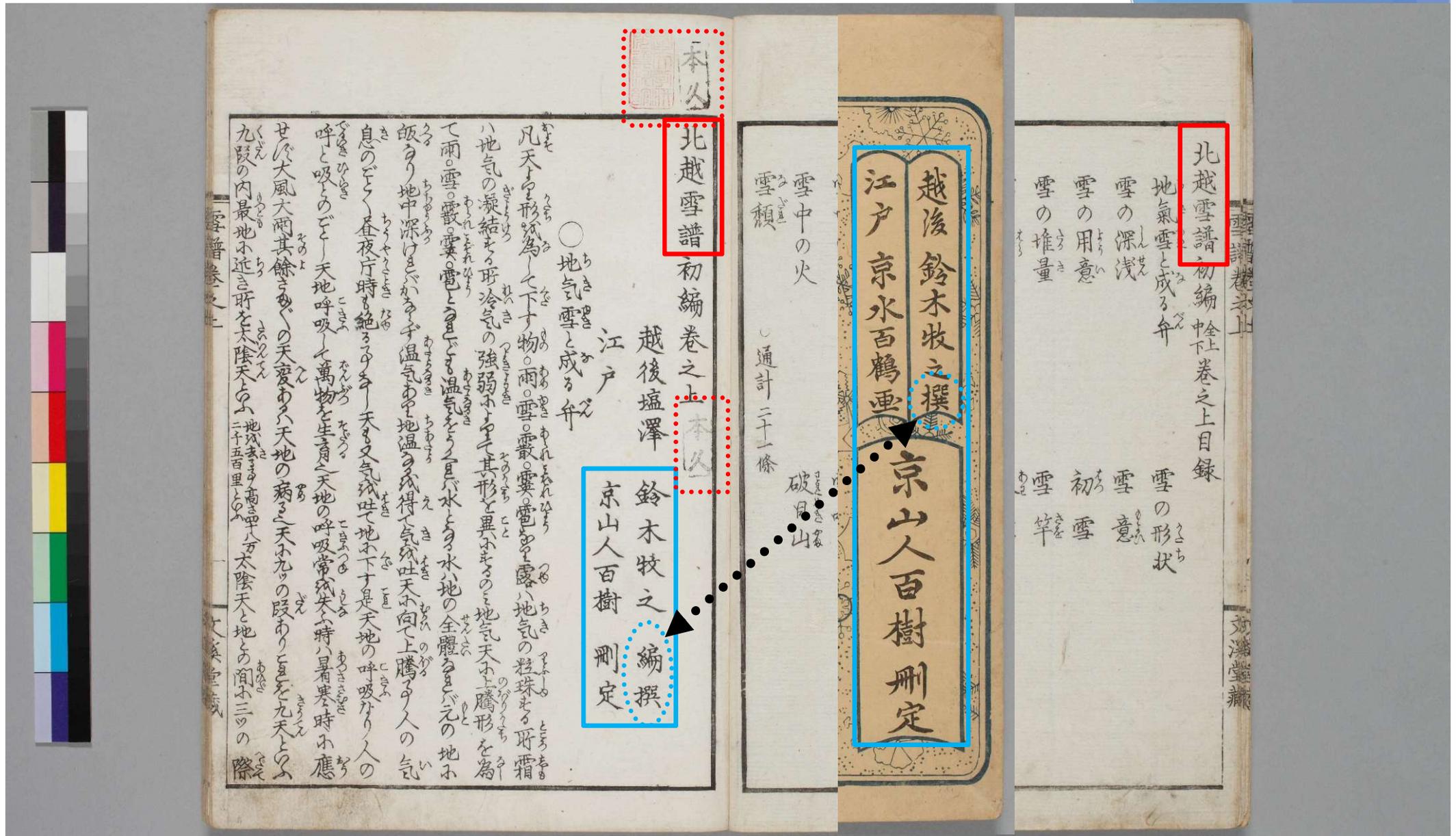
Q4.ここから取ることができる書誌情報の項目とその内容は？

◆ 第一冊本文冒頭



- A4. 記載書名（種別：目（目録題）、内（内題・巻首題））、記載著者名（役割の訂正）
- 記載書名：『北越雪譜（ほくえつせっぷ）, 内・目・見・外・序首』
 - 記載著者名：『鈴木／牧之, 編撰』

◆ 第一冊本文冒頭



解説4.

- 「北越雪譜」が目録題・内題として初めて出てきたので記載書名の種別を追加する。
- 記載著者名は巻頭の記載が優先のため「鈴木牧之」の役割は「編撰」で取る。巻頭には「京水百鶴画」の記載がないが、見返しからも採録出来るので削除はしない。

和古書

*は該当に○

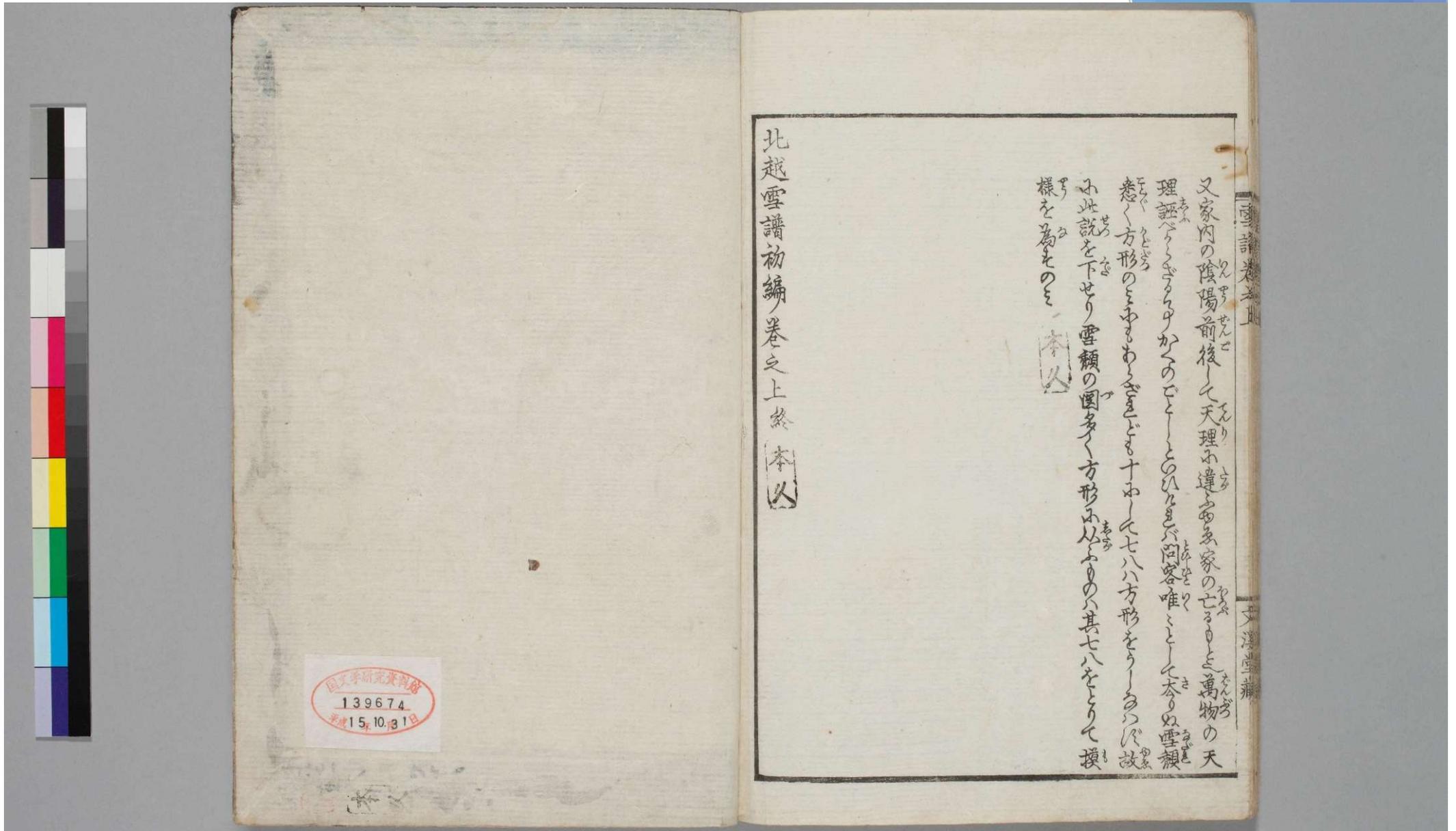
preno

ppreno

cpreno

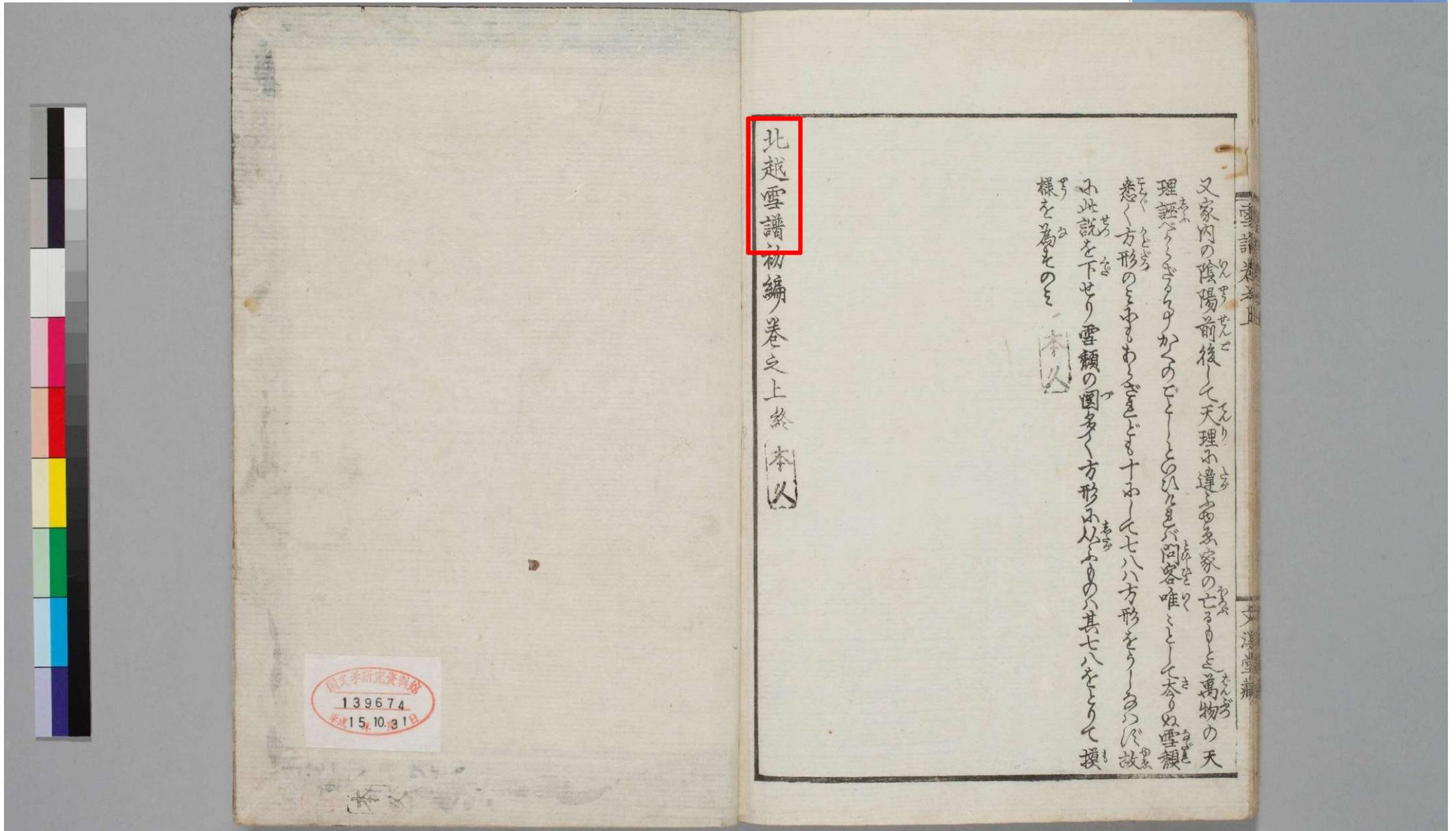
cid	wid		* widなし									
統一書名表記												
" よみ												
統一著者名(よみ)												
記 載 書 名	1 表記 □	北越雪譜								種別	内・目・見・外	
	よみ	ほくえつせつぷ									・序首	
	2 表記 □	雪譜								種別	柱	
	よみ	せつぷ										
	3 表記 □									種別		
	よみ											
4 表記 □									種別			
	よみ											
5 表記 □									種別			
	よみ											
6 表記 □									種別			
	よみ											
記載著者	1 著者名	鈴木／牧之					役割	編撰	伝	部編等		
	2 著者名	京水／百鶴					役割	画	伝	部編等		
	3 著者名	京山人／百樹			他等		役割	刪定	伝	部編等		
* 書 写 ・ 出 版 事 項	1書肆(地名)or 書写者(地名) 複数は, で繰 り返し											
	刊年or書写年 部編等											
2書肆(地名)or 書写者(地名) 複数は, で繰 り返し												
	刊年or書写年 部編等											
* (刊) / 写 / 混	冊数		7 冊		卷数					叢書巻号表示		
形態(丁数, 寸法, 紙型)												
和古書メディア表 原資料請求記号	—											
登録番号												
備考	* 書誌構造	単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写										
注 記	〈 〉											

◆ 第一冊本文末尾



Q5.ここから取ることができる書誌情報の項目とその内容は？

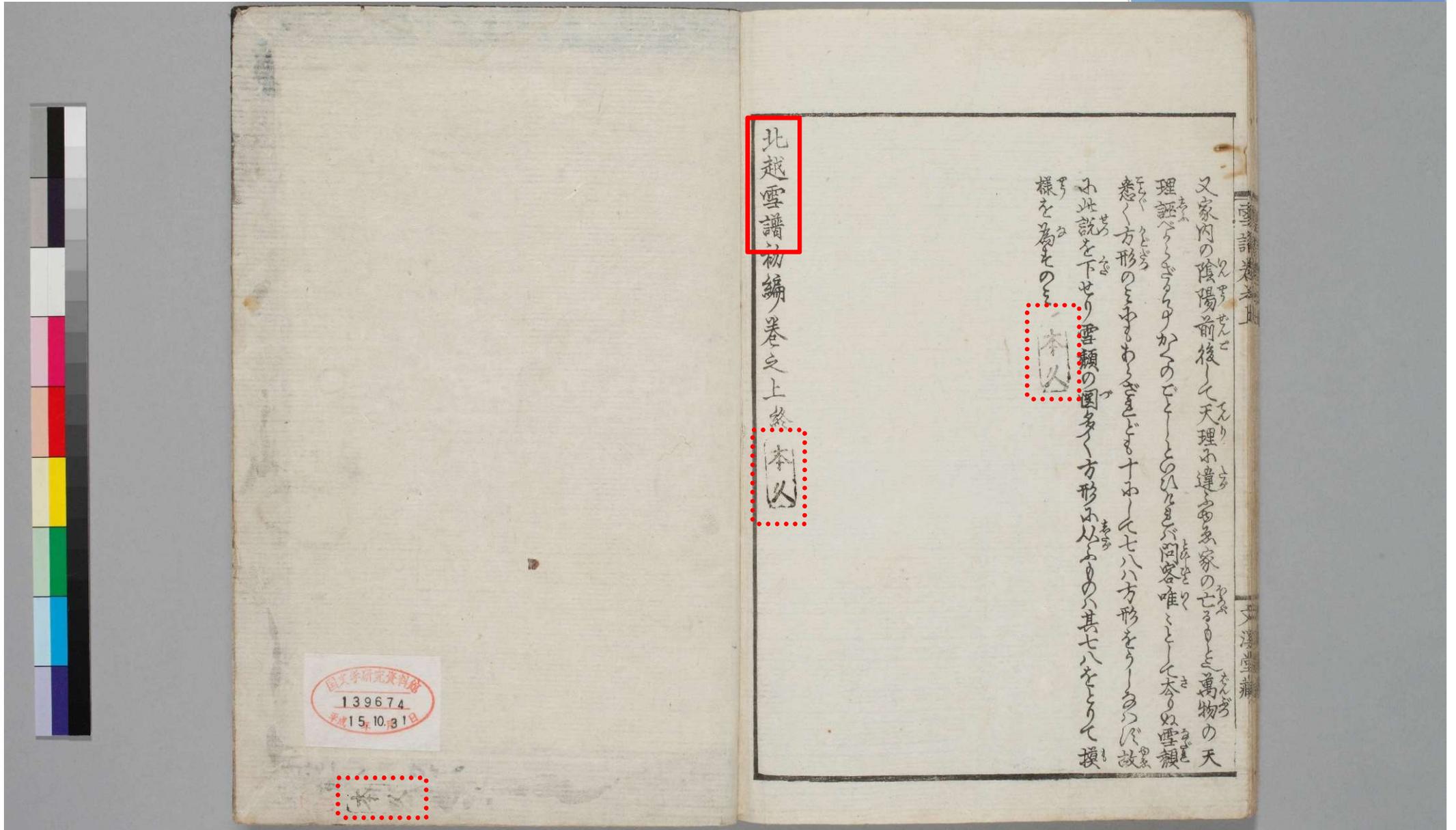
◆ 第一冊本文末尾



A5. 記載書名 (種別: 尾 (尾題))

- 記載書名: 『北越雪譜 (ほくえつせっぷ) , 内・目・見・尾・外・序首』

◆ 第一冊本文末尾



解説5.

- 「北越雪譜」が尾題として初めて出てきたので記載書名の種別を追加する。

和古書

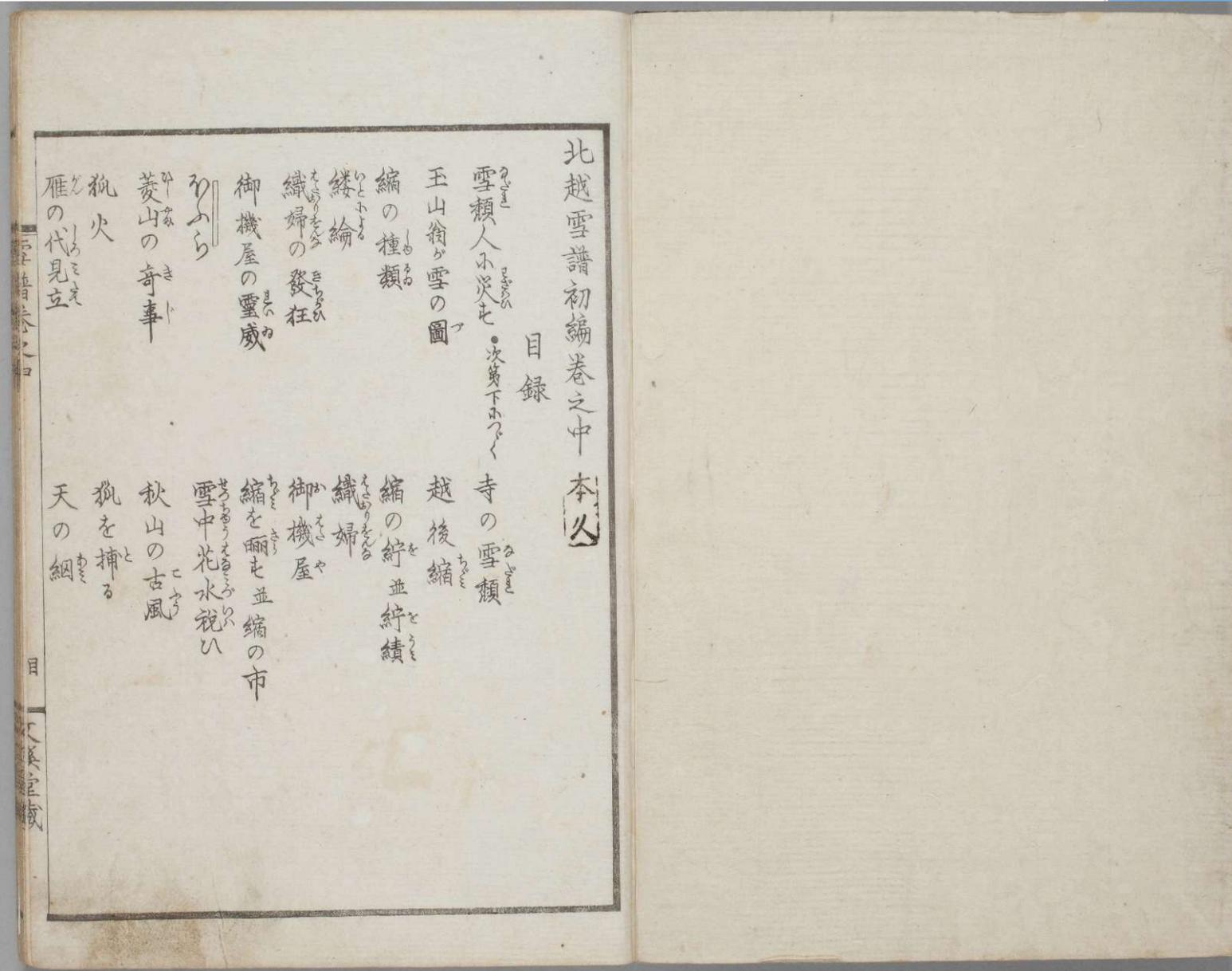
*は該当に○

preno		ppreno		cpreno	
-------	--	--------	--	--------	--

cid	wid		* widなし											
統一書名表記														
" よみ														
統一著者名(よみ)														
記 載 書 名	1 表記 □	北越雪譜										種別	内・目・見・尾・外	
	よみ	ほくえつせつぷ											・序首	
	2 表記 □	雪譜										種別	柱	
	よみ	せつぷ												
	3 表記 □											種別		
	よみ													
4 表記 □											種別			
よみ														
5 表記 □											種別			
よみ														
6 表記 □											種別			
よみ														
記載著者	1 著者名	鈴木／牧之						役割	編撰	伝	部編等			
	2 著者名	京水／百鶴						役割	画	伝	部編等			
	3 著者名	京山人／百樹				他等		役割	刪定	伝	部編等			
* 書 写 ・ 出 版 事 項	1書肆(地名)or 書写者(地名) 複数は, で繰 り返し													
	刊年or書写年 部編等													
出 版 事 項	2書肆(地名)or 書写者(地名) 複数は, で繰 り返し													
	刊年or書写年 部編等													
* (刊) / 写 / 混		卷数			叢書巻号表示									
冊 数		7 冊			残欠									
形態(丁数, 寸法, 紙型)														
和古書メディア表 原資料請求記号		-												
登録番号														
備 考	* 書誌構造	単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写												
注 記	< >													

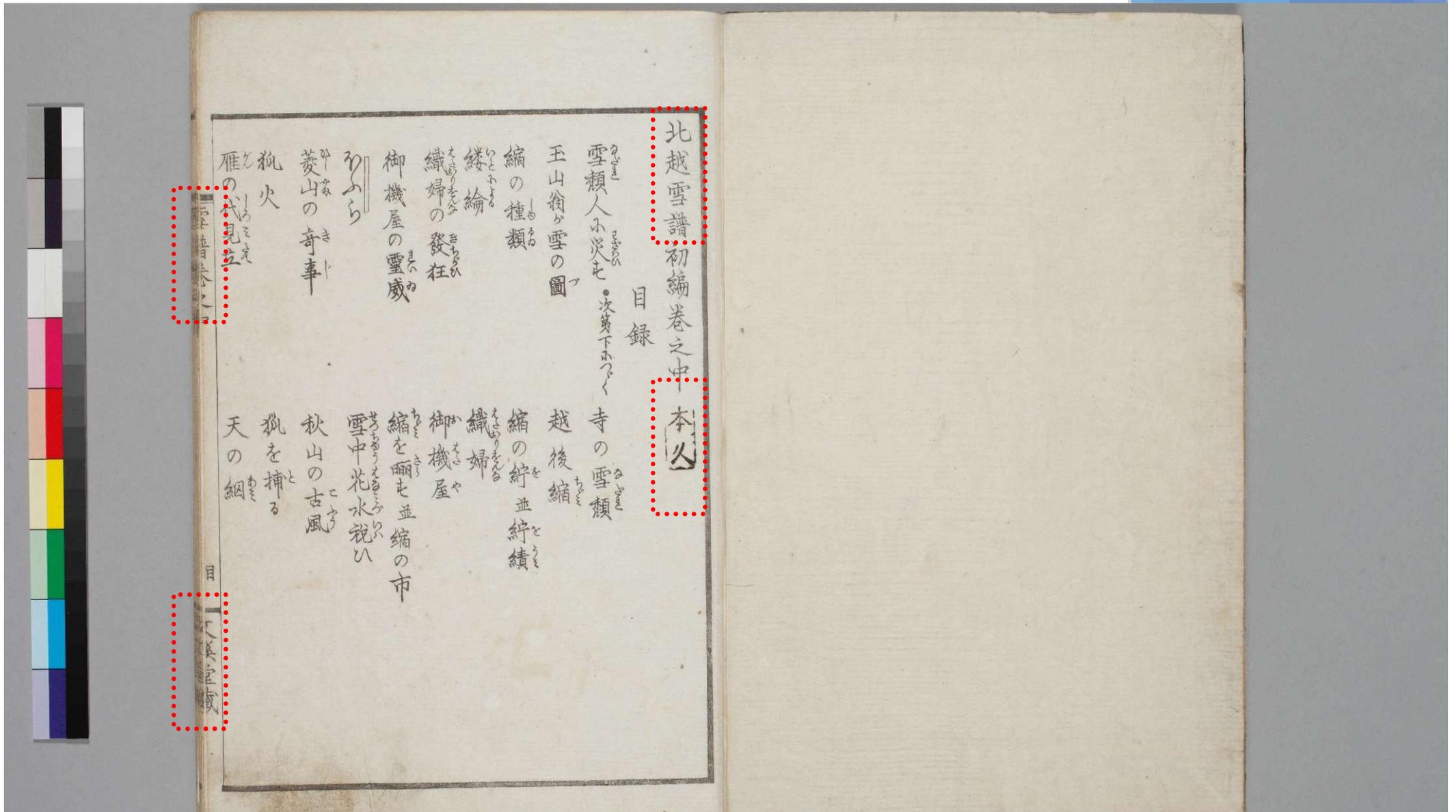
注 記〈系〉	
〈版〉	文溪堂蔵版(見返し・柱刻)。
〈写〉	
〈書〉	
〈叢〉	
〈著〉	
〈形〉	
〈刊〉	
〈成〉	
〈序〉	初編巻之上に天保六年京山人百樹の叙あり。
〈奥〉	
〈伝〉	(印記)「本久」黒印。
〈般〉	

◆ 第二冊目録



Q6. ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

◆ 第二冊目録

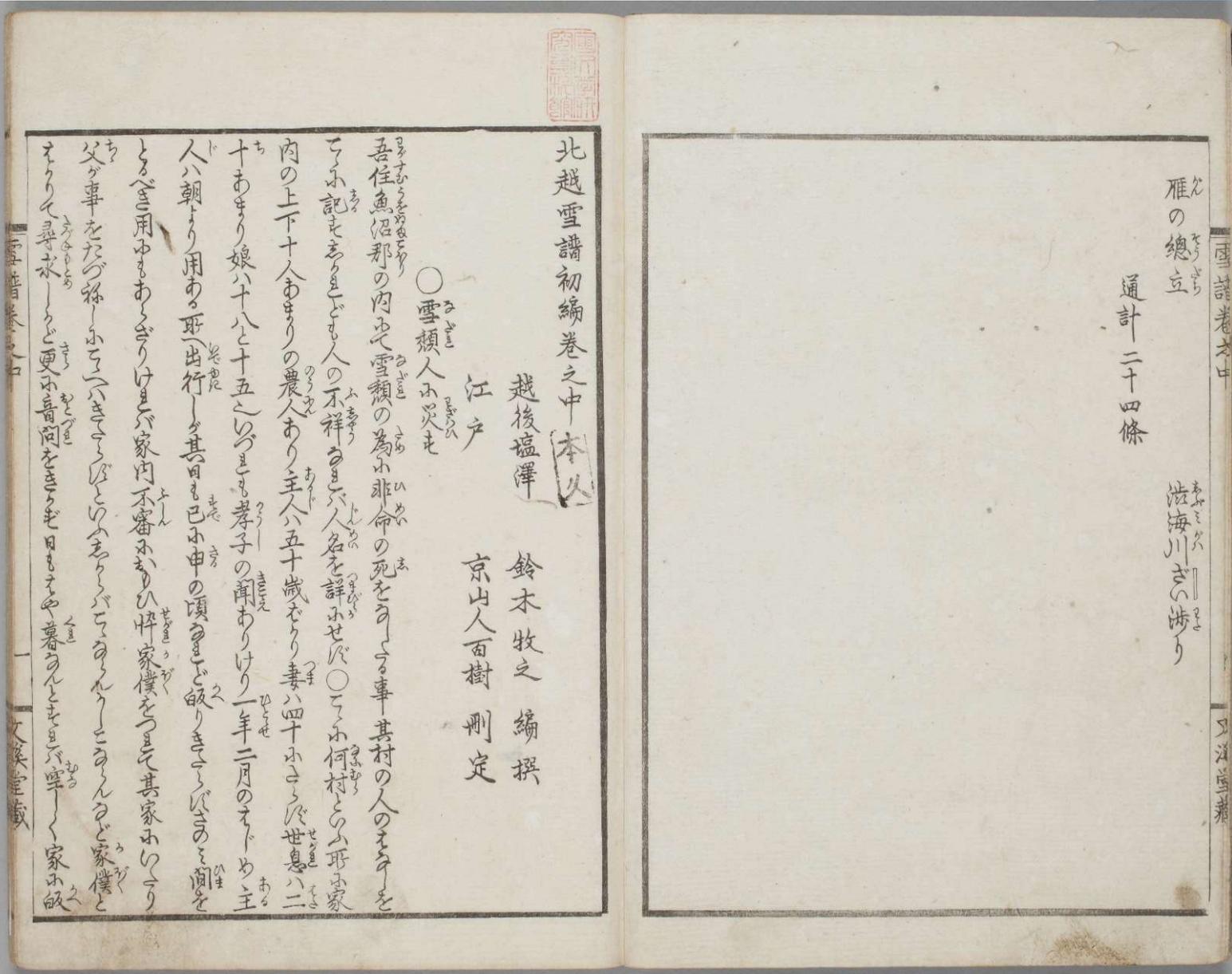


A6.ない。

解説6.

- 第一冊で「北越雪譜」の目録題・柱題、「本久」の蔵書印や柱刻の蔵版者に関する注記はいずれも取っている。

◆ 第二冊本文冒頭



雁の總立

通計二十四條

滋海川の渉り

北越雪譜初編卷之中

越後塩澤

江戸

鈴木牧之 編撰

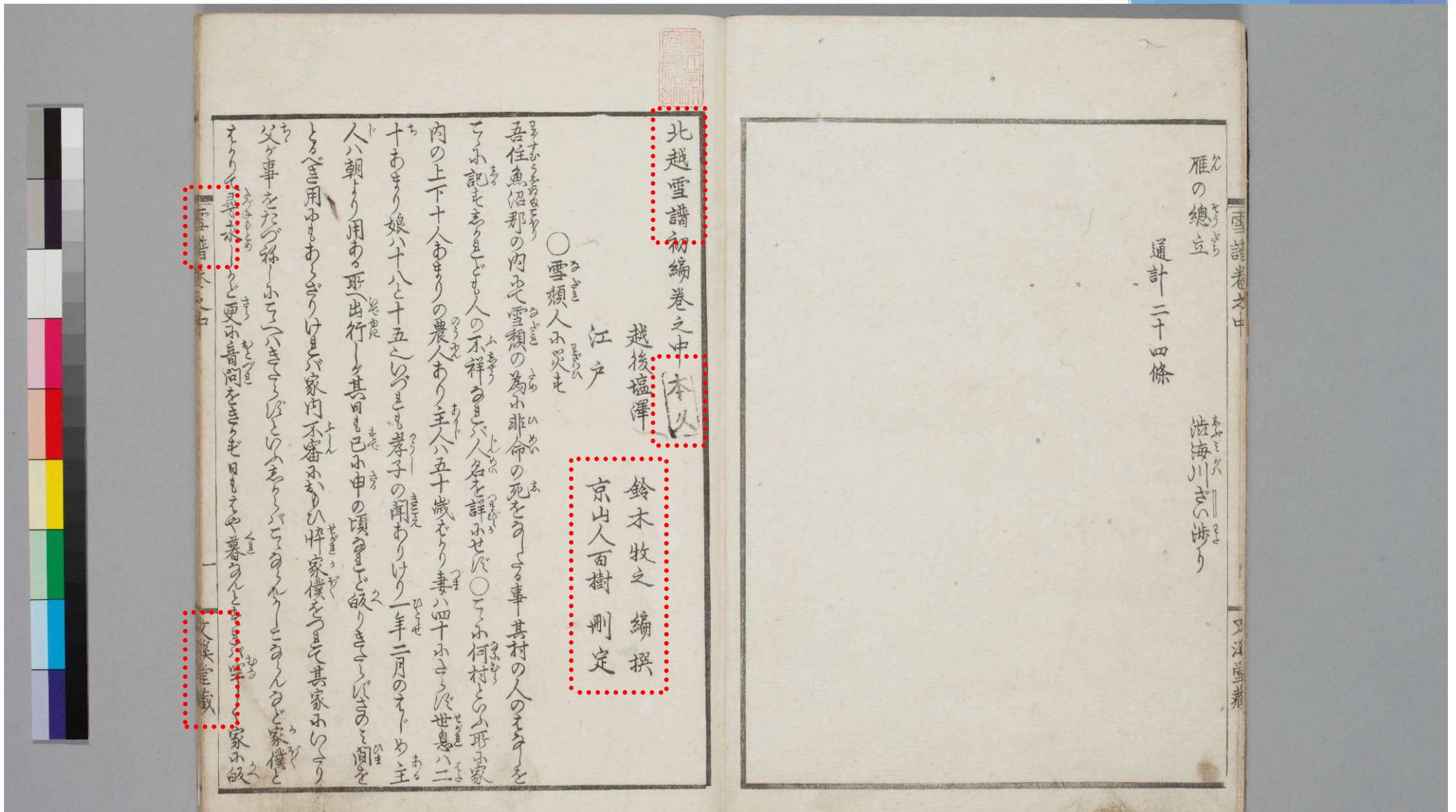
京山人面樹 刑定

○雪類人小災

吾任魚沼郡の内之雪類の為小非命の死を有する事其村の人の事を
 記す小記をまらざるも人の不祥なる人各を詳小せば○こ小何村との小形小家
 内の上下十人あまりの農人あり主人ハ五十歳をり妻ハ四十小さく於世息ハ二
 十あまり娘ハ十八と十五といふとも孝子の聞わりけり一年二月のそとり主
 人ハ朝より用ある取出行へ其日ハ己小申の頃よりと飯りきこふさの之間を
 とるべき用ゆもあざりけり家内不審ふもハ悴家僕をつとて其家小のこり
 父が事をたづね小こハきこふびとのあつてをうらうとてんて家僕と
 そりて尋水へいへ更小音聞をきき目もそり暮るんとて小空へ家小飯

Q7.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

◆ 第二冊本文冒頭

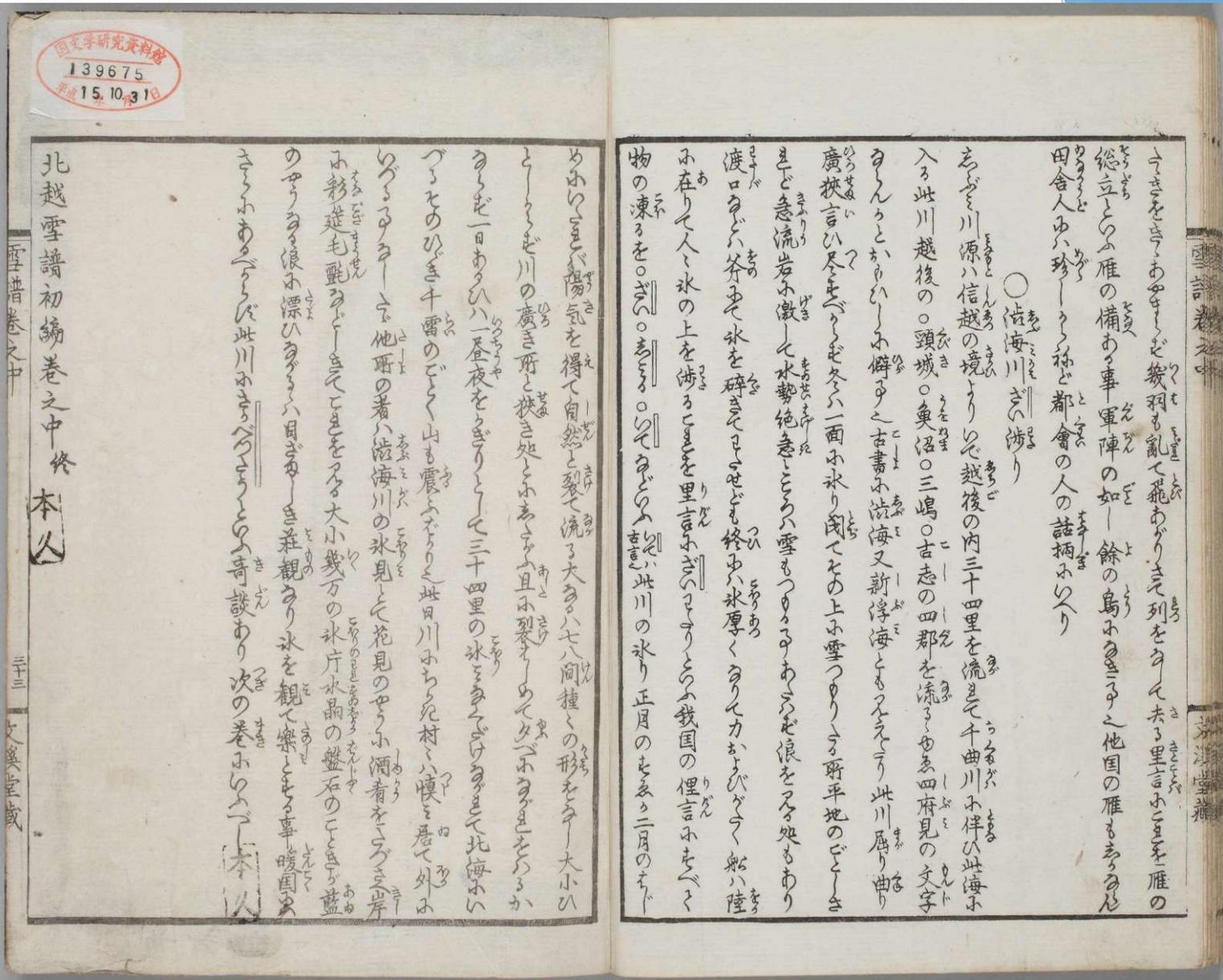


A7.ない。

解説7.

- 第一冊で「北越雪譜」の内題、「鈴木牧之編撰」「京山人百樹」の記載著者はいずれも取っている。

◆ 第二冊末尾



Q8.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

◆ 第二冊末尾

国文学研究資料館
139675
平成 15. 10. 31日

北越雪譜初編卷之中終
本人

五世譜卷之中

三十三

文藝堂藏

り小い... 陽氣を得て自然と裂て流る大なるハ七八間撞くの形をなす大小ひ
と... 川の廣き所と狭き処と小なるは且小裂るをりて夕ふるをりてか
るを一日あるハ一昼夜をりて三十四里の氷を多てけりて北海の小
つとこのひは千雷のごとく山も震ふなりと此日川小ら花村ハ懐も居て外ハ
いづるも... 他所の著ハ北海川の氷見とて花見のやう小酒肴をさす山岸
ハ彩遊も舞るごときをさる大小幾方の氷片氷晶の盤石のごとき色ハ藍
のやうなる浪小漂ひ多るハ目さる一色莊親かり氷を親て樂とて事ハ暖國史
さるふあ... 此川小ら... 奇談あり次の巻より本人

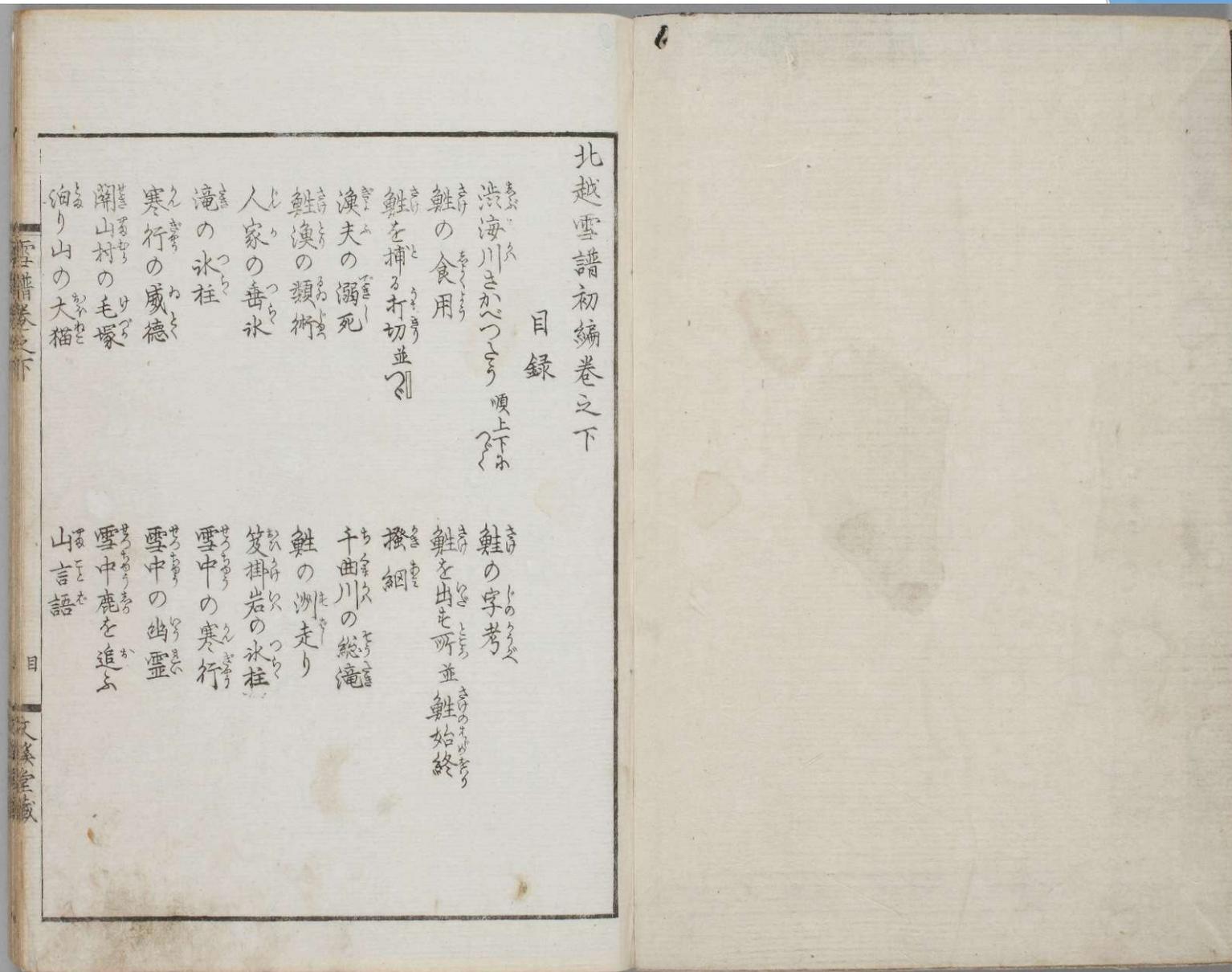
つまを... 幾羽も亂て飛わたりきて列をなすて去る里言小を雁の
総立との雁の備ある軍陣の如し餘の島ふるさつ之他国の雁もあつる
田舎人ハ珍しく福と都會の人の話柄ふり
○北海川の流り
北海川源ハ信越の境より北越後の内三十四里を流して千曲川小伴ハ此海小
入る此川越後の頭城ハ奥沼ハ三嶋ハ古志の四郡を流るやま四府見の文字
白んうとかいひ小僻の古書ハ北海又新浮海とも云えり此川屈り曲り
廣狹言い尽まざる冬ハ一面小氷り因てその上小雪つりて所平地のごとき
まど急流若小激ハ水勢絶急とらハ雪もつりてあらば浪をさる処もあり
渡口なるハ斧で氷を碎きて日せども終ハ氷厚くありて力ハびたく船ハ陸
不在りて人ハ氷の上を歩ることを里言ふさるなりとのハ我國の俚言小をり
物の凍るをさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

A8.ない。

解説8.

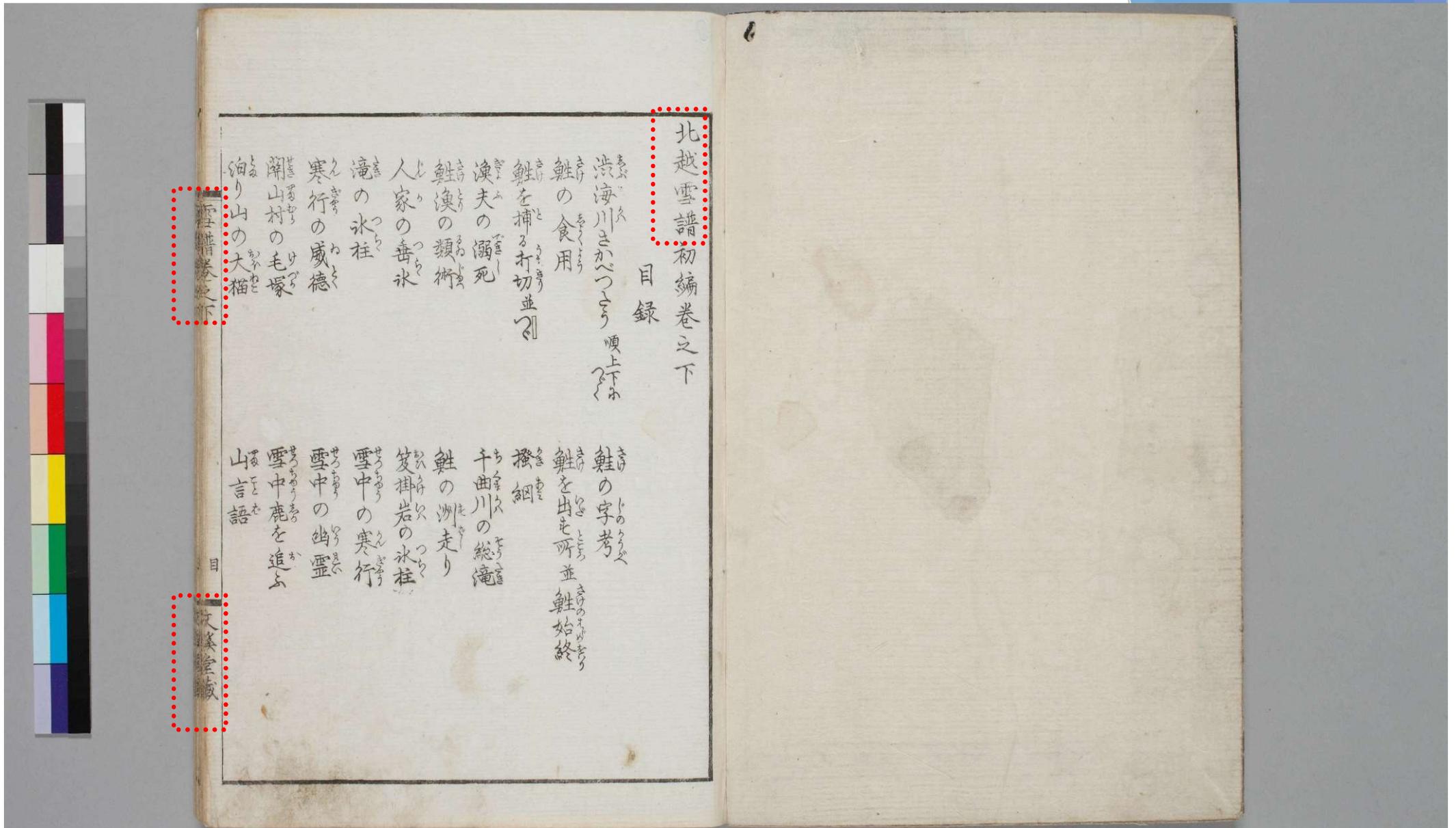
- 第一冊で「北越雪譜」の尾題は既に取りっている。

◆ 第三冊冒頭



Q9.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

◆ 第三冊冒頭

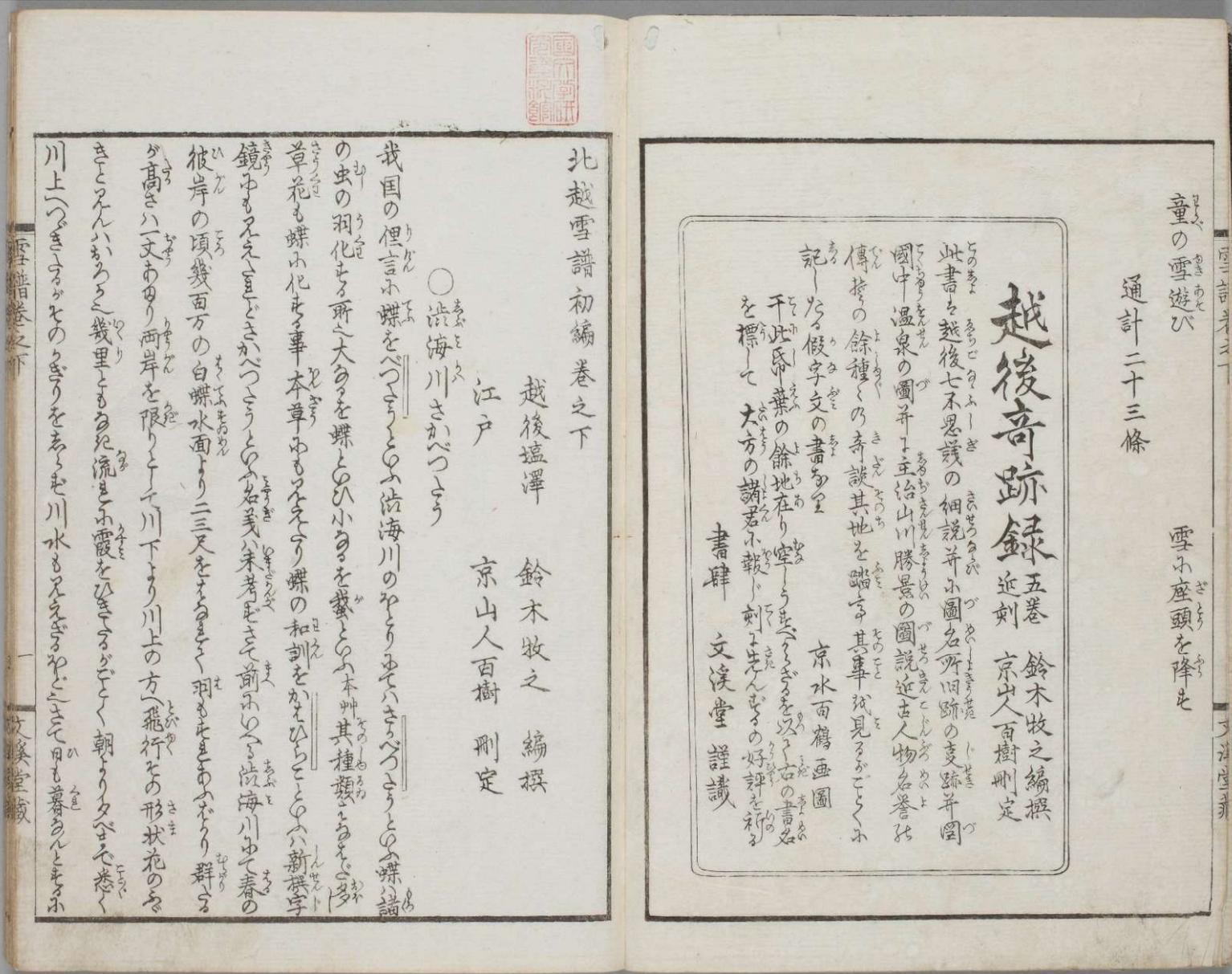


A9.ない。

解説9.

- 第一冊で「北越雪譜」の目録題・柱題は既に取り替えている。

◆ 第三冊本文冒頭



童の雪遊こどものゆきあそび 通計二十三條

雪小座頭ゆきせうざとうを降くだは

越後奇跡録

五巻 鈴木牧之編撰
近刻 京山人百樹刑定

此書は越後七不思議の細説并小圖名所旧跡の支跡并圖
國中温泉の圖并上治山川勝景の圖説近古人物名譽能
傳授の餘種くの奇談其地を踏尋其事試見多からず
記たる假字文の書多し 京水百鶴画圖
干此系葉の餘地在り空らきを以て右の書名
を標して大方の諸君不報し刺し先んむの好評を祈る
書肆 文溪堂謹識

北越雪譜初編卷之下

越後塩澤

鈴木牧之 編撰

江戸

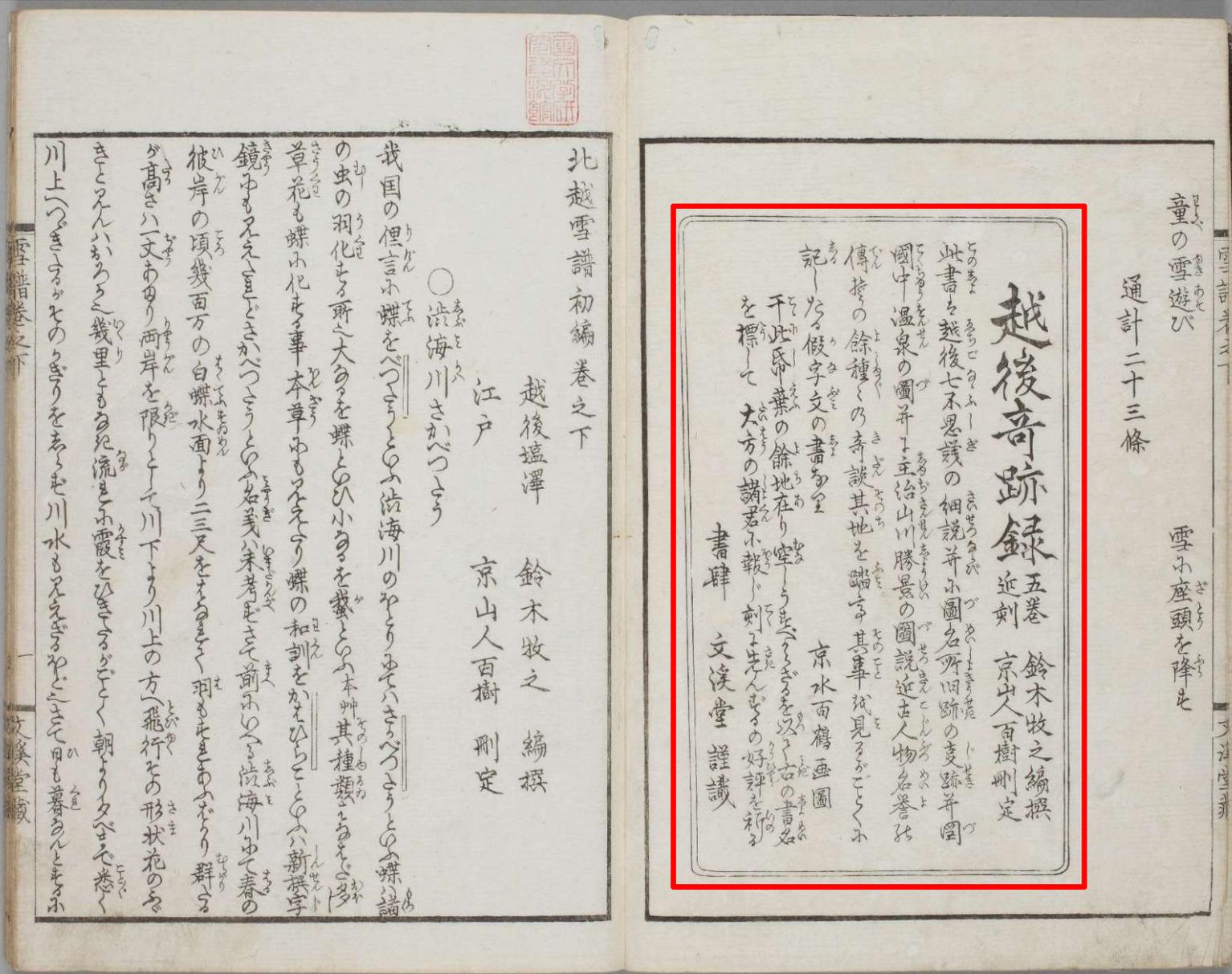
京山人百樹 刑定

○ 洪海川あふみさかべつあふみ

我國の但言小蝶をべつとてふ洪海川のやうに中をさうべつとてふ蝶の譜
の虫の羽化する所大なるを蝶とひ小なるを蠶とてふ本州其種類多
草花も蝶小化する事本章中もつをすり蝶の和訓をかまひらことの新撰字
鏡中もなえいごとかかべつとてふ名美し未考をまそ前ふらる洪海川ゆて春の
彼岸の頃幾百万の白蝶水面より三足をまをるごとく羽もたはるゆり群る
が高さハ文あり兩岸を限りて川下より川上方飛行その形状花の
きとんハいろち幾里ともな流し小霞をひきまるとて朝より夕まで巻く
川上つゞきゆるがせのうきをあつむ川水もなえいごやとて目も暮るとも小

Q10.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

◆ 第三冊本文冒頭



童の雪遊こどものゆきあそび 通計二十三條

雪小座頭ゆきせざとうを降くだは

越後奇跡録

五卷 鈴木牧之編撰
近刻 京山人百樹刑定

此書は越後七不思議の細説并小圖名所旧跡の支跡并圖
國中温泉の圖并上治山川勝景の圖説近古人物名譽能
傳授の餘種くの奇談其地を踏尋其事蹟見多からず
記たる假字文の書多し 京水百鶴画圖
干此糸葉の餘地在り空うはくを以て右の書名
を標して大方の諸君不報し刺し先んむの好評を祈る
書肆 文溪堂謹識

北越雪譜初編卷之下

越後塩澤

鈴木牧之 編撰

江戸

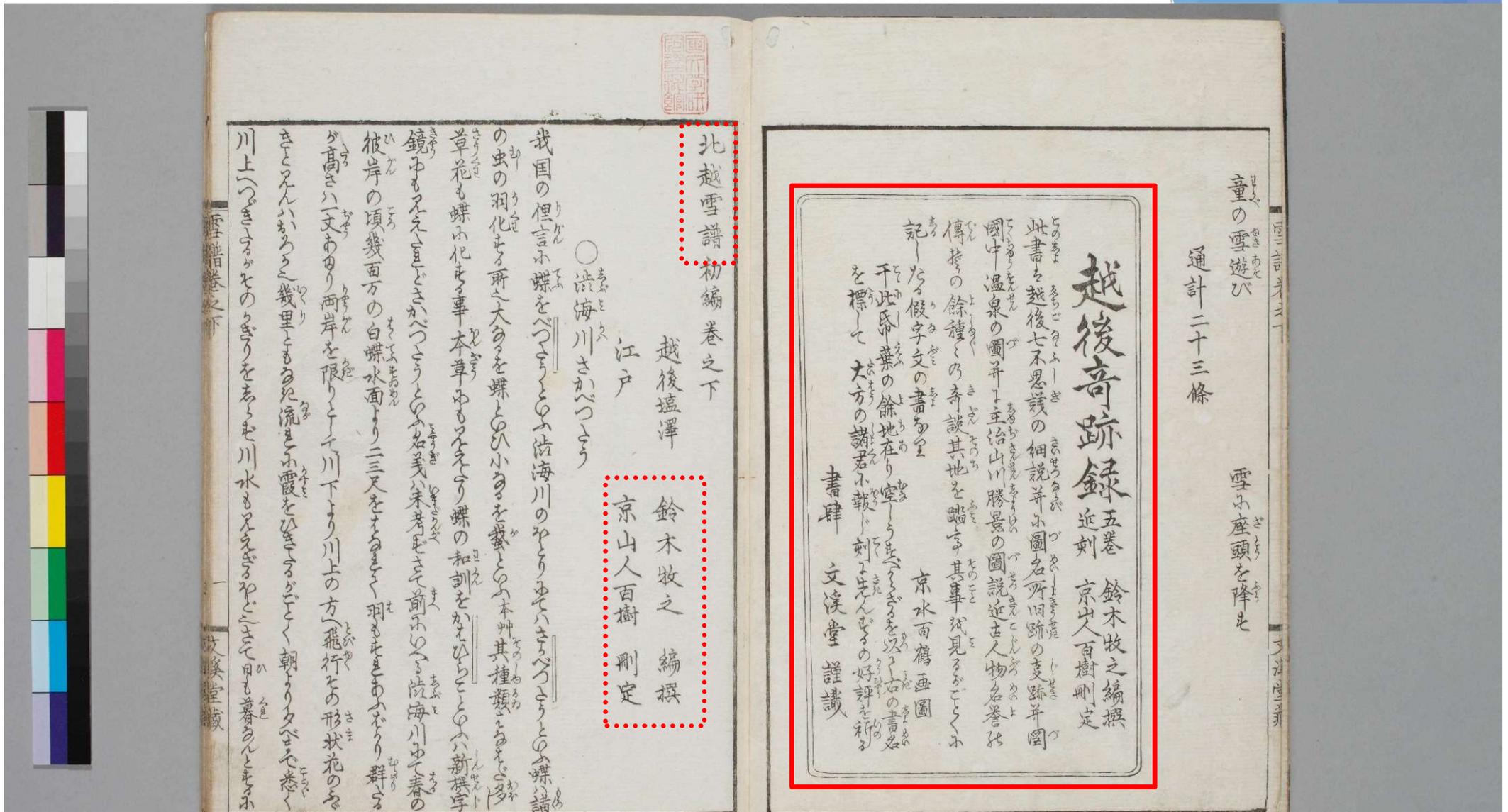
京山人百樹 刑定

○ 洪海川あふみさかべつあふみ

我國の但言小蝶をべつとてふ洪海川のやうりゆをさうべつとてふ蝶の譜
の虫の羽化する所大なるを蝶とひ小なるを蠶とてふ本州其種類多
草花も蝶小化まる事本章ゆもつをすり蝶の和訓をかまひらことの新撰字
鏡中もなえいといふとさかべつとてふ名美し未考をまき前ふらる洪海川ゆて春の
彼岸の頃幾百万の白蝶水面より三足をまきとて羽もたはるゆり群
が高さハ文あり兩岸を限りて川下より川上方飛行その形状花の
きとんハいろち幾里ともな流し小霞をひきまきとて朝より夕まで巻く
川上つゞきゆるさそのうきをあむむ川水もなえいなるやとて目も暮るとも

A10.注記（一般注記）。
• 注記：『〈般〉初編卷之下の目録に広告あり。』

◆ 第三冊本文冒頭



解説10.

- 一般注記は各項目の補足説明や資料の特徴等を示す事項、その他特定の注記種別に入らない事柄を記載する注記。
- 広告はその資料そのものに関する情報ではないので、取る場合はその存在を一般注記で取る。

和古書

*は該当に○

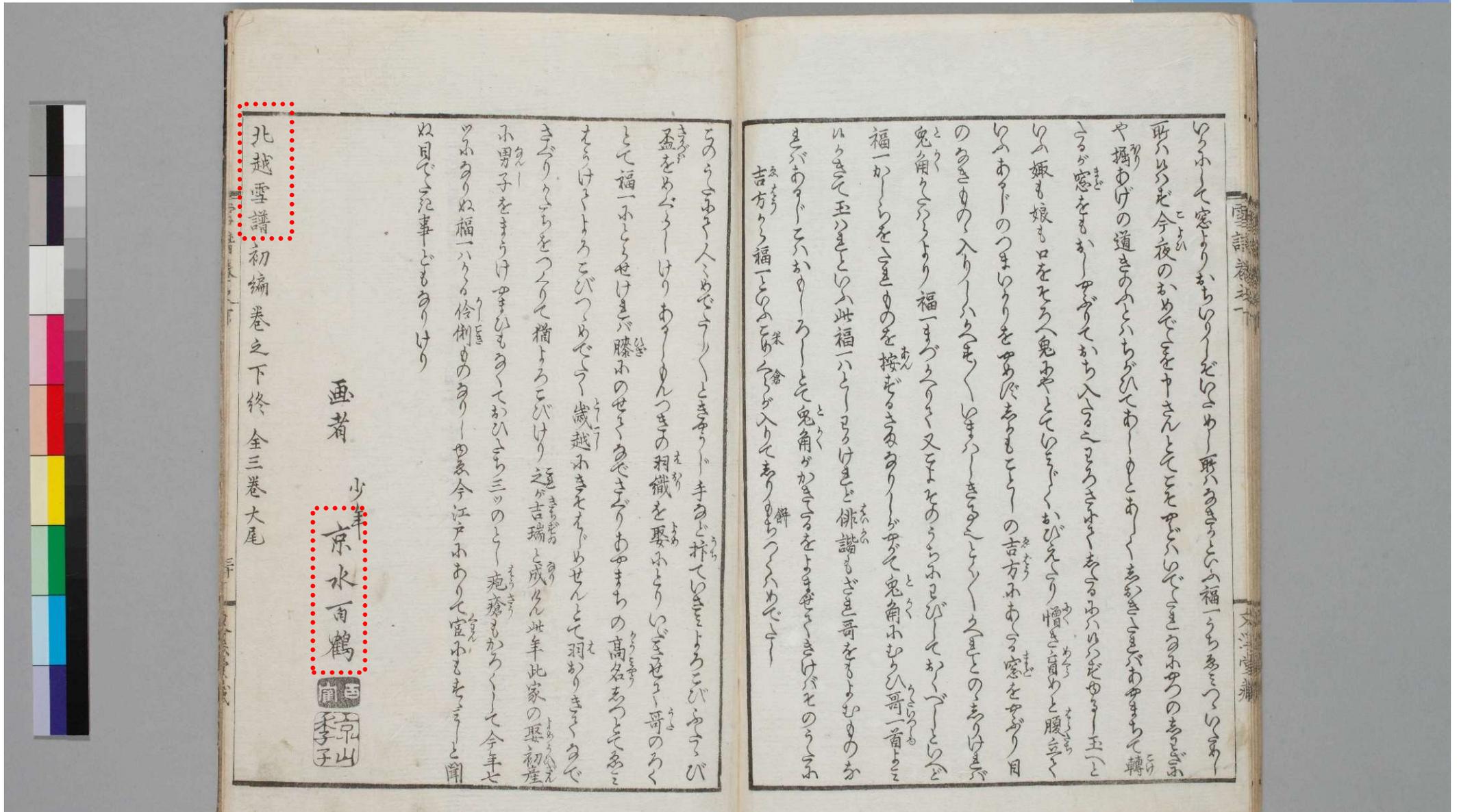
preno

ppreno

cpreno

cid											wid											* widなし									
統一書名表記																															
" よみ																															
統一著者名(よみ)																															
記 載 書 名	1 表記	<input type="checkbox"/>	北越雪譜															種別	内・目・見・尾・外												
	よみ		ほくえつせつぷ																・序首												
	2 表記	<input type="checkbox"/>	雪譜															種別	柱												
	よみ		せつぷ																												
	3 表記	<input type="checkbox"/>																種別													
	よみ																														
記 載 著 者	1 著者名	鈴木／牧之															役割	編撰			伝	部編等									
	2 著者名	京水／百鶴															役割	画			伝	部編等									
	3 著者名	京山人／百樹										他等			役割	刪定		伝	部編等												
	* 書写	1書肆<地名>or 書写者<地名> 複数は, で繰 り返し																													
	出版	2書肆<地名>or 書写者<地名> 複数は, で繰 り返し																													
	事項	刊年or書写年 部編等																													
* (刊) / 写 / 混															卷数					叢書巻号表示											
冊数															7 冊					残欠											
形態(丁数, 寸法, 紙型)																															
和古書メディア表 原資料請求記号																															
登録番号																															
備考	* 書誌構造 単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写																														
注記	< >																														

◆ 第三冊本文末尾



A11.ない

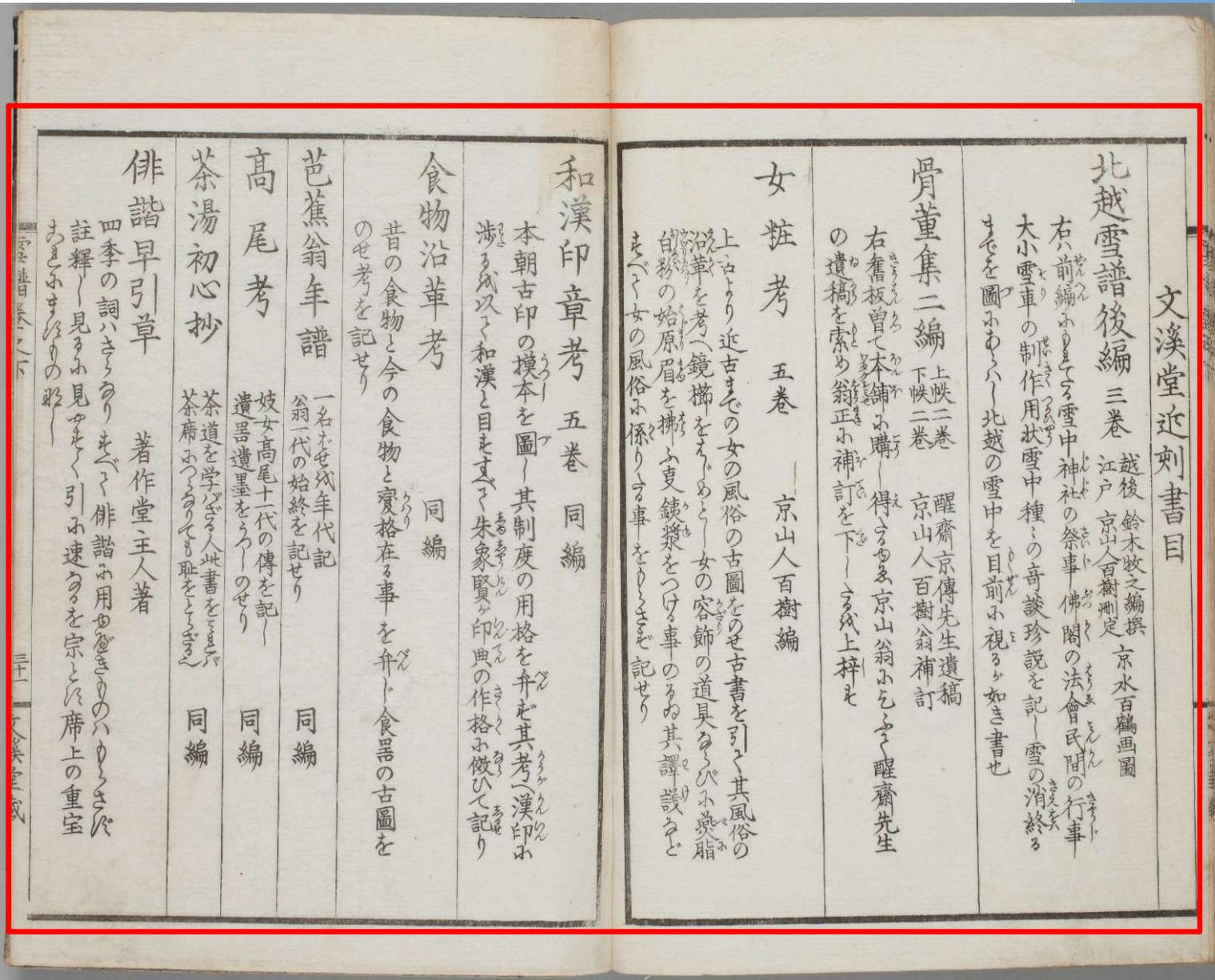
- 解説11.「京水百鶴」は既に記載著者として取っている。
- 画者名の下印は画者の印であり蔵書印ではないので取らない。
- 尾題の「北越雪譜」は第一冊で既に取っている。

◆ 第三冊広告

文溪堂近刊書目	
北越雪譜後編 三卷	越後 鈴木牧之編撰 京水百鶴画圖 江戸 京山人百樹判定
右前編より雪の中神社の祭事 佛閣の法會 民間の行事 大小雪車の制作用状 雪中種々の奇談 珍説を記し 雪の消終る まをを圖ふあり 北越の雪中を目前に視るか如き書也	
骨董集二編	上 映二卷 醒齋京傳先生遺稿 下 映二卷 京山人百樹翁補訂
右奮板曾て本舖に購得たり 京山人百樹翁を以て 醒齋先生 の遺稿を索り 翁正し 補訂を下し 之を成上梓也	
女粧考 五卷	京山人百樹編
上より近古までの女の風俗の古圖をのせ 古書を引く 其風俗の 沿革を考へ 鏡櫛をとり 女の容飾の道具なるべし 髮脂 白粉の始原眉を拂ふ 更鏡漿をつけ 事のゆゑ 其譯談を まへて 女の風俗に係り 事を知るべきを記せり	
和漢印章考 五卷 同編	
本朝古印の摸本を圖し 其制度の用格を弁む 其考(漢印の 溯る成以て和漢と目せず) 朱象賢の印典の作格に倣ひて 記り	
食物沿革考 同編	
昔の食物と今の食物と 賣格在る事を弁し 食器の古圖を のせ考を記せり	
芭蕉翁年譜 同編	一名 芭蕉年代記 翁一代の始終を記せり
高尾考 同編	妓女高尾十一代の傳を記し 遺墨遺墨を考へ 之を記せり
茶湯初心抄 同編	茶道を学ばざる人此書を以て 茶席ふりて 之を記せり
俳諧早引草 著作堂主人著	
四季の詞ハきり 之を俳諧の用也 其のハり 之を 註釋し 見よ 小見やを引 小速るを宗と 席上の重宝 あり 之を記せり	

Q12.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

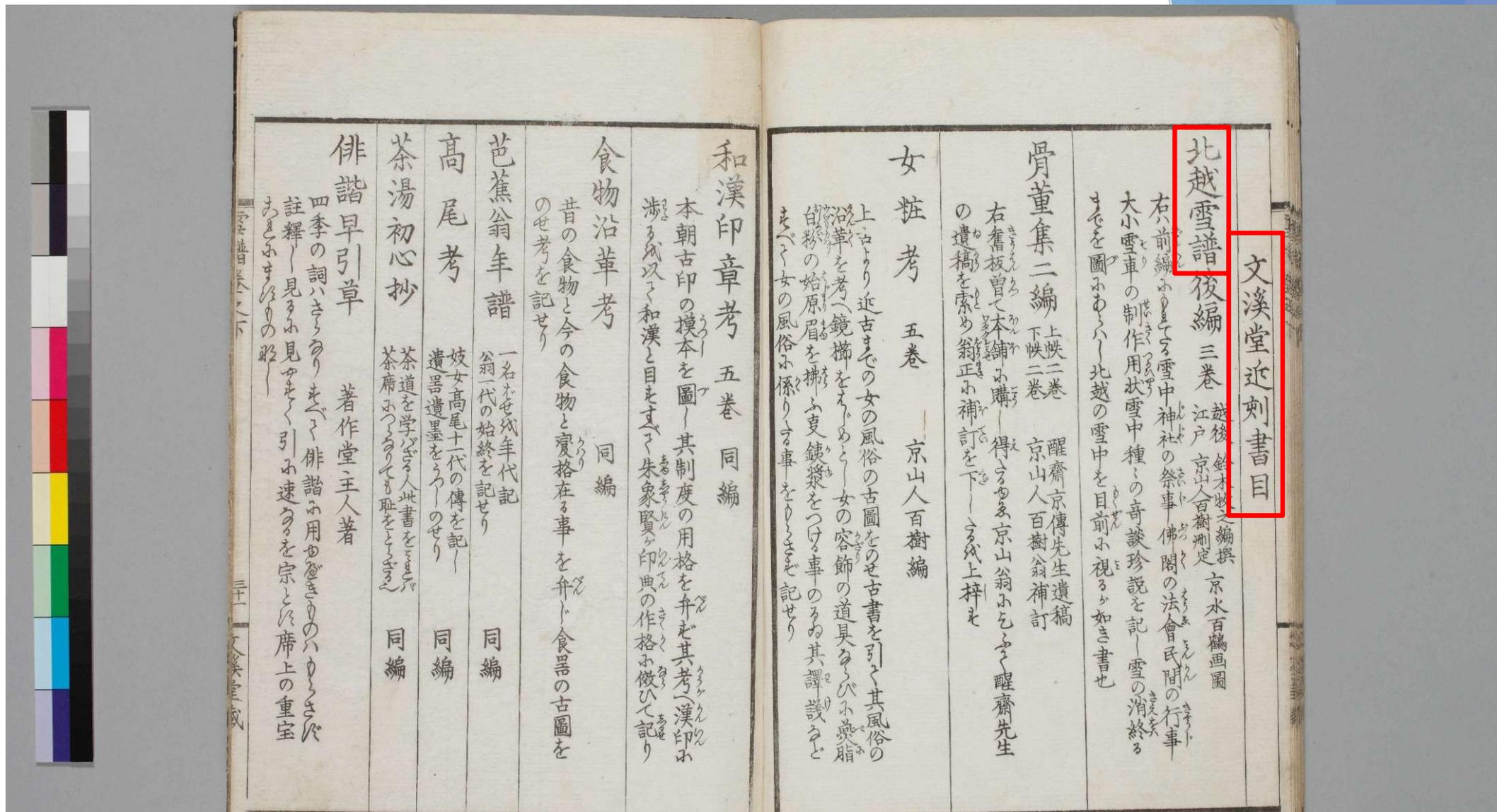
◆ 第三冊広告



A12. 注記 (出版、一般注記) に追記する。

- 注記：『〈版〉文溪堂蔵版 (見返し・柱刻・**広告**)。』
- 注記：『〈般〉初編巻之下の目録・**巻末**に広告あり。』

◆ 第三冊広告



解説12.

- 北越雪譜後編について記載されているので、「文溪堂版」の情報源として追記する。
- 目録とは出現位置が異なるため、巻末にも広告がある旨を追記する。
- 目録にあった広告とは内容が違うので、『〈般〉初編巻之下の目録に越後奇跡録の広告あり、同巻末に文溪堂近刻書目あり。』等と詳しく書いても良い。

和古書

*は該当に○

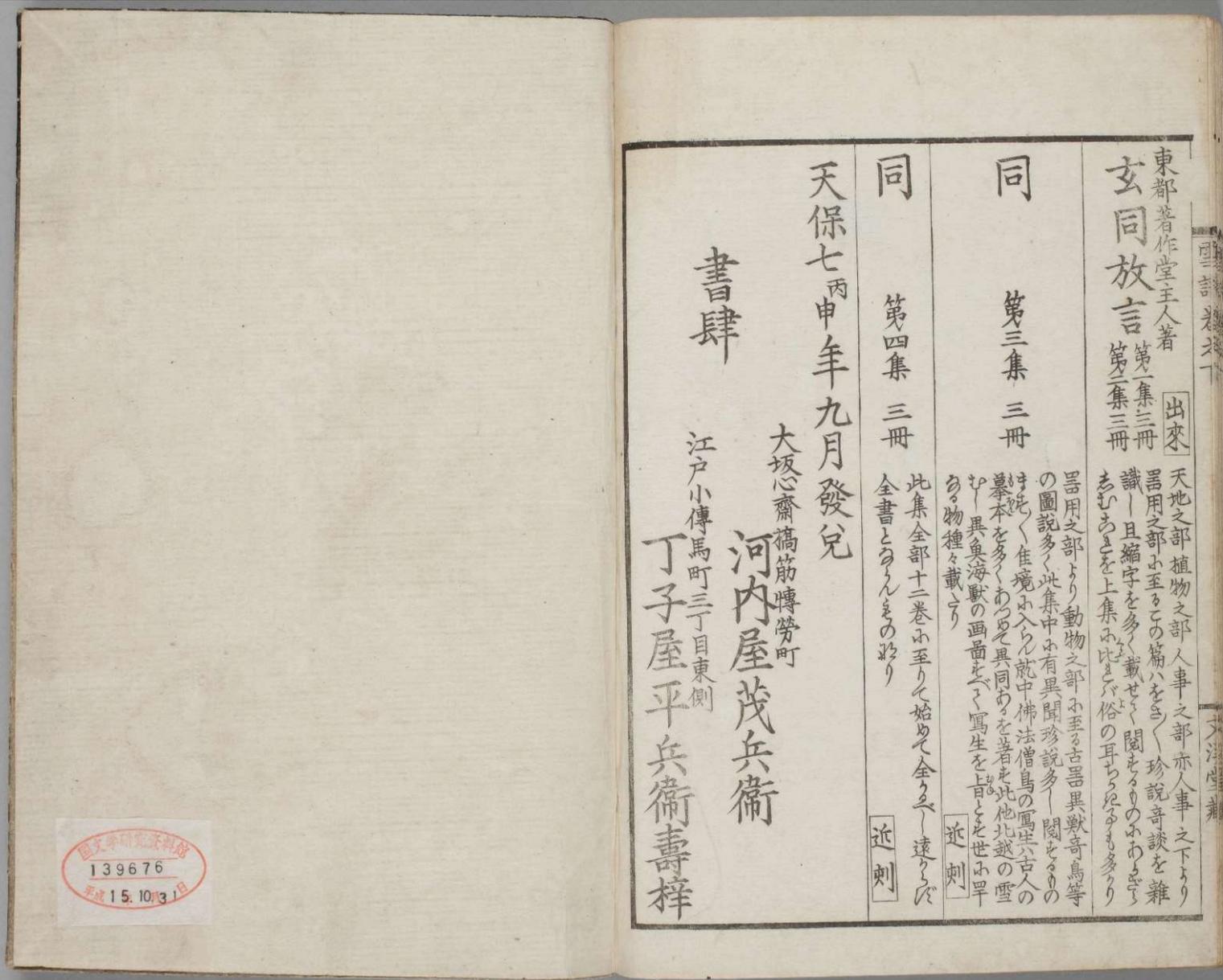
preno

ppreno

cpreno

cid	wid		* widなし									
統一書名表記												
" よみ												
統一著者名(よみ)												
記 載 書 名	1 表記 □	北越雪譜							種別	内・目・見・尾・外		
	よみ	ほくえつせつぷ								・序首		
	2 表記 □	雪譜							種別	柱		
	よみ	せつぷ										
	3 表記 □								種別			
	よみ											
4 表記 □								種別				
よみ												
5 表記 □								種別				
よみ												
6 表記 □								種別				
よみ												
記載著者	1 著者名	鈴木／牧之					役割	編撰	伝	部編等		
	2 著者名	京水／百鶴					役割	画	伝	部編等		
	3 著者名	京山人／百樹			他等		役割	刪定	伝	部編等		
* 書 写 ・ 出 版 事 項	1書肆(地名)or 書写者(地名) 複数は, で繰 り返し											
	刊年or書写年 部編等											
2書肆(地名)or 書写者(地名) 複数は, で繰 り返し												
	刊年or書写年 部編等											
* (刊) / 写 / 混	卷数					叢書巻号表示						
冊数	7 冊					残欠						
形態(丁数, 寸法, 紙型)												
和古書メディア表 原資料請求記号	-											
登録番号												
備考	* 書誌構造	単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写										
注 記	< >											

◆ 第三冊末尾



東都著作堂主人著
 玄同放言 第一集三冊
 第二集三冊
 第三集三冊

出来

天地之部植物之部人事之部亦人事之下より
 器用之部に至るこの篇ハをさく珍説奇談を雜
 識し且縮字を多く載せし閱するののあつた
 志むることを上集の比と俗の耳にたつたも多り

同 第三集 三冊

器用之部より動物之部に至る古器異獸奇鳥等
 の圖説多く此集中に有異聞珍説多し閱するの
 悦み佳境に入り就中佛法僧鳥の寫生ハ古人の
 摹本を多くあつた異同ありを著す此北越の雪
 び異魚海獸の画面を多く寫生を肯とせし早
 多の物種々載り

同 第四集 三冊

此集全部十二卷に至りて始めて全くと遠く
 全書とらんまの形り

天保七丙申年九月發兌

大坂心齋橋筋博勞町

河内屋茂兵衛

書肆

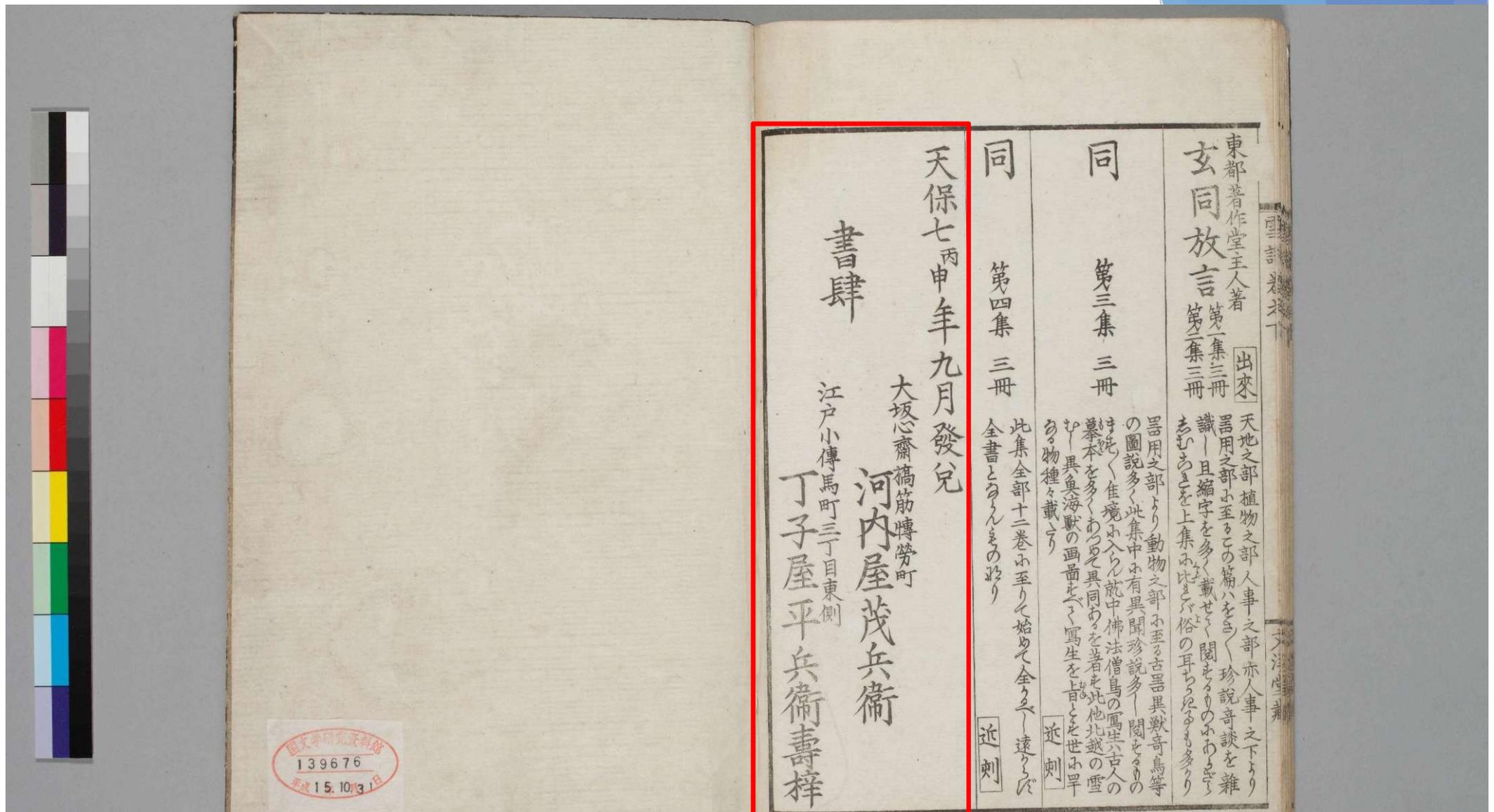
江戸小傳馬町三丁目東側

丁子屋平兵衛壽梓

国文学研究資料館
 139676
 平成 15. 10. 31

Q13.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

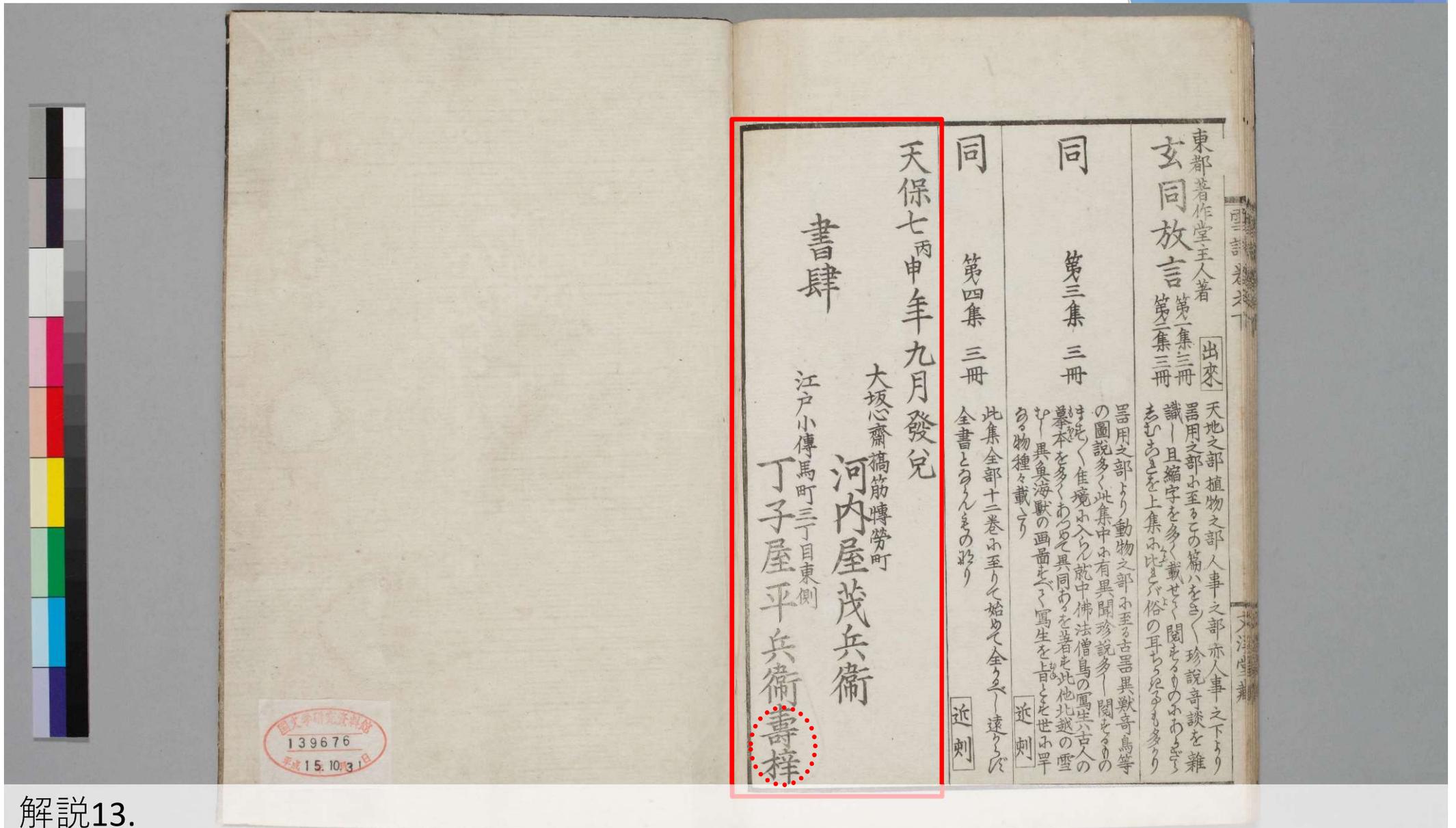
◆ 第三冊末尾



A13. 出版事項、注記（出版）に追記する。

- 出版事項：『河内屋／茂兵衛〈大坂〉，丁子屋／平兵衛〈江戸〉，天保7（初編）』（※以降出版事項は『書肆〈地名〉，刊年（部編）』の形で記載する）
- 注記：『〈版〉文溪堂版（見返し・柱刻・広告）。』→『〈版〉**丁子屋平兵衛**（文溪堂）蔵版（**刊記**・見返し・柱刻・広告）。』

◆ 第三冊末尾



解説13.

- 出版者は記載された順番通りに取る。蔵版者の旨記載がある場合は出版注記も取る。
- 出版地は都市名を記載し、町村名までは取らない。
- 出版年は元号と年のみ取り、干支や月日までは取らない。
- 複数の部編で出版情報が異なる場合は全て取り、対応する部編を記載する

和古書

*は該当に○

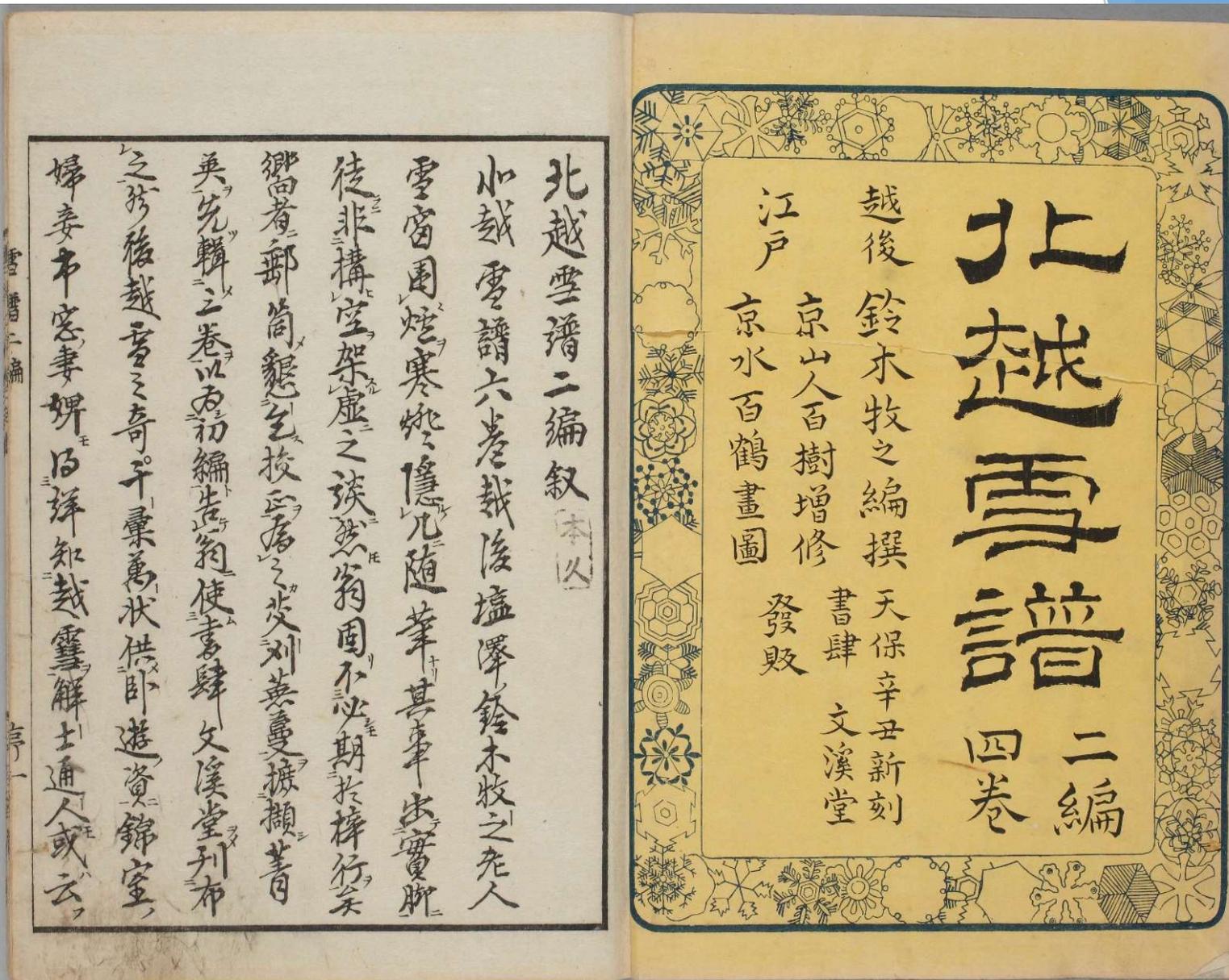
preno

ppreno

cpreno

cid	wid		* widなし									
統一書名表記												
" よみ												
統一著者名(よみ)												
記載書名	1 表記 □	北越雪譜								種別	内・目・見・尾・外	
	よみ	ほくえつせつぷ									・序首	
	2 表記 □	雪譜								種別	柱	
	よみ	せつぷ										
	3 表記 □									種別		
	よみ											
4 表記 □									種別			
よみ												
5 表記 □									種別			
よみ												
6 表記 □									種別			
よみ												
記載著者	1 著者名	鈴木／牧之						役割	編撰	伝	部編等	
	2 著者名	京水／百鶴						役割	画	伝	部編等	
	3 著者名	京山人／百樹				他等	役割	刪定	伝	部編等		
* 書写	1書肆(地名)or 書写者(地名) 複数は, で繰 り返し	河内屋／茂兵衛(大坂), 丁子屋／平兵衛(江戸)										
	刊年or書写年	天保7										
	部編等	初編										
出版事項	2書肆(地名)or 書写者(地名) 複数は, で繰 り返し											
	刊年or書写年											
	部編等											
* (刊) / 写 / 混		卷数		叢書巻号表示								
冊数		7 冊		残欠								
形態(丁数, 寸法, 紙型)												
和古書メディア表 原資料請求記号		—										
登録番号												
備考	* 書誌構造	単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写										
注記	< >											

◆ 第四冊見返し・序文冒頭



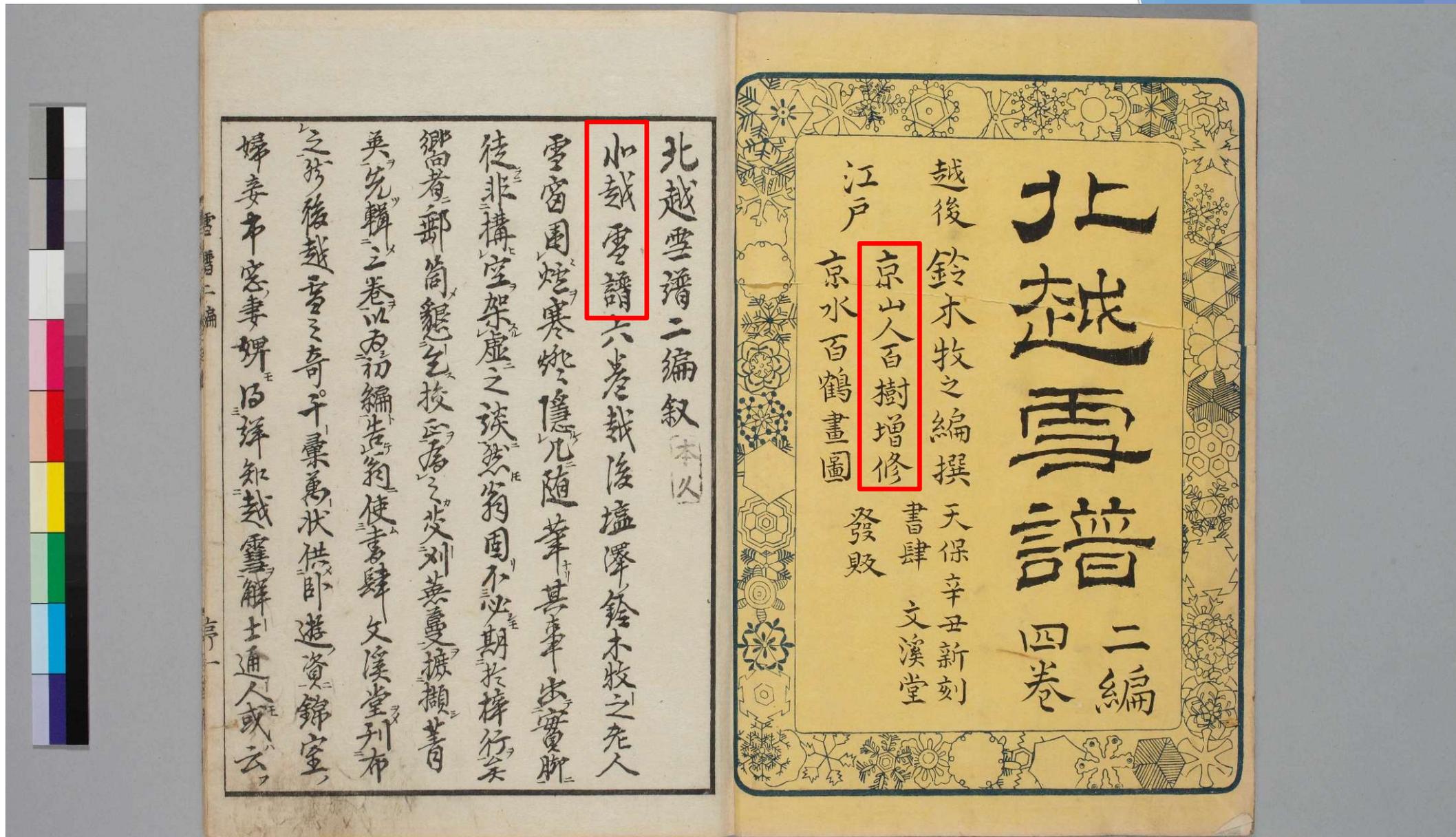
北越雪譜 二編 四卷

越後 鈴木牧之編撰 天保辛丑新刻
 京山人百樹増修 書肆 文溪堂
 江戸 京水百鶴畫圖 發販

北越雪譜二編叙 本以
 小越雪譜六巻裁後塩澤鈴木牧之老人
 雪窓園燈寒燠隱几隨筆其事出實脚
 徒非構空架虛之談然翁固不必期於梓行矣
 嚮者郵筒懇乞技匠之妙劉蕪曼據韻菁
 英先輯之巻以為初編告約使書肆文溪堂刊布
 之於後越者之奇予彙萬狀供即遊資錦室
 婦妾市客妻婢皆詳知越雪解士通人或云

Q14.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

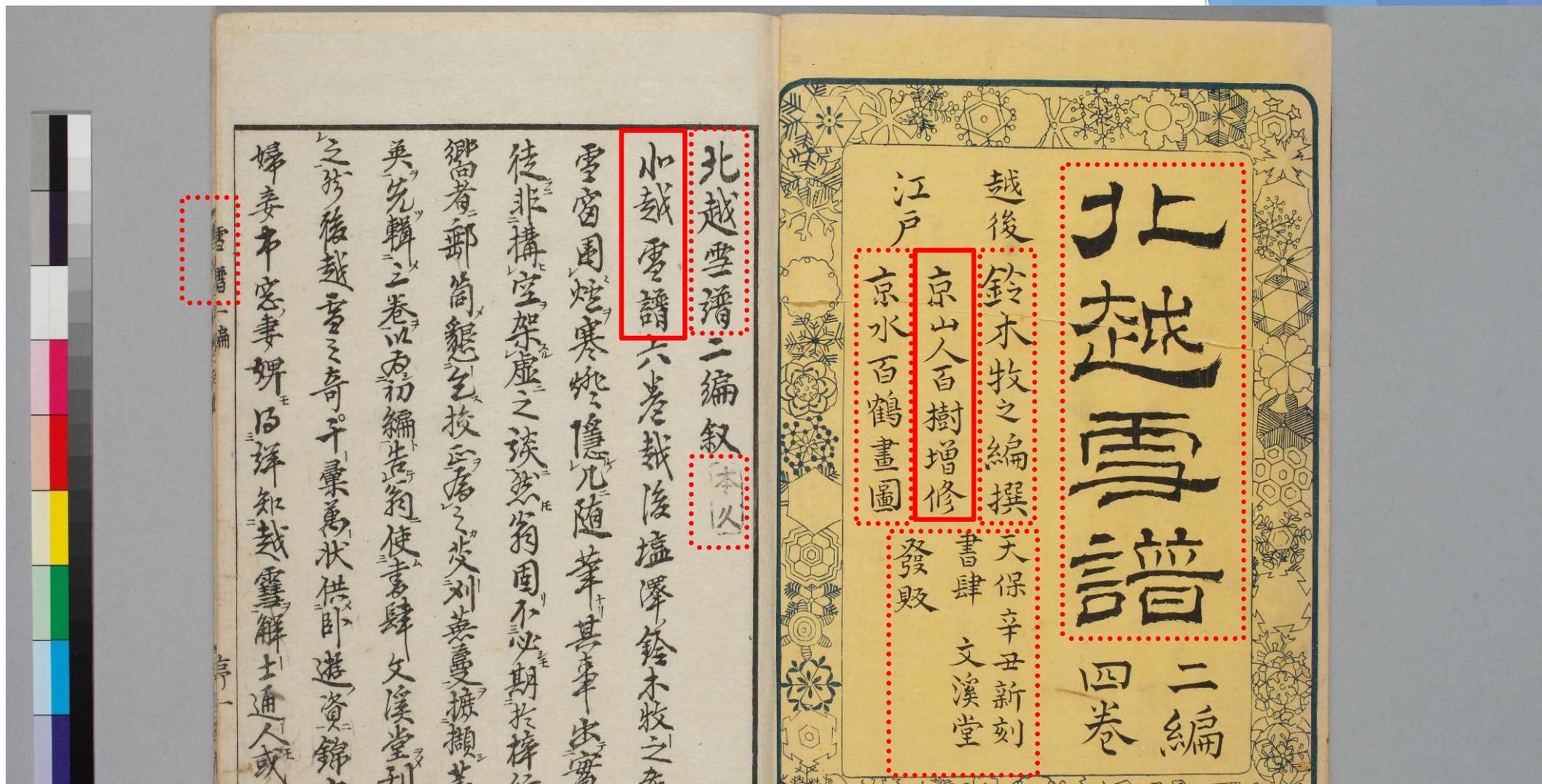
◆ 第四冊見返し・序文冒頭



A14. 記載書名（種別：序中（序中題））、記載著者名

- 記載書名：『北越雪譜（ほくえつせつぶ）, 内・目・見・尾・外・序首・**序中**』
- 記載著者名：『京山人／百樹 增修（二編）』（『京山人／百樹 刪定』→『京山人／百樹 刪定（**初編**）』）

◆ 第四冊見返し・序文冒頭



解説14.

- 序文の中に「北越雪譜」と書名が書かれているので記載書名の種別を追加する。
- それ以外の書名と蔵書印はいずれも既に採録されているものと同じ。
- 著者はいずれも採録済みの人物で、百樹の役割はより優先度の高い巻首から取っているので追記はしない。
- 出版情報は刊記優先で、文溪堂の蔵版である事は既に前編で注記している。

和古書

*は該当に○

preno

ppreno

cpreno

cid	wid		* widなし									
統一書名表記												
" よみ												
統一著者名(よみ)												
記載書名	1 表記 □	北越雪譜							種別	内・目・見・尾・外		
	よみ	ほくえつせつぷ								・序首・ 序中		
	2 表記 □	雪譜							種別	柱		
	よみ	せつぷ										
	3 表記 □								種別			
	よみ											
4 表記 □								種別				
	よみ											
5 表記 □								種別				
	よみ											
6 表記 □								種別				
	よみ											
記載著者	1 著者名	鈴木／牧之					役割	編撰	伝	部編等		
	2 著者名	京水／百鶴					役割	画	伝	部編等		
	3 著者名	京山人／百樹					役割	刪定	伝	部編等 初編		
	4 著者名	京山人／百樹					他等	役割	増修	伝	部編等 二編	
* 書写	1書肆<地名>or 書写者<地名> 複数は、で繰 り返し	河内屋／茂兵衛<大坂>, 丁子屋／平兵衛<江戸>										
	刊年or書写年	天保7										
	部編等	初編										
出版事項	2書肆<地名>or 書写者<地名> 複数は、で繰 り返し											
	刊年or書写年											
	部編等											
* (刊) / 写 / 混		卷数			叢書巻号表示							
冊数		7 冊			残欠							
形態(丁数, 寸法, 紙型)												
和古書メディア表 原資料請求記号												
登録番号												
備考	* 書誌構造		単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写									
注記	< >											

◆ 第四冊序文末尾・凡例

數南頻鼓傳手釋卷曰論說姑置足下藏京山
 年否士曰不識僧曰我十年前亦與彼會於一精
 舍僅得一面識不若無母緣言畢遽然拍余背
 曰京山老人醒眠吾兄忘我物余悵然不得應時
 船者行懷之岸舟中之人皆上岸不復絮叨吐歎
 于茲矣此夕綴言於逆旅燈下以爲序云

天保十一年庚子潔月

京山人石樹并書



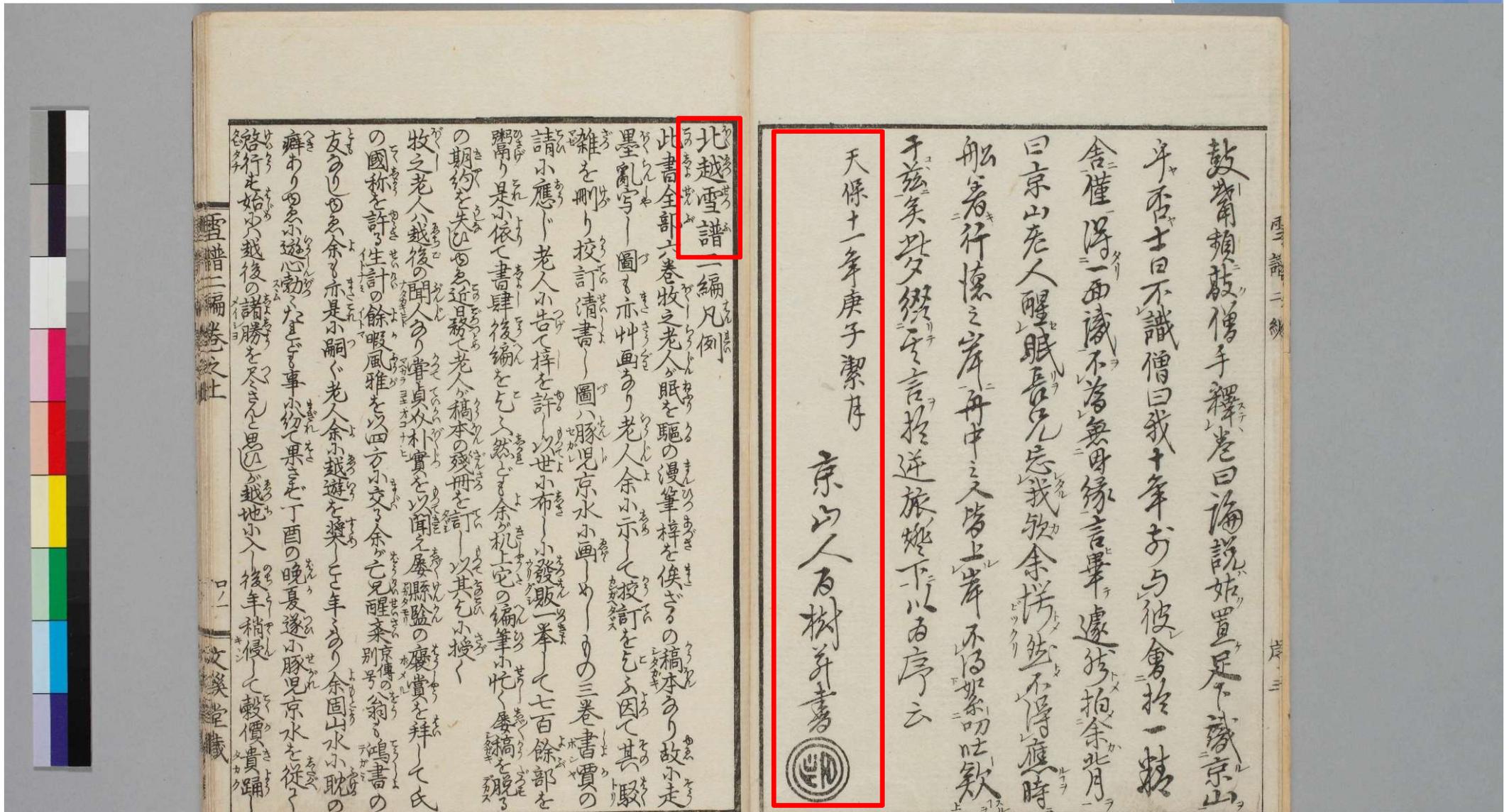
北越雪譜二編凡例
 此書全部六卷收之老人眠を驅の漫筆梓を俟ぎの稿本あり故小走
 墨亂寫一圖も亦拙画あり老人余小示と校訂を乞ふ因て其駁
 雜を刪り校訂清書一圖ハ豚見京水小画一々の三卷書賈の
 請小應り老人小告て梓を許し以世小布一發取一舉して七百餘部を
 鬻り是小依て書肆後編を乞ふ然と余机上它の偏筆小忙々廢稿を脱す
 の期約を失ひゆ近且務て老人稿本の殘冊を訂し以て其を小授く
 收之老人小越後の聞人あり嘗貞父朴實を以聞之屢縣監の廢賞を拜して氏
 の國稱を許し生計の餘暇風雅を以四方小交り余之兄醒來別号公翁鳴書の
 友ありゆ余亦是小嗣り老人余小越遊を樂しと年々あり余固山水小耽の
 癖ありゆ余小遊心動なき事小初て果てて丁酉の晩夏遂小豚見京水を從り
 啓行を始り越後の諸勝を足さんと思ひ越地小入後年稍侵りて較價貴踊

雪譜二編卷之七

文英堂藏

Q15.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

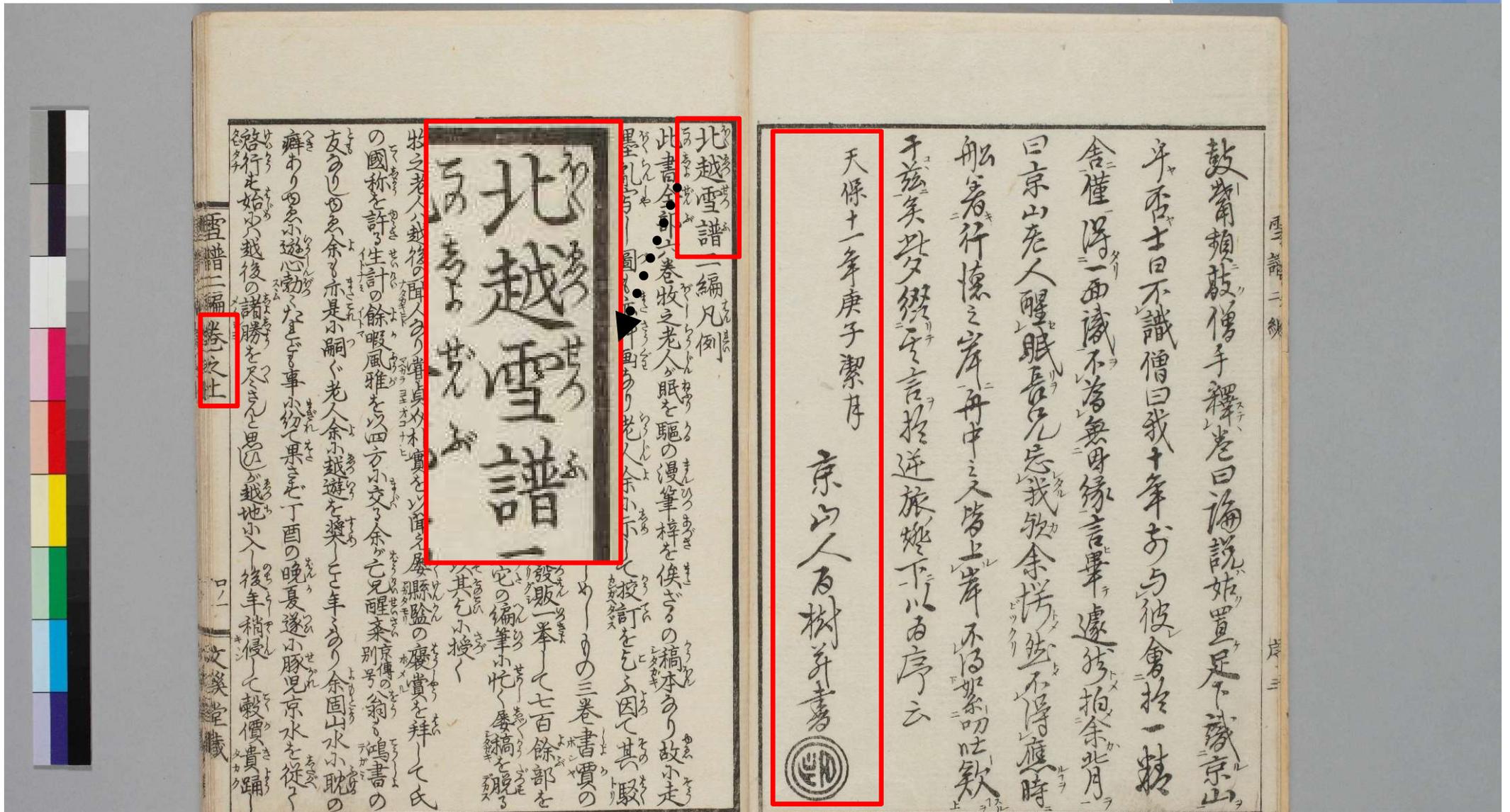
◆ 第四冊序文末尾・凡例



A15. 記載書名（種別：凡（凡例冒頭にある題））、注記（序跋、一般）

- 記載書名：『北越雪譜（ほくえつせつふ）, 凡』
- 注記：『〈序〉初編卷之上に天保六年京山人百樹の叙あり，**二編卷之上に天保十一年京山人百樹の叙あり。**』『〈般〉初編卷之下の目録・巻末に広告あり，**記載書名3のよみは振り仮名による。**』

◆ 第四冊序文末尾・凡例



解説14.

- 初編と同様に序跋の年は序跋注記で取る。巻次は題簽より本文に近い柱を情報源とする。
- 初めて出てきた凡例の冒頭に書名がある。ふりがなを見ると「ほくせつせつふ」とあるので、この読みで記載書名を取り、通行の読みではないので注記を付す。

和古書

*は該当に○

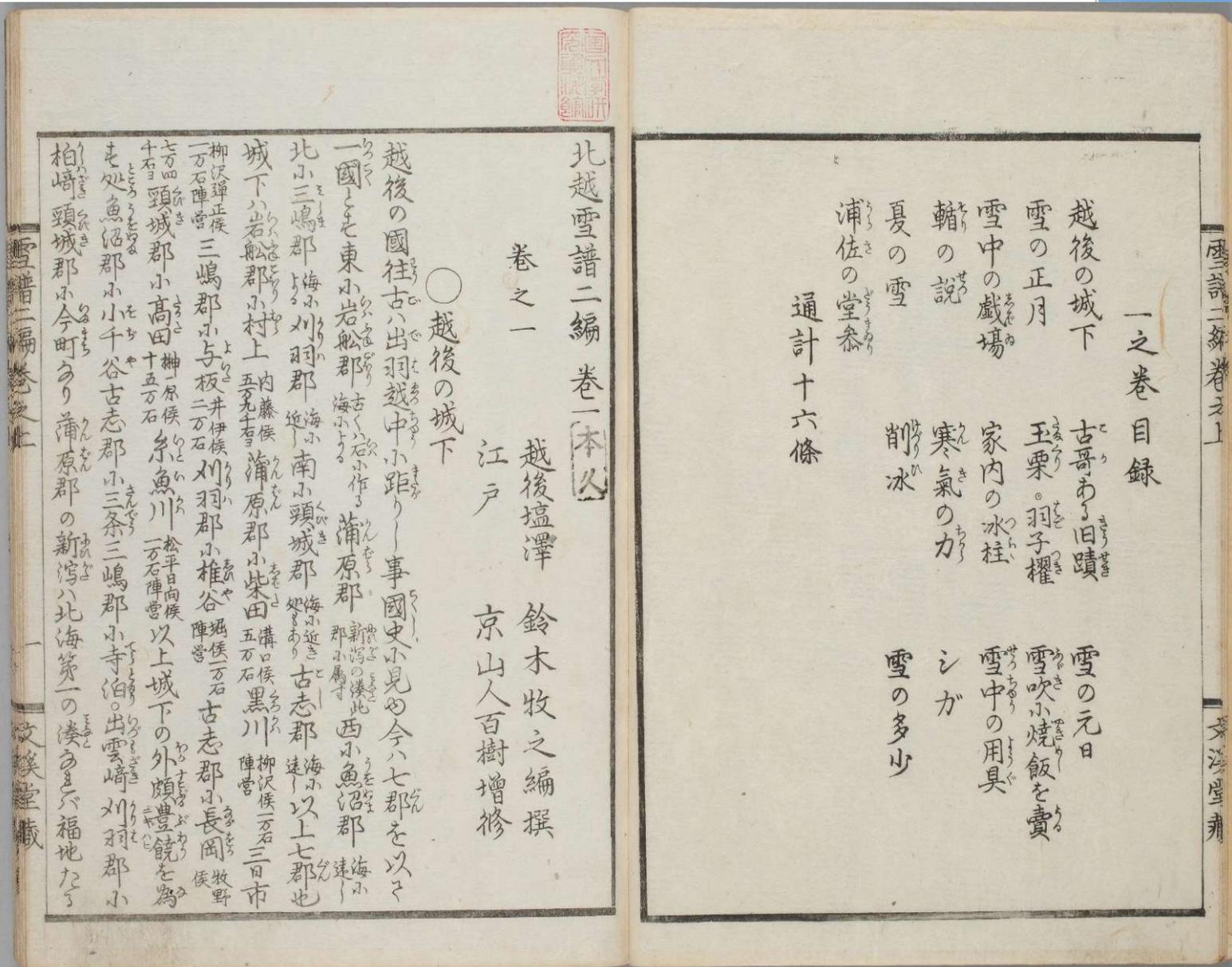
preno

ppreno

cpreno

cid	wid		* widなし									
統一書名表記												
" よみ												
統一著者名(よみ)												
記 載 書 名	1 表記 □	北越雪譜								種別	内・目・見・尾・外	
	よみ	ほくえつせつぷ									・序首・序中	
	2 表記 □	雪譜								種別	柱	
	よみ	せつぷ										
	3 表記 □	北越雪譜								種別	凡	
	よみ	ほくえつせつぷ										
	4 表記 □									種別		
	よみ											
	5 表記 □									種別		
	よみ											
	6 表記 □									種別		
	よみ											
記 載 著 者	1 著者名	鈴木／牧之						役割	編撰	伝	部編等	
	2 著者名	京水／百鶴						役割	画	伝	部編等	
	3 著者名	京山人／百樹						役割	刪定	伝	部編等	初編
	4 著者名	京山人／百樹						他等	役割	増修	伝	部編等
* 書 写 ・ 出 版 事 項	1書肆〈地名〉or 書写者〈地名〉 複数は、で繰 り返し	河内屋／茂兵衛〈大坂〉, 丁子屋／平兵衛〈江戸〉										
	刊年or書写年	天保7										
	部編等	初編										
	2書肆〈地名〉or 書写者〈地名〉 複数は、で繰 り返し											
	刊年or書写年											
	部編等											
*(刊) / 写 / 混		卷数				叢書巻号表示						
冊数		7 冊				残欠						
形態(丁数, 寸法, 紙型)												
和古書メディア表 原資料請求記号												
登録番号												
備 考	* 書誌構造 単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写											
注 記	〈 〉											

◆ 第四冊本文冒頭



雪譜二編 卷一

一之巻 目録

越後の城下	古哥あゝ旧蹟	雪の元日
雪の正月	玉栗・羽子擧	雪吹小焼飯を賣
雪中の戯場	家内の氷柱	雪中の用具
輜の説	寒氣の力	シガ
夏の雪	削氷	雪の多少
浦佐の堂叅		
通計十六條		

北越雪譜二編 卷一

卷之一 越後塩澤 鈴木牧之編撰
江戸 京山人百樹増修

○越後の城下

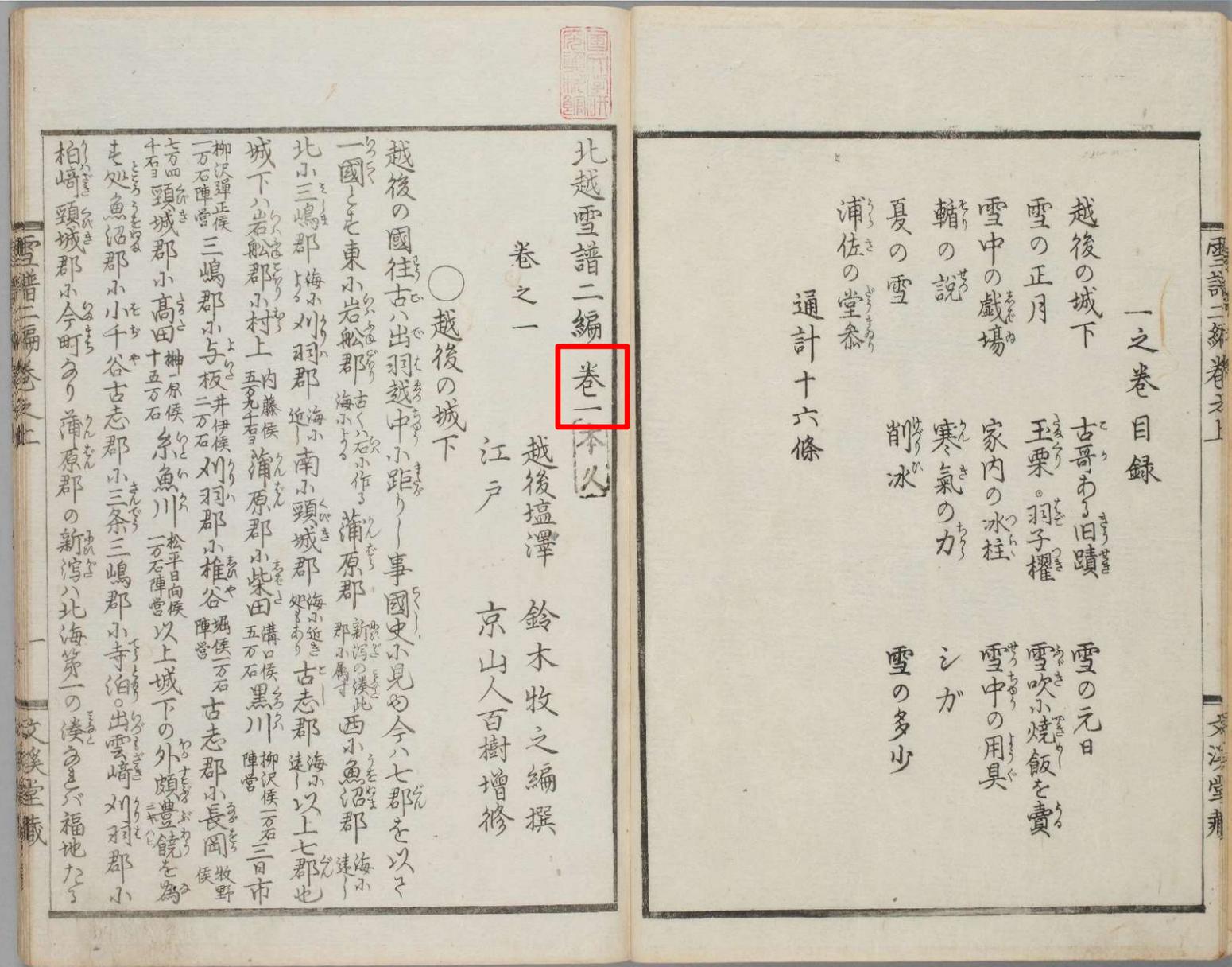
越後の國往古、出羽越中、小距り、事國史小見ゆ、今ハ七郡を以て一國とて東小岩船郡、海小作、蒲原郡、新海の邊此、西小魚沼郡、海小北小三嶋郡、海小羽羽郡、海小南小頭城郡、海小近き、古志郡、海小以上七郡也、城下小岩船郡、小村上、内藤侯、蒲原郡、小柴田、溝口侯、黒川、柳沢侯、三百市、柳沢彈正侯、三嶋郡、小与板、井伊侯、羽羽郡、小推谷、堀侯、古志郡、小長岡、牧野、一万石陣營、頭城郡、小高田、榑、原侯、系魚川、松平日向侯、以上城下の外、頭豐鏡を爲、七方四、魚沼郡、小千谷、古志郡、小三條、三嶋郡、小寺泊、出雲崎、刈羽郡、小、柏崎、頭城郡、小今町、り、蒲原郡、の新濱、ハ北海第一の淺き、ハ福地たる

雪譜二編 卷一

文煥堂藏

Q16. ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

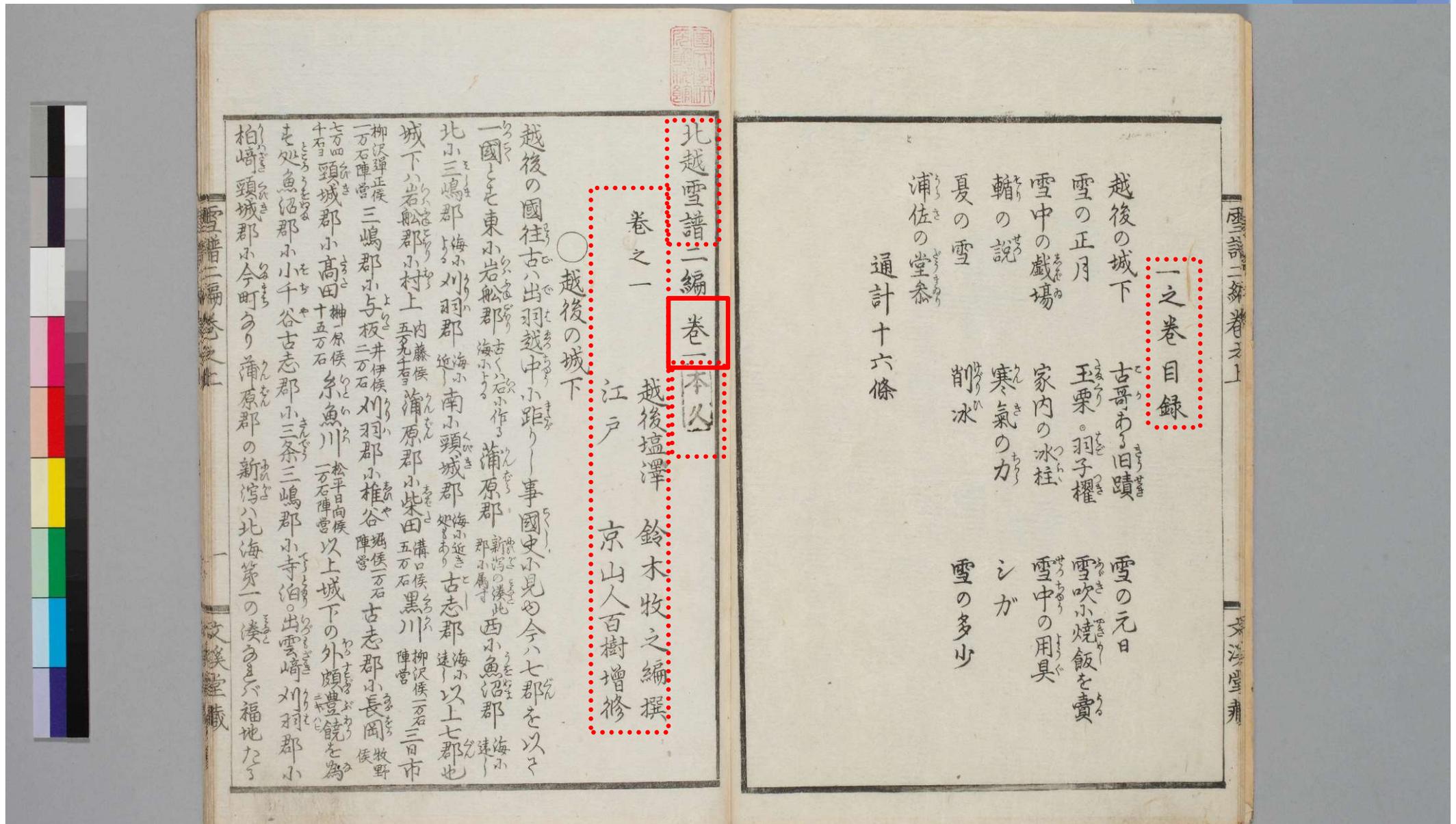
◆ 第四冊本文冒頭



A16. 注記 (序跋)

- 注記：『〈序〉初編卷之上に天保六年京山人百樹の叙あり・二編卷一に天保十一年京山人百樹の序あり。』

◆ 第四冊本文冒頭



解説16.

- 目録には巻次のみ記載されているので取れる書名はない。
- その他の書名・著者名等はいずれも初編で取ったものと同じで新規に取るものはない。
- 序跋注記の巻次を柱から取ったが、優先度の高い内題にあわせて訂正するとよい。

和古書

*は該当に○

preno

ppreno

cpreno

cid	wid		* widなし									
統一書名表記												
" よみ												
統一著者名(よみ)												
記 載 書 名	1 表記 □	北越雪譜							種別	内・目・見・尾・外		
	よみ	ほくえつせつぷ								・序首・序中		
	2 表記 □	雪譜							種別	柱		
	よみ	せつぷ										
	3 表記 □	北越雪譜							種別	凡		
	よみ	ほくえつせつぷ										
4 表記 □								種別				
よみ												
5 表記 □								種別				
よみ												
6 表記 □								種別				
よみ												
記 載 著 者	1 著者名	鈴木／牧之					役割	編撰	伝	部編等		
	2 著者名	京水／百鶴					役割	画	伝	部編等		
	3 著者名	京山人／百樹					役割	刪定	伝	部編等		初編
	4 著者名	京山人／百樹					他等	役割	増修	伝	部編等	
* 書 写 ・ 出 版 事 項	1書肆<地名>or 書写者<地名> 複数は、で繰 り返し	河内屋／茂兵衛<大坂>, 丁子屋／平兵衛<江戸>										
	刊年or書写年	天保7										
	部編等	初編										
2書肆<地名>or 書写者<地名> 複数は、で繰 り返し												
刊年or書写年												
部編等												
* (刊) / 写 / 混						卷数						叢書巻号表示
冊数	7 冊					残欠						
形態(丁数, 寸法, 紙型)												
和古書メディア表 原資料請求記号	—											
登録番号												
備考	* 書誌構造	単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写										
注記	< >											

◆ 第四冊末尾

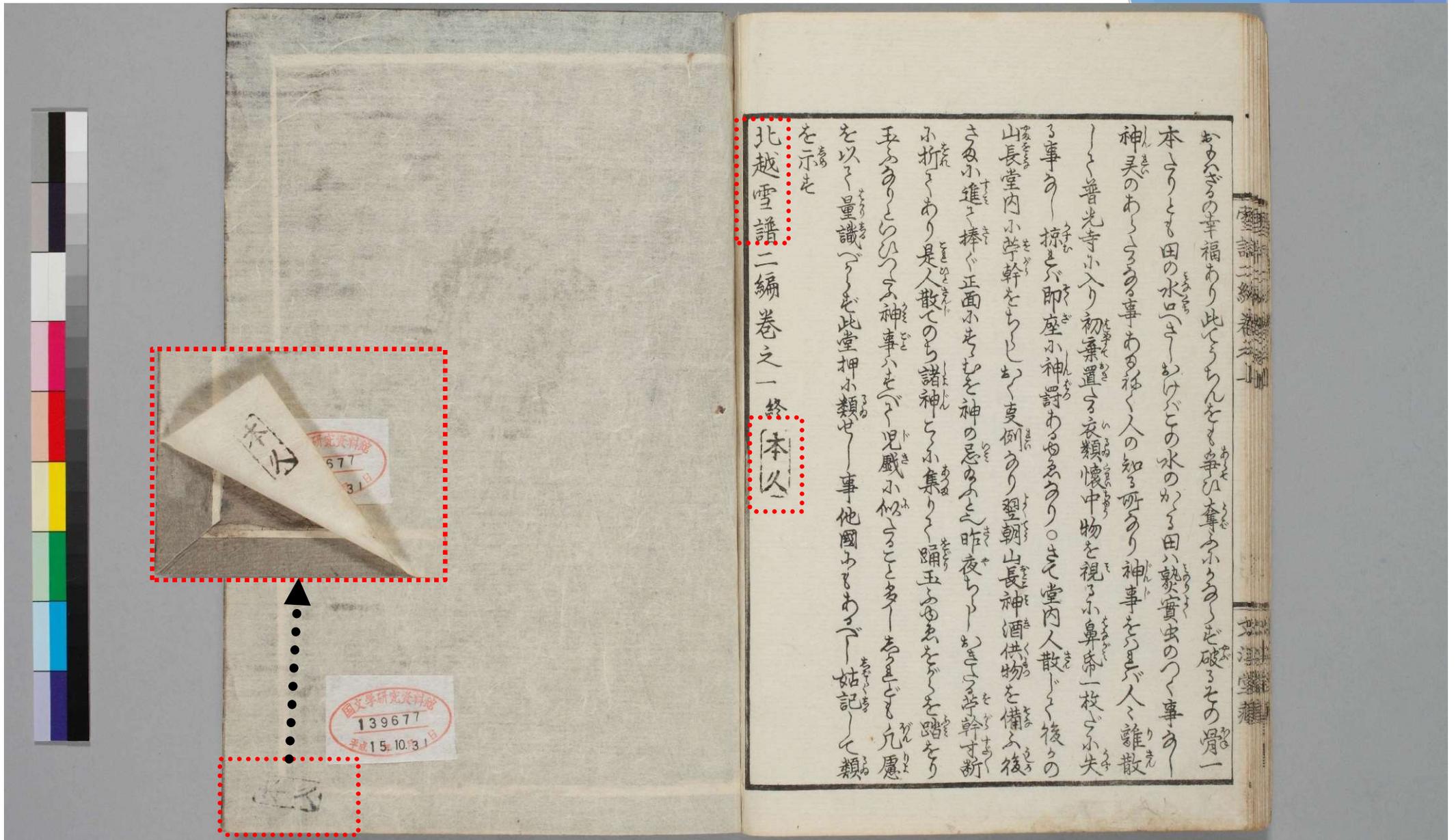
かめざるの幸福あり此てちんをも争ひ奪ふふらるるを破るその骨一本よりとも田の水みづのみけこの水のかさ田うらの熟實虫のつく事あり神かみのあつらふ事あり人の知る所あり神事をらるる人々離散し普光寺小入り初はつ棄置あきらす衣類懐中物を視る鼻はな糸一枚を失する事あり掠さらむ即座すなはち神罰かみあり。さて堂内人散まれ後々の山長堂内小せう幹かんをらりてく変例あり翌朝山長神酒供物を備ふ後のちさぬ小進すゐ捧たぐ正面小せうをむを神の忌いめんと昨夜さりてくを幹かんす折をりあり是人散まれ諸神しよとく小集あつりて踊ま五ふあをを踏ふをり玉たまありとひつふ神事かみをらるる見戯けん小似おること多しあるとも凡おん願を以て量識りやうをらるる此堂押小類この事他國たもあつて姑記こて類るを示しす

北越雪譜二編卷之一終〔本以〕



Q17.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

◆ 第四冊末尾

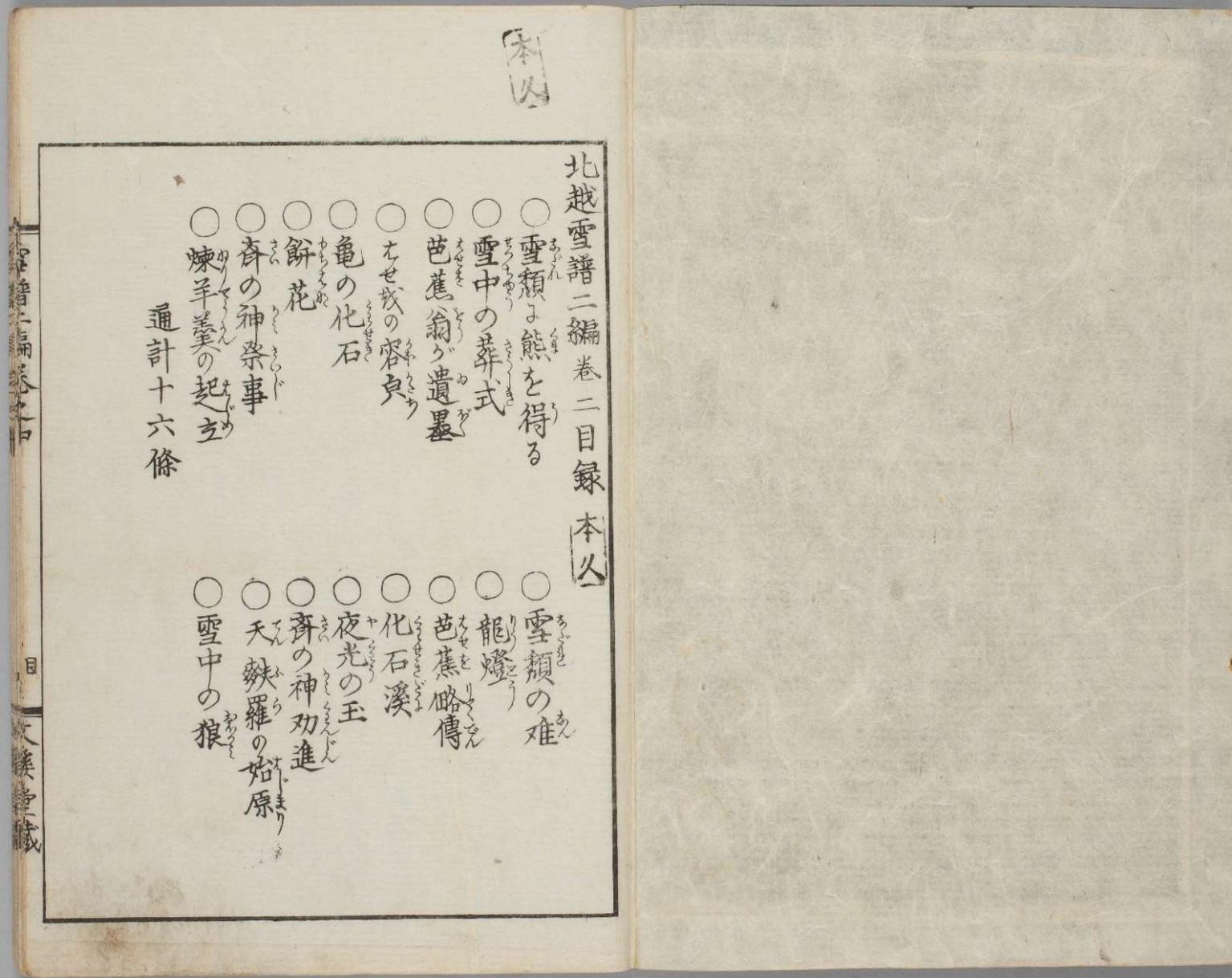


A17. ない

解説17.

- 尾題・蔵書印とも既に取り替えている。

◆ 第五冊目録

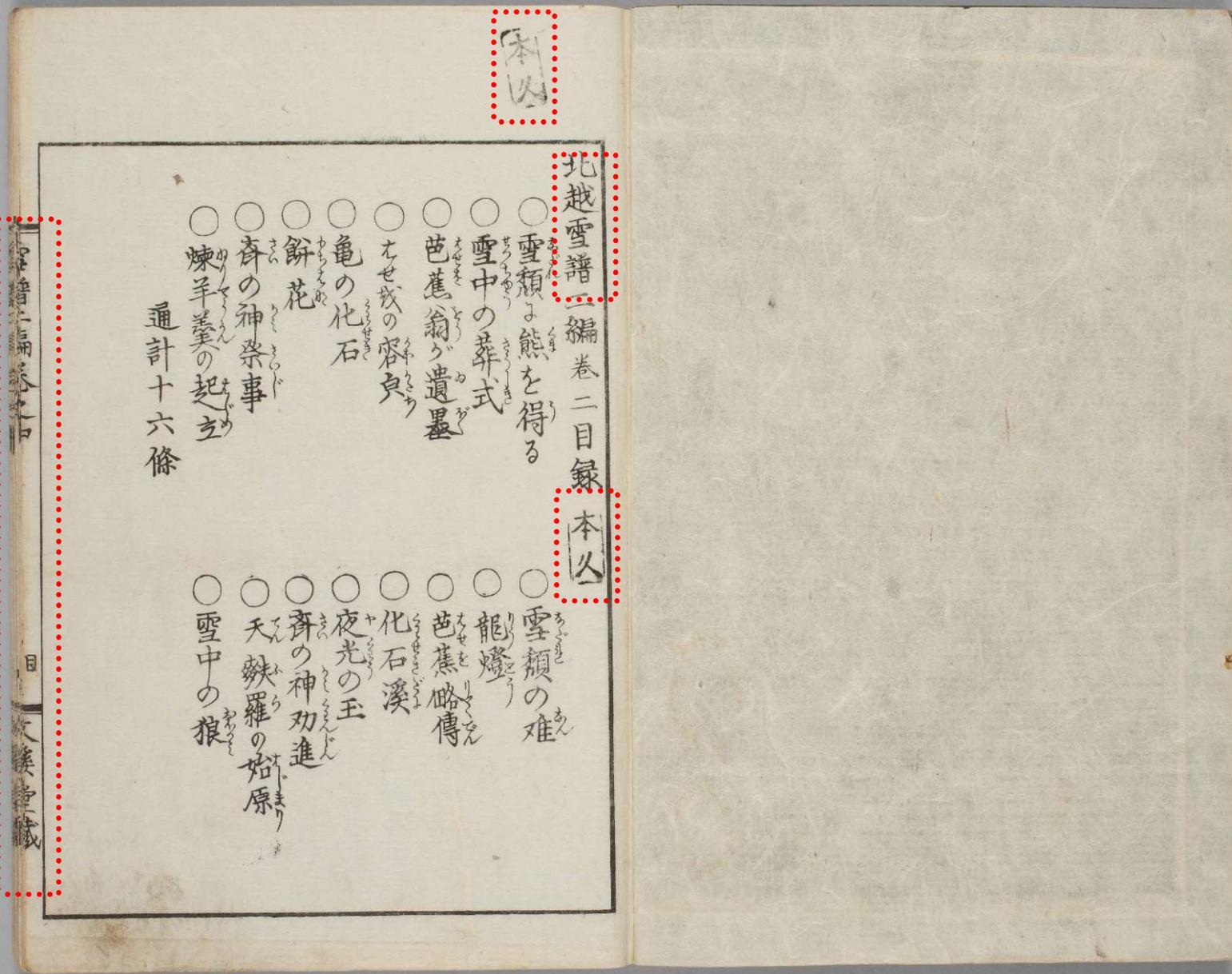


北越雪譜二編卷二目録本久

- 雪類ふゆいれよ熊くまを得る
 - 雪中せうちゆうの葬式さうしき
 - 芭蕉翁ばせうが遺墨いぼく
 - 七ななせ枝せの容よう負お
 - 亀かめの化石かし
 - 餅花もちばな
 - 奇きの神祭事かみまつり
 - 煉羊羹れんやうかんの起立おきだち
- 通計十六條
- 雪類ふゆいれの難なん
 - 龍燈りゆうとう
 - 芭蕉ばせう略傳りやくでん
 - 化石かし溪せき
 - 夜光やこうの玉たま
 - 奇きの神功進かみこうしん
 - 天てん鉄羅てつらの始原しげん
 - 雪中せうちゆうの狼おおかみ

Q18.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

◆ 第五冊目録



A18. ない

解説18.

- 記載書名・蔵書印・柱の情報はいずれも既に取りっている。

◆ 第五冊本文冒頭

雪譜二編卷之四
百樹翁補訂

本舖近刻

○骨董集三編二卷四編二卷

右醒齋京傳先生遺稿京山人百樹翁補訂

○和漢印章考三卷 百樹翁著

○女粧考前後六卷 全

○古今の風俗不係りたる事ハ包羅輯載して餘りある一且國字
の肩を以て婦人乙夜の覽小供す了蓋茲本編雪譜の餘
帛爰有と以姑近刻二家の著目と奉伏請
雲願の諸賢刊は先るの竈評是祈

江戸 書賈 文溪堂 謹白



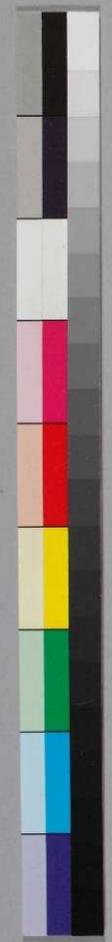
北越雪譜二編 卷二 初八

北越 鈴木收之 編選
江戸 京大百樹 増修

○雪類は熊を得

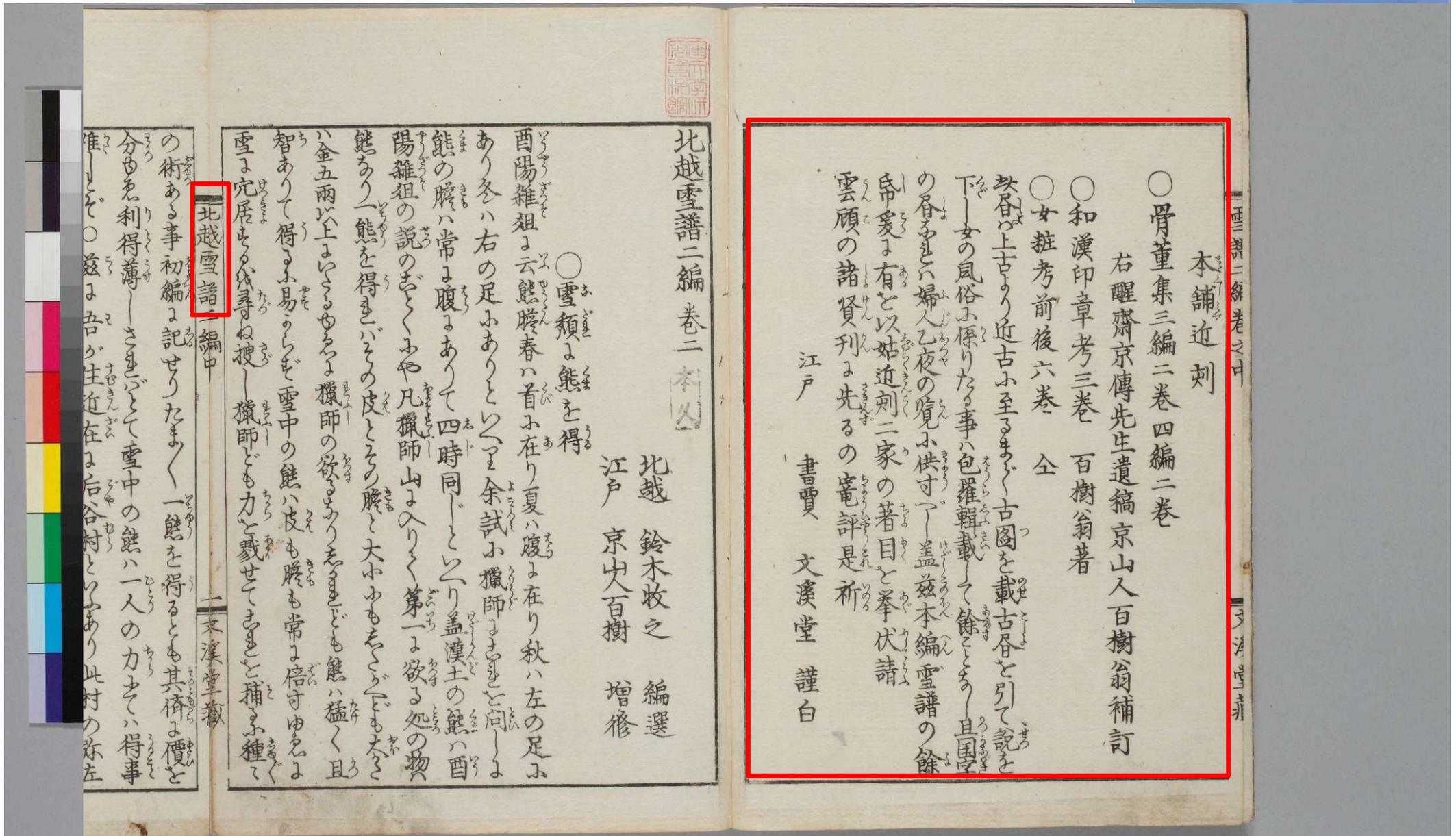
酉陽雜俎云熊膽春の首み有り夏ハ腹ハ在り秋ハ左の足ハ
あり冬ハ右の足ハありといふ余試ハ獵師ハ志事ト向ハ
熊の膽ハ常ハ腹ハありて四時同トトリ蓋漢土の熊ハ酉
陽雜俎の説の如クハ凡獵師山ハ入りテ第一ハ欲ル処の物
熊あり一熊を得まハその皮トその膽ト大小ハもたてども大々
ハ金五兩以上よハもちハ獵師の欲ルハもたてども熊ハ猛ク且
智ありて得ルハ易クハも雪中の熊ハ皮も膽も常ハ倍寸由名ハ
雪ハ穴居ルハ代尋ね披ハ獵師とも力ト裁せてまをも捕ふ種ハ

北越雪譜二編 二 文溪堂藏



Q19.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

◆ 第五冊本文冒頭



本舖近刻

○骨董集三編二卷 四編二卷

右醒齋京傳先生遺稿京山人百樹翁補訂

○和漢印章考三卷 百樹翁著

○女粧考前後六卷 全

○古今の風俗不係りたる事ハ包羅輯載して餘りある一且國史の肩を以て婦人乙夜の覽小供す了蓋茲本編雪譜の餘帛爰有と以姑近刻二家の著目と奉伏請
雲願の諸賢刊は先るの電評是祈

江戸 書賈 文溪堂 謹白

北越雪譜二編 卷二 初刻

北越 鈴木收之 編選
江戸 京大百樹 増修

○雪類は熊を得

酉陽雜俎云熊膽春の首みなり夏ハ腹ハ在り秋ハ左の足ハあり冬ハ右の足ハありといふ余試ハ獵師ハ志事ト向ハ熊の膽ハ常ハ腹ハありテ四時同トトリ蓋漢土の熊ハ酉陽雜俎の説の如クハ凡獵師山ハ入りテ第一ハ欲ル処の物熊あり一熊を得まハその皮トその膽ト大ハ小ハ志事トハ金五兩以上ヨリモハ獵師の欲ルモノトモ熊ハ猛ク且智ありテ得ルハ易クハ雪中の熊ハ皮も膽も常ハ倍寸由名ハ雪ハ穴居モハ代尋ハ獲ハ獵師トモ力ト戮せてモ捕ル種

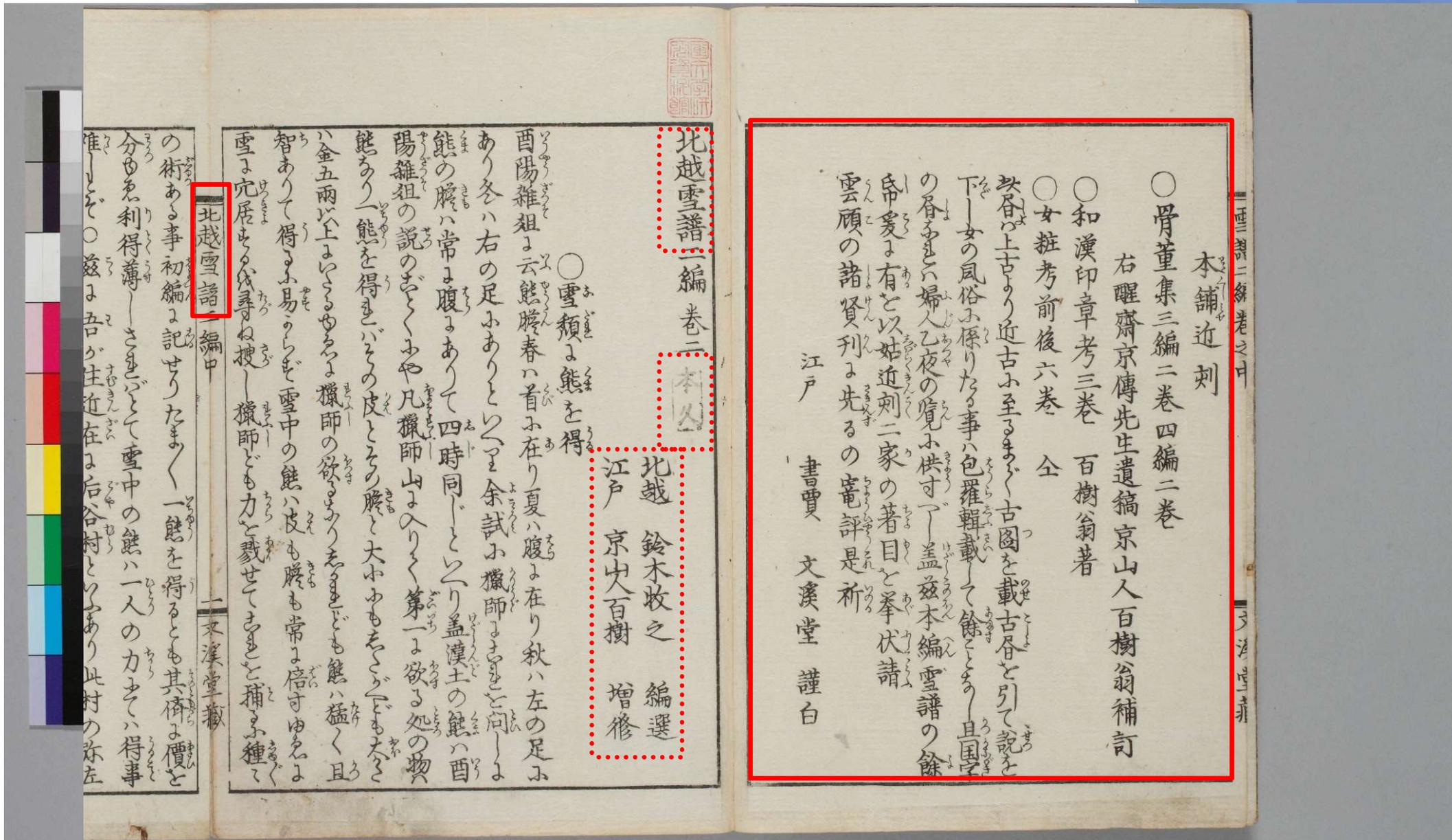
北越雪譜二編中

一文溪堂藏

の術ある事初編ハ記セリたまハ一熊を得るとも其價ハ價と分ハ利得薄ハ一雪ハ雪中の熊ハ一人の力ハ得事

- A19.記載書名（種別：柱（柱題・柱刻題）），注記（一般注記）に追記する。
- 記載書名：『北越雪譜（ほくえつせっぷ）,内・目・見・尾・外・序首・序中・柱』
 - 注記：『〈般〉初編卷之下の目録・卷末に広告あり，二編卷二の目録に広告あり，記載書名3のよみは振り仮名による。』

◆ 第五冊本文冒頭



解説19.

- 版心に「北越雪譜」と記載されたのは初めてなので、記載書名の種別を追加する。
- 内題・記載著者名等は既に取ったものと同じなので、新たに出てきた広告の場所を注記に追加する。

和古書

*は該当に○

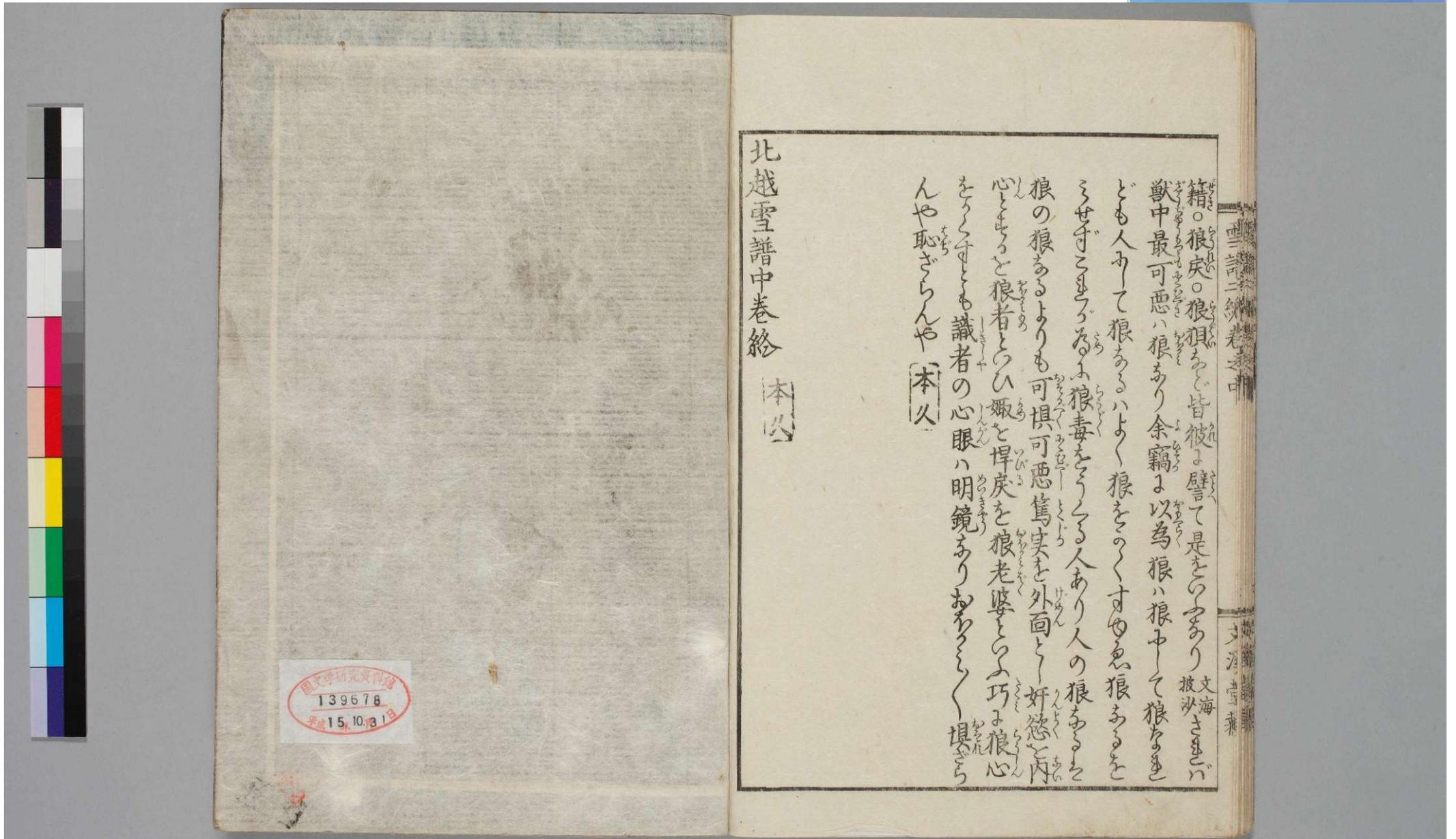
preno

ppreno

cpreno

cid	wid		* widなし									
統一書名表記												
" よみ												
統一著者名(よみ)												
記載書名	1 表記 □	北越雪譜							種別	内・目・見・尾・外		
	よみ	ほくえつせつぷ								・序首・序中・柱		
	2 表記 □	雪譜							種別	柱		
	よみ	せつぷ										
	3 表記 □	北越雪譜							種別	凡		
	よみ	ほくえつせつぷ										
4 表記 □								種別				
よみ												
5 表記 □								種別				
よみ												
6 表記 □								種別				
よみ												
記載著者	1 著者名	鈴木／牧之					役割	編撰	伝	部編等		
	2 著者名	京水／百鶴					役割	画	伝	部編等		
	3 著者名	京山人／百樹					役割	刪定	伝	部編等		初編
	4 著者名	京山人／百樹					他等	役割	増修	伝	部編等	
* 書写・出版事項	1書肆<地名>or 書写者<地名> 複数は、で繰 り返し	河内屋／茂兵衛<大坂>, 丁子屋／平兵衛<江戸>										
	刊年or書写年	天保7										
	部編等	初編										
	2書肆<地名>or 書写者<地名> 複数は、で繰 り返し											
刊年or書写年												
部編等	二編											
* (刊) / 写 / 混						卷数						叢書巻号表示
冊数	7 冊					残欠						
形態(丁数, 寸法, 紙型)												
和古書メディア表 原資料請求記号	—											
登録番号												
備考	* 書誌構造 単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写											
注記	< >											

◆ 第五冊卷末



北越雪譜中巻終

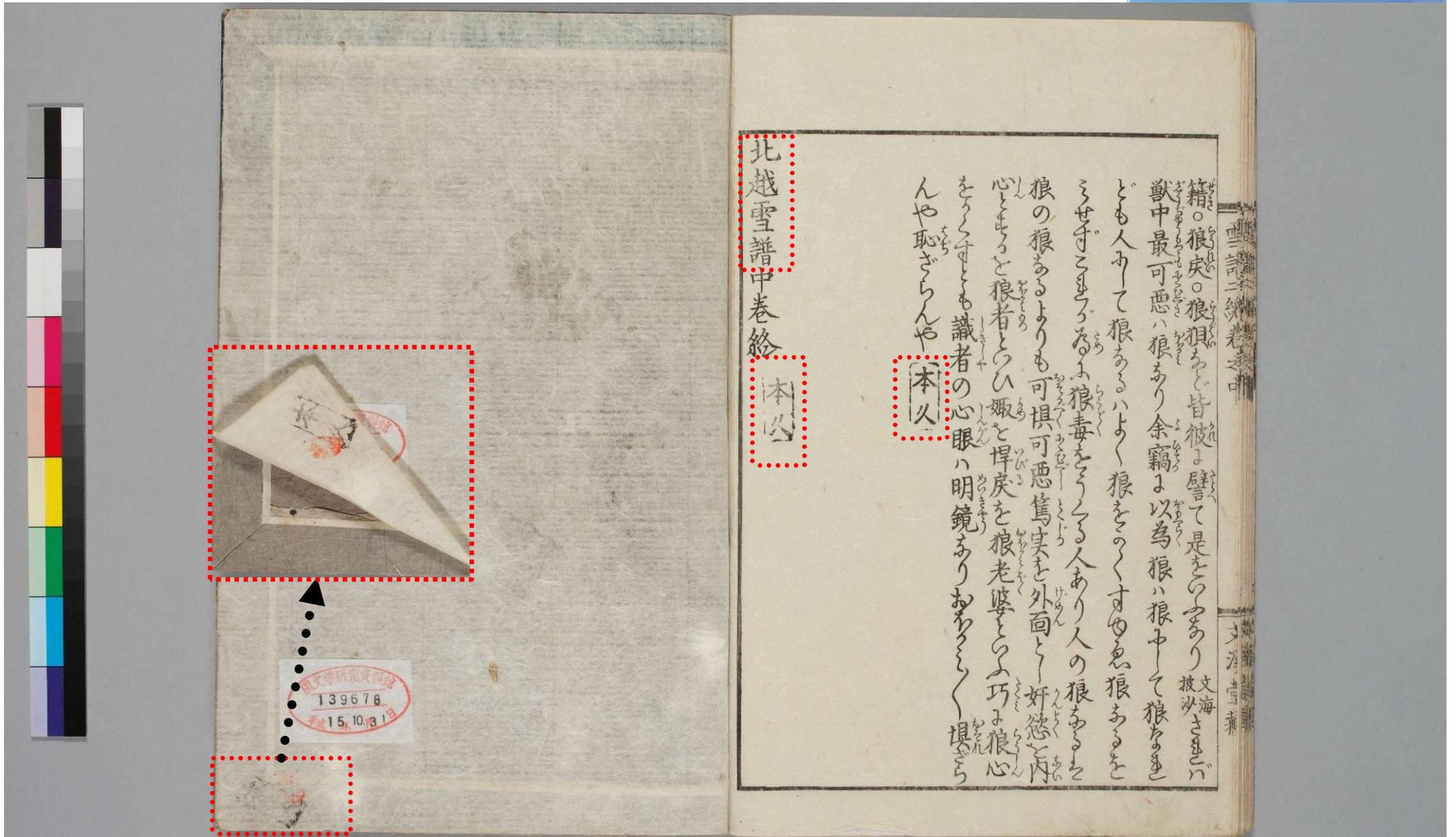
本以

籍。狼戾。狼狽。皆彼。譬。是。の。ま。り。披。沙。さ。ま。の。い
獸。中。最。可。惡。ハ。狼。多。リ。余。竊。以。為。狼。ハ。狼。中。て。狼。多。し
とも人ありて狼あるハよく狼をのくすゆ急狼あるを
そせすこもつるハ狼毒をそくする人あり人の狼あるを
狼の狼あるよりも可損可惡篤実を外面と奸慾を内
心とせんと狼者とのひぬと悍戾を狼老婆と云ふ巧み狼心
をくすすも識者の心眼ハ明鏡ありおろろく損を
んや恥ざらんや **本以**

国文学研究資料館
139678
平成 15. 10. 31 日

Q20.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

◆ 第五冊卷末

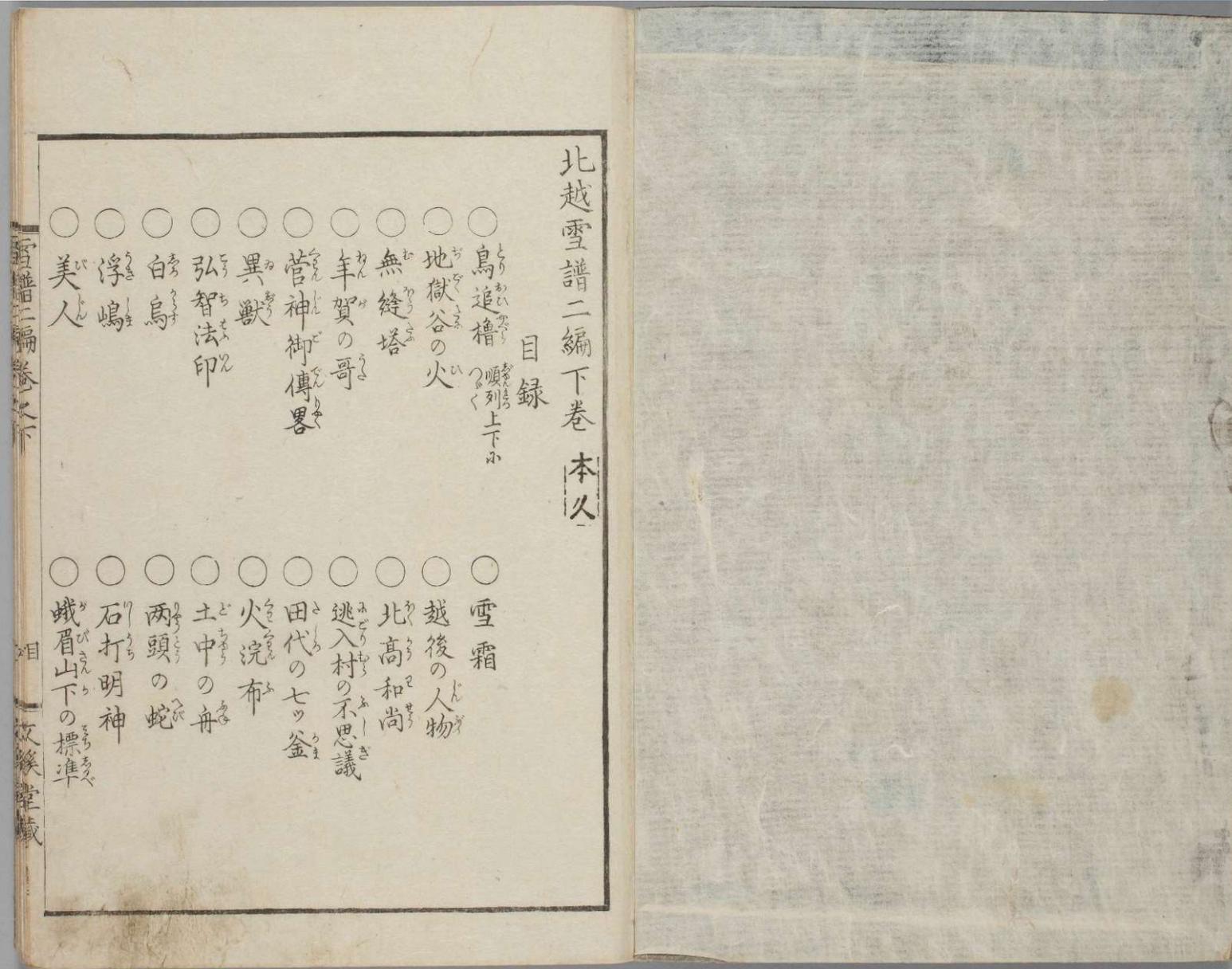


A20. ない

解説20.

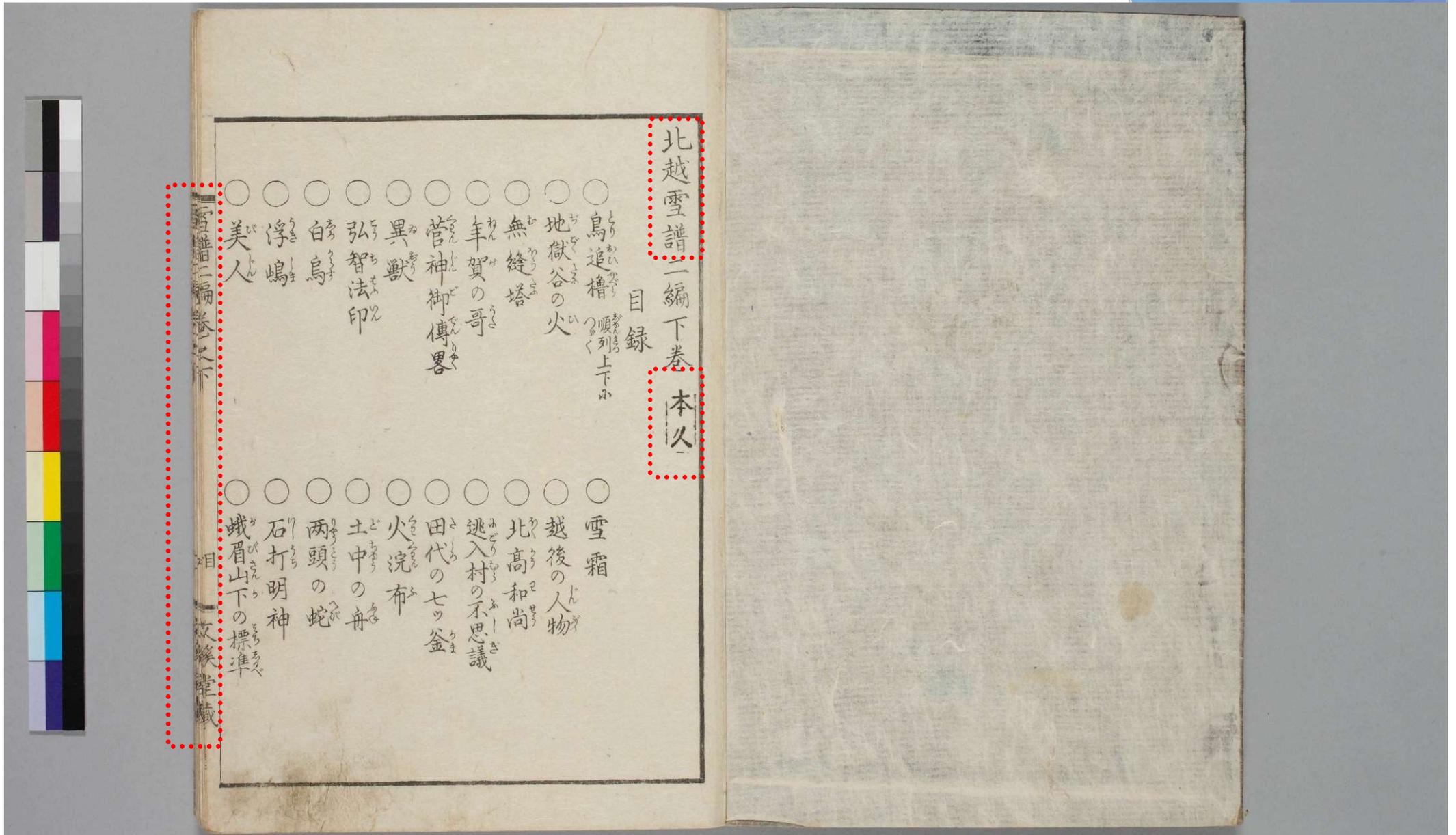
- 尾題・蔵書印とも既に取り替えている。

◆ 第六冊見返し・目録



Q21.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

◆ 第六冊見返し・目録

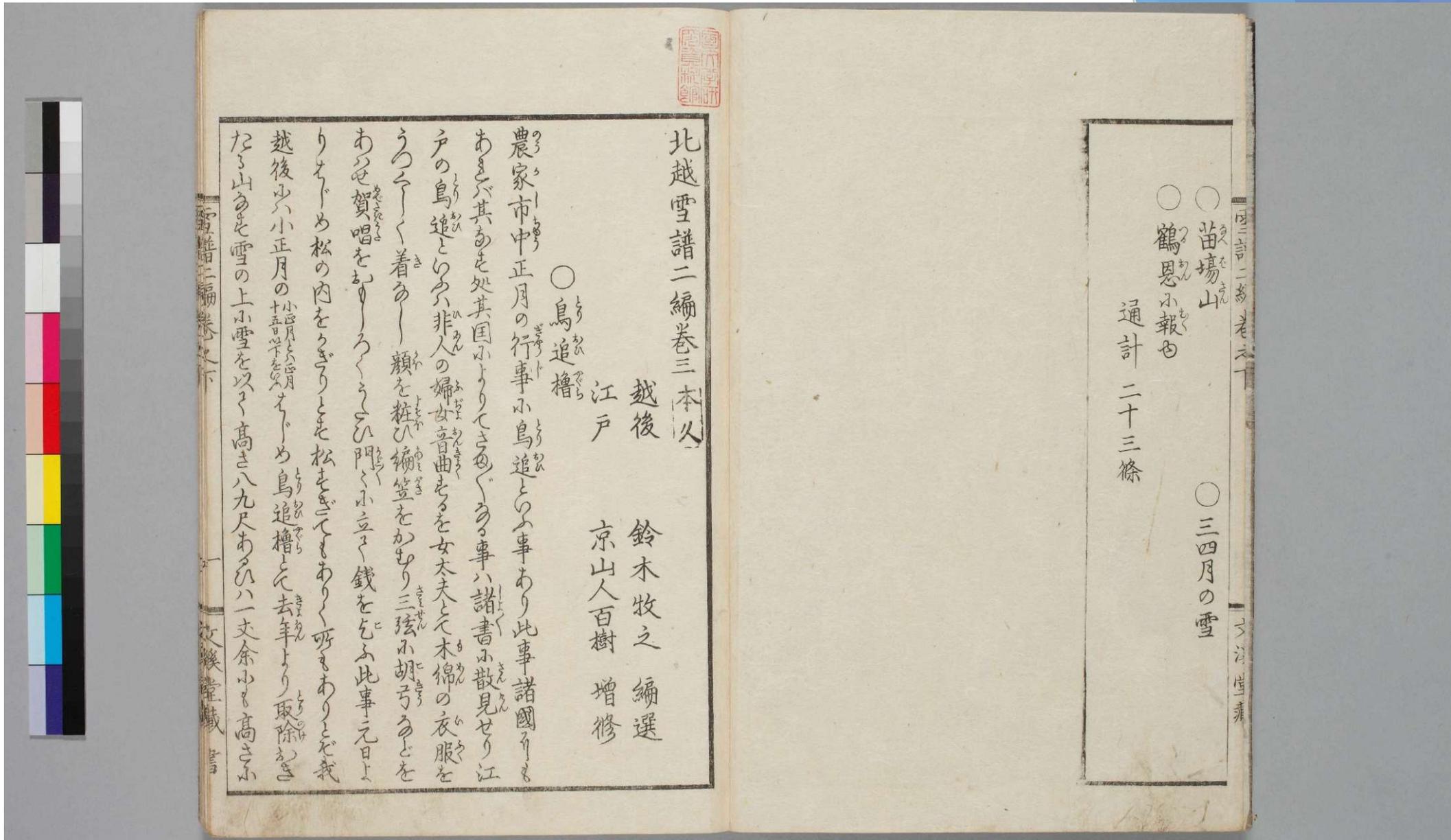


A21. ない

解説21.

- 目録題・蔵書印・柱の情報はいずれも既に取りっている。

◆ 第六冊本文冒頭



北越雪譜二編卷三 本文

○鳥追槽

農家中正月の行事小鳥追との事あり此事諸國よりも
 あまが其あを其其國小よりてきあぐる事ハ諸書ハ散見せり江
 戸の鳥追といふ非人の婦女音曲をを女大夫とて木綿の衣服を
 うつろく着あし顔を粧ひ編笠をかぶり三弦小胡弓などを
 あつて賀唱をまじりうらうらひ門く小立子錢を乞ふ此事元日よ
 りそとめ松の内をうきりとを松を乞てもありく所もありとを我
 越後小正月の小正月とは正月
十五日をいふそとめ鳥追槽とて去年より取除あき
 たる山を雪の上小雪を以て高さ八九尺あるハ一文余小も高さ小

越後 鈴木牧之 編選
 江戸 京山人百樹 増修

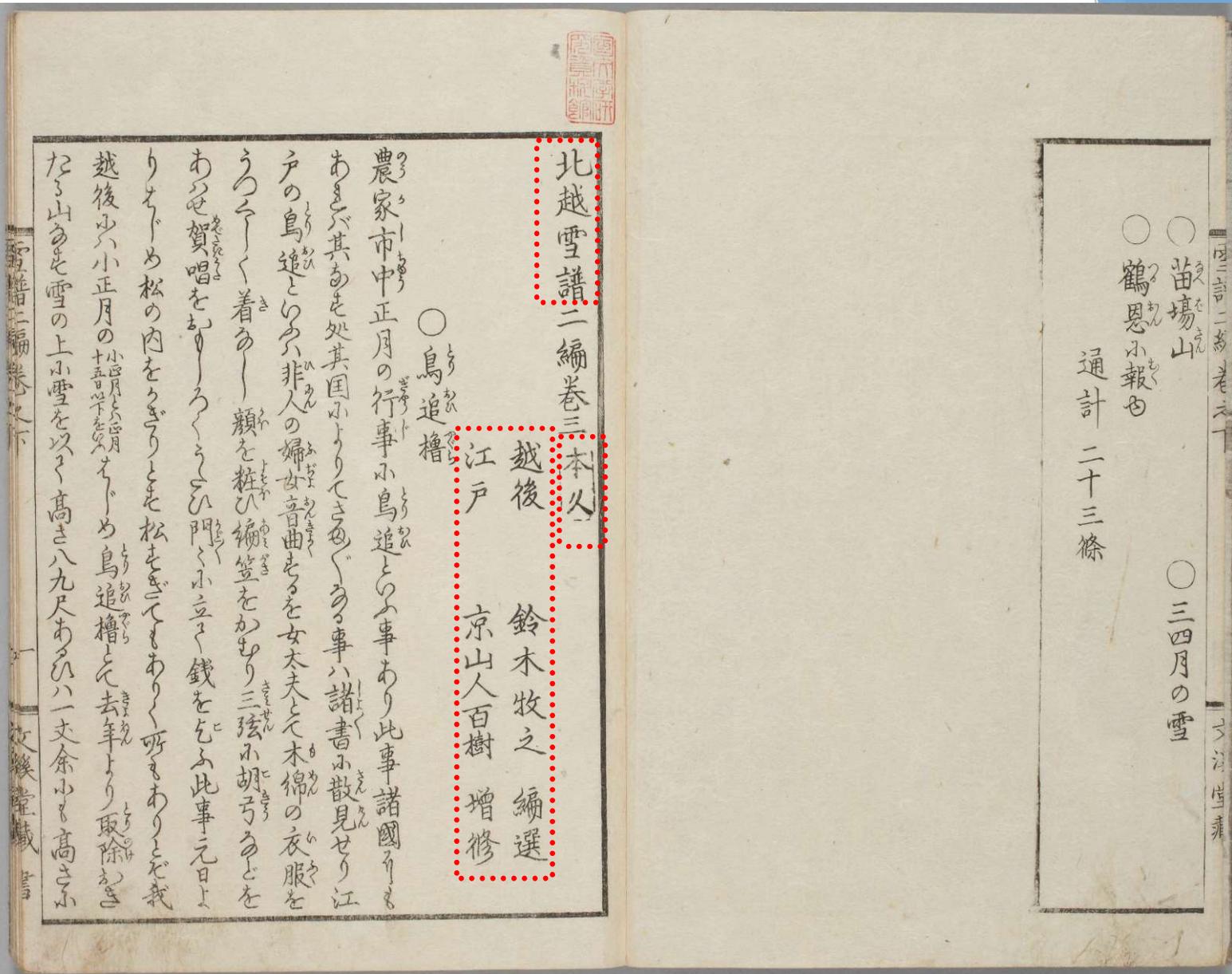
- 苗場山
- 鶴恩小報也

通計 二十三條

○ 三四月の雪

Q22.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

◆ 第六冊本文冒頭



A22. ない

解説22.

- 内題・記載著者名等はいずれも既に取りっている。

◆ 第六冊卷末

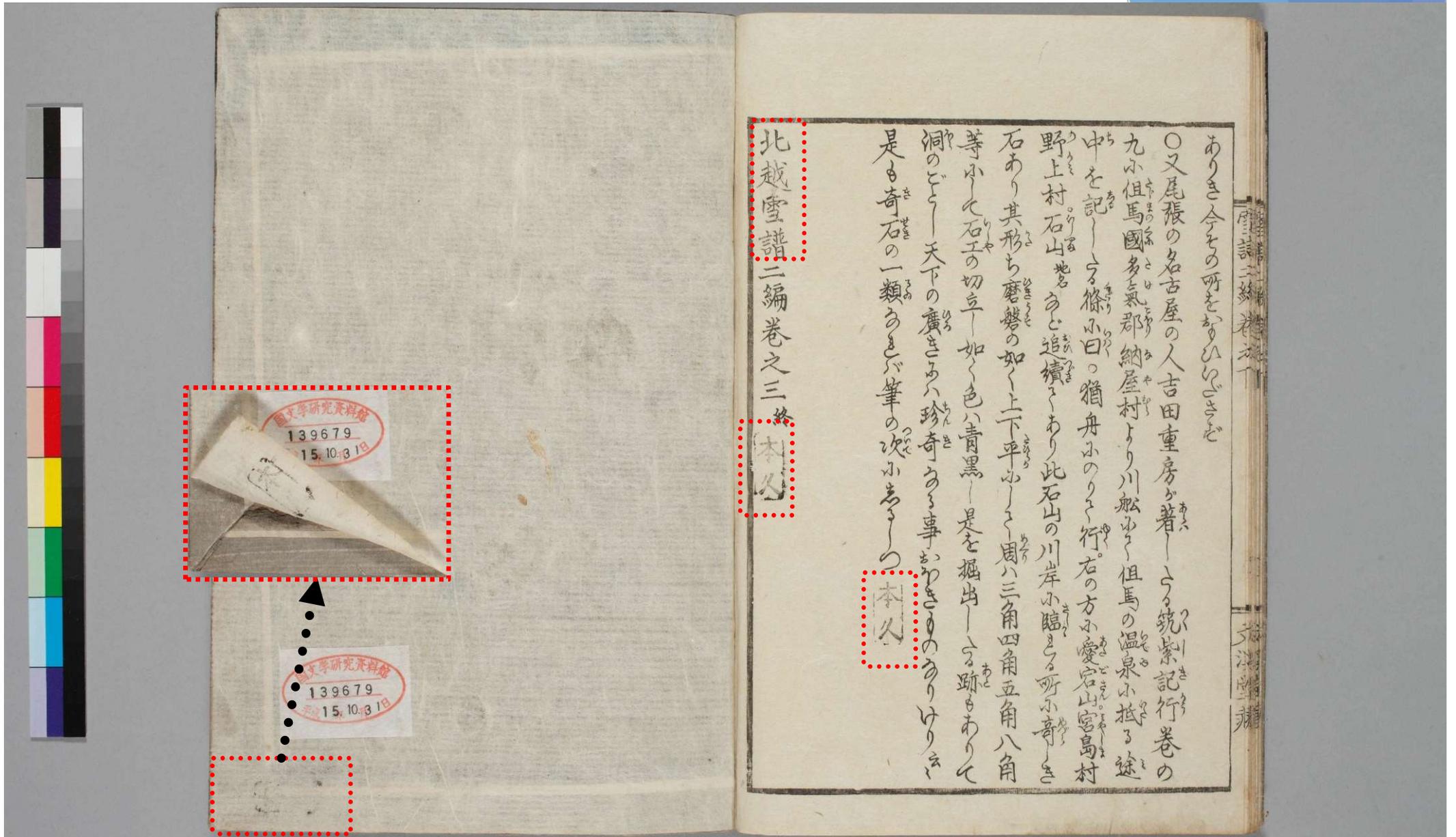
ありき今この所をわひひらき
○又尾張の名古屋の人吉田重房が著しつる鏡紫記行巻の
九ノ但馬國多氣郡納屋村より川舩ゆき但馬の温泉小抵る途
中を記しつる條小曰く猶舟小のりて行右の方小愛宕山宮島村
野上村石山也と追續あり此石山の川岸小臨ると所小奇き
石あり其形ち磨磬の如く上下平心く周ハ三角四角五角八角
等小く石工の切立如く色ハ青黒く是を掘出しつる跡もありて
洞のごとく天下の廣きあり珍奇あり事ありきものありけり
是も奇石の類あり筆の次小きもの本入

北越雪譜二編卷之三終
本入

国文学研究資料館
139679
15.10.31

Q23.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

◆ 第六冊卷末



北越雪譜二編卷之三終 本人

ありき今この所をわひひいひい
 ○又尾張の名古屋の人吉田重房が著しつる鏡紫記行巻の
 九小但馬國多氣郡納屋村より川舩ゆき但馬の温泉小抵る途
 中を記しつる條小曰く猶舟小のりて行右の方小愛宕山宮島村
 野上村石山也岩と追續あり此石山の川岸小臨ると所小奇き
 石あり其形ち磨磐の如く上下平心く周ハ三角四角五角八角
 等小て石工の切立如く色ハ青黒く是を掘出しつる跡もありて
 洞のごとく天下の廣きあり珍奇あり事ありきものありけり
 是も奇石の類あり筆の次小きもの本人

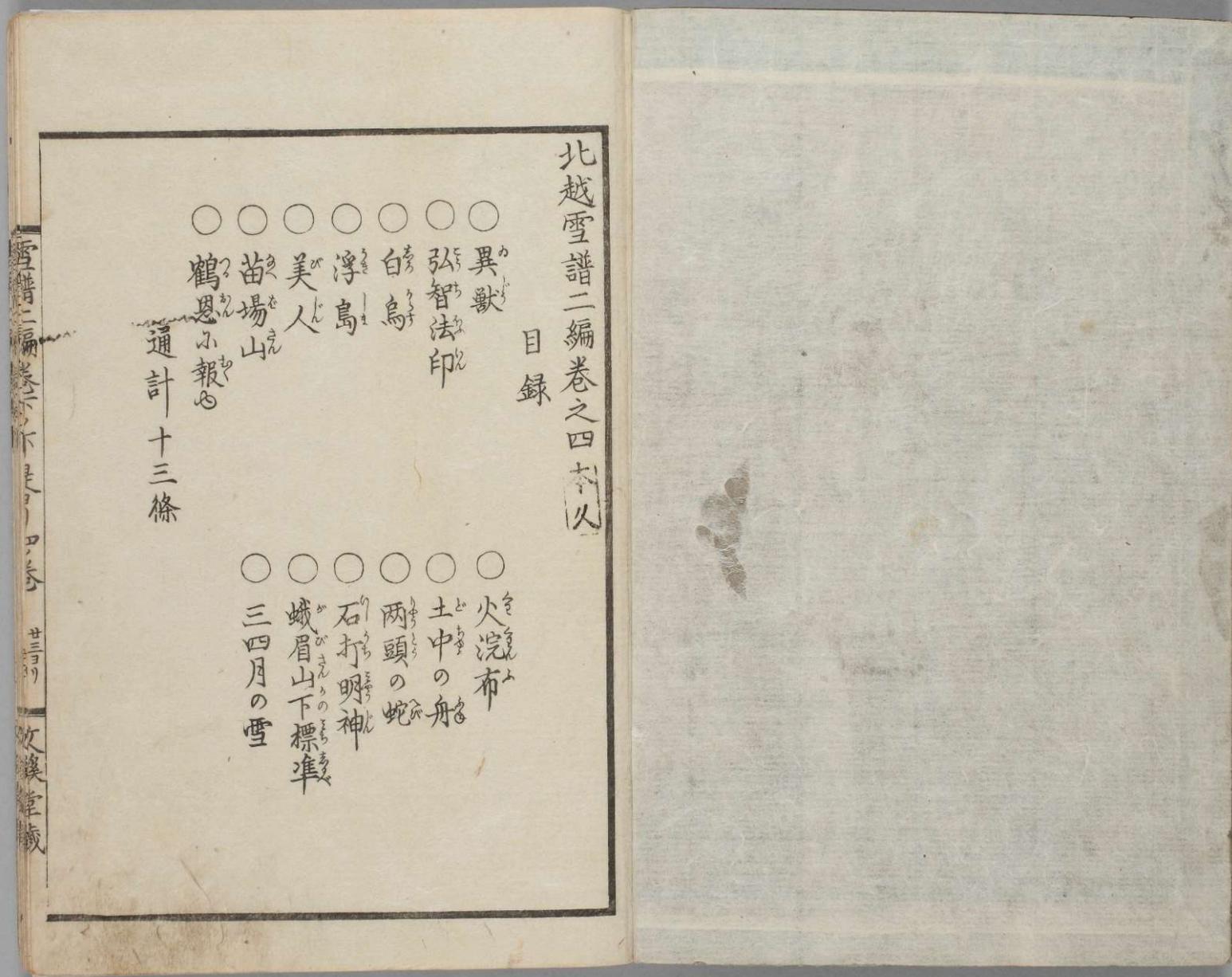


A23. ない

解説23.

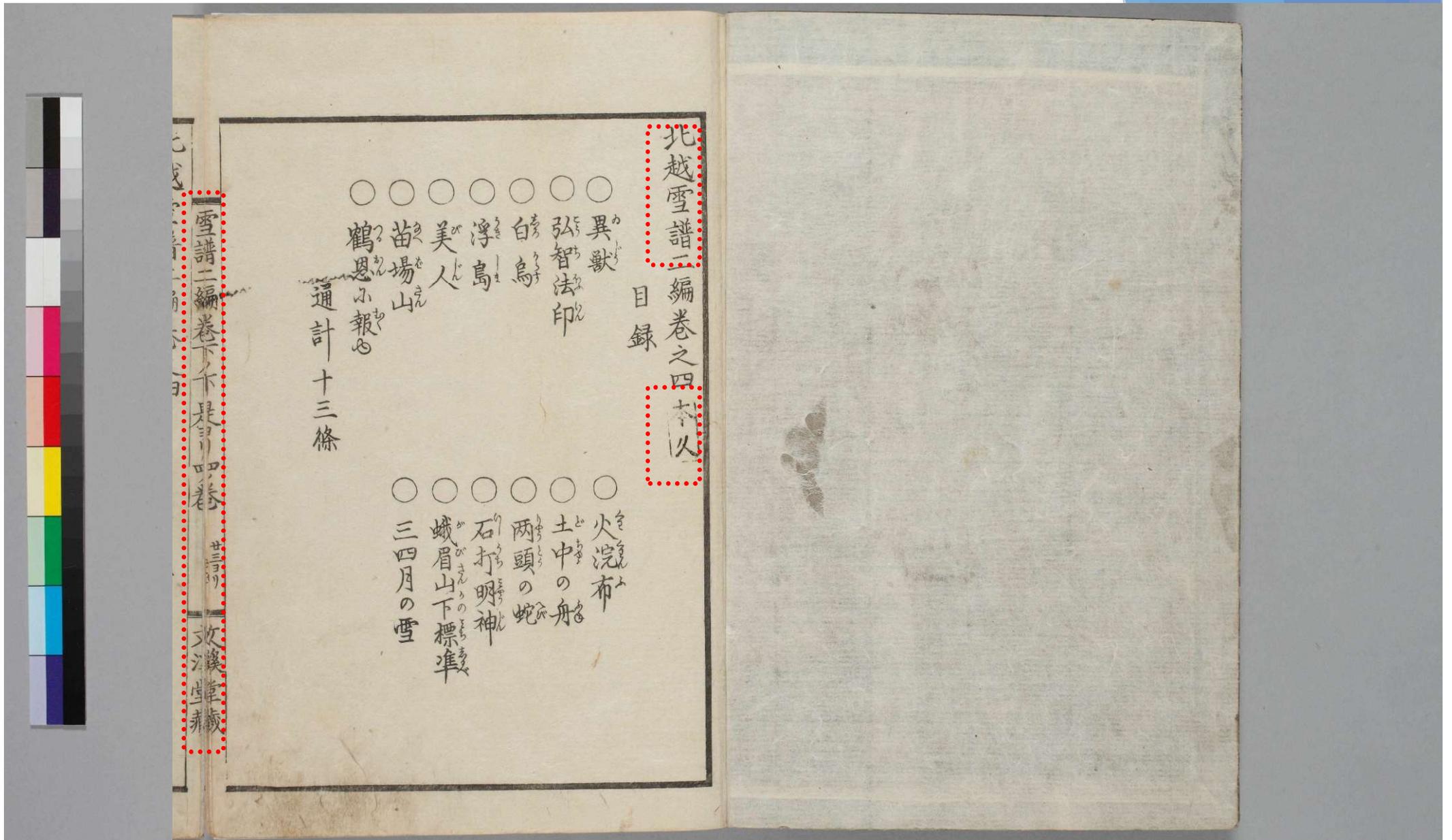
- 尾題等はいずれも既に取りっている。

◆ 第七冊見返し・目録



Q24.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

◆ 第七冊見返し・目録



北越雪譜二編卷之四下
目録

- 異獸
 - 弘智法印
 - 白鳥
 - 浮島
 - 美人
 - 苗場山
 - 鶴恩小報
- 通計十三條

- 火浣布
- 土中の舟
- 兩頭の蛇
- 石打明神
- 蛾眉山下標準
- 三四月の雪

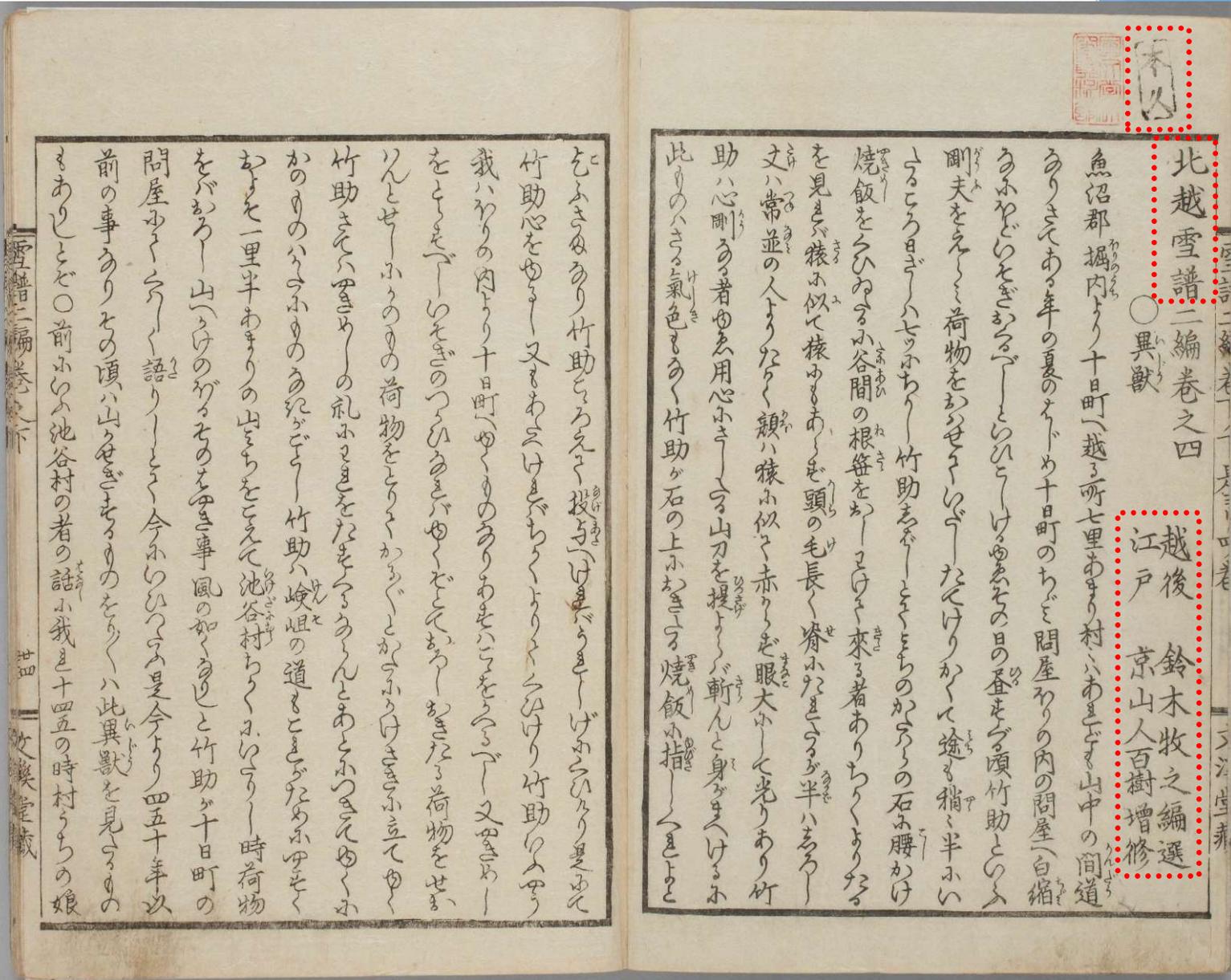
雪譜二編卷之四下
目録
文漢堂藏

A24. ない

解説24.

- 目録題・蔵書印・柱の情報はいずれも既に取りっている。

◆ 第七冊本文冒頭



北越雪譜二編卷之四

○異獣

越後 鈴木牧之編選
江戸 京山人百樹増修

魚沼郡堀内より十日町へ越る所七里あり村にありて山中の間道ありさてある年の夏のより十日町のちと問屋りの内の問屋(白縮)のふやどしをせむるべしといひてけのちその日の昼を頃竹助といふ剛夫をよき荷物をせむるにけりたけりかくて途も稍半ふいふころ日ざしハセウなり竹助をよきとせむるのころ石ふ腰かけ焼飯をさひわすふ谷間の根笹をわきよけよ来る者ありちりちりたるを見よ猿小似て猿小ありて頭の毛長く脊小なり半ハあり文ハ常並の人よりなかり親ハ猿小似たり赤りて眼大なり光りあり竹助ハ心剛者ゆゑ用心ふさし山刀を提よ斬んと身まけふ此のハさるる気色もあけ竹助ハ石の上小あきし焼飯小指しとせよと

とふまぬあり竹助をろえそ投よけはげしうきげふふり是ゆて竹助心をゆき又もわさけさむちりよりけり竹助のいさ我ハわりの内より十日町ゆきのありあまをこをこぎ又かきりんとせふうの物の荷物をとりかかむとかなふけささ小立てゆ竹助をいさむりの礼ふとをさなまをうあんとあふつてんゆかものいさふものあはれごう竹助ハ峻坦の道もことごとたあふさくむよそ一里半あまりの山をちをこえて池谷村ちりふいり一時荷物をおもろし山(けのち)のちそのをさき事風の如くさしと竹助十日町の問屋よりさし語りし今ふりひつはふ是今より四五十年以前前の事ありその頃ハ山をさきよるものをりハ此異獣を見よるものもありとせ○前ふり池谷村の者の話ハ我は十四五の時村もつ娘

西暦二編卷之四

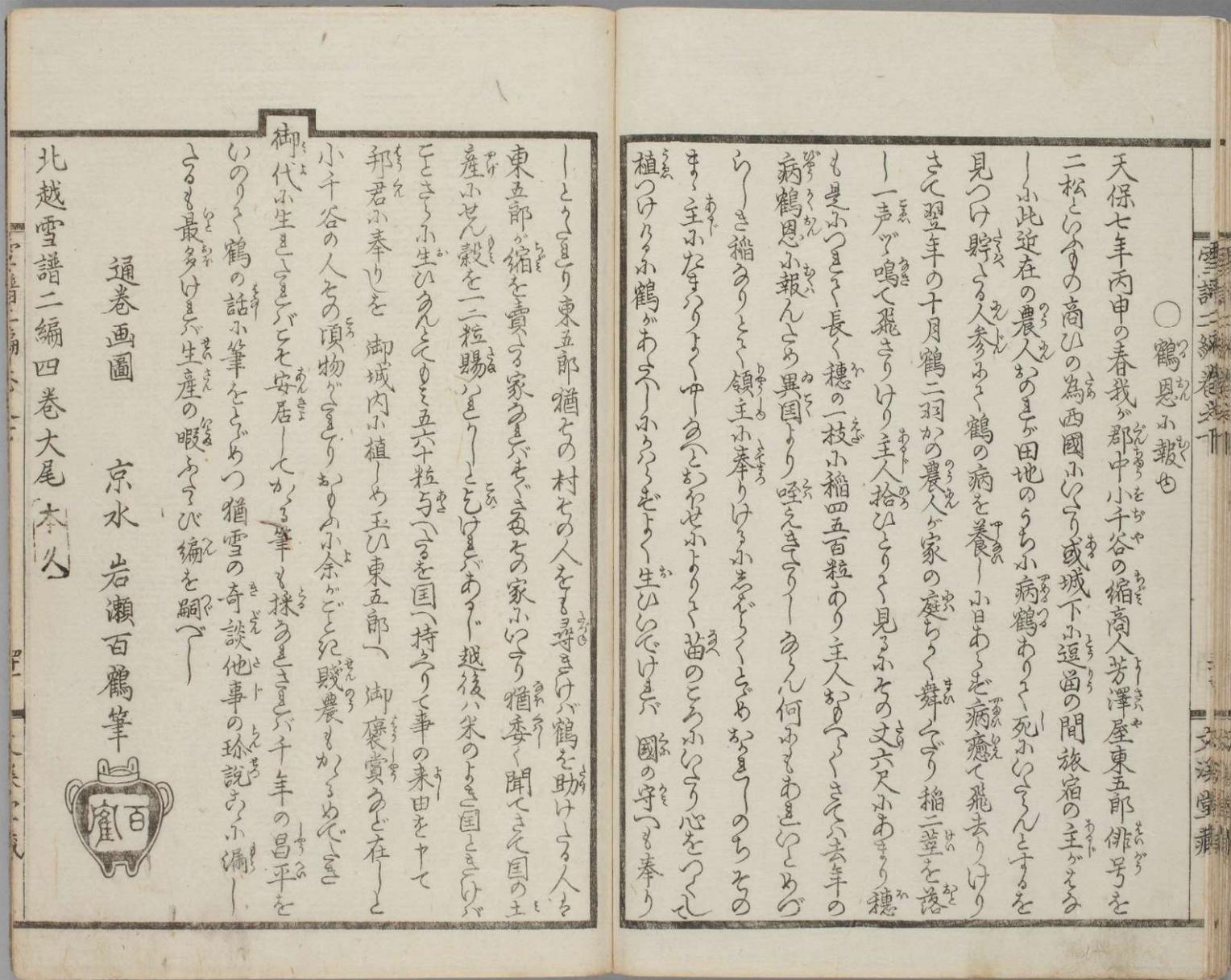
世田 文藝堂藏

A25. ない

解説25.

- 内題・記載著者はいずれも既に取りっている。

◆ 第七冊本文末尾



○ 鶴恩小報也

天保七年丙申の春我々郡中小千谷の縮商人芳澤屋東五郎俳号を
 二松といふの商ひの爲西國小いり或城下小逗留の間旅宿の主がそ
 一此近在の農人おのまか田地のうち小病鶴ありて死おひそんとするを
 見つけ時さる人参め鶴の病を養へ小目わを病癒て飛去りけり
 さて翌年の十月鶴二羽かの農人家の庭ちり舞さるり縮二笠を落
 一一声で鳴て飛さりけり主人拾ひとりて見ふその丈六尺小あまき穂
 も是ふつと長く穂の一枝小縮四百粒あり主人おつとて去年の
 病鶴恩小報んとり異国より怪えさるり一なん何れもわさつとめり
 り一き縮ありとて領主小奉りけり小あまきとてわさつとめり一のちその
 まう主小あまきつとくやあつとわさつとめり一苗のこつ小いり心をつて
 植つけり小鶴があつとふらつとて下り生ひひけり一國の守りも奉り

一とく一より東五郎猶との村その人をも尋まけり鶴を助けし人ち
 東五郎が縮を賣りて家あるまじきまをその家ふりて猶委り聞てま國の土
 産小せん穀を二粒賜はしとてこけいあつと越後ハ米のよき國とてけい
 ことさう小生のめんとて五六十粒与へてを國持よりて事の米由をヤて
 邦君小奉りて御城内小植り玉ひ東五郎一御褒賞ありて存りと
 小千谷の人その頂物をさしりおの小余かごと紀賤農もかゝるめい
 御代小生さしとて安居一てか筆も採あまきとて千年の昌平を
 いのり鶴の話小筆をとらつ猶雪の奇談他事の珍説あり小編一
 するも最多けり生産の暇あつて編を嗣て

通巻画圖

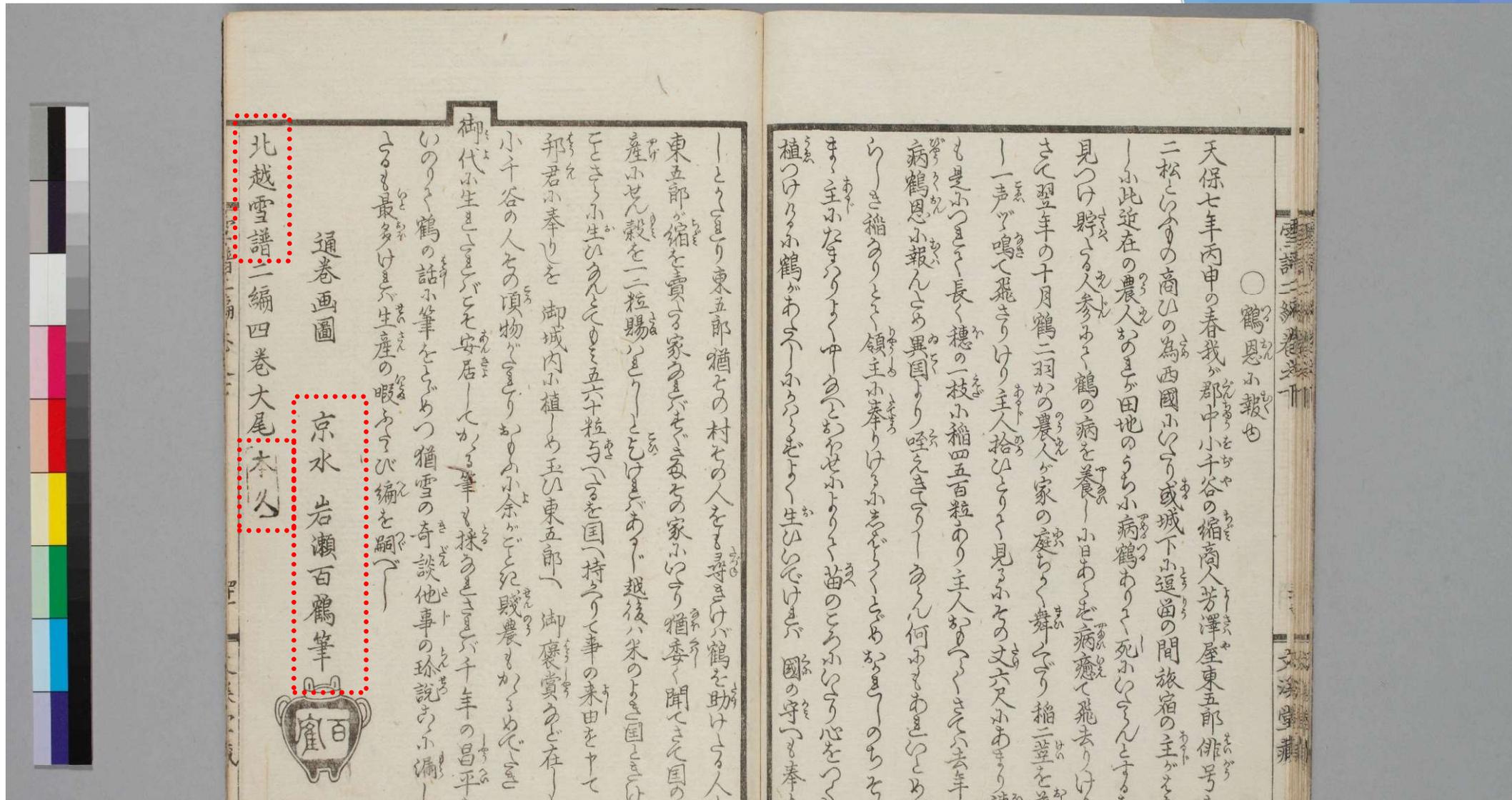
京水 岩瀬百鶴筆



北越雪譜二編四卷大尾本久

Q26.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

◆ 第七冊本文末尾



A26. ない

解説26.

- 尾題は既に取りっている。記載著者名の「京水岩瀬百鶴」は既に取りった「京水百鶴」と異なっているが、同じ優先度である前編の巻尾の表記が「京水百鶴」のため訂正の必要はない。

◆ 第七冊末尾

国文学研究式刊行
139680
平成15.10.31

本頁

京山人百樹翁著述目録

- 和漢印章考 五卷
本朝古印の模本を圖し制破用格を弁む考證漢印小淵了を以て和漢と目せたる朱豹駁印典の作格不備
- 食物沿革考 五卷
昔の食物と今の食物の沿革を毎ト食器の古圖の事この等諸書を引て考をある
- 和漢押字考 三卷
俗小書判とりの起原を考へむきんの作りやうを論弁せり
- 骨董集 三編 二 四編 二 醒齋京傳先生遺稿京山翁増修
- 女粧考 前後 六卷
- 芭蕉年譜 三卷
芭蕉一代の始終をある
- 高尾考 同
万治の高尾白刃死はりの説を論弁し高尾十一代の傳遺豐遺器をうるの事
- 茶の湯初心抄 同
茶の湯を學ぶ人此書をこれらの大槩をあり茶席小つありても耻をさう心得をある

著作堂一夕話 全五卷

曲亭馬琴翁編集

此書は曲亭馬琴翁の長壽中五十年來見聞せり此書は珍説古今未發の高嶺を張り集り新書初校を録ぐ人聽人笑小曲亭小對してその語を聞か諸君近き小發行をすらたまへ

御伽やう六 全十卷

閑窓瑣談 全六卷

此書は古今の奇談珍説の原本より凡小説怪談の書多しとの事御伽やうの上の事御伽の奇談を録ぐ小つとる事多し其小怪談奇談の最第一の物語りたる本を作したる本もあなり

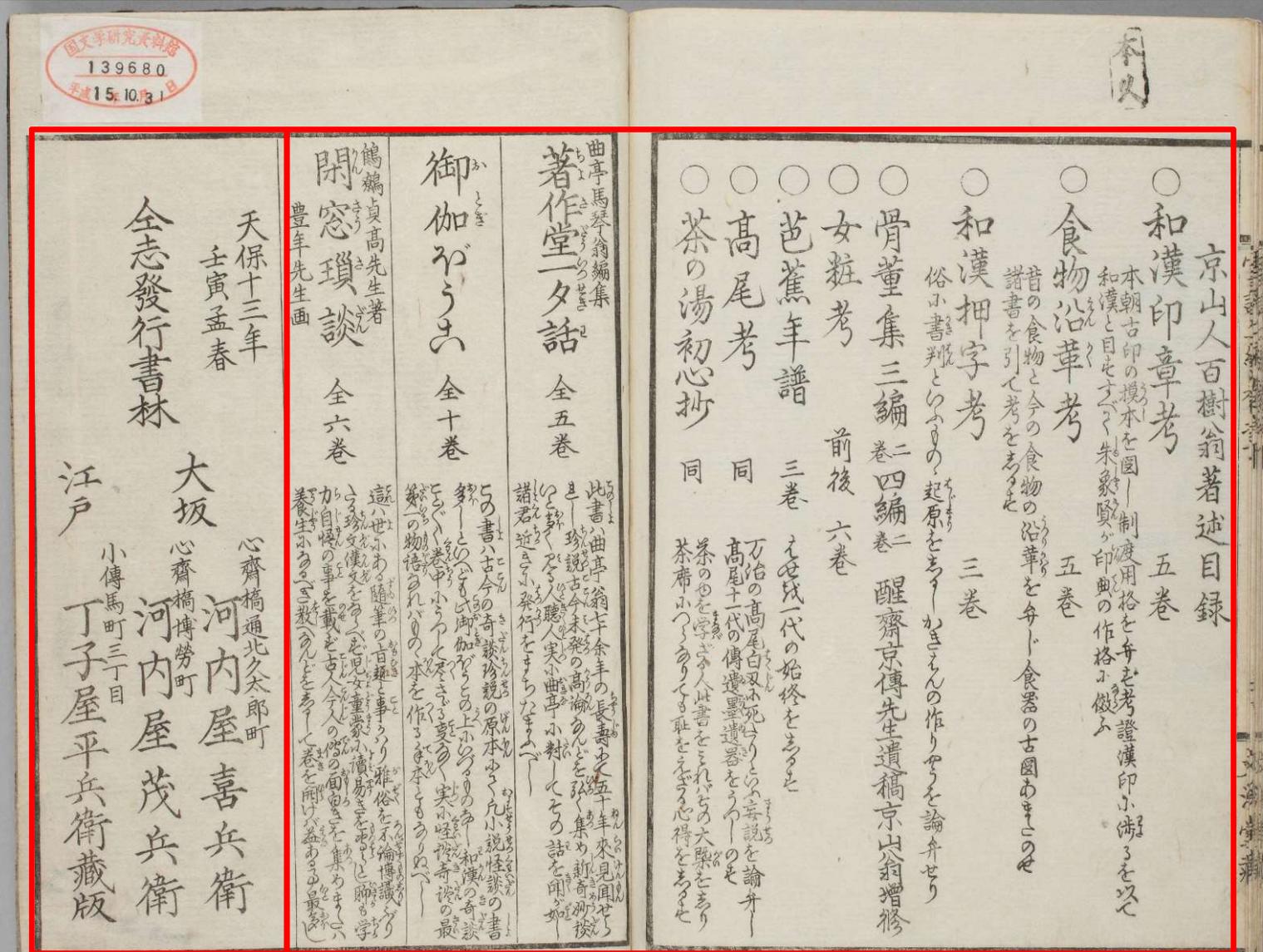
鶴鶴貞高先生著
天保十三年
壬寅孟春
全志發行書林

心齋橋通北久太郎町
大坂 心齋橋博勞町
河内屋 喜兵衛
河内屋 茂兵衛
江戸 小傳馬町三丁目
丁子屋 平兵衛藏版



Q27.ここから新たに取り書誌情報はるか？ある場合の項目とその内容は？

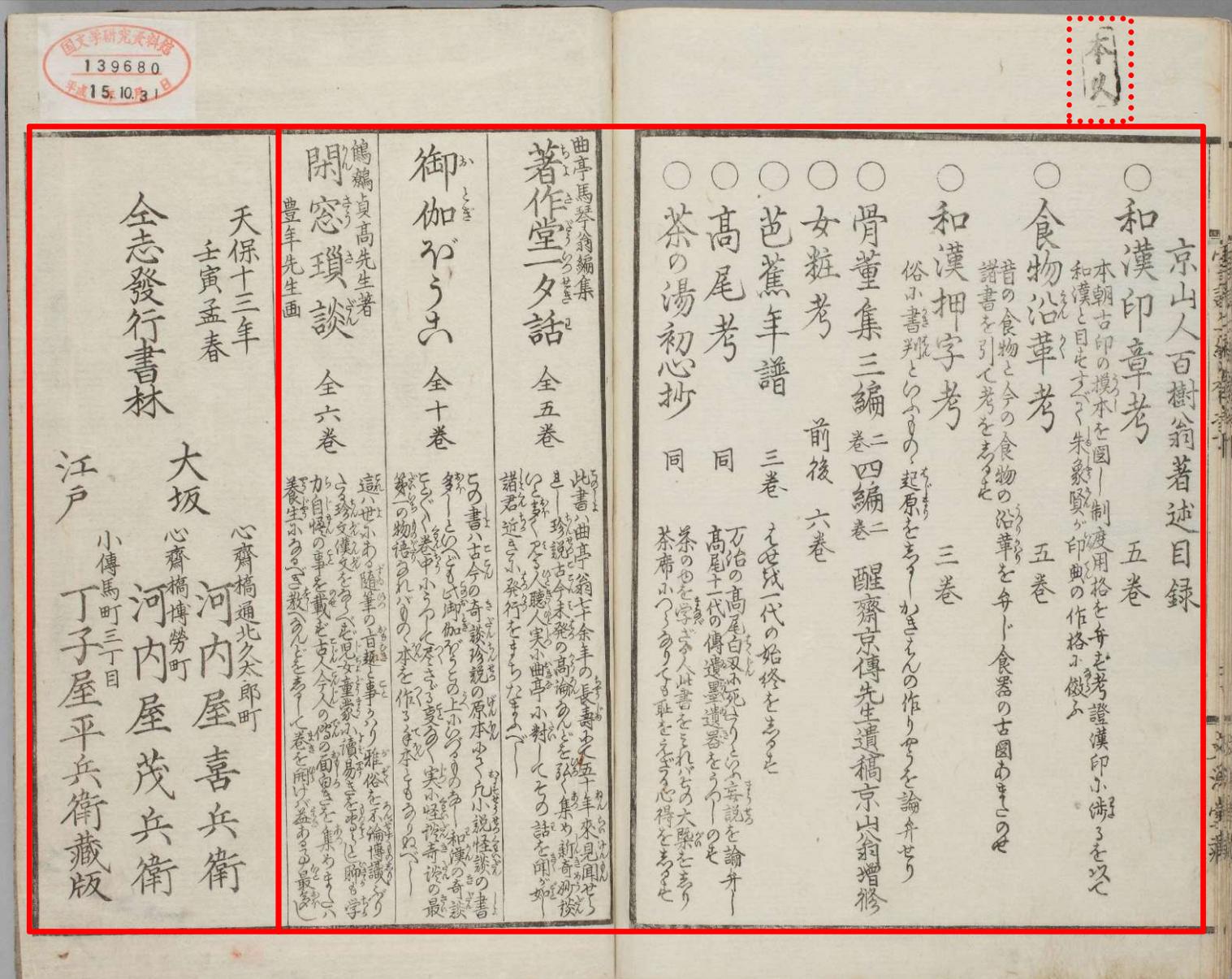
◆ 第七冊末尾



A27. 出版事項、注記（一般注記）に追記する。

- 出版事項：『河内屋／喜兵衛〈大坂〉，河内屋／茂兵衛〈大坂〉，丁子屋／平兵衛〈江戸〉，天保13(二編)』
- 注記：『〈般〉初編巻之下の目録・巻末に広告あり，二編巻二の目録に広告あり，**二編巻之四の巻末に広告あり**，記載書名3のよみは振り仮名による。』

◆ 第七冊末尾



解説27.

- 初編とは出版情報が異なるので、初編と重複する出版者も含めた全ての出版情報を新たに取り、対応する部編を記載する
- ここにも新たな広告があるので、その情報を一般注記に取る。

和古書

*は該当に○

preno

ppreno

cpreno

cid	wid		* widなし									
統一書名表記												
" よみ												
統一著者名(よみ)												
記 載 書 名	1 表記 □	北越雪譜							種 別	内・目・見・尾・外		
	よみ	ほくえつせつぷ								・序首・序中・柱		
	2 表記 □	雪譜							種 別	柱		
	よみ	せつぷ										
	3 表記 □	北越雪譜							種 別	凡		
	よみ	ほくえつせつぷ										
4 表記 □								種 別				
よみ												
5 表記 □								種 別				
よみ												
6 表記 □								種 別				
よみ												
記 載 著 者	1 著者名	鈴木／牧之					役割	編撰	伝	部編等		
	2 著者名	京水／百鶴					役割	画	伝	部編等		
	3 著者名	京山人／百樹					役割	刪定	伝	部編等		初編
	4 著者名	京山人／百樹				他等	役割	増修	伝	部編等		二編
* 書 写 ・ 出 版 事 項	1書肆〈地名〉or 書写者〈地名〉 複数は、で繰 り返し	河内屋／茂兵衛〈大坂〉, 丁子屋／平兵衛〈江戸〉										
	刊年or書写年	天保7										
	部編等	初編										
2書肆〈地名〉or 書写者〈地名〉 複数は、で繰 り返し	河内屋／喜兵衛〈大坂〉, 河内屋／茂兵衛〈大坂〉, 丁子屋／平兵衛〈江戸〉											
刊年or書写年	天保13											
部編等	二編											
* (刊) / 写 / 混						卷数						叢書巻号表示
冊 数	7 冊					残欠						
形態(丁数, 寸法, 紙型)												
和古書メディア表 原資料請求記号	—											
登録番号												
備 考	* 書誌構造	単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写										
注 記	< >											

◆ 全冊を通して



Q28.資料全体を通しての情報から以下の情報はどのように記載するか？

- この資料の巻数
- 今まで取ってきたもの以外の注記

※画像からは大きさを測ることが出来ないため、今回の演習では設問から外しています。
実際に目録を取る場合には、大きさも測って下さい。

(この資料の大きさは、25.7×18.0cmの大本です)

◆ 全冊を通して



A28.

- 巻数：『初編卷之上中下・二編卷一～四』
- 注記：『〈般〉初編卷之下の目録・巻末に広告あり，二編卷二の目録に広告あり，二編卷四の巻末に広告あり，記載書名3のよみは振り仮名による。』→『〈般〉**絵入本，題簽は初編上中下之巻・二編春夏秋冬の記載**，初編卷之下の目録・巻末に広告あり，二編卷二の目録に広告あり，二編卷四の巻末に広告あり，記載書名3のよみは振り仮名による。』

◆ 全冊を通して



解説28.

- 情報源としては表紙よりも本文冒頭が優先なので、巻数は本文冒頭の表記を基に取る。
- 題簽に書かれた表記も必要な情報なので、一般注記に記載する。
- 挿絵等が入っている場合には、そのことが利用者に判るよう一般注記に「絵入本」などと記載すると良い。

和古書

*は該当に○

preno

ppreno

cpreno

cid	wid		* widなし									
統一書名表記												
" よみ												
統一著者名(よみ)												
記 載 書 名	1 表記 □	北越雪譜							種 別	内・目・見・尾・外		
	よみ	ほくえつせつぷ								・序首・序中・柱		
	2 表記 □	雪譜							種 別	柱		
	よみ	せつぷ										
	3 表記 □	北越雪譜							種 別	凡		
	よみ	ほくえつせつぷ										
4 表記 □								種 別				
よみ												
5 表記 □								種 別				
よみ												
6 表記 □								種 別				
よみ												
記 載 著 者	1 著者名	鈴木／牧之					役割	編撰	伝	部編等		
	2 著者名	京水／百鶴					役割	画	伝	部編等		
	3 著者名	京山人／百樹					役割	刪定	伝	部編等		初編
	4 著者名	京山人／百樹					他等	役割	増修	伝	部編等	
* 書 写 ・ 出 版 事 項	1書肆<地名>or 書写者<地名> 複数は、で繰 り返し	河内屋／茂兵衛<大坂>, 丁子屋／平兵衛<江戸>										
	刊年or書写年	天保7										
	部編等	初編										
2書肆<地名>or 書写者<地名> 複数は、で繰 り返し	河内屋／喜兵衛<大坂>, 河内屋／茂兵衛<大坂>, 丁子屋／平兵衛<江戸>											
刊年or書写年	天保13											
部編等	二編											
* (刊) / 写 / 混						巻数	初編巻之上中下・二編巻一～四			叢書巻号表示		
冊数	7 冊					残欠						
形態(丁数, 寸法, 紙型)	25.7×18.0cm,大											
和古書メディア表 原資料請求記号	—											
登録番号												
備 考	* 書誌構造	単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写										
注 記	< >											

◆ 著作の検索

国文学研究資料館 日本古典籍総合目録データベース Union Catalogue of Early Japanese Books
館蔵和古書目録データベース Catalogue of Early Japanese Books at NIJL

国文学研究資料館 電子資料館 日本古典籍総合目録DB 館蔵和古書目録DB TOP English ヘルプ

■各項目に検索語を入力して「検索」ボタンをクリックしてください。

検索範囲 すべて（日本古典籍総合目録データベース）
国文研所蔵和古書（館蔵和古書目録データベース）
国文研マイクロ 国文研所蔵和古書+マイクロ

検索結果一覧 書誌一覧 → 画像有無 著作一覧
著者一覧

表示件数

全項目	<input type="text"/>	中間一致	<input type="button" value="検索"/>	<input type="button" value="クリア"/>
書名（すべて）	<input type="text"/>	中間一致		
著者名	<input type="text"/>	中間一致		
分類	<input type="text"/>	中間一致		
年代	<input type="text"/>	中間一致		

Copyright © National Institute of Japanese Literature All Rights Reserved.

Q29.ここまで取ってきた書誌のwidは？

◆ 著作の検索

The screenshot shows the search results page for the 'Union Catalogue of Early Japanese Books' (日本古典籍総合目録データベース) and 'Catalogue of Early Japanese Books at NIJL' (館蔵和古書目録データベース). The search criteria are set to '書名 (すべて): 北越雪譜' (Title (all): Hokuryuetsu). One result is displayed, which is checked. The result details are as follows:

No.	統一書名, 国書レコードか否か, 国書内同名異書連番, 分類, 作品著者名, 成立年, 書誌件数, WID
<input checked="" type="checkbox"/> 1	北越雪譜, K, 1, 地誌, 鈴木ノ牧之 著, 初編天保六序・同七刊、二編同一一序・同一三刊, 45, 492477

Buttons for '戻る' (Back) and '検索画面' (Search Page) are visible at the top right. Below the search criteria, there are buttons for '全項目' (All items), '検索' (Search), and '表示件数' (Number of items to display) set to 100. At the bottom of the result list, there are buttons for '全選択' (Select all), '全解除' (Deselect all), and '著作詳細' (Author details).

Copyright © National Institute of Japanese Literature All Rights Reserved.

解説29.

- 「書名 (すべて)」を「北越雪譜」で検索すると1件著作が見つかる。

◆ 著作の検索

著作ID	492477
統一書名	北越雪譜(ほくえつせっぽ)
巻冊	初編三巻二編四巻七冊
分類	地誌
著者	鈴木/牧之 著 岩瀬/百樹(山東/京山) 刪定 岩瀬/百鶴(岩瀬/京水) 画
成立年	初編天保六序・同七刊、二編同一一序・同一三刊
著作注記	〈備〉日本古典文学大辞典に解説あり。
国書所在	【写】足利(抄、旅の流塵一二八)【版】<天保七・一三版>内閣、東洋岩崎、宮書、東博、大阪市大、大谷(初編)、京大、教大、東大、東大史料、富山大ヘルン、日大(二編)、広島大、大阪府、京都府、新潟県立図書館、日比谷加賀、日比谷東京、足利、柏崎市立図書館、高田、燕市立図書館(初編)、長岡市立互尊文庫、新潟市立舟江図書館、新津市立記念図書館、蓬左(初編)、大橋、杏雨、古靱、成田、無窮神習、旧浅野、延岡内藤家、萩毛利家(初編)、尾崎久弥<刊年不明>国会、静嘉、岡山大池田、慶大、国学院、早大、東大、東北大狩野、秋田、日比谷加賀(初編、二巻二冊)、岩瀬、果園、桜山、椿■、尊経、高木、成田、村野、旧三井鶴軒【復】(活)岩波文庫
著作種別	和古書
国書	『国書総目録』所収, 1

Copyright © National Institute of Japanese Literature All Rights Reserved.

解説29.

- 巻冊、著者、成立年がいずれもこの書誌に合致する。

A29.

- Wid : 『492477』

和古書

*は該当に○

preno

ppreno

cpreno

cid		wid	492477		* widなし				
統一書名表記									
" よみ									
統一著者名(よみ)									
記載書名	1 表記 □	北越雪譜				種別	内・目・見・尾・外		
	よみ	ほくえつせつぷ					・序首・序中・柱		
	2 表記 □	雪譜				種別	柱		
	よみ	せつぷ							
	3 表記 □	北越雪譜				種別	凡		
	よみ	ほくえつせつぷ							
4 表記 □					種別				
よみ									
5 表記 □					種別				
よみ									
6 表記 □					種別				
よみ									
記載著者	1 著者名	鈴木／牧之			役割	編撰	伝	部編等	
	2 著者名	京水／百鶴			役割	画	伝	部編等	
	3 著者名	京山人／百樹			役割	刪定	伝	部編等	初編
	4 著者名	京山人／百樹	他等		役割	増修	伝	部編等	二編
* 書写	1書肆<地名>or 書写者<地名> 複数は、で繰 り返し	河内屋／茂兵衛<大坂>, 丁子屋／平兵衛<江戸>							
	刊年or書写年	天保7							
	部編等	初編							
出版事項	2書肆<地名>or 書写者<地名> 複数は、で繰 り返し	河内屋／喜兵衛<大坂>, 河内屋／茂兵衛<大坂>, 丁子屋／平兵衛<江戸>							
	刊年or書写年	天保13							
	部編等	二編							
*(刊) / 写 / 混		卷数	初編卷之上中下・二編卷一～四			叢書巻号表示			
冊数		7	冊	残欠					
形態(丁数, 寸法, 紙型)	25.7×18.0cm,大								
和古書メディア表 原資料請求記号	—								
登録番号									
備考	* 書誌構造	単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写							
注記	< >								

目録演習は以上です。
お疲れ様でした。



ここからは、演習とは異なる資料の
場合を例題として紹介していきます。





菅原
附録

繪本不知火草紙

前編

ナ 4
987
1
国文学研究資料館



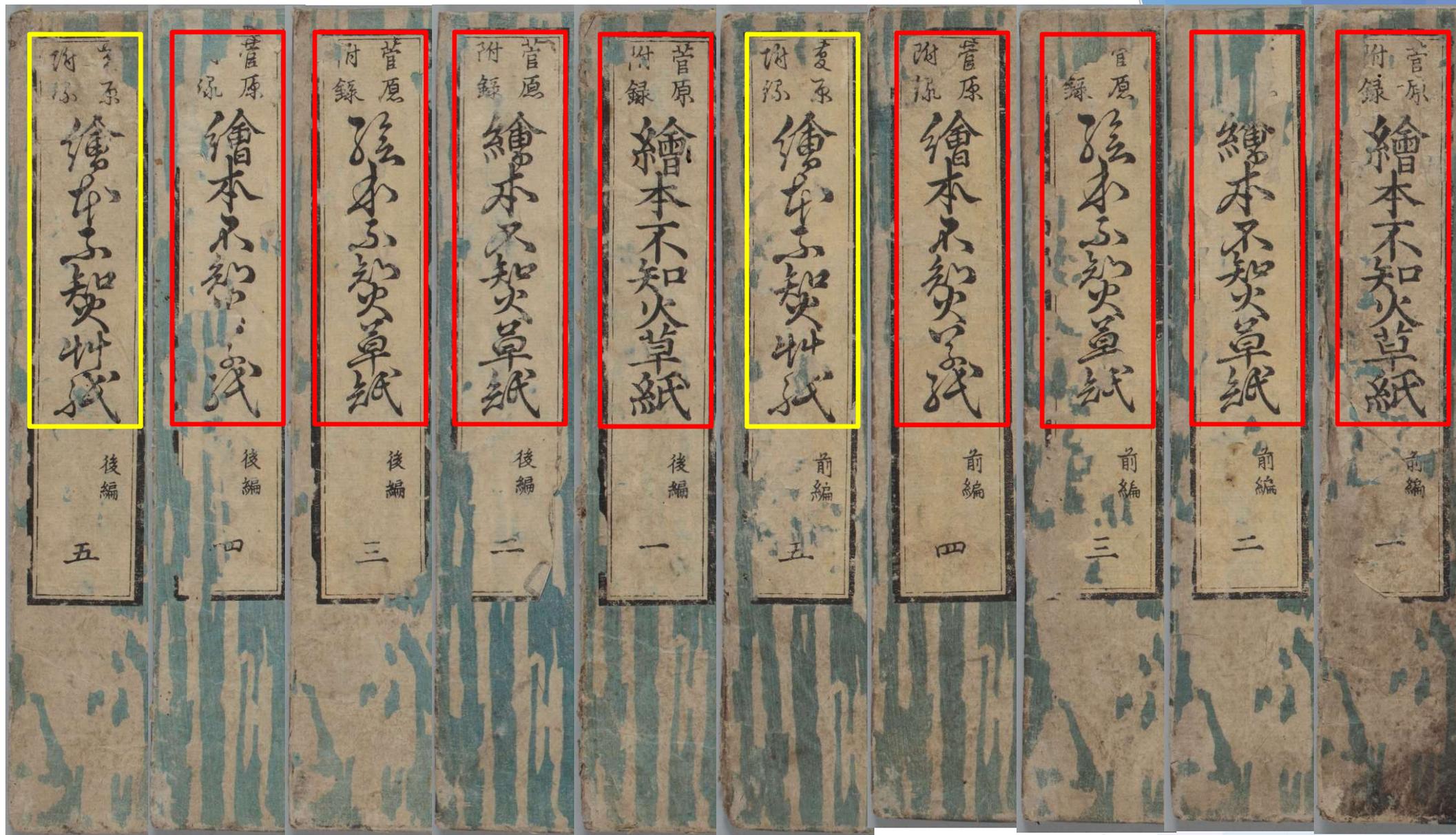
不知火草紙／旧名敵討天神利生記 <https://doi.org/10.20730/200021189>

◆ 表紙 (各冊)



例題1.ここから取ることができる外題は？

◆ 表紙 (各冊)



回答1. 以下の2つ

- 『菅原附録／繪本不知火草紙 (すがわらふろく／えほんしらぬいそうし) 』
- 『菅原附録／繪本不知火草紙 (すがわらふろく／えほんしらぬいそうし) 』

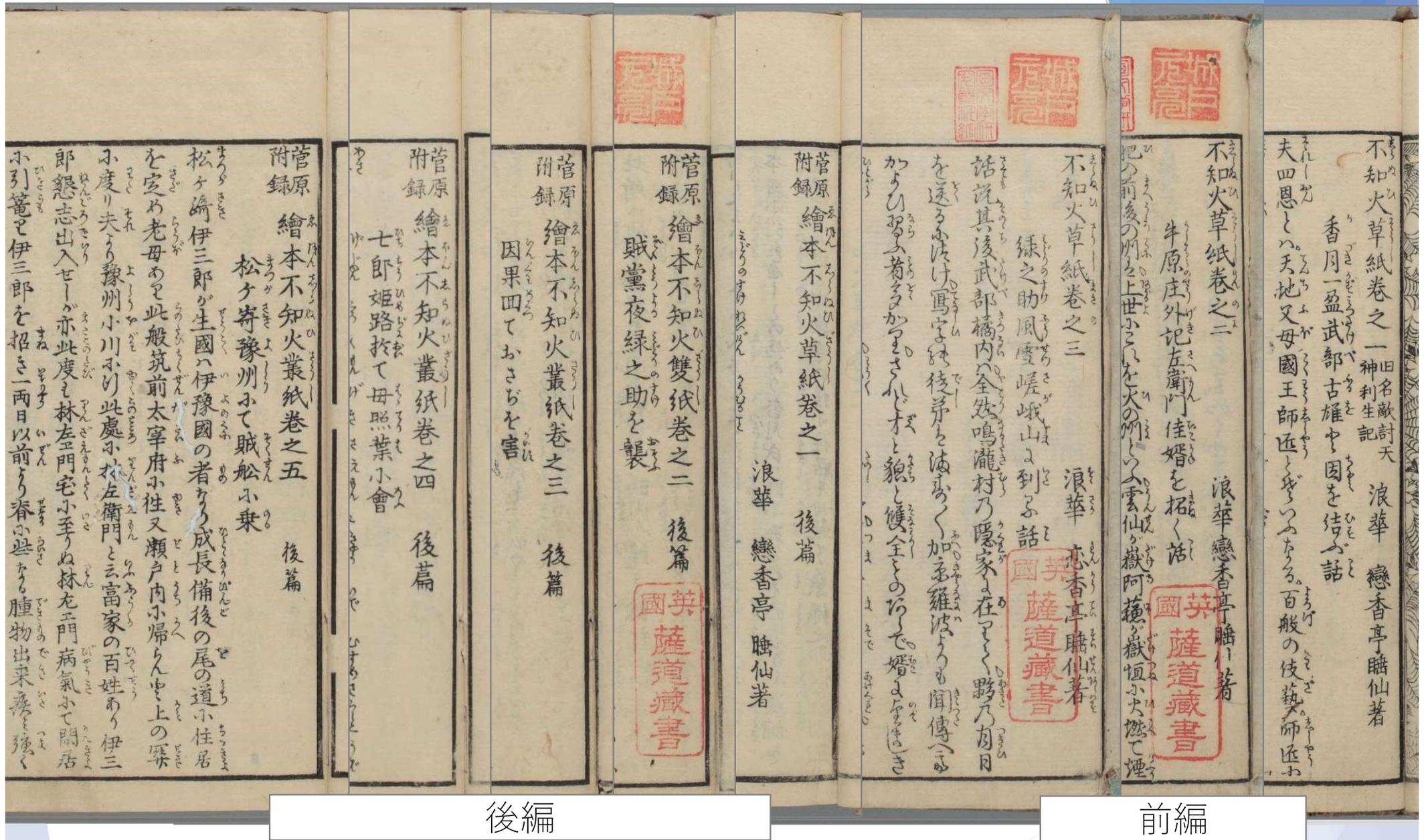
◆ 表紙 (各冊)



解説 1

- 意味が同じでも異体字・別字を使っているときは別の書名として取る。
- 『草』と『艸』は別の漢字なので、それぞれを書名として取る必要がある。

◆ 本文冒頭 (各卷)



不知火草紙卷之一 田名敵討天 神利生記 浪華 戀香亭睡仙著
 香月一盈武部古雄や因を結ぶ話
 夫四思とハ天地又母國王師匠と我つたたる。百般の伎藝師匠お

不知火草紙卷之二
 浪華 戀香亭睡仙著
 牛原庄外記左衛門佳婚を招く話
 把の前後の州之上世小こいを火の州の雲仙の嶽阿菴の嶽恒火燃て煙

不知火草紙卷之三
 浪華 戀香亭睡仙著
 緑之助風塵岨岨山に到る話
 話況其後武部橋内全致鳴瀧村乃隠家又在る影乃月日
 を送るふはけ寫字後弟と波あく加糸羅波より聞傳へる
 かよひ習ふ者多かつた才と貌と健全の所て婿よふもなき

管原 繪本不知火草紙卷之一 後篇
 浪華 戀香亭睡仙著

管原 繪本不知火雙紙卷之二 後篇
 賊黨夜緑之助を襲
 因果回ておさらを害

管原 繪本不知火叢紙卷之三 後篇

管原 繪本不知火叢紙卷之四 後篇
 七郎姫路於て母照葉小會

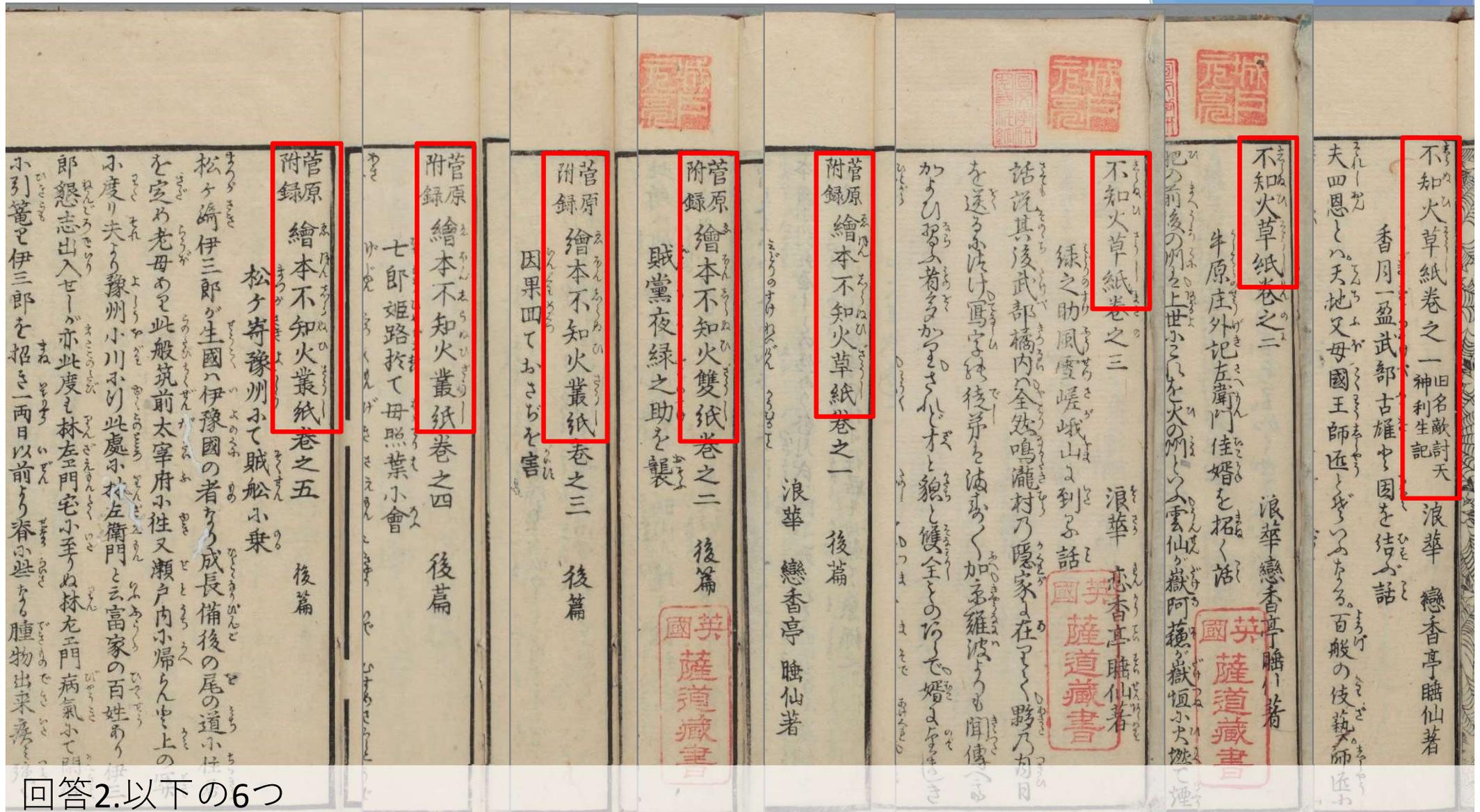
管原 繪本不知火叢紙卷之五 後篇
 松ヶ寄豫州ふて賊船小乗
 松ヶ崎伊三郎が生國ハ豫國の者やう成長備後の尾の道小住居
 を定め老母あて此般筑前太宰府小往又瀬戸内小帰らん中上の塚
 小度り夫より豫州小川ふり此處小村左衛門と云富家の百姓あり伊三
 郎懇志出入せり亦此度之林左衛門宅小至りぬ林左衛門病氣ふて閉居
 小引籠て伊三郎を招き一兩日以前より脊小患なる腫物出来瘡も強く

前編

後編

例題2.ここから取ることができる内題は？

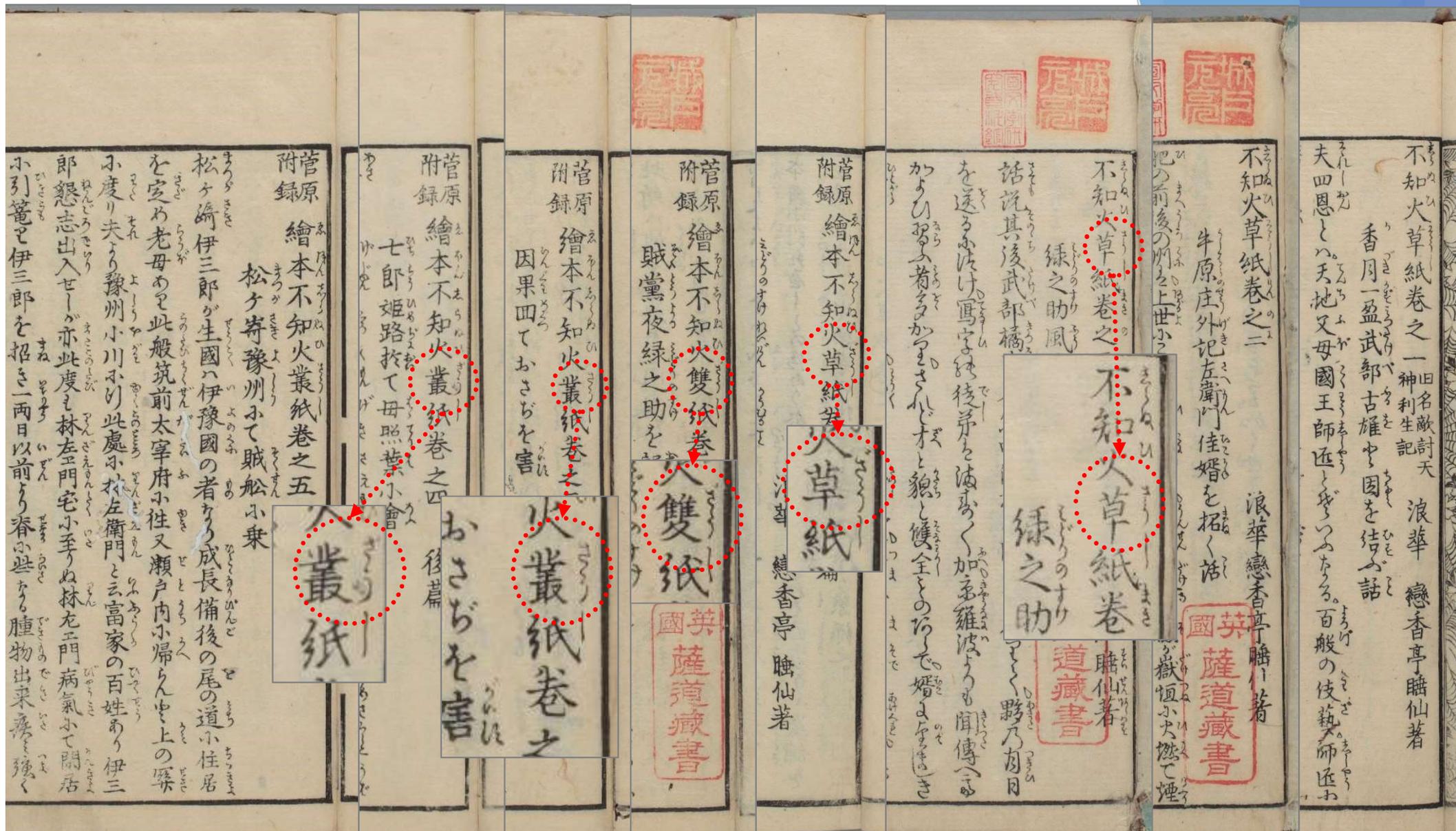
◆ 本文冒頭 (各巻)



回答2.以下の6つ

- 『不知火草紙／旧名敵討天神利生記 (しらぬいそうし／きゅうめいかたきうちてんじんりしょうき)』
- 『不知火草紙 (しらぬいそうし)』
- 『菅原附録／繪本不知火草紙 (すがわらふろく／えほんしらぬいぞうし)』
- 『菅原附録／繪本不知火雙紙 (すがわらふろく／えほんしらぬいぞうし)』
- 『菅原附録／繪本不知火叢紙 (すがわらふろく／えほんしらぬいそうし)』
- 『菅原附録／繪本不知火叢紙 (すがわらふろく／えほんしらぬいぞうし)』

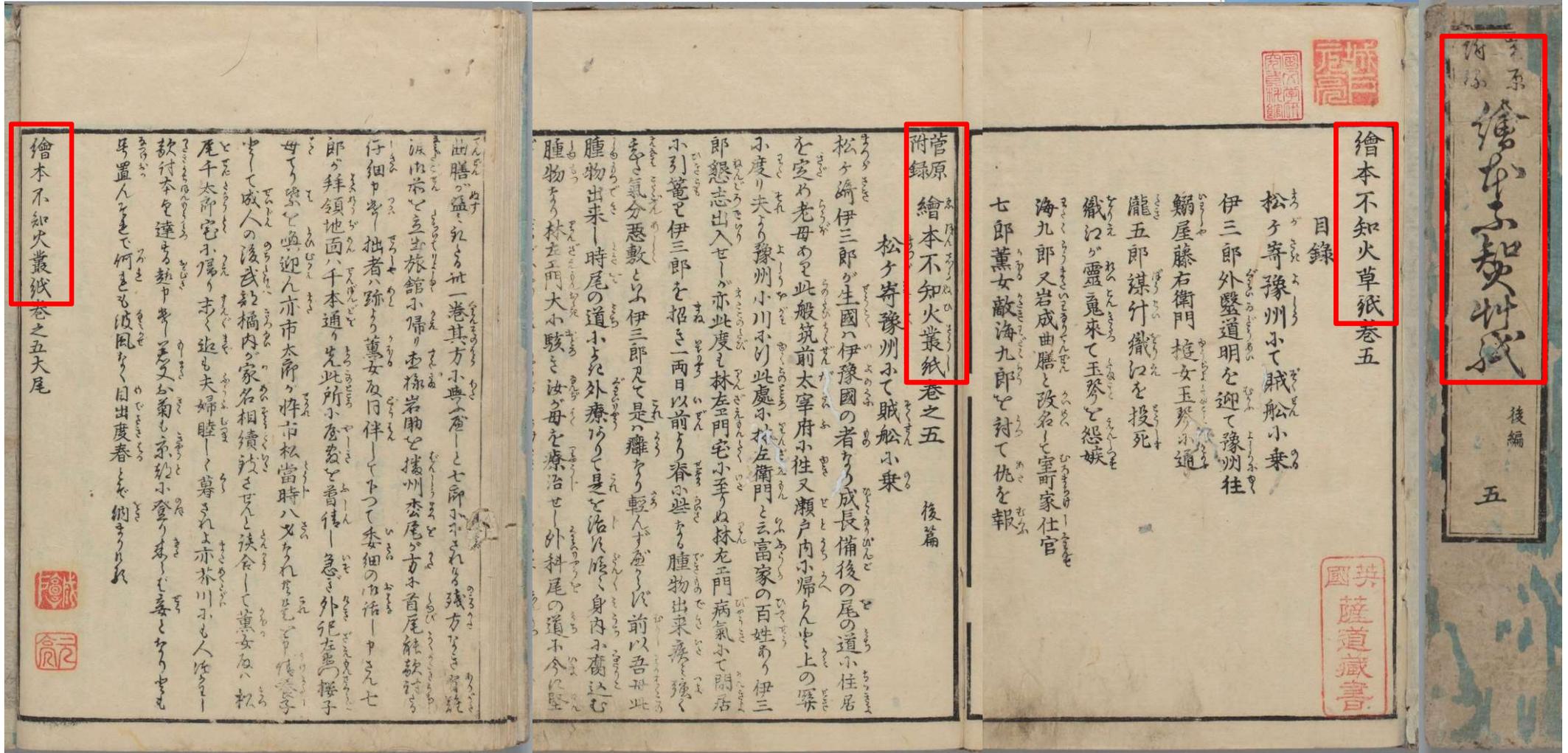
◆ 本文冒頭 (各卷)



解説2.

- 外題と同様に巻首題も各巻によって使用している文字が変わることがある。
- 振り仮名をよく見ると、濁音だったり清音だったり巻によって違うことがある。
- 一文字だけ違う場合には見落とすこともあるので要注意。

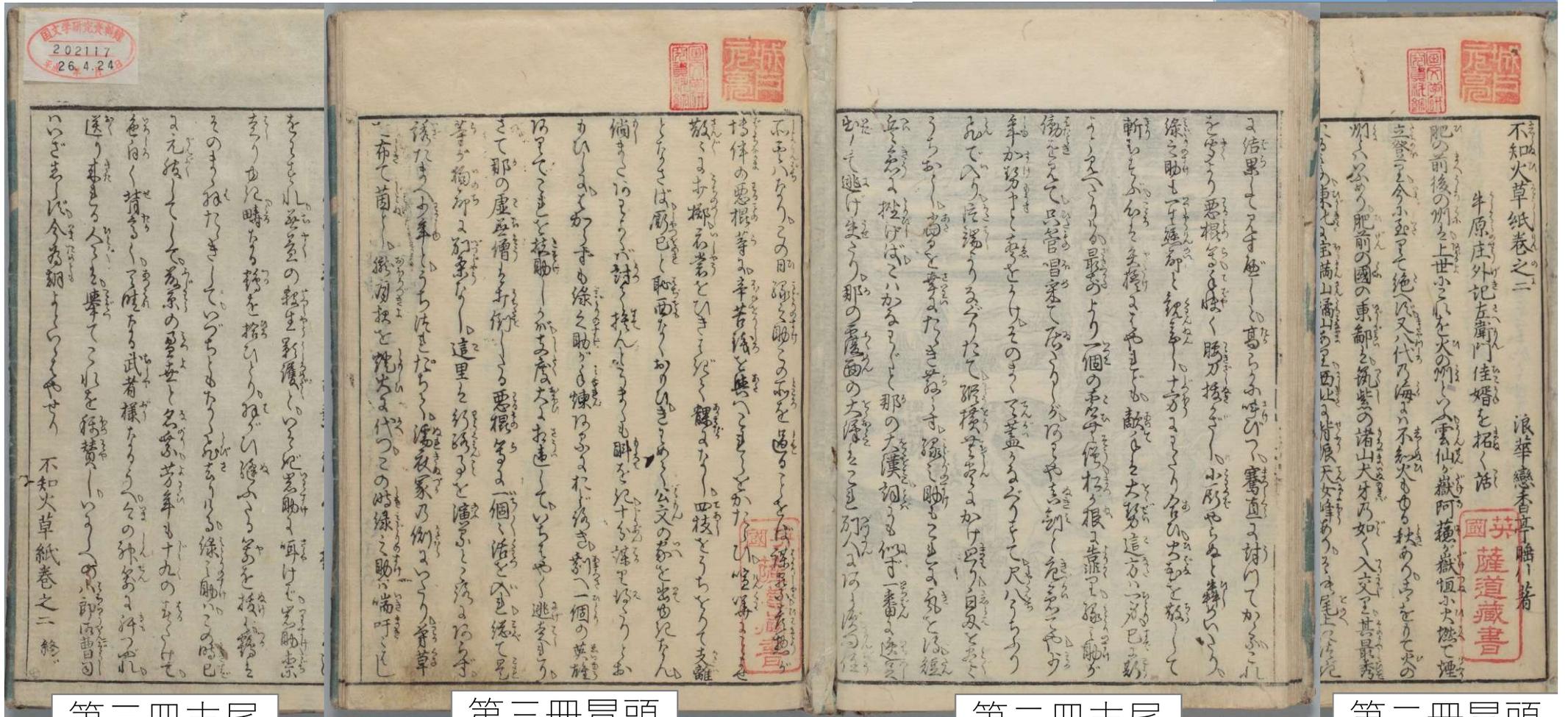
◆ 第十冊目録冒頭・本文冒頭・末尾



解説2 (続き)

- 一冊の資料でも、このように外題・目録第・内題・尾題が全て異なっている場合がある。
- 書名のありそうな場所は一通り確認し、それぞれの書名を書誌情報として記載箇所も含めて採録すること。

◆ 第二冊冒頭・末尾・第三冊冒頭・末尾



第三冊末尾

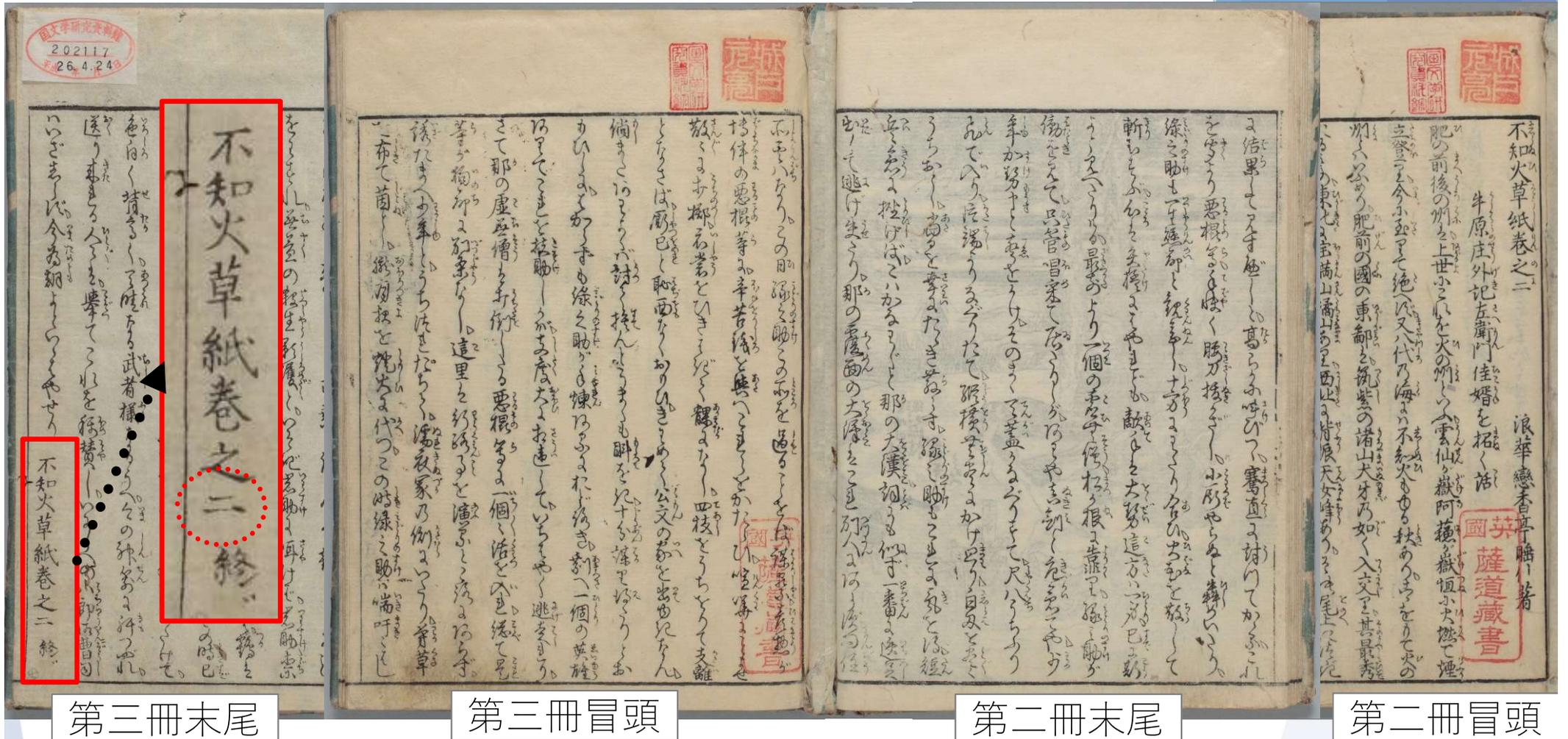
第三冊冒頭

第二冊末尾

第二冊冒頭

例題3.ここから読み取れることは？

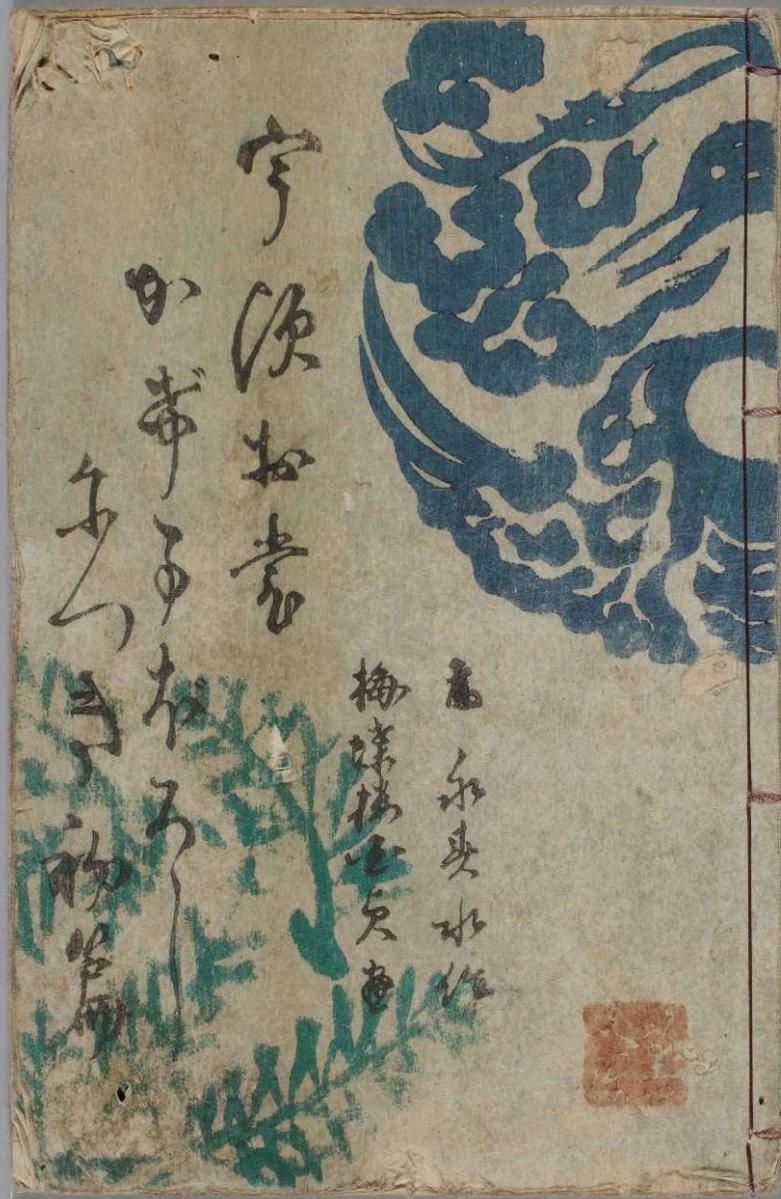
◆ 第二冊末尾・第三冊冒頭・末尾



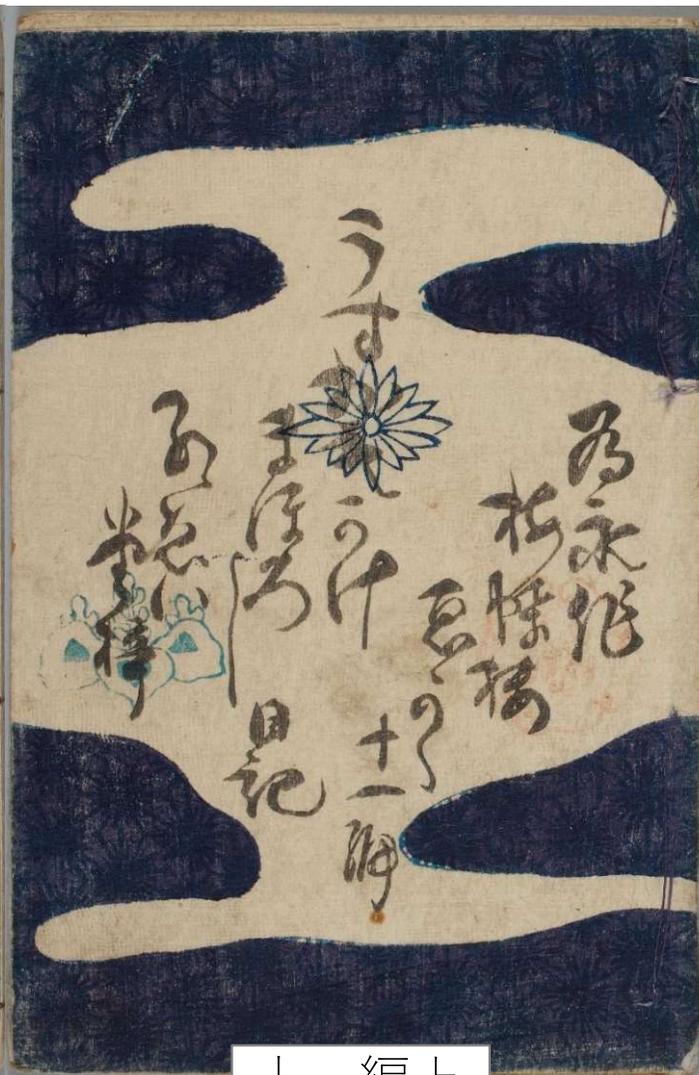
回答3. 不知火草紙卷之二は第二冊と第三冊の2冊にわたっている。

解説3.

- 第二冊の末尾と第三冊冒頭の文章が繋がっている。
- 第三冊末尾に「不知火草紙卷之二終」とある。
- 現代の本は一冊毎に巻次が変わることが殆どだが、和古書ではそうではない場合もある。この資料のように分冊された後半部分は表紙の後にいきなり本文が始まっている場合もある。



◆ 表紙（一部抜粋）

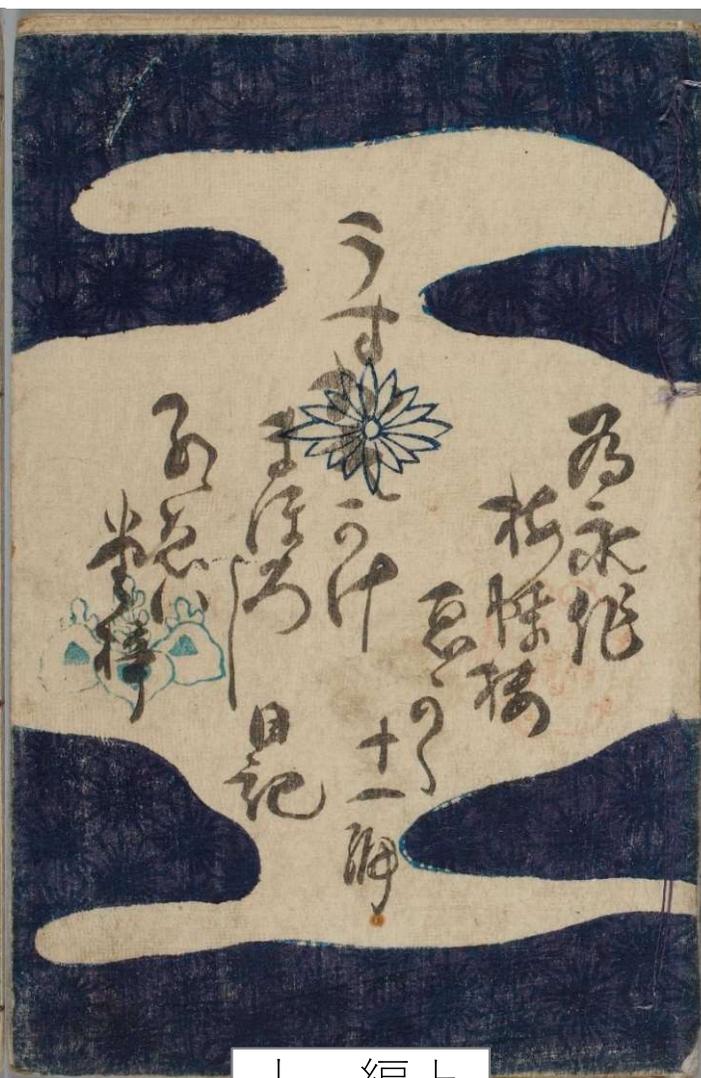


例題4.ここから取ることができる外題は？

◆ 表紙（一部抜粋）



十四編下



十一編上

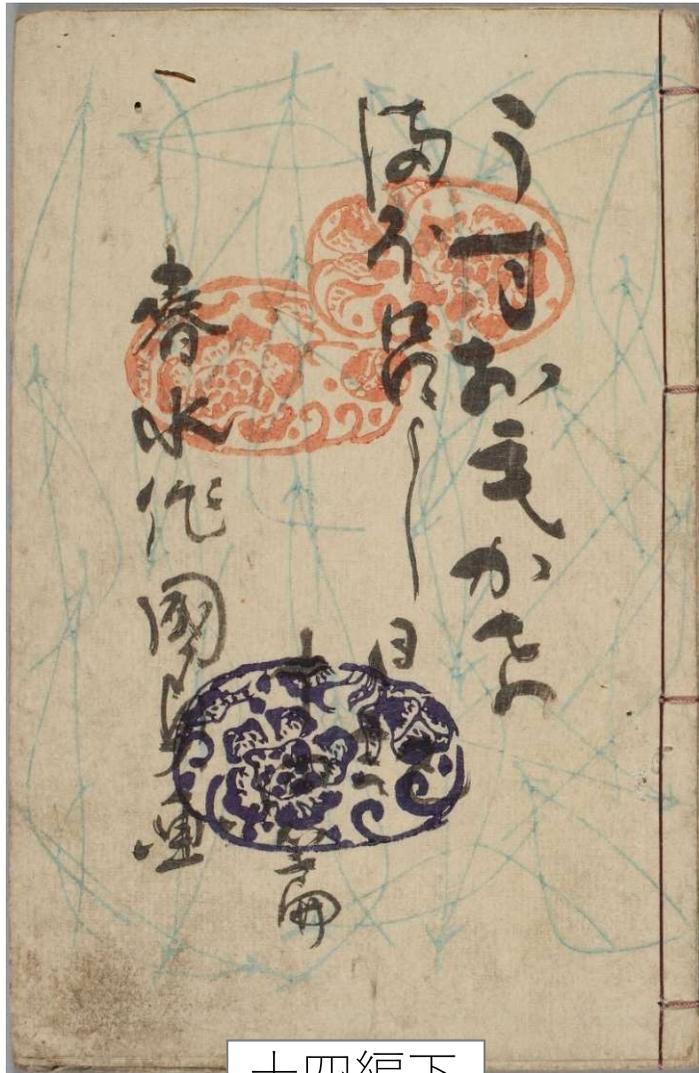


八編上

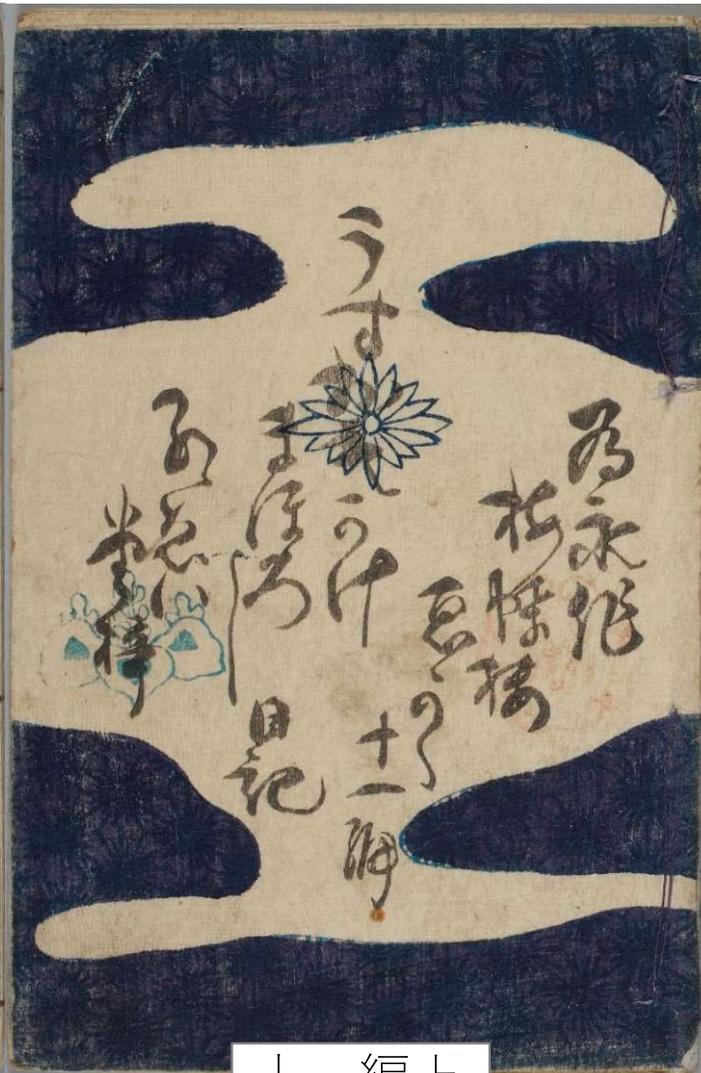
回答4. 以下の1つのみ

- 『うすおもかけまほろし日記（うすおもかけまぼろしにっき）』

◆ 表紙（一部抜粋）



十四編下



十一編上



八編上

解説4.

- これらの外題は一見「宇須お母佳計磨保呂志日記（八編上）」「うすおもかけまほろし日記（十一編上）」「う寸お毛か遣満本呂し日記（十四編下）」と異なった表記に見える。しかし、実際には変体仮名を使ったものであり目録を取るときには現行のかなで取るため、いずれも「うすおもかけまほろし日記」と同じ表記になる。

●現代の図書書誌と特に違う点

■どの場所に、どのように記載されているのかが重要

- 一冊の資料でも、記載されている書名が場所によって異なる場合がある。

※変体仮名は字母が違っていても「かなでとる」と目録上は同じ表記になる。

- 多冊ものでは、同じ場所であっても記載されている書名が巻・冊によって異なる場合がある。

→記載された場所と表記が揃って一つの情報になる。

→同じ書名が使われていればそのことが一つの情報になる。

→書名以外の情報でも、同じ事を違う表記にしていたらそれは情報。

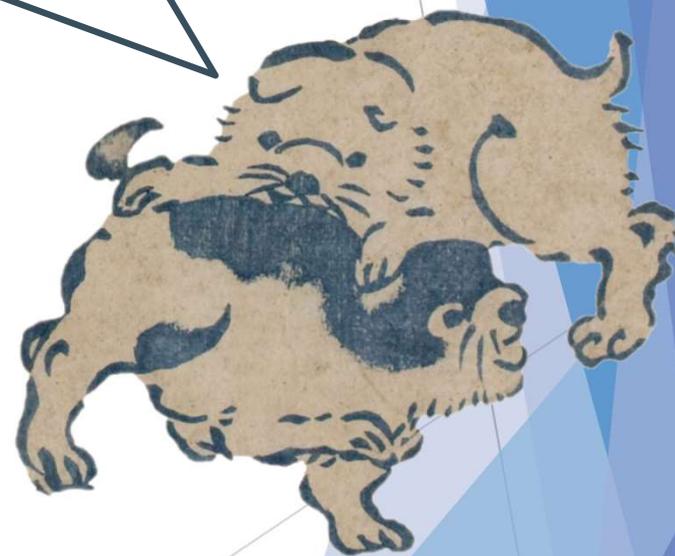
■資料が完成した後の情報も大切

- 誰が持っていたのか、どんな風に今まで伝わってきたのかも情報になる

→蔵書印や過去の所有者による書き込みも出来れば注記で取る。

→経年で傷んだり、装丁が変更されたりしたら、それも情報。

「国文学研究資料館における
和古書目録の作成」は
以上です。



国文学研究資料館 日本古典籍書誌レコード作成要領

第 1 次 2004.12.1

2017.1.5 改

(2011.12 和古書データ使用コード等挿入)

1. 通則	p. 2	3. 6. 1 卷次の記入	15
1. 1 対象となる資料の範囲	2	3. 6. 2 原欠の記入	16
1. 2 データ項目	3	3. 7 書写事項	16
1. 3 情報源	3	3. 7. 1 書写者	16
1. 4 レコード作成の単位	3	3. 7. 2 書写地	17
1. 5 記録の方法	5	3. 7. 3 書写年	17
1. 5. 1 使用文字	5	3. 7. 4 複数の書写事項	17
1. 5. 2 よみの表記	5	3. 8 出版事項	18
1. 5. 3 判読不可能文字および推読文字	5	3. 8. 1 出版者	18
1. 5. 4 補記	5	3. 8. 1. 1 複数の書肆名	18
2. データベースの特徴	p. 5	3. 8. 2 出版地	18
2. 1 著作とのリンク	5	3. 8. 3 出版年	19
2. 1. 1 典拠コントロール	5	3. 8. 3. 1 出版年としての序跋年	19
2. 1. 2 著作とのリンク	6	3. 8. 4 複数の出版事項	19
2. 1. 3 統一書名	6	3. 9 数量	20
2. 1. 4 著作の著者	6	3. 10 形態的事項	20
2. 1. 4. 1 統一著者名	7	3. 10. 1 形態的事項の記入	21
2. 1. 4. 2 作品著者名	7	3. 11 残欠表示	22
2. 2 書誌構造	8	3. 12 叢書巻号表示	22
3. データ記入要領	p. 9	3. 13 注記	22
3. 1 キーワード	9	3. 13. 1 系統注記	23
3. 2 刊・写の別	9	3. 13. 2 著者に関する注記	23
3. 3 標目書名	9	3. 13. 3 出版に関する注記	24
3. 4 記載書名	9	3. 13. 4 書写に関する注記	24
3. 4. 1 記載書名のよみ	9	3. 13. 5 序跋注記	25
3. 4. 2 書名中の区切り記号	10	3. 13. 6 形態注記	25
3. 4. 3 不明な部分のある書名	10	3. 13. 7 奥書・識語注記	26
3. 4. 4 誤記、誤植、誤刻のある書名	10	3. 13. 8 書入れ・校合注記	26
3. 4. 5 記載箇所	10	3. 13. 9 伝来注記	27
3. 4. 6 複数の書名	11	3. 13. 10 叢書注記	27
3. 4. 7 叢書・合綴等の資料全体の書名	12	3. 13. 11 一般注記	27
3. 5 記載著者名	12	3. 13. 12 備考	28
3. 5. 1 著者名の記入	13	3. 14 業務メモ	28
3. 5. 2 著者役割	13	付表 1 和古書目録書誌レコードデータ項目	29
3. 5. 2. 1 複数の役割表示	14	付表 2 和古書目録書誌レコードデータ採録情報源	30
3. 5. 3 複数の著者	14	付表 3 叢書・合綴等のデータ項目ふり分け表	31
3. 5. 3. 1 複数の著者の省略	14	付表 4 叢書・合綴等のデータ構造及びデータの作成と表示	32
3. 5. 4 著者の推定	14	【付録】 和古書メディア情報の記入について	33
3. 5. 5 部編等の注記	14		
3. 5. 6 国名・王朝名	15		
3. 6 巻次	15		

1. 通則

この作成要領は、当館が所蔵する和古書の書誌事項を採録し、日本古典籍総合目録データベースの書誌ファイルの入力データ（以下和古書書誌レコードと呼ぶ）を作成するためのものである。以下、和古書書誌レコード作成の対象となる資料の範囲および記述に関する一般原則を規定する。

1. 1 対象となる資料の範囲

和古書書誌レコードは次に示した範囲の資料について作成する。

- (1) 原則として、慶応4年以前に成立した著作の古典籍（写本・版本）を対象とする。
- (2) 著作の成立年代が不明であっても、慶応4年以前と考えられるもの、また著作の一部がそれまでに成立しているもの、例えば、幕末の刊行で明治に完結したものは対象とする。
- (3) 上記(1)(2)に該当する著作に対応する資料のうち、和古書は明治期の整版・木活字本等および明治以降に書写した写本（新写本）についても対象とする。なお、明治期の近代的印刷技法・出版によって大量出版されたもの（活版・複製本等）は含まない。
- (4) 日本人の著作は日本語以外でも含む。ただし、日本以外で改修・注・訳等を加えて出版したものは対象としない。日本在住の外国人による著作は、日本において日本語で出版された場合は含む。
- (5) 原則として、書籍を対象とするが、その他の特殊形態資料もできる限り含める。

和古書目録データベースの資料の範囲

- (1) 原則として、和古書は慶応4年以前、漢籍（中国・朝鮮の古書）は1912年以前に成立した著作の古典籍（写本・版本）を対象とする。
- (2) 著作の成立年代が不明であっても、和古書は慶応4年以前、漢籍（中国・朝鮮の古書）は1912年以前と考えられるもの、また著作の一部がそれまでに成立しているもの、例えば、幕末の刊行で明治に完結したものは対象とする。
- (3) 上記(1)(2)に該当する著作に対応する資料のうち、和古書および和刻本漢籍は明治期の整版・木活字本等および明治以降に書写した写本（新写本）について対象とする。また、漢籍は1912年以降の整版本・木活字本等および鈔本についても対象とする。なお、明治期、清朝末期の近代的印刷技法・出版によって大量出版されたもの（活版・複製本等）は含まない。
(漢籍について追加、(4)(5)は上記と同)

1. 2 データ項目

和古書書誌レコードのデータ項目は付表1「和古書目録書誌レコードデータ項目」のとおりである。

1. 3 情報源

各データ項目の情報源は付表2「和古書目録書誌レコードデータ採録情報源」のとおりである。

1. 4 レコード作成の単位

和古書書誌レコードの作成は、原則として書誌的に他と区別されるひとまとまりの資料（個別資料）ごとに行う。ただし、ひとまとまりの資料の中に複数の著作に対応する書誌が含まれる場合は、全体に対応するレコードに加え、各々の書誌についてもレコードを作成する。

*以下の書誌構造で示す。

叢書	複数の著作を総合して収録した著作で、全体としての書名を有する
合写	複数の著作が一つにまとめて書写されたもの 書写の時期は同時または近い時期とする 紙背文書のように、表裏の書写時期が異なる場合は、合綴扱いとする
合刻	複数の著作が一つにまとめて刊行されたもの
合綴	もともと別のまとまりの資料が、後に綴じあわされたもの

- (1) ひとまとまりの資料が1つの著作に対応している場合、そのまとまり全体をレコード作成の単位とする。

〔例〕 出雲国風土記
・文化3年刊 2冊
(この場合、1件のレコード作成を行う)

1つの著作に対応する資料が複数ある場合は、その各々をレコード作成の単位とする。

〔例〕 古今和歌集
・天明3年写 1冊
・万治3年刊 6冊
(この場合、2件のレコード作成を行う)

なお、出版年、書肆等から同版と考えられるものが複数ある場合でも、その各々をレコード作成の単位とする。

〔例〕 徒然草

・寛文10年刊 2冊 2部

(この場合、2件のレコード作成を行う)

(2) 叢書の場合、叢書全体と、その細目の各々をレコード作成の単位とする。

〔例〕 三代集

古今和歌集・後撰和歌集・拾遺和歌集

・嘉永6年刊 6冊

(この場合、叢書全体に対する1件のレコード(「親」レコード)作成と、その細目の各々に対する3件のレコード(「子」レコード)作成を行う)

なお、叢書の端本は叢書扱いとはせず、単独または合刻・合写の扱いとする。叢書についての情報は叢書注記に記録する。

(3) 合写・合刻の場合、そのひとまとまりの資料全体と、その中に含まれる複数の著作に対応する各々の書誌をレコード作成の単位とする。

〔例〕 消息往来と消息往来講釈の合刻

・刊 1冊

(この場合、資料全体に対する1件のレコード(「親」レコード)作成と、2件のレコード(「子」レコード)作成を行う)

〔例〕 古今切紙、伊勢物語切紙、伊勢物語之髓腦の合写

・文久3年写 1冊

(この場合、資料全体に対する1件のレコード(「親」レコード)作成と、3件のレコード(「子」レコード)作成を行う)

(4) もともと別のまとまりの資料が綴じ合わされて、ひとまとまりとなった合綴の場合にも、その資料全体と、その中に含まれる複数の著作に対応する各々の書誌をレコード作成の単位とする。

〔例〕 万葉見安と万葉集註釈の合綴

・写 1冊

(この場合、資料全体に対する1件のレコード(「親」レコード)作成と、2件のレコード(「子」レコード)作成を行う)

また、資料により、これらの組み合わせが生じることがある(叢書内合刻・合綴内合写)

等)。叢書・合綴等の場合の具体的なデータの採り方については、付表3「叢書・合綴等のデータ項目振り分け表」および付表4「叢書・合綴等の書誌振り分け表」および付表4「叢書・合綴等のデータ構造およびレコードの作成と表示」を参照すること。

1. 5 記録の方法

固有名詞（書名、人名、書肆名等）・原文から引用した文は、原則として記述対象に表示されているままに記録する。それ以外は、情報源の文字にかかわらず、常用漢字等政令漢字・算用数字に統一して記入する。

1. 5. 1 使用文字

原則として、資料に記載されているとおりに記入する。ただし、入力に際しては、システムで取り扱えない文字はできる限り近い文字に置き換える。変体仮名は平仮名に改める。万葉仮名はそのまま表記する。くり返しを表すおどり字（「ヽ」「ヅ」「ㄣ」「ヅ」「ㄥ」「々」など）もそのまま記録するが、2文字分以上にわたる長さの記号など、転記することが不可能な場合は、該当する文字と同じ文字に置き換える。なお、数字に関しては、巻次の記入（3. 6. 1）を参照のこと。

1. 5. 2 よみの表記

よみの表記は、現代仮名遣い、平仮名表記とする。

1. 5. 3 判読不可能文字および推読文字

書名の記入および注記で原文から引用文を転記する場合において、破損その他の理由で判読できない文字は、四角（□）を該当文字数分記入する。原則として文字の推読は行わない。ただし、判読不能文字に対応するよみについては、推読して記入する（記載書名のよみ（3. 4. 1）、不明な部分のある書名（3. 4. 3）参照）。

1. 5. 4 補記

原則として補記はしない。ただし、著者役割の記入において、資料に記載されていない情報を補って記録する場合に限り、その事実を示すため、当該事項を角がっこ（〔〕）に入れる（著者役割（3. 5. 2）参照）。

2. データベースの特徴

2. 1 著作とのリンク

2. 1. 1 典拠コントロール

多様な記載書名を持つ和古書を識別し、同定を行い、また同名異書を判断するためには、著作典拠コントロールが有効である。和古書書誌レコードは、書誌に関する記述のほかに、対応する著作情報を付加することで著作ファイルとリンクし、典拠コントロールを行って

いる。ただし、本来別の著作として成立したものが後人によってひとまとまりとなった合刻・合写・合綴の資料については、資料全体に対する「親」レコードと著作のリンク付けを行わない。

典拠コントロールのため、統合古典籍データベースには、書誌ファイルの他に、著作ファイル、著者ファイルが用意されている。

著作および著者レコード作成の基準と作成方法および修正についての詳細は、「統合古典籍データベース著作データ作成マニュアル」および「同著者データ作成マニュアル」を参照すること。

なお、著者レコードは著作レコードとリンクして著作データの著者に関する情報となり、書誌レコードとは直接リンクしない。

2. 1. 2 著作とのリンク

日本古典籍総合目録データベースの著作ファイルに、当該書誌が対応する著作が存在する場合、書誌データに、その著作の情報を付加し、リンク付けを行う。対応する著作がない場合は、新たに著作レコードを作成したのち、その著作の情報を付加し、リンク付けをする。既存の著作レコードのデータを追加、訂正してリンク付けをする場合もある。

著作情報の付加は、著作の WID を記入することにより行う。

2. 1. 3 統一書名

著作データには、著作の代表的な名称である統一書名と別書名（統一書名とはしなかった別の書名）、著者およびその他の識別情報を収録する。

統一書名を決定することにより、ある著作が、さまざまな書名で刊行あるいは書写されている場合にも、統一された書名のもとにその各々の書誌データを集中させ、検索等の便宜をはかることができる。

既存のファイルに該当する著作がない場合は、著作データを新たに作成し、統一書名を決定する。

統一書名は、原則として原本にある形を資料本体から採用するが、箱・帙等にのみ書名がある場合はそこから採用してもよい。原本にその著作の書名が複数ある場合には、代表書名としてより適切な書名を選択する。

原本あるいは書誌データ中の書名が統一書名として適切でない場合は、適切な形に直して記入することができる。また、既に通用している書名が参考資料にあれば、それを優先して用いてもよい。可能な限り参考資料等を調査し、統一書名を決定する。また、ジャンルなどにより、書名の形の統一をはかる場合もある。

なお、記載されている書名から採用する場合の情報源の選択に当たっては、時代、ジャンルあるいは造本等の事情を考慮する。

資料中のどこにも書名の表示がないときは、簡潔で説明的な書名を決定する。

2. 1. 4 著作の著者

著作中の著者に関する情報は、著作著者関係として、著作に記入する。

著者は著作の知的もしくは芸術的内容の創造、ないしは資料への具現化に責任を有するか、寄与するところがある個人ないしは団体の名称等を著作データに記入する。著者の範囲は、直接的な著作者、すなわち本文の著者とか編さん者、画者などのほか、間接的な原作者、編者、訳者、脚色者なども含む。また、その著作の成立過程からみてそれらの間に一定の順序があれば、その順により記入する。原著者・校訂者、原著者・訳者、著者・編者の順等である。

なお、ここに記入するのは、著作レベルの著者であり、特定の本・版に関わった画者・校訂者等は、原則として含まない。それらを含む資料に記載されている著者名は書誌データに記入する。

2. 1. 4. 1 統一著者名

著者データには、著者の代表的な名称である統一著者名と別称（統一著者名とはしなかった別の著者名）、およびその他の識別情報を収録する。

統一著者名を決定することにより、ある著者が、さまざまな名称で著作を執筆等している場合にも、統一された著者名のもとにその各々の著作データを集中させ、検索等の便宜をはかることができる。

既存のファイルに該当する著者がいない場合は、著者データを新たに作成し、統一著者名を決定する。

原則として、著者の主たる活動領域・職業・身分等を考慮した上で、最も通用している名称を統一著者名として採用する。その選定にあたっては、とくに参考資料において多用されている形、あるいは資料上の表示に多用されている形（多くの著作で一致している形）について考慮する。

絵師・歌舞伎役者等のように数代にわたって同一名称を襲名する場合は、世系まで含めた名称を採用する。世系は「漢数字+世」とし、初世は一世に置き換える。

なお、統一著者名として採用しなかったその他の名称のうち、参照項目として必要なものについては別称として採用する。

2. 1. 4. 2 作品著者名

著作の著者を認定し、著作著者関係にその作品著者名を記入する。作品著者名は当該著作を執筆する等の際に用いられた名称である。作品著者名の決定は、原本にある形をできる限り尊重し、要素の逆転等もできる限り忠実に再現するが、字体は支障のない範囲で常用漢字等政令漢字に統一する。

作品著者名は、統一著者名・別称の中から一致するものを選ぶ。記入は、著者データのAIDおよび別称番号により記入する。その著者はあっても該当する別称がない場合は、新たに別称として登録し、その別称番号を用いる。

著者として認定したが、原本等にその記述がないなど作品著者名が明確でない場合は、統一著者名を記入する。そのジャンルや時代などにより推定して記入することはしない。

その著者の名称以外の下記のような要素が含まれている場合は、名前の一部として切り離せない場合を除いて、原則として著者名からははずす。

これらの要素は必要に応じて著者の識別事項として著者レコードに入力する。

国名・王朝名（外国人の場合）

関連地名（出身地・居住地等）

関連人物（家族・家系関係、師弟関係等）

所属（勤務先・寺社名・藩・役所名等）

学問・諸道・諸芸の流派

宗派

官職名（別称や活動領域・職業・身分としなかったもの）

2. 2 書誌構造

資料の書誌構造（書誌レコード間の関係）を以下から選択し記入する。

単独 … ひとまとまりの資料が1つの著作に対応するレコード、または、ひとまとまりの資料の中に複数の著作が含まれる場合の各々の著作に対応するレコード（「子」レコード）であることを表す。

叢書 … 叢書の場合の叢書全体に対応するレコード（「親」レコード）であることを表す。

合綴（および合綴扱い*） … 合綴および合綴扱いの場合の資料全体に対応するレコード（「親」レコード）であることを表す。

合刻・合写 … 合刻、合写の場合の資料全体に対応する書誌レコード（「親」レコード）であることを表す。また、刊写の別との組み合わせで資料が合刻か合写かを表す。

叢書または合綴・合写・合刻の場合は、叢書とその細目、またはその資料全体と合綴等されているものを、上記の書誌構造と個々の書誌レコード番号で相互に関連付けて、資料のまとまりを表す。書誌構造が叢書、合綴、および合刻・合写の場合は、「親」レコードにその「子」の書誌レコード番号を、「子」レコードには「親」の書誌レコード番号を記入し、リンク付けする。叢書・合綴等の中にさらに下位レベルの叢書・合綴等がある場合は、それらを組み合わせる。

* 複数の著作に対応する資料が、形態上は綴じ合わされていなくても、同じ箱や帙に入る、同じに改装されている、後人により合題が付けられているなど、ひとまとまりの資料として伝来したものについては、そのまとまりを表すため、便宜上の合綴とみなし、合綴と同様に扱う。また、記述対象の紙背に著作に対応するものがある場合も、紙表と紙背をひとまとまりとして合綴と同様に扱う。

和古書書誌データ使用コード

単	:	単独
双	:	叢書
綴	:	合綴・合綴扱い
合	:	合刻・合写

3. データ記入要領

3. 1 キーワード

冊子目録作成等、あるテーマ（分類・主題・時代など）に沿って、統合古典籍データベース中の和古書書誌レコードを抽出する際などに、任意のキーワード表によってキーワード等を記入することができる。なお、著作にも識別情報のひとつとしてキーワード（分類）がある。

3. 2 刊・写の別

資料が印刷によるか書写によるかを以下から選択し記入する。

刊 印刷による
写 書写による
混 刊写入り混じり

和古書書誌データ使用コード

刊 : 印刷による
写 : 書写による
混 : 刊写入り混じり

なお、刊本が部分的に補写されている場合、また、一組の刊本のうち部分的に写本で補っている場合には、「混」ではなく「刊」とする。ただし、詳細は書写に関する注記（3. 1 3. 4）に記入する。一方、写本に刊本による補いがある場合にも同様に扱い、その詳細を出版に関する注記（3. 1 3. 3）に記入する。

3. 3 標目書名

標目書名は本としての資料の代表書名である。原則として、対応する著作の統一書名を資料の代表書名とみなすこととし、標目書名は記入しない。

3. 4 記載書名

原則として資料に記載されている書名をその種別（記載箇所）とともに、すべて記入する。表記・字体ともそのまま記入する。ここに記入する書名は、レコード作成の単位に対応するものとする。すなわち、叢書、合綴等の場合は、「親」レコードには叢書名や合題等を記入し、「子」レコードには各々の細目の書名を記入する（具体的なデータの採り方については付表3「叢書・合綴等のデータ項目振り分け表」を参照すること）。

なお、書名とともに記載されている巻次については、原則として記入しない。

3. 4. 1 記載書名のよみ

よみは既存の書誌データ、著作ファイル、その他の参考資料等を典拠として決定する。ただし、資料（主として刊本・写本）の記載書名に振り仮名があり、通行のよみと異なる場合は、そのよみを採用してもよい。このとき、一般注記（2. 2 1）に「書名よみは振

り仮名による」等記入する。典拠等がない場合は推定して記入する。推定による記入の場合も、よみに角括弧〔 〕を付けて補記する等はしない。

書名中の年月日等に使用されている漢数字は、算用数字ではなくそのよみを記入する。

3. 4. 2 書名中の区切り記号

情報源で書名の本体と角書・冠称・副書名・部編名等の部分が区別して記載されている場合は、スラッシュ（／）で区切記入する。

〔例〕 歌合／寛政三年九月十三夜

うたあわせ／かんせいさんねんくがつじゅうさんや

3. 4. 3 不明な部分のある書名

書名に、破損、摩滅等で判読できない文字がある場合、その箇所は四角（□）を当該文字数記入する。よみは推定し記入する。

〔例〕 唐人言□

とうじんことば

ただし、記載されていても一字も判読できない場合や、大部分が判読不能でよみが推定できない場合は記入せず、一般注記（3. 1 3. 1 1）に「表紙に書名あり（判読不能）」等と記入する。

3. 4. 4 誤記、誤植、誤刻のある書名

原則として、誤記、誤植、誤刻がある場合も、そのまま記入する。対応するよみは正しいものを記入する。ただし、著作の判断を誤る等の著しい誤りの場合はここには記入せず、一般注記（3. 1 3. 1 1）に記入する。

3. 4. 5 記載箇所

資料中の記載書名は、下記の箇所から採録する。採録は可能な限りこの順に従う。

なお、書名の記された箇所は原則として現状による。改装されて資料中の記載箇所が移ったような場合は、必要に応じてその旨を形態注記（3. 1 3. 6）に記入する。

和古書目録書誌データ使用コード

内	卷首（内題）
目	目録冒頭（目録題）
目中	目録中に記された細目
扉	扉（扉題）
扉裏	扉裏（扉裏題）
尾	本文末尾（尾題）
見	表紙見返し（見返し題）
裏見	裏表紙の見返し
外	表紙および題簽（外題）
序首	序文冒頭（序首題）
跋首	跋文冒頭
凡	凡例冒頭
刊	刊記中
奥中	奥書中
序中	序文中
跋中	跋文中
裏表	裏表紙
袋	近世版本等の書袋
柱	版心（柱題・柱刻題）
帙	帙ならびに箱等の容器
X	その他（耳題、欄外題、喉に記された書名、 書根字、極札・極書に記された書名 等）

〔 注意事項 〕

- ・外 刊本の場合の外題が、後補の書き題簽、書き外題の場合は、その旨を形態注記（2. 2 1）に記入する。
- ・柱 版心の書名については、簡略化され、他の記載書名の一部であるような表記の場合は、省略することができる。
- ・帙・袋 帙・箱・袋等については、最近作成されたもので、書名が他の記載書名とほぼ同様の表記である場合は、省略することができる。また、当館で作成したものの場合にはそこに記された書名については採録しない。
- ・X 「その他」の書名については、他に記載書名がない場合などに必要に応じて記入し、一般注記（3. 1 3. 1 1）にその記載箇所を「記載書名は耳題」等と記入する。

3. 4. 6 複数の書名

複数の記載書名がある場合、原則としてすべて記入する。

複数の異なる書名が記されている場合は、記載箇所の異同に関わらず各々記入する。

- 〔例〕 1 熊野紀行
くまのきこう
内
- 2 遠江の道の記
とおとうみのみちのき
内
- 3 熊野の記
くまののき
尾

同一書名が異なる箇所記されている場合は、中黒（・）で区切って記載箇所を列記する。

- 〔例〕 後撰和歌集標注
ごせんわかしゅうひょうちゅう
外・序首

3. 4. 7 叢書・合綴等の資料全体の書名

叢書・合綴等の資料全体に関わる書名（合題）は「親」レコードに、記載箇所とともに記入する。

- 〔例〕 三女譚 (おあん物語・おきく物語・妙海語の合写本の合題の例)
さんじょだん
外

合題がない場合、表紙・扉等に細目の書名が列記されていれば、スラッシュ（／）で区切って記載箇所とともに記入する。書名が3つまでの場合はそのまま記入する。4つ以上の場合、ここには記入せず、一般注記（3. 1 3. 1 1）に記載箇所とともに細目書名がある旨記入することができる。

- 〔例〕 古今集作者／後撰集作者／拾遺集作者
こきんしゅうさくしゃ／ごせんしゅうさくしゃ／しゅういしゅうさくしゃ
扉

3. 5 記載著者名

資料に記載されている著者名を、表記・字体ともそのまま記入する。また、その著者の役割（著作への関与のあり方）や、関与した部編についてもそのままの表記（ただし字体は新字体とする）で記入する。広く画者あるいは校注・校訂者のように著作の成立やその

資料の製作に副次的に関わった人物も含める。

異なる箇所それぞれ複数の著者名が記載されている場合、原則として巻頭から著者名の一揃いを採録する。ただし、時代・分野等を考慮して、最も通用している著者名が巻頭以外に記載されているような場合（合巻の表紙の画者名など）はそれを採録することができる。また、必要に応じて他の記載箇所から未採録の著者名を採録することができる。その場合、記載箇所を著者に関する注記に記入してもよい。（著者に関する注記（3. 1 3. 2）参照）。

1人の著者が複数の役割をもち、役割により異なった著者名が記載されている場合は、役割ごとに著者名を記入する（複数の役割表示（3. 5. 2. 1）参照）。

また、同じ役割の著者が複数ある場合は、必要に応じて幾人かを挙げて他を省略することができる（複数の著者の省略（3. 5. 3. 1）参照）。

3. 5. 1 著者名の記入

著者名の表記は、姓・名・号・世系等の要素ごとにスラッシュ（/）で区切って記入する。ただし、「暁鐘成」「元木綱」のように、姓・名のような形に似せて作られた戯名・号などは、区切らず続けて記入する。尊称等は「醍醐/天皇」「円光/大師」「菊亭/主人」「東光堂/先生」のように区切って記入する。要素の区切り等についての詳細は、「統合古典籍データベース著者データ作成マニュアル」の付則2「著者名要素区切りマニュアル」を参照すること。居住地・藩名や役職名等の肩書、所属団体名などは原則として著者名要素としない。ただし、前出の著者との続柄等が識別のために必要となる場合は著者名要素として記入する。

よみは記入しない。

〔例〕 紀/貫之

〔例〕 菅原/孝標/女

〔例〕 源/之熙/君績
男/修/士業

3. 5. 2 著者役割

著者の役割は、原則として、資料に記載されているものを著者名のあとにそのまま記入する。ただし、旧字体で記載されている場合は新字体に置き換える。

〔例〕 平/春海 評

なお、同じ内容の役割が部所により異なった表記で記載されている場合（例えば、見返しに「編」巻頭に「編輯」刊記に「編纂」など）は、採録した著者名とともに記載されている表記を選択し記入する。

役割が記載されていない場合は記入しない。ただし、他の著者の役割と異なる場合など、役割を明記する必要がある場合は、適切な役割を角がっこ（〔 〕）に入れて補記する。

〔例〕 兼載

〔例〕 宗長 [判]

3. 5. 2. 1 複数の役割表示

1つの著者名に対して複数の役割の記載がある場合は中黒（・）で区切り、役割表示を繰り返す。

〔例〕 十返舎／一九 著・画

ただし、1人の著者が複数の役割をもち、役割により異なった著者名が記載されている場合は、複数の著者（3. 5. 3）と同様に各々別に記入する。

〔例〕 山東／京傳 作

北尾／政演 画

3. 5. 3 複数の著者

著者を2人以上記入する場合は、同じ役割表記であっても各々の著者に役割を記入する。

〔例〕 式亭／三馬 編

歌川／豊國 画

歌川／豊廣 画

3. 5. 3. 1 複数の著者の省略

同じ役割の著者が複数記載されている場合は、記載順もしくは主要な3人を採録して他を省略することができる。その場合、役割表示の前に「等」を記入する。ただし、場合により省略しない（4人の句集等）。

〔例〕 六樹園大人

浅草庵大人

鈍々亭大人 等 撰

3. 5. 4 著者の推定

著者名とともに著者が言い伝えによることを示す「伝」等の記載がある場合は、役割と共に「伝」と記入する。

〔例〕 藤原／定家 編 伝

3. 5. 5 部編等の注記

資料が複数の部編等に分れていて、各々に異なる著者名が記載されている場合は、著者名のあとに該当する部編名等を記入する。1つの著者名ごとに記入することとし、同一部編内に複数の著者がある場合は、各々の著者名に記入する。

部編の数字、区切り記号は、巻次の記入（3. 6. 1）で示す方法で記入する。

〔例〕	柳川／重信	画	初～六編
	溪斎／英泉	画	初～六編
	歌川／國直	画	七～九編

また、1人の著者が部編により異なった著者名で記載されている場合は、部編ごとに著者名、役割等を記入する。

〔例〕	一陽斎／豊國	画	初編
	香蝶樓／國貞	画	二編

なお、合巻等で多数の部編があり、それぞれに複数の組み合わせの著者名が記載される等、記入が繁雑になる場合には、より多くの部編に共通する著者名、役割等の一揃い、もしくは、最初の部編に記載されている著者名、役割等の一揃いを部編名等とともに採録し、他の部編については、必要に応じて著者に関する注記（3. 1 3. 2）に記入してもよい。

3. 5. 6 国名・王朝名

著者名（外国人）に国名（蘭・英等）、中国・朝鮮の王朝名（唐・清等）が付されている場合は国名、王朝名を丸がっこ（（ ））に入れ、著者名の前に記入する。表記は記載されているまま、字体は新字体とする。

〔例〕	（清）／吳／清鎮	撰
-----	----------	---

3. 6 巻次

資料から巻次を記入する。判断のつく限り、冊数とは区別し、内容としての巻数を巻次で記入する。原則として完本の場合に記入し、残欠がある場合はここには記入しない。残欠がある場合は、残欠本の巻数表示の規定（3. 1 1）により記入する。

3. 6. 1 巻次の記入

数字については、巻次を示す場合は、漢数字とする。また、「10」は「一〇」、「250」は「二五〇」とし、十、百、千の字は使用しない。

このとき、区切り記号は、次のように統一する。

- ①続く場合は波ダッシュ（～）、途切れる場合は中黒（・）を用いる。ただし、二つの数字が続く場合は「一・二」とし、「一～二」としない。
- ②「上中下」、「乾坤」などは間に区切り記号を入れない。
- ③「前編一～三」「後編一～三」などの間は、カンマ（,）で区切る。

〔例〕 卷之一・二

第一～七輯

初編卷一～三，二編卷一～三，三編卷一～四

卷一～一〇，附録

上中下

仁義礼智信

また、注記等で、全体でいくつあるかを示すときは算用数字を使用する。

〔例〕 全八卷 → 8 卷

この記入方法については、和古書の書誌レコード中に記入する他の巻数および部編等の記入についても適用する。

3. 6. 2 原欠本の記入

原欠（現存の伝本がない部分）の場合には、完本と判断し、残欠表示ではなく、巻次を含めて記入する。残欠の状態を丸がっこ（（ ））に入れ、完本の巻次に続けて記入する。

〔例〕 卷一～三一（卷八・一八・二一原欠）

（注） 3 1 卷中、3 卷（卷八・一八・二一）原欠の場合

3. 7 書写事項

書写に関する下記の事項を記入する。最終書写記であると判断できる場合にのみ記入する。奥書等に記載があっても、その資料の実際の書写に関するものか判断がつかない場合、また転写本の場合の以前の書写に関する事項等はここには記入せず、書写に関する注記（3. 1 3. 4）に記入する。記入に際しては、判断が必要になるので十分な注意を要する。

3. 7. 1 書写者

書写者の記載があれば、表記・字体ともそのまま記入する。記載著者名（3. 5）と同様に要素に分け、スラッシュ（／）で区切り記入する。ただし、よみおよび役割表示は記入しない。

〔例〕 西下／經一

書写者は資料の記載をそのまま記入する。参考資料等によって、書写者についてより明らかな情報がわかれば、書写に関する注記（3. 1 3. 4）に記入する。

〔例〕 通邦

(書写に関する注記に「稲葉通邦写」と記入)

3. 7. 2 書写地

記載された地名が書写地(製作地)であることが明らかな場合は、書写者名のあとに山がっこ(〈〉)に入れて表記・字体ともそのまま記入する。

原則として都市名を転記する。都市名がなく町村名等で記載されている場合は、当時の都市名に置き換えて記入する(三都に置き換える場合は、「京」「大坂」「江戸」の表記に統一する)。都市名で記入できない場合は、国名、郡名、村名等をそのまま記入してもよい。

〔例〕 本居／宣長〈松阪〉

3. 7. 3 書写年

書写年の記載があれば記入する。書写年が元号と年数の形で記されている場合は、元号と算用数字の形に統一する。その場合、元号の字体は新字体に統一し、「年」は省略し、「元年」は「1」とする。

〔例〕 寛政1

〔例〕 正徳3

年次が元号と十干十二支だけで記されている場合は、相当する年数に置き換えて記入する。

〔例〕 「寛永癸酉年」→ 寛永10

元号がなく年次(年数または十干十二支)だけで記されている場合は書写に関する注記(3. 1 3. 4)に記入する。その際、参考資料等から元号や年数が推定できればそれを付記し記入する。

2年以上にわたって書写された場合は、最初の年と最後の年を「～」でつないで記入する。

〔例〕 文政5～文政6

書写記等の記載はなくても、書写年やおおよその書写年代が資料、その他参考資料等から推定できる場合は、ここには記入せず書写に関する注記(3. 1 3. 4)に記入する。

3. 7. 4 複数の書写事項

補写などにより、複数の書写事項がある場合は、これをすべて記入することができる。その際、各々の部編名等を記入する。部編名中の数字、区切り記号は巻次の記入(3. 6. 1)で示した方法で統一する。

〔例〕 文化7 卷一～卷四
黒川／春村 文化10 卷五
(巻一～巻四は文化7年写(書写者不明)、巻五は文化10年黒川春村写)

3.8 出版事項

出版に関する下記の事項を記入する。その本が出版された年、関係した書肆等の名前、地名を記入する。従って再刻、後修や後刷の場合の以前の出版に関する事項や蔵版についてはここには記入せず、出版に関する注記(3.13.3)に記入する。

情報は原則として刊記から採録する。ただし、刊記がない場合、またはあっても不十分・不適切な場合等で、それ以外の箇所(見返し・蔵版目録等)に有効な情報がある場合には、その箇所から採録し、その旨を出版に関する注記(3.13.3)に記入する。

3.8.1 出版者

書肆等の出版者の記載があれば、その姓名、屋号等の表示をすべて記入する。表記・字体ともそのまま記入する。ただし、書肆名とともに「売捌」「売弘」等の記載があり、それが売捌人であることがわかる場合は採録しない。記載著者名(3.5)と同様に要素に分け、スラッシュ(/)で区切って記入する。よみは記入しない。

〔例〕 井筒屋／庄兵衛
勝村／治右衛門
千鐘房／須原屋／茂兵衛
文永堂／武田／傳右衛門

なお、書肆名とともに「板」「版」「梓」「梓行」「蔵板」「蔵版」等の記載や朱印等がある場合、ここには書肆名だけを記し、「板」等については出版に関する注記(3.13.3)に記入する。

〔例〕 須原屋／茂兵衛
(出版に関する注記に「刊記に須原屋茂兵衛板とあり」と記入)

なお、書肆ではない蔵版者については、出版に関する注記(3.13.3)に記入する。

3.8.1.1 複数の書肆名

複数の書肆名を列記する場合は、カンマ(,)で区切って記入する。

〔例〕 出雲寺／和泉掾, 吉田／四良右衛門, 野田／彌兵衛

3.8.2 出版地

地名(書肆所在地名)の記載があれば、書肆名のあとに山がっこ(〈〉)に入れて表記・字体ともそのまま記入する。

〔例〕 須原屋／茂兵衛〈江戸〉， 柏原屋／清右衛門〈大坂〉

原則として都市名を転記する。都市名がなく、町村名等で記載されている場合は、当時の都市名に置き換えて記入する（三都に置き換える場合は、「京」「大坂」「江戸」の表記に統一する）。都市名で記入できない場合は、国名、郡名、村名等をそのまま記入してもよい。

〔例〕 大阪 → 〈大坂〉
御堂筋 → 〈大坂〉
寺町通 → 〈京〉

3. 8. 3 出版年

出版年の記載があれば記入する。記入の方法は書写年（3. 7. 3）に準ずる。

出版年はその本が出版された年とする。従って、再刻、後修や後刷等の場合に、複数の情報があるときは、最新の刊年を出版年とする。その際、以前の出版に関わる年は出版に関する注記（2. 21）に記入する。

2年以上にわたって出版された場合は、最初の年と最後の年を「～」でつないで記入する。

3. 8. 3. 1 出版年としての序跋年

出版年の記載はないが序跋年が出版年に等しいと推定できる場合でも、序跋年を出版年としては記入しない。序跋に関わる事項として必要に応じて序跋注記（3. 13. 5）に記入する。その場合も、年を表す数字は算用数字に統一する。

3. 8. 4 複数の出版事項

資料が複数の部編等に分かれていて、各々出版事項が異なる場合は、これをすべて記入することができる。その際、出版者、出版地、出版年のあとに各々の部編名等を記入する。ただし、多数の部編がある場合は、最新の部編の出版事項を記入し、他の部編については、必要に応じて出版に関する注記（2. 21）に記入する。また、書肆に異同がない場合は、まとめて記入することができる。その場合、2年以上にわたって出版された場合は、最初の年と最後の年を「～」でつないで記入する。

なお、刊行開始の年部編名中の数字、区切り記号は、巻次の記入（3. 6. 1）で示した方法で統一する。

〔例〕 和泉屋／金右衛門〈江戸〉， 英／文藏〈江戸〉 天保14 初編
須原屋／茂兵衛〈江戸〉， 英／文藏〈江戸〉 文久3 二・三編

3. 9 数量

資料の数量を記入する。「冊」等の単位を用いて数字＋単位で記入する。数字はすべて算用数字とする。単位は装訂や形態を考慮して下記のものを用いる。さらに詳細な情報（折・面・曲・綴・帙等）については必要に応じて形態注記（3. 13. 6）に記入する。

また、改装されたもの場合は、現在の状態について記入し、以前の装訂に関することは必要に応じて形態注記（3. 13. 6）に記入する。

冊	:	袋綴、粘葉装（胡蝶装）、列帖装（綴葉装）、包背装、 結び綴（大和綴）、仮綴、紙釘装
帖	:	折本・折帖・画帖装
軸（巻）	:	卷子本（巻は軸のない場合）
幅	:	掛物（幅物・掛軸）
枚	:	一枚物、短冊
丁	:	もとは綴じられた冊子の部分
通	:	書簡
舗	:	疊物
双	:	屏風（一對揃っている場合）
隻	:	屏風（一對の片方みの場合）
点、束、包、箱	:	その他

ひとまとまりの資料が異なる装訂の資料を含んでいる場合、原則として主たる部分の装訂の数量を記入し、付属する部分の数量については一般注記（2. 21）に記入する。ただし、主たる部分か判断できない場合等は、それぞれの装訂の数量を中黒（・）で区切り列記する。

叢書・合綴等において、ひとまとまりの資料が異なる装訂の「子」レコードを含んでいる場合、「親」レコードには、全「子」レコードのそれぞれの装訂の数量を中黒（・）で区切り列記する。また、各々の「子」レコードには、その部分の数量を記録する。その場合も、原則として主たる部分の装訂の数量を記入し、付属する部分の数量については一般注記（2. 21）に記入する。ただし、主たる部分か判断できない場合等は、それぞれの装訂の数量を中黒（・）で区切り列記する。

〔例〕 古今和歌集 2冊
（〈一般注記〉に「〈般〉二世畠山牛庵添状1通を付す」と記入）

〔例〕 寛永行幸記 2軸・1帖
（もとは3巻3軸のものが、巻3のみ折本に改装）

3. 10 形態的事項

資料から丁数（葉数）および大きさを記入する。数字はすべて算用数字とする。

資料が1冊の場合、丁数を記入する。複数冊の場合は、丁数を省略することができる。合刻・合写・合綴の場合の「子」レコードが、それぞれ1冊に満たない場合は、数量（3.9）は記入せず、ここに丁数を記入する。ただし、その「子」レコードが単独で複数冊にまたがっているような場合は、数量（3.9）を記入し、丁数は省略することができる。

丁数は、綴じられた冊子の紙数を数え、数字＋「丁」で記入する。丁付けについては、必要に応じて形態注記（3.13.6）に記入することができる。

資料の大きさは、下記の（1）～（6）に従って記入する。大きさの記入については、センチメートル単位とし、小数点第1位までとする。前表紙（資料が複数冊の場合は第1冊）の綴じ側の天地と上辺を測る。複数冊で冊により大きさが数ミリメートルを越えて異なる場合は、主な大きさをここに記入し、残りは形態注記（3.13.6）に記入する。

- （1） 版本（冊子）の場合は 縦×横を記入し、さらに書型（**）を記入することができる。
特大・特小・柘・縦・横に該当するものについては、縦×横、書型の両方を記入する。
- （2） 卷子本、掛物、書簡は、料紙の幅（高さ）を記入する。
- （3） 畳物については広げた大きさの縦×横を記入し、畳んだ大きさを丸がっこ（ ）に入れて付記する。
- （4） 屏風はその外寸の 縦×横 を記入する。
- （5） その他、一枚物等は 縦×横 を記入する。
- （6） 卷子本の料紙の全長・続紙の紙数・表紙（見返し）の縦と横の大きさ、掛物の本紙の大きさ・紙数、屏風の貼り紙の大きさ等は、必要に応じて形態注記（3.13.6）に記入する。

** 書型 以下の中から略号を選んで記入する。（ ）内は大よその目安。

- 大 : 大本・美濃本、美濃紙二つ折（たて26～28cm）
- 半 : 半紙本、半紙二つ折（たて22～25cm）
- 中 : 中本、美濃紙二つ折の二つ折（たて18～20cm）
- 小 : 小本、半紙二つ折の二つ折（たて15～17cm）
- 特大: 特大本・大美濃本、「大」より大きいもの
- 特小: 特小本、「小」より小さいもの
- 柘 : 柘形本、ほぼ正方形
- 縦 : 縦長本、横に比して縦の長さが特に長いもの
- 横 : 横本、縦に比して横の長いもの

3.10.1 形態的事項の記入

複数の項目がある場合は、丁数、大きさ、書型の順に列記する。

〔例〕 85.0×44.5cm
12.1×18.3cm, 横
7丁, 26.2×18.5cm, 大

3.11 残欠表示

資料が完本でない場合、残欠に関する事項を記入する。

具体的な冊次・巻次で記入できる場合は、「〇〇存」、「〇〇欠」と記入する。

丁単位等の欠落についても、ここに記入する。

数字・区切り記号は、巻次の記入（3.6.1）に従う。

なお、原欠が判ったものについては、残欠表示ではなく巻次を含めて記入し、残欠状態の記入については、この記入方法に従う。

〔例〕 第二冊（巻三～五）欠
上欠
坤存
巻五・七存
零本
残欠あり
前半欠
巻之二第三丁欠
第一冊末欠
初編，二編巻之三下・四上，三編巻之一存
冒頭約40～50字，中間約1200字欠

3.12 叢書巻号表示

書誌構造を作成した叢書で、その巻次、部編名などが記載されている場合、細目に当る「子」レコードに、該当する巻次、部編名等を記入する。表示は、そのまま転記する。叢書名は、ここには記入しない。

〔例〕 「親」レコード：丹鶴叢書
「子」レコード：和泉式部集（丹鶴叢書 第三冊）の場合
叢書巻号表示 → 第三冊 と記入

3.13 注記

前項までの各書誌的事項に関する説明や、それらの項目に記述できなかった事柄等を、資料およびその他参考資料等から必要に応じて記入する。字体は原則として新字体に統一するが、資料記載事項の引用（本文、奥書等）や著者に関する注記の著者名についてはそ

のまま記入する。記入に際しては簡潔な表現を心がける。

貴重書およびそれに準ずるものについては、できる限り詳しく記入する。

資料、参考資料等から原文を転記する場合は、すべてかぎカッコ（「」）で囲む。原文の種類と記載場所等を示す事柄を丸がっこ（（ ））に入れて先頭に付けることができる。

〔例〕 （奥書）（巻五末）「〇〇〇」

注記の種類および記入順序は以下のとおりとする。

和古書書誌データ使用コード

〈系〉	： 系統注記
〈著〉	： 著者に関する注記
〈版〉	： 出版に関する注記
〈写〉	： 書写に関する注記
〈序〉	： 序跋注記
〈形〉	： 形態注記
〈奥〉	： 奥書・識語注記
〈書〉	： 書入れ・校合注記
〈伝〉	： 伝来注記
〈叢〉	： 叢書注記
〈般〉	： 一般注記
〈備〉	： 備考

3. 1 3. 1 系統注記

本の系統に関する事柄を記入する。

〔例〕 中村本
三撰本
古浄瑠璃五段本
土佐少掾橘正勝正本
観世左近太夫入道章句本

3. 1 3. 2 著者に関する注記

その資料に関わる著者についての事柄を記入する。

ただし、著作レベルの著者の別名、身分・職業・活動分野等、著者関連情報については、必要に応じて統合古典籍データベース著者ファイルの著者レコードの該当するフィールドに記入する。

〔例〕 奥書に兼載作とあり
書袋には八文字屋自笑作とあり
飛鳥井雅綱についての書付あり

3. 13. 3 出版に関する注記

当該資料の出版に関する事柄のうち、出版事項に入るべきもの以外をここに記入する。
写本の刊本による補い等についてもここに記入する。

蔵版者に関する事柄についてはここに記入する。

また、版の種類を示す事柄について記入する。版（刊・刻）・刷（印）・修の関係、丹緑本、古活字版（古活字本）、木活字版（木活字本・近世活字版（本））等についても記入する。

〔例〕 慶応3年卯年改
卷五に寛文十二表紙屋庄兵衛板とあり
後見返しの蔵開版目録に享和2年とあり
見返しに嘉永新刻とあり
出版年は見返しによる
鈴乃屋蔵版とあり
橘枝堂蔵版目録を付す
別本刊記（延宝8年大坂深江屋太郎兵衛刊）を後に貼付したもの
須原屋茂兵衛に版元印あり
寛永中刊古活字版
古活字覆刻整版本
天保3年版の再刻
寛文12年版の後刷
元文5年版新版絵入つれつれ草の補刻
丹緑本
明治版
高野版
拓本

また、必要に応じて刊記を転記することができる。

〔例〕 （刊記）「寛文二年壬寅仲春下旬開板」

3. 13. 4 書写に関する注記

書写に関する事柄を記入する。奥書、書入れに関する注記は、原則として各々の種別に振り分けて記入するが、「○年奥書本の写」「○○書入本の写」「○○文庫本の写」など

のように、資料を特定する場合はここに記入する。手稿本、ペン写、補写などについても記入する。刊本の補写の場合もここに記入する。

資料に記載がないが極札、考証等から「著者自筆」と推定できるような場合は、ここに記入する。

〔例〕 江戸初期写
新写本
卷二は別筆
図書館蔵本の写
真淵書入本の写
慶安5年刊上村次郎右衛門版の写
欠丁の部分を補写
著者自筆
著者自筆稿本
極札に冷泉為広筆とあり
奈良絵本
奥書に辛卯とあり

3. 13. 5 序跋注記

序、跋に関する事柄を記入する。原則として、著作の認定に関わるものや、成立を示す場合、もしくは出版年と等しいと推定できる場合に記入する。

複数の序跋がある場合は、中黒（・）で区切り列記する。

〔例〕 文化14年岸本由豆流序
蚊田蒼生の跋あり
寛文2年陳元贇序・同年元政序
天明7年自序・寛政9年林述斎跋
万延元年杞憂道人序・同文久元年跋

3. 13. 6 形態注記

資料の物理的、形態的な事柄で、形態的事項に入らないものを記入する。装訂・形態・匡郭・行数・字数・題籤・表紙・料紙その他について、必要に応じて記入する。虫損・水濡れなどの資料の保存状態もここに記入することができる。

補修・改装については、重要なものについて記録する。記入するときには、受入時点で既に行われていたものと当館で行ったものを識別できるようにする。なお、当館での補修については、別途補修記録も作成する。

袋綴じ（線装）以外の装訂・形態について必ず記入する（装訂の名称は、数量（2.17）を参照）。なお、線装の様式についても必要に応じてここに記入することができる。

書簡等で、書名中にその用語が含まれているため、その装訂が判断できるものは省略しても良い。

〔例〕 第四冊 24.5 × 32.1 cm
書袋あり
3冊本の合綴
屏風貼込み（原型は横本約17 × 27 cm）
表紙・巻頭1丁後補
外題は後補，書き題簽
懐紙改装
原装は列帖装
絵入料紙使用原懐紙1巻
虫損あり
水損甚し
卷子本
結び綴
康熙綴

3. 13. 7 奥書・識語注記

その本に関して後に書き記された文章・文字に関する事柄を記入する。
複数の奥書、識語がある場合には、中黒（・）で区切り列記する。

〔例〕 文亀2年宗祇の奥書あり
賀茂季鷹・百合園蓮阿の識語あり

資料の文をそのまま転記することができるが、長すぎる場合は重要な部分を抜き出し、それ以外の部分は、丸がっこに入れた三点リーダー「(…)」に置き換えて省略することができる。

〔例〕 (識語) 「此一冊小笠原佐渡守様奥様御幼年常姫様之御筆也／故有被
下老女／藤枝／宮内明哲三橋」
(奥書) 「寶永二のとし五月下浣中岳依田氏亮村稿」 「寶永三丙
戌四月下旬以自息軒主舟橋式部少輔所藏本校正畢」
(奥書) 「本云／右此本者二條家為定卿以自筆写之 (…)

3. 13. 8 書入れ・校合注記

本文に対する注・評・点等の書入れ、あるいは他のテキストとの本文の比較に関する事柄を記入する。

〔例〕 朱書あり
墨細字の頭注・割注あり
清水浜臣の書入れあり
書入れについて極札に「紹巴は墨・三條は朱・正澄は朱」とあり
点印あり
天保13年長澤伴雄朱校あり
図書館本による校合あり
平縁信校合本

3. 13. 9 伝来注記

資料の旧蔵者に関する事柄を記入する。資料中の記載事項、その他により採録する。

〔例〕 式亭三馬旧蔵
九条家旧蔵本
飛鳥井雅豊手沢本

また、資料中の蔵書印について記入する。蔵書印記を資料から転記する。ただし、字体は原則として新字体に統一する。なお、寄託資料の所蔵者等の蔵書印については採録しない。

〔例〕 (印記) 「真木園図書館」
(印記) 「吉田蔵書」 「陽春廬記」
(印記) 「□川蔵書」
(印記) 「青洲文庫」 「南葵文庫」 他

3. 13. 10 叢書注記

原則として、資料が叢書中の端本の場合にのみ記入する。叢書名、部篇名、巻次（叢書番号）等をブランクで区切って記入する。

なお、書誌構造を作成した叢書の細目に当るレコードの場合は、部編名、巻次等を叢書巻号表示（3. 12）に記入し、叢書注記は記入しない。

〔例〕 続群書類従 和歌部 四二二
甘雨亭叢書 第五集
拙修齋叢書

3. 13. 11 一般注記

各データ項目の補足説明、その資料の特徴、性質等を示す事項、その他上記の注記の種

別に入らない事柄を記入する。

〔例〕 絵入本

上段にうすゆき物語・下段に伊勢物語
前題百詠・後題百詠を収む
尾藤二洲・中井董堂・頼春水等近世儒者の書簡52通の貼込み
主として天保・嘉永・安政期における中の芝居・角の芝居の役割番附
2種取り合せ本
漢詩8編を付す
歌題「寄野菜恋」
子息市左衛門宛
外題よみは振り仮名による
記載書名は耳題
表紙に細目書名を列記
天保4年成立
旅眼石の改題本

3. 13. 12 備考

書誌データ作成の典拠となった、参考資料等について記入することができる。記述したデータ内容には直接関わらないが、情報として公開したい事項をここに記入する。なお、この記入は慎重におこなう。

〔例〕 「増補古活字版之研究」上巻 p 524 参照

〔例〕 「高野板之研究」高野板上木年表参照

3. 14 業務メモ

データ作成の際の覚書等を、業務メモとして必要に応じて記入する。

〔例〕 書名のよみは「仏教大辞典」による

付表1 和古書目録書誌レコードデータ項目

マニュアル 項番	データ項目	作成
2.2	書誌構造	◎
2.1	著作とのリンク（WID）	◎
3.1	キーワード	△
3.2	刊・写の別	◎
3.3	標目書名	×
3.4	記載書名	○
3.5	記載著者名	○
3.6	巻次	○
3.7	書写事項	○
3.8	出版事項	○
3.9	数量	◎
3.10	形態的事項	○
3.11	残欠表示	○
3.12	叢書巻号表示	○
3.13	注記	○
3.14	業務メモ	○

◎ 必須 ○ 該当すれば、または必要に応じて記入 × 記入しない

付表2 和古書目録書誌レコードデータ採録情報源

マニュアル 項番	デ ー タ 項 目			情報源
2.2	書誌構造			資料
2.1	著作とのリンク	WID		日本古典籍総合目録 (データベース)
		新規著作作成	統一書名	資料・参考資料
			著者	資料・参考資料
			その他識別事項	資料・参考資料
		新規著者作成	統一著者名	資料・参考資料
			著者別称	資料・参考資料
			その他識別事項	資料・参考資料
3.1	キーワード			資料・参考資料
3.2	刊・写の別			資料
3.3	標目書名			(記入しない)
3.4	記載書名			資料・よみは参考資料
3.5	記載著者名			資料・よみは参考資料
3.6	巻次			資料
3.7	書写事項			資料
3.8	出版事項			資料
3.9	数量			資料
3.10	形態的事項			資料
3.11	残欠表示			資料
3.12	叢書巻号表示			資料
3.13	注記			資料・参考資料
3.14	業務メモ			資料・参考資料

付表3 叢書・合綴等のデータ項目振り分け表

データ項目	叢書		合綴		合刻		合写	
	親レコード	子レコード	親レコード	子レコード	親レコード	子レコード	親レコード	子レコード
書誌構造	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
著作とのリンク(WID)	◎	◎	×	◎	×	◎	×	◎
キーワード	○	○	×	○	×	○	×	○
刊写の別	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
標目書名	○	○	○	○	○	○	○	○
記載書名	○	○	○	○	○	○	○	○
記載著者名	○	○	×	○	×	○	×	○
巻次	○	○	×	○	×	○	×	○
書写事項	○	○	×	○	×	×	○	×
出版事項	○	○	×	○	○	×	×	×
数量	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
形態的事項	◎	○	○	◎	◎	○	◎	○
残欠表示	○	○	○	○	○	○	○	○
叢書巻号表示	×	○	×	×	×	×	×	×
注記	○	○	○	○	○	○	○	○
業務メモ	○	○	○	○	○	○	○	○

◎ 必須 ○ 該当すれば、または必要に応じて採録 × 不採録

* 原則として親レコードには全体に関する事項、子レコードには各々の細目に関する事項を記入する。例えば、資料の数量については、親レコードには全体の数量、子レコードにはその著作の含まれている資料の数量を記入する。

付表4 叢書・合綴等のデータ構造及びデータの作成と表示

	資料 (例)	データ構造	データ作成	公開データベースの検索結果の表示
叢書	三代集 (嘉永6年刊 6冊)	資料の書誌的構造、親子の関係、子レコードの順序等を書誌構造のデータによって示す	親レコード A (1件)	子書誌: a1, a2, ..., an 表示: 書誌構造
	古今和歌集 (2冊) 後撰和歌集 (2冊) 拾遺和歌集 (2冊)		子レコード A1, A2, ..., An (n件)	親書誌: a, (叢書巻号表示) 表示: 書誌構造
合綴・合刻・合写	〈合刻の例〉 刊 1冊	資料の書誌的構造、親子の関係、子レコードの順序等を書誌構造のデータによって示す (合刻・合写の子レコードはダミーの書誌)	親レコード A (1件) (親レコードは著作リンク情報をもたない)	子書誌: a1, a2, ..., an 表示: 書誌構造
	おあん物語 おきく物語		子レコード A1, A2, ..., An (n件)	親書誌: 書名なし 表示: 書誌構造

*1 合綴・合刻・合写の子レコードの数量は、各々の細目が含まれている資料の数量とする。

*2 叢書内合刻、合綴内合写、その他、第2レベルの親子の関係をもつ場合は、この組み合わせとなる。

*3 a は親レコードのリンクしている著作の統一書名、a1, a2, ..., an は各々の子レコードのリンクしている著作の統一書名。
a, a1, a2, ..., an 何れか参照したいレコードの書名をクリックすると、別ウィンドウが開き、該当するレコードの詳細が表示される。
また、「書誌構造」をクリックすると、同様に別ウィンドウが開き、全体の関係が表示される。

【付録】 和古書メディア情報の記入について

1. 所蔵者・コレクション情報

所蔵者ならびにコレクションを示す情報として、該当するコレクションデータの7桁のレコード番号を付与する。

〔例〕 3045000 国文学研究資料館（一般）
3045003 // 初雁文庫

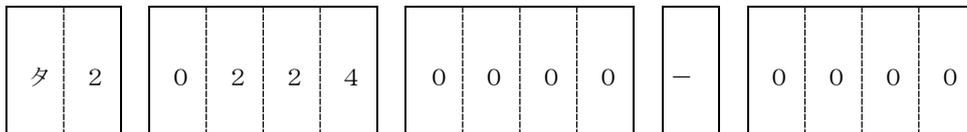
2. メディア情報

ここには、書誌データに対応する原資料ならびに複製媒体に関する管理情報を示す。

2. 1 和古書メディア

〈原資料請求記号〉

原資料の請求記号を、15桁固定長で記入する。



2桁 …分類記号

4桁 …図書番号

4桁 …先頭分冊番号

1桁 …‘-’（ハイフン）

4桁 …最終分冊番号

とし、各ブロック右詰左ゼロ埋めとする。

また、分冊番号が無い場合も-（ハイフン）、ゼロ埋めは記入する。

〔例〕 タ202240000-0000 分冊番号が無い場合
タ700320001-0002 2分冊の場合
9900320001-0002 //

なお、複数冊に対応する書誌レコードが複数含まれる場合、請求記号はそのレコードが属する分冊番号のみを記入する。

〔例〕 タ700320002-0000 2分冊目に対応する書誌レコードの場合

〈登録番号〉

原資料の登録番号を記入する。数字のゼロ埋めはしない。

複数の場合は、二連番または飛び番は・（中黒）で、三連番以上は-（ハイフン）で区切り記入する。

〔例〕 115749
104788・104789
103938-103952
122534-122537・137459

【I 書誌学・出版・目録】

1	日本古典籍書誌学辞典 / 井上宗雄 [ほか] 編著 東京：岩波書店, 1999.3 19, 626, 71p ; 27cm
2	日本書誌学用語辞典 / 川瀬一馬著 東京：雄松堂書店, 1982.10 18, 333p, 図版[6]p ; 22cm
3	書誌学序説 / 山岸徳平著 東京：岩波書店, 2008.2 vi, 303, 22p ; 19cm. -- (岩波全書セレクション)注記: 1977年刊の再刊
4	古書のはなし：書誌学入門 / 長沢規矩也著 東京：富山房, 1994.6 2, 4, 196, 6p ; 22cm -- 新装
5	図解書誌学入門 / 長澤規矩也著 東京：汲古書院, 1976.11 106p ; 26cm. -- (図書学参考図録：入門篇；4) 注記: 各種図書の影印あり
6	日本古典書誌学総説 / 藤井隆著 大阪：和泉書院, 1991.4 192p ; 22cm
7	書誌学入門 / 川瀬一馬著；岡崎久司編 東京：雄松堂出版, 2001.12 viii, 307p ; 23cm
8	和本入門 / 橋口侯之介著 [正] 千年生きる書物の世界 / 橋口侯之介著 東京：平凡社, 2005.10 254p ; 20cm. または、東京：平凡社, 2011.9 274p ; 16cm. -- (平凡社ライブラリー；744 . 和本入門) 続 江戸の本屋と本づくり / 橋口侯之介著 東京：平凡社, 2007.10 269p ; 20cm. または、東京：平凡社, 2011.10 298p ; 16cm. -- (平凡社ライブラリー；747 . 和本入門；続)
9	日本書誌学を学ぶ人のために / 廣庭基介, 長友千代治著 京都：世界思想社, 1998.5 206p ; 19cm
10	日本書誌学大系 近世書林板元総覧 / 井上隆明著. -- 改訂増補 武蔵村山：青裳堂書店, 1998.2 920p ; 22cm. -- (日本書誌学大系；76) 新編蔵書印譜 / 渡辺守邦, 後藤憲二編. -- 増訂 立川：青裳堂書店, 2013.10-2014.12 3冊 ; 22cm. -- (日本書誌学大系, 103(1)-103(3)) 近代蔵書印譜 / 中野三敏編 武蔵村山：青裳堂書店, 1984.12-2007.2 5冊 ; 22cm. -- (日本書誌学大系 ;41(1)-(5)) 赤本黒本青本書誌 / 木村八重子編；赤本以前之部 立川：青裳堂書店, 2009.3 ; 22cm. -- (日本書誌学大系；95(1))ほか
11	書誌学月報別冊 松会版書目 / 柏崎順子編 武蔵村山：青裳堂書店, 2002.10 132p ; 21cm. -- (書誌学月報別冊；10) 注記: 「松会版目録稿1・2・完・補遺」(雲英末雄共編, 日本古書通信816-818・824号, 平成9年7-9月・同10年3月)を増補改訂し、新たに刊記図版を添付した；図版目録: p123-126 →増補松会版書目 / 柏崎順子編 立川：青裳堂書店, 2009.4 256p ; 挿図 ; 22cm. -- (日本書誌学大系；96) 注記: 「松会版書目」(『書誌学月報』別冊10, 平成14年刊)の増補改訂版 赤本黒本青本版心索引(予備版)/ 木村八重子編 武蔵村山：青裳堂書店, 1997.6 46p ; 21cm. --(書誌学月報別冊；1)ほか
12	原典をめざして：古典文学のための書誌 / 橋本不美男著. -- 新装普及版 東京：笠間書院, 2008.3 5,293p ; 21cm
13	古典籍が語る：書物の文化史 / 山本信吉著 東京：八木書店, 2004.11 iv, 274, 24p, 図版 [4] p ; 22cm
14	江戸の板本：書誌学談義 / 中野三敏著 東京：岩波書店, 1995.12 ix, 299, 51p ; 20cmまたは、東京：岩波書店, 2010.12 ix, 305, 51p ; 20cm. -- (岩波人文書セレクション)
15	江戸の出版 / 中野三敏監修 東京：ペリかん社, 2005.11 382p ; 22cm 『江戸文学』15・16号特集「江戸の出版」を中心に復刊したもの
16	江戸の本屋さん：近世文化史の側面 / 今田洋三著 東京：日本放送出版協会, 1977.10 206p ; 19cm.-- (NHKブックス；299)または、東京：平凡社, 2009.11 ix, 268p ; 16cm. -- (平凡社ライブラリー；685)
17	出版事始：江戸の本 / 諏訪春雄著 東京：毎日新聞社, 1978.1 222p ; 20cm.
18	書物散策：近世版本考 / 木村三四吾著 東京：八木書店, 1998.10 460p, 図版1枚 ; 22cm. -- (木村三四吾著作集 / 木村三四吾著；3)
19	徳川時代出版者出版物集覧 / 矢島玄亮著 仙台：徳川時代出版者出版物集覧刊行会 仙台：萬葉堂書店 (発売), 1976.8-1976.12 2冊 ; 27cm
20	慶長以来書買集覧：書籍商名鑑 / 井上和雄編. -- 増訂版 / 坂本宗子増訂 大阪：高尾書店, 1970.12 1冊 ; 22cm
21	享保以後板元別書籍目録 / 坂本宗子編 大阪：清文堂出版, 1982.4 394p ; 22cm
22	享保以後江戸出版書目 / 朝倉治彦, 大和博幸編 新訂版. 京都：臨川書店, 1993.12 612p, 図版[2]p ; 22cm
23	享保以後大阪出版書籍目録 / 大阪図書出版業組合編 復刻版. 東京：龍溪書舎, 1998.5 1冊 ; 22cm
24	日本小説書目年表 / 山崎麓編纂 改訂 / 書誌研究会. 東京：ゆまに書房, 1977.10 15, 858p ; 22cm. -- (書誌書目シリーズ；6)

参考図書

【別紙2】

25	近世書籍研究文献目録 / 鈴木俊幸編 増補改訂. 東京:ペリかん社, 2007.3 798p; 22cm (『書籍文化史』に補遺あり) →近世・近代初期書籍研究文献目録 / 鈴木俊幸編 東京: 勉誠出版, 2014.9 31, 619p; 22cm. (増補改訂版以後『書籍文化史』第9-15集に掲載の補遺をまとめたもの)
26	書籍文化史 / 鈴木俊幸編 八王子: 鈴木俊幸, 2000.2- 冊; 21cm
27	古典籍の装幀と造本 / 吉野敏武著 東京: 印刷学会出版部, 2006.5 173p; 16cm. -- (デザイン製本; 3)
28	古文書修補六十年: 和装本の修補と造本 / 遠藤諦之輔著 初版第7刷 東京: 汲古書院, 1996.3 7, 244p, 図版[1], 30p; 16×22cm
29	和紙文化研究事典 / 久米康生著 東京: 法政大学出版局, 2012.10 ix, 437p; 22cm 注記: 「和紙文化辞典」(わがみ堂1995年刊)の改題増補改訂版
30	古典籍古文書料紙事典: 必携 / 穴倉佐敏編著 東京: 八木書店, 2011.7 viii, 453, ixp; 22cm
31	日本の美術 古写本の姿 / 藤本孝一 [著] 東京: 至文堂, 2002.9 98p; 23cm. -- (日本の美術; No. 436) 文書・写本の作り方 / 藤本孝一執筆・編集 東京: 至文堂, 2008.6 98p; 23cm. -- (日本の美術; No.505) 書跡・典籍、古文書の修理 / 池田寿 [執筆・編集] 東京: 至文堂, 2006.5 98p; 23cm. -- (日本の美術; No.480)ほか
32	新編和漢古書目録法 / 長澤規矩也著 修 東京: 汲古書院, 1979.4 103p; 21cm
33	國書總目録. -- 補訂版 東京: 岩波書店, 1989.9-1991.1 9冊; 27cm -- 第1巻 - 著者別索引
34	古典籍総合目録: 国書総目録続編 / 国文学研究資料館編 東京: 岩波書店, 1990.2-1990.3 3冊; 27cm
35	継続資料と和古書・漢籍の組織化: 日本目録規則(NCR)1987年版改訂2版第13章および第2・3章の改訂 / 日本図書館協会目録委員会編集 東京: 日本図書館協会, 2005.6 112p; 30cm
36	和本の海へ: 豊饒の江戸文化 / 中野三敏著 東京: 角川学芸出版 東京: 角川グループパブリッシング (発売), 2009.2 239p; 19cm. -- (角川選書; 436)
37	三大編纂物, 群書類従, 古事類苑, 国書総目録の出版文化史 / 熊田淳美著 東京: 勉誠出版, 2009.3 315, 13p; 20cm
38	〈よみほん様式〉考 / 大海洋司監修 東京: ペリかん社, 2009.5 132p; 21cm. -- (江戸文学; 40)
39	版權と報酬 / 市古夏生責任編集 東京: ペリかん社, 2010.5 136p; 21cm. -- (江戸文学; 42)
40	草双紙の世界: 江戸の出版文化 / 木村八重子著 東京: ペリかん社, 2009.7 209p, 図版[4]p; 20cm
41	書誌学入門: 古典籍を見る・知る・読む / 堀川貴司著 東京: 勉誠出版, 2010.3 263, 10p, 図版[4]p; 22cm.
42	本を千年つたえる: 冷泉家蔵書の文化史 / 藤本孝一著 東京: 朝日新聞出版, 2010.10 215p; 19cm. -- (朝日選書; 870)
43	絵草子屋: 江戸の浮世絵ショップ / 鈴木俊幸著 東京: 平凡社, 2010.12 262p; 20cm
44	江戸時代三都出版法大概: 文学史・出版史のために / 山本秀樹著 岡山: 岡山大学文学部, 2010.2 322p; 21cm. -- (岡山大学文学部研究叢書; 29)
45	古典籍へようこそ: 京都府立総合資料館の書庫から / 京都府立大学文学部日本・中国文学科, 京都府立総合資料館編 京都: 京都新聞出版センター, 2010.11 156p; 19cm
46	江戸時代初期出版年表: 「天正十九年～明暦四年」 / 岡雅彦 [ほか] 編 東京: 勉誠出版, 2011.2 9, 628, 37p, 図版32p; 27cm
47	和本への招待: 日本人と書物の歴史 / 橋口侯之介著 東京: 角川学芸出版 東京: 角川グループパブリッシング (発売), 2011.6 221p; 19cm. -- (角川選書; 492)
48	和本のすすめ: 江戸を読み解くために / 中野三敏著 東京: 岩波書店, 2011.10 iv, 260, 4p, 図版 [2] p; 18cm. -- (岩波新書; 新赤版 1336)
49	宮内庁書陵部書庫涉獵: 書写と装訂 / 榎節男著 東京: おうふう, 2006.2 239p: 挿図; 21cm
50	江戸文化再考: これからの近代を創るために / 中野三敏著 東京: 笠間書院, 2012.7 vi, 239p, 図版 [6] p: 挿図; 19cm. -- (古典ルネッサンス)
51	幕府のふみくら: 内閣文庫のはなし / 長澤孝三著 東京: 吉川弘文館, 2012.8 ix, 278p: 挿図; 20cm
52	図書大概 / 大沼晴暉著 東京: 汲古書院, 2012.11 12, 469p; 22cm
53	なにわ古書肆鹿田松雲堂五代のあゆみ / 四元弥寿著; 飯倉洋一 [ほか] 編 大阪: 和泉書院, 2012.11 xvi, 250p, 図版 [4] p: 挿図; 20cm. -- (上方文庫; 39)
54	図書学入門 / 藤森馨著 東京: 成文堂, 2012.3 v, 156p; 22cm
55	近世出版の板木研究 / 金子貴昭著 京都: 法藏館, 2013.2 vi, 318p: 挿図; 22cm
56	古典籍研究ガイダンス: 王朝文学をよむために / 人間文化研究機構国文学研究資料館編 東京: 笠間書院, 2012.6 xv, 445p: 挿図; 21cm

参考図書

【別紙2】

57	江戸の本づくし：黄表紙で読む江戸の出版事情 / 鈴木俊幸著 東京：平凡社, 2011.1 244p ; 挿図 ; 18cm. -- (平凡社新書 ; 566)
58	略縁起集の世界：論考と全目録 / 中野猛著 ; 山崎裕人, 久野俊彦編 東京：森話社, 2012.1 461p ; 22cm
59	図説よりすぐり国立国会図書館 = THE BEST OF NATIONAL DIET LIBRARY'S DIGITAL LIBRARY COLLECTIONS : 竹取物語から坂本龍馬直筆まで / 国立国会図書館編 東京：勉誠出版, 2014.10 143p ; 26cm
60	元禄・正徳板元別出版書総覧 / 市古夏生編 東京：勉誠出版, 2014.11 748, 77p ; 22cm
61	書物學 = Bibliology / 勉誠 企画・編集 [東京] : [勉誠出版], 2014- 冊 ; 26cm
62	書籍流通史論序説 / 鈴木俊幸著 東京：勉誠出版, 2012.6 11, 448, 29p ; 22cm
63	出版文化史の東西：原本を読む楽しみ = Aspects of publishing history in the East & the West / 徳永聡子編著 東京：慶應義塾大学出版会, 2015.4 iv, 234p ; 挿図 ; 19cm
64	和書のさまざま / 人間文化研究機構国文学研究資料館編 ; 中村康夫監修 大阪：和泉書院, 2015.3 48p ; 21cm + CD-ROM(1枚 12cm)
65	和本リテラシーニュース = The news of wahan literacy / 日本近世文学会編 [藤沢] : 日本近世文学会, 2015- 冊 ; 21cm 注記: 電子版あり : http://www.kinseibungakukai.com/doc/wabonichiran.html (2019.6.6確認)
66	シリーズ<本の文化史> 読書と読者 / 横田冬彦編. -- 東京：平凡社, 2015.5 332p ; 20cm. -- (シリーズ<本の文化史> ; 1) 書籍の宇宙：広がりと体系 / 鈴木俊幸編 東京：平凡社, 2015.5 334p ; 20cm. -- (シリーズ<本の文化史> ; 2) 書籍文化とその基底 / 若尾政希編. -- 東京：平凡社, 2015.5 356p ; 20cm. -- (シリーズ<本の文化史> ; 3) 出版と流通 / 横田冬彦編. -- 東京：平凡社, 2015.5 350p ; 20cm. -- (シリーズ<本の文化史> ; 4)
67	連歌の史的的研究 / [福井久蔵著] ; 廣木一人編 東京：クレス出版, 2011.1 2冊 ; 22cm. -- (福井久蔵和歌連歌著作選 / [福井久蔵著] ; 廣木一人編・解説 ; 4-5)
68	医学書のなかの「文学」：江戸の医学と文学が作り上げた世界 / 福田安典著 東京：笠間書院, 2016.5 276p ; 21cm
69	海を渡ってきた漢籍：江戸の書誌学入門 / 高橋智編 東京：日外アソシエーツ, 2016.6 224p ; 19cm
70	日本古典書誌学論 / 佐々木孝浩著 東京：笠間書院, 2016.6 vii, 525, 27p ; 22cm
71	和書のさまざま：(国文学研究資料館通常展示) → https://www.nijl.ac.jp/event/exhibition/ 当該展示のページ (2019.6.6確認)
72	古筆鑑定必携：古筆切と極札 / 村上翠亭 [ほか] 執筆. -- 京都：淡交社, 2004.3 143p
73	江戸の古本屋：近世書肆のしごと / 橋口侯之介著. -- 東京：平凡社, 2018.12 335p
74	初雁文庫主要書目解題 / 国文学研究資料館編. -- 東京：明治書院, 1981.3 180, 9p. -- (国文学研究資料館共同研究報告, 1)

【Ⅱ 所蔵目録・解題】

古典籍を多く所蔵している図書館・資料館等では、所蔵目録・解題等を古くから冊子体で作成してきた。現在ではwebサイトで公開されていることも多い。

また、そういった目録類の情報の中には、国文学研究資料館「日本古典籍総合目録データベース」において公開されているものもある。

75	書誌学展図録：慶應義塾大学附属研究所斯道文庫開設50年記念 / 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫編 東京：慶應義塾大学附属研究所斯道文庫, 2010.12 11, 209p ; 30cm. または、図説書誌学：古典籍を学ぶ / 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫編 東京：勉誠出版, 2010.12 8, 213p 挿図 ; 30cm 注記: 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫開設50年記念
76	鴻山文庫蔵能楽資料解題 / 野上記念法政大学能楽研究所編 東京：野上記念法政大学能楽研究所, 1990.3- 2014.3 3冊 ; 22cm

【Ⅲ 各分野の辞書など】

77	日本古典文学大辞典 / 日本古典文学大辞典編集委員会編集 東京：岩波書店, 1983.10-1985.2 6冊 ; 27cm
78	和歌文学大辞典 / 伊藤嘉夫 [ほか] 編 東京：明治書院, 1962.11 2冊 ; 22cm -- [本編]; 付録

参考図書

【別紙2】

79	和歌大辞典 / 犬養廉 [ほか] 編 東京：明治書院, 1986.3 1201p ; 27cm
80	俳文学大辞典 / 尾形仂 [ほか] 編 東京：角川書店, 1995.10 10, 1184p, 図版[16]p ; 27cm
81	俳諧大辞典 / 伊地知鐵男 [ほか] 編. -- 9版 東京：明治書院, 1965.3 1008p ; 22cm
82	連歌資料のコンピュータ処理の研究 / 国文学研究資料館編 東京：明治書院, 1985.3 614p ; 27cm. -- (国文学研究資料館共同研究報告 ; 3)
83	狂歌書目集成 / 菅竹浦撰 京都：臨川書店, 1977.6 231p ; 22cm 注記: 星野書店昭和11年刊の複製
84	読本 (よみほん) 事典 : 江戸の伝奇小説 / 国文学研究資料館, 八戸市立図書館編 東京：笠間書院, 2008.2 iv, 178p, 図版8p ; 22cm
85	往来物解題辞典 / 小泉吉永編著 東京：大空社, 2001.3 2冊 ; 27cm -- 解題編; 図版編 →Web上では、「往来物倶楽部」でデータ公開中 (利用条件あり、全文検索は利用登録制)
86	黄表紙外題索引 / 朝倉無声編著. -- 増補 / 三村竹清増補; 鈴木重三補訂 東京：大屋書房, 1964.8 68丁 ; 24cm
87	歌舞伎・浄瑠璃外題よみかた辞典 / 野島寿三郎編 東京：日外アソシエーツ 東京：紀伊國屋書店(発売), 1990.6 xiv, 431, 40p ; 22cm
88	邦楽百科辞典 : 雅楽から民謡まで / 音楽之友社 [編] 東京：音楽之友社, 1984.11 1076p, 図版[8]p ; 27cm
89	日本音楽大事典 / 平野健次, 上参郷祐康, 蒲生郷昭監修 東京：平凡社, 1989.3 1034, 112, 46p ; 27cm
90	角川茶道大事典 / 林屋辰三郎 [ほか] 編 東京：角川書店, 1990.5 2冊 ; 27cm -- 本編; 資料・索引編
91	原色浮世絵大百科事典 / 原色浮世絵大百科事典編集委員会編 東京：大修館書店 11冊 ; 38cm
92	佛書解説大辞典 / 小野玄妙編纂. -- 改訂版 東京：大東出版社, 1964.5-1988 15冊 ; 27cm
93	日本仏教典籍大事典 / 金岡秀友 [ほか編] 東京：雄山閣, 1986.11 7, 551, 164p ; 27cm
94	禪學大辞典 / 禪學大辞典編纂所編. -- 新版 東京：大修館書店, 1985.11 1冊 ; 27cm
95	神道大系 / 神道大系編纂会編 東京：神道大系編纂会, 1977-2006.11 冊 ; 23cm -- 総目録
96	續神道大系 / 神道大系編纂會編 東京：神道大系編纂會, 1995.3-2007.3 51冊 ; 23cm -- 総目録
97	神道書籍目録 / 加藤玄智編 京都：臨川書店, 1974 2冊 ; 27cm 注記: 同文館から昭和18年に刊行(初版:昭和13年刊)されたものと、その後 姉妹編として明治神宮社務所から昭和28年に刊行されたものをおのおの上・下巻として複製したもの
98	中国学芸大事典 / 近藤春雄著 東京：大修館書店, 1978.10 5, 1000p ; 27cm
99	洋学史事典 / 日蘭学会編 東京：雄松堂出版, 1984.9 787, 82, 35p ; 27cm. -- (日蘭學會學術叢書 ; 第6)
100	藩史大事典 / 木村礎, 藤野保, 村上直編 東京：雄山閣出版, 1988.7-1990.6 8冊 ; 27cm
101	明治前日本醫學史 / 日本学士院日本科学史刊行会編. -- 増訂復刻版 東京：日本古医学資料センター 東京：井上書店 (発売), 1978.6 5冊 ; 22cm -- 第1巻 - 第5巻 注記: 日本學術振興会昭和30-39年刊の複製 ; 復刻にあたり各巻に人名総索引, 物件総索引追加
102	明治前日本數學史 / 日本学士院編 東京：岩波書店, 1983.11 5冊 ; 22cm
103	日本漢方典籍辞典 / 小曾戸洋著 東京：大修館書店, 1999.6 viii, 469p ; 23cm
104	近世武道文献目録 / 入江康平編 東京：第一書房, 1989.2 600, 24p, 図版8枚 ; 22cm
105	囲碁百科辞典 / 林裕編著. -- 改訂増補 東京：金園社, 1983.12 649p, 図版4枚 ; 22cm
106	上毛古書解題 / 篠木弘明著 東京：歴史図書社, 1979.1 18, 46, 486p ; 20cm
107	江戸文学地名辞典. -- 新装普及版 東京：東京堂出版, 1997.9 530p ; 21cm
108	人情本事典 : 江戸文政期、娘たちの小説 / 人間文化研究機構国文学研究資料館編 東京：笠間書院, 2010.1 xii, 226, 5p, 図版 [4] p ; 23cm
109	浮世草子大事典 : 江戸時代の社会・風俗がわかる / 「浮世草子大事典」編集委員会編 東京：笠間書院, 2017.10 ix, 1010p ; 27cm
110	密教辞典 / 佐和隆研編 京都：法藏館, 1975.2 vi, 730, 176p ; 23cm
111	日本仏家人名辞書 / 鷲尾順敬編纂 ; 新装版. -- 増訂. -- 東京美術, 1973.9 364, 1319, 181p ; 22cm

参考図書

【別紙2】

112	広説佛教語大辞典/ 中村元著:: セット-別巻:索引. -- 東京書籍, 2001.6 4冊 ; 27cm
113	字典かな : 写本をよむ楽しみ / 笠間影印叢刊行会編 ; : 新装版. -- 笠間書院, 2003.8. 97p ; 21cm
114	仮名変体集 / 伊地知鉄男編. -- 増補改訂. -- 新典社, 1975. -- (影印本シリーズ). 63p ; 19cm
115	草書検索字典 / 江守賢治編・書. -- 三省堂, 2007.12. 22, 848, 37p, 図版 [2] p ; 22cm
116	能・狂言事典 / 西野春雄, 羽田昶編集委員. -- 新版. -- 平凡社, 2011.1 609p, 図版 [8] p ; 22cm
117	能楽大事典 / 小林真, 西哲生, 羽田昶著. -- 筑摩書房, 2012.1 v, 1106p ; 22cm
118	くずし字辞典 / 東京手紙の会編. -- 思文閣出版, 2000.4. 24, 1359, 93p ; 22cm
119	日本の伝統色 : その色名と色調 / 長崎盛輝著. -- 新版. -- 青幻舎, 2006.6 327p, 図版45枚 ; 15cm

【IV 人物・人名 : 一般】

120	国書人名辞典 / 市古貞次 [ほか] 編 東京 : 岩波書店, 1993.11-1999.6 5冊 ; 27cm
121	日本人名大事典 / 平凡社 [編]. -- 復刻版 東京 : 平凡社, 1979.7 冊 ; 27cm
122	名乗辞典 : 付録・難訓姓氏辞典 / 荒木良造編 東京 : 東京堂出版, 1959.3 306p ; 19cm
123	日本人名辞典 / 芳賀矢一編. -- 3版 京都 : 思文閣, 1983.8 2,2,3,6,95,83,13,1174p ; 19cm 注記: 大正3年9月刊の複製(3版) ; 名順、姓氏索引・字画索引あり
124	人物レファレンス事典 / 日外アソシエーツ編集部編. -- 新訂増補 東京 : 日外アソシエーツ 東京 : 紀伊國屋書店 (発売), 1996.9- 冊 ; 22-27cm
125	系図纂要. -- 新版 東京 : 名著出版, 1990- 冊 ; 22cm 注記: 名著出版 1973-1977年刊の翻刻
126	宮廷公家系図集覧 / 近藤敏喬編 東京 : 東京堂出版, 1994.9 19, 691, 12p ; 23cm
127	名家伝記資料集成 / 森繁夫編 ; 中野狂次補訂. -- 再版 京都 : 思文閣出版, 1991.12 5冊 ; 22cm
128	公卿補任 / 黒板勝美編輯. -- 新訂増補 東京 : 吉川弘文館, 2000.12-2001.5 6冊 ; 23cm. -- (國史大系 / 黒板勝美, 國史大系編修會編 ; 第53巻-第57巻, 別巻1) -- 第1篇 : 新装版 - 索引 : 新装版-- 第1篇 : 新装版 - 索引 : 新装版
129	公卿補任図解総覧 : 大宝元年(701)~明治元年(1868) / 所功監修 ; 坂田桂一著 東京 : 勉誠出版, 2014.3 16, 170, 36p ; 31cm
130	公卿辞典 / 坂本武雄編 ; 坂本清和補訂. -- 三訂増補 東京 : 国書刊行会, 1986.5 107, 183, 97p ; 22cm 注記: 付: 年表・公卿諸家系図・公卿宮位宮職一覧表
131	公卿人名大事典 / 野島寿三郎編 東京 : 日外アソシエーツ 東京 : 紀伊國屋書店 (発売), 1994.7 xii, 1034p ; 22cm
132	神道人名辞典 / [神社新報社編]. -- 平成三年改訂版 東京 : 神社新報社, 1991.10 660, 48p ; 27cm
133	和学者総覧 / 國學院大學日本文化研究所編 東京 : 汲古書院, 1990.3 xii, 809, 282p ; 22cm
134	鎌倉・室町人名事典 / 安田元久編 東京 : 新人物往来社, 1985.11 670p ; 23cm
135	江戸文人辞典 : 国学者・漢学者・洋学者 / 石山洋, 鈴木瑞枝, 南啓治編 東京 : 東京堂出版, 1996.9 3,419p ; 22cm
136	国学者伝記集成 / 大川茂雄, 南茂樹共編 東京 : 日本図書センター, 1979.10 3冊 ; 22cm
137	漢學者傳記及著述集覧 / 小川貫道著 東京 : 名著刊行会, 1970.2 2, 8, 44, 781, 12p, 図版[14]p ; 22cm 注記: 監修者: 小柳司気太 ; 関書院昭和10年刊の複製
138	近世漢學者傳記著作大事典 / 關儀一郎, 關義直共編. -- 4版 [出版地不明] : 関義直 東京 : 琳琅閣書店: 井上書店 (発売), 1981.7 29, 33, 573, 100, 44p ; 27cm
139	漢文學者總覧 / 長澤孝三編. -- 改訂増補 東京 : 汲古書院, 2011.10 4, 495, 173p ; 22cm
140	狂歌人名辞書 / 狩野快庵編 京都 : 臨川書店, 1977.6 273p ; 22cm 注記: 広田書店昭和3年刊の複製
141	三百藩藩主人名事典 / 藩主人名事典編纂委員会編 東京 : 新人物往来社, 1986.6-1987.4 4冊 ; 22cm
142	明治維新人名辞典 / 日本歴史学会編 東京 : 吉川弘文館, 1981.9 8, 1096, 8p ; 23cm
143	角川日本姓氏歴史人物大辞典 / 竹内理三 [ほか] 編 東京 : 角川書店, 1989-

【V 人物・人名：特定地域】

地方の人名はそれぞれの地方で出版されている辞典類が詳しい。

144	新編庄内人名辞典 / 庄内人名辞典刊行会編 鶴岡：庄内人名辞典刊行会, 1986 781p ; 20cm
145	高知県人名事典 / 「高知県人名事典新版」刊行委員会編. -- 新版 [高知] : 高知新聞社 高知 : 高知新聞企業(発売), 1999.9 31,9 72p;27cm
146	仙臺人名大辭書 / 菊田定郷著作. -- 復刻版 仙台 : 仙台郷土研究会 仙台 : 宝文堂(発売), 2000.5 20,58, 172, 1146,276,22p;22cm注記: 底本: 仙臺人名大辭書刊行会, 昭和8年刊
147	近世防長人名辞典 / 吉田祥朔著. -- 増補 徳山 : マツノ書店, 1976.6 347,8p ; 22cm
148	桑名人物事典 / 伊藤信夫編 津 : 三重県郷土資料刊行会, 1971.8 16, 276p ; 26cm. -- (三重県郷土資料叢書 ; 第47集)
149	最新歌舞伎大事典 / 神山彰, 丸茂祐佳, 児玉竜一編集委員 東京 : 柏書房, 2012.7, 570p ; 27cm

【VI 字典】

150	大漢和辞典 / [諸橋轍次著] ; 鎌田正, 米山寅太郎編 東京 : 大修館書店, 1990.5-2000.4 15冊 ; 27cm 注記 : 補巻 2000年4月刊
151	角川新字源 / 小川環樹, 西田太一郎, 赤塚忠編. -- 改訂版 東京 : 角川書店, 1994.11 128, 1342p ; 18cm
152	全訳漢辞海 / 佐藤進 [ほか] 編 ; 戸川芳郎監修 東京 : 三省堂, 2000.1 1741p ; 19cm
153	五體字類 / 法書会編集部編著 ; 高田竹山監修. -- 改訂第4版 東京 : 西東書房, 2014.1 9, 622, 35, 14, 68p ; 20cm
154	必携篆書印譜字典 / 蓑毛政雄編 東京 : 柏書房, 1991.11 527,62p ; 20cm
155	西東篆書字典 / 高澤翠雲編. -- 改訂版 東京 : 西東書房, 2014.1, 305, 35p ; 13cm
156	異体字解読字典 / 「難字大鑑」編集委員会編 ; 山田勝美監修 東京 : 柏書房, 1987.4, 14,672p ; 16cm
157	日本難字異体字大字典 / 日本難字異体字大字典編集委員会編 ; 井上, 辰雄監修 東京 : 遊子館, 2012.1, 2冊;27cm (2017年刊のコンパクト版あり)
158	国字の字典 / 菅原義三編 ; 飛田良文監修. -- 新装版 付増補・索引 東京 : 東京堂出版, 10,195p ; 21cm
159	くずし字用例辞典 / 児玉幸多編. -- 普及版 新装板 東京 東京堂出版, 2008.5, 1305, 63p ; 19cm
160	くずし字解読辞典 / 児玉幸多編. -- 増補版 東京 近藤出版社, 1993.2, 336, 61p ; 19cm